* **創価学会内部改革派憂創同盟　最後の警告**
* ————自分だけ救われるよりも創価学会員全員を連れて宗門に戻ろうーーーー
* 正義の書
* 創価学会内部改革派憂創同盟残党
* ***はじめに***
* **愛するたくさんの創価学会の同志のために（創価学会内部改革派憂創同盟再結成宣言）**
* 既に気付いている人が多数存在することは確かなことである。
* 同時放送に出席して、その傲慢さに呆れた人は多数存在するだろう。池田大作こそ獅子身中の虫である。創価学会の信仰を真面目に行っても幸せになれなかったのは池田大作が大悪鬼であったからである。敏感な人は同時放送のその声を聞くだけで池田大作が大悪鬼であることに気付くものである。その声は「傲慢の極み」であり、優しさ、謙虚さなど微塵も感じられない。
* 正しい御本尊に祈らなければ幸せにはなれない。正しい宗教団体に属さなければ幸せにはなれない。原田会長が池田大作の死後、英断を振るい再び宗門の一信徒団体に復帰することを期待する。すべて池田大作が悪かったのである。池田大作が我欲のために戸田先生の造られた正しい信徒団体を破壊尽くしてしまったのである。
* 正しい御本尊でも正しい信徒団体（講）に属して祈らなければ幸せにはなれない。正しい御本尊でも極悪の宗教団体（創価学会）に属したまま祈ると不幸になる。
* [http://sky.geocities.jp/mifune008](http://sky.geocities.jp/mifune0008)（\*\*これがホームページのアドレスです）
* [vvv23274@yahoo.co.jp](mailto:mifune0008spy-spy@yahoo.co.jp)⇦⇦⇦これがメールです。　　　　（平成２２年１１月１日記す）
* 純朴な古くからの会員は創価学会が富士大石寺の大御本尊様を偽物呼ばわりにしていることを知らない。富士大石寺の教学を学会流に変えてしまっていることも知らない。池田大作という大悪党の創価学会乗っ取りのことも知らない。池田大作が女狂い、勲章狂い、名誉博士号狂い、日本全国に散在する豪華過ぎる池田大作の部屋などのことも知らない。池田大作の著書、講演が全てゴーストライターに依るものであることも知らない。自分はそれら純朴な古くからの会員が可哀想でならない。それが私が法華講に入らず、創価学会内部改革派を名乗っている理由の一つである。この純朴な創価学会員の存在を思うと法華講に移りにくい。創価学会を改革してこの純朴な創価学会員を救わなければという思いが強い。
* 我々は藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を創価学会会長に推戴する。それ以外、創価学会が蘇生する方法はないであろう。創価学会が蘇生すれば純朴すぎて無知故に創価学会から法華講に移ることのできない人々を救うことができる。
* 昔の創価学会内部改革派憂創同盟は正信会と結びつきがあったそうであるが、新しい創価学会内部改革派憂創同盟は血脈相状を否定する正信会とは一切結びつきを持たない。正信会とは対決する（正信会は既にほとんど潰滅している）。そして法華講と強い結びつきを持つ。
* 創価学会は宗門と縒りを戻し、戸田先生時代の創価学会に戻すようにする。正しかった時代の創価学会に戻すのである。つまり創価学会は日蓮正宗の一つの信徒団体に過ぎないという過去の姿に戻すことです。もう一度書く。創価学会を日蓮正宗の一つの信徒団体に過ぎないという過去の姿に戻すことです。または創価学会解散を行うべきである。
* 池田大作の亡き後、創価学会員が多数、宗門に入る（戻る）ことは難しい。創価学会員は聖教新聞などの偽りの報道しか知らない人が大部分である。そして創価学会に義理人情で縛られてしまっている人が非常に多い。また創価学会の矛盾に気付いていても今までの創価学会の友情と交際が絶たれることを怖れ自分から日蓮正宗法華講に移る（戻る）信仰心の強い人は少ない。日蓮正宗法華講に移る（戻る）と一人っきりになるからである。一人住まいの老人が多い昨今その仕打ちは辛い。また嫌がらせ、迫害もある。
* もはや完全に謗法の魔窟と化してしまった創価学会であるが藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）が創価学会会長になると蘇生するであろう。この他に創価学会員を救う道は無い。
* 我々は藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を創価学会会長に推戴する。他に可哀想な純朴な創価学会員を救う道はない。
* （完）

* **第１章**
* ***日如上人様***
* 自分は創価学会から日蓮正宗法華講に移ったばかりのものです。是非、申し上げたいことがあります。
* 池田大作が亡くなった今、創価学会を元のように日蓮正宗の一宗徒団体として戻してくれませんでしょうか？
* 池田大作は病気だったのです。精神が病んでいました。自己愛性パーソナリティ障害と妄想性パーソナリティ障害に罹患していました。これは一般に人格障害とも言われているものです。この病気はクスリも何もほとんど効きません。成り上がりの独裁者に多発する病気として有名です。外国にも数例、同じような症例が存在します。
* 或る小国の成り上がりの独裁者は国の至る所に自らの銅像を建て、テレビの放送でも自らを賛美する放送を流しています。この国は天然ガスが豊富に産生され、国が非常に豊かで平和であり、この独裁者への反抗はないようです。
* 異常な権力欲が池田大作を第三代会長に成らせ、巨大過ぎる権力を持ったことが彼をますます傲慢にさせました。そして宗門を支配下に置こうとまで考え至ったのです。
* しかし、池田大作はパーソナリティ障害を越え、自分が本当に日蓮大聖人以上の存在だと思っている妄想性障害または軽度の妄想型統合失調症なのかもしれません。新興宗教の教祖にはよく見られることです。
* その池田大作には創価学会員が一番苦しまされたと言って良いでしょう。池田大作が招き入れた悪鬼の大集団は創価学会員に次々と不幸な現象を起こしました。
* 今、末端の創価学会員は不幸に喘いでいます。偽物の御本尊を拝んでいることと池田大作が創価学会に招き入れた悪鬼の大集団のためです。創価学会員全員が法華講に移ったら良いのですけど、それは不可能と思います。
* 不幸に喘ぐ末端の創価学会員は１００万人に達すると思われます。どうか、彼ら彼女らを見捨てないでください。悪かったのは池田大作一人です。創価学会員は騙されていたのです。
* 悪いのはすべて池田大作です。創価学会員は被害者です。
* 池田大作亡くなった今、創価学会を破門から解いてもらいたいです。創価学会員は被害者であり、何も悪くありません。
* 池田大作は精神異常者でした。これは今後の池田大作の精神病理学的研究より明らかになることでしょう。創価学会員は精神異常者から騙され続けてきたのです。
* 創価学会員は非常なお人好しの集まりです。非常なお人好しだから池田大作に騙され続けていたのです。
* 寛大なご処置をお願いします。
* 創価学会内部改革派憂創同盟残党

* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* 【研究と報告】
* **池田大作の精神病理（第２稿）\***
* ————私は、日本の国主であり、大統領であり、精神界の王者であり、思想文化いっさいの指導者・最高権力者であるーーーー
* 創価学会内部改革派憂創同盟残党\*\*
* **【抄録】**
* タブーとされている池田大作の精神病理を考察した。池田大作の君臨する創価学会は様々な社会問題を生んでいる。日本に於いては公明党を作り日本の政治を動かしている。人権侵害など著しいが創価学会はマスコミをその強力な金力などによって支配している。創価学会に対抗する組織・個人に対する訴訟は非常に多く、警察との癒着も指摘されている。諸外国とくに欧米に於いてはカルト指定され、様々な批判を浴びている。その創価学会を私有化している池田大作は、妄想性障害、自己愛性パーソナリティ障害という診断は甘過ぎ、妄想は奇妙で現実離れしている。故に妄想型統合失調症である。これは創価学会の信仰故に誘発されたものと考えられる。創価学会の信仰は気宇壮大となりやすい。気宇壮大となると万能感、自分は選ばれた人間だ、などという思いに満ち溢れる。これ故に、妄想型統合失調症を発症したと考えられる。
* 【**key words**】Daisaku-Ikeda,　Soka-gakkai,  Schizophrenia paranoid type
* **【はじめに】**
* 日蓮系、とくに排他的とされる富士派に於いては気宇壮大になるという傾向が見られる。昭和三十年、四十年代の折伏大行進の時には気宇壮大になり“急性精神病状態”となって精神病院に緊急入院となる創価学会員が後を絶たなかった。しかし、現在ではほとんどそういうことは見られなくなった。これは熱烈な長時間に亘る勤行唱題が行われなくなったためと推測される。
* 統合失調症には妄想型（Paranoid Type）、解体型（Disorganized Type）、緊張型（Catatonic Type）、鑑別不能型（Undifferentiated Type）、残遺型（Residual Type）があるが、妄想型が一番多く、緊張型は以前はよく見られていたが現在では先進諸国ではほとんど見られなくなった。統合失調症は生涯発病率は約0.85%（120人に1人）であり、国、人種による差はほとんど無いとされる。
* 池田大作は妄想型統合失調症である。下記はすべて池田大作が妄想型統合失調症であることを支持する。
* **【症例】**
* 池田大作は会長就任後、時の日蓮正宗の管長である日達上人を学会本部に呼びつけ、露骨な恫喝を行った。山崎正友氏は、後日、日達上人が「何で池田の若造に法主の私が呼びつけられドヤシつけなくてはならないのか後で悔しくて涙が出ましたよ。だが、あの時は相手も若いことだし我慢しました」と語られたことを明らかにしている。（懺悔の告発：山崎正友：日新報道、1994、p80）
* 日達上人御在世の時、日大講堂で行われた創価学会の総会において日達上人がお話をされたそうですが、その内容について池田氏が猊下に対して 「今日の猊下の話は、あれは何ですか？」 と言ったそうです。そこで日達上人と日顕上人が怪訝な顔をされていると池田氏は続いて 「猊下は私のことに一言も触れなかったじゃないですか！図にのぼっているんじゃないですか！？」 と言ったそうです。（日顕上人「文藝春秋」掲載の手記「創価学会会員に告ぐ」より）
* 昭和四十年、創価学会が正本堂建立御供養金三百五十億円余りを集め、その直後に都内品川区妙光寺に於いて正本堂建設委員会が開かれたが、その際、池田大作は自分の席次と椅子が皆と同じであるのが気に入らないと怒り狂い、池田大作以下、創価学会側出席者は席を蹴って帰った。
* その責任を取らされて、日蓮正宗総監らが更迭され、日蓮正宗は以後、池田大作を法主の隣に、法主と同じ待遇で座らさせることなどを決めて“院達”として公布するなどした。（懺悔の告発：山崎正友：日新報道、1994、p81）
* 池田大作と昵懇なジャーナリスト高瀬広居は、次のように、その目撃談を綴っています。
* 「池田会長はモダンな本部応接室のアームチェアーにアグラをかき直すと、煙草を一服し、静かに、そして激しい語気で言った。
* 『私は、日本の国主であり、大統領であり、精神界の王者であり、思想文化一切の指導者・最高権力者である』
* 同席の大幹部数人は深く肯き、息をのんだ。―-―（中略）―-―三十七歳の創価学会会長は、自らを全世界の指導者、日本の国主たる気概と現実的意志のもとに、数百万世帯の人々を背景に」
* （高瀬広居：人間革命をめざす池田大作　その思想と生き方：有紀書房：１９６５）（池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p102-3）
* また、最も側近であった原島嵩氏は更に次のようにも述べたと書かれている。
* １）『私は現代の救世主である』
* ２）『釈迦以上であり、日蓮大聖人を超える存在である』
* ３）『世界の盟主である』
* ４）『私には日本の中に語り合える人はいない。世界的に著名な人のみを相手にする』
* ５）『私にはもう叶う人は世界にもいない。私は宇宙と語る』
* ６）『私は太陽の帝王だ』
* （絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p226---4）5）
* （絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p191---6）
* 池田大作の弟が八王子市高尾にある小林精神病院に長く入院していた。病名は不明。この弟は創価学会に入信していない。精神障害は強い遺伝性を持つ。この時代に長期入院したことは精神分裂病で間違いないと思われる。（変質した創価学会：蓮悟空：六芸書房：１９７２：p74）
* 昭和四十八年十月十四日、正本堂東側広場において、池田大作は、時の御法主上人猊下であられる第六十六世日達上人を、まるで「小僧っ子」のように、大勢いるなかで罵声を浴びせたのです。
* ……
* 「日達上人はすぐ忘れてしまう。私に創価女子学園で二十億円を下さるという約束をしたが、それを今果たして下さい！」と詰め寄ったこと、富士宮市への寄附を宗門の方でやってほしい等々のお金の強要をしたことなどを聞きました。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p158-9）
* 池田は八王子の法忍寺に出向き、日達上人に全面的に非を認め、謝罪しました。日達上人は、いったんは許されました。
* しかし、池田は帰ってくるなりすぐに開き直り、日達上人への怨念を燃やし、「猊下は私を詫びさせた。この仇は必ずとってみせる」と首脳たちに激怒していました。
* 昭和四十九年のこの時もそうでした。表面上の謝罪とは裏腹に、日達上人への「必ず法主の座を降ろさせてみせる」との憎しみ、仕返しの執念は凄まじいとしか言いようがありませんでした。そのころの池田は、私たち側近に口を開けば、日達上人の批難中傷ばかりしていました。結局、池田の日達上人への数々の謗法の謝罪はことごとく偽りだったのです。（池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２）
* 私は、ずっと側にいて不思議に思ったことが一つあります。それは池田がまったくといっていいほど、日蓮正宗の僧俗の基本中の基本たる勤行・唱題をしていないという事実でした。
* 時として、側小姓のようについていた私たちに「代わりに勤行しておけ」と命ずることもありました。そんな「身代わり勤行」などということは聞いたこともありません。しかも、池田にとって難局の時です。それこそ必死に自ら勤行・唱題をして「変毒為薬」することこそ、仏法者として当然の振る舞いであるにもかかわらず、それさえしなかったのは、何としても不思議でしようがありませんでした。勤行・唱題すらろくにしていない人物を仏法の指導者として仰ぐその会員が、今では哀れで仕方ありません。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p141-2）
* 昭和４５年、言論出版問題にて国会喚問をも取り沙汰されていた頃、高瀬広居氏のインタビューに
* 「本当に自殺したいくらいの心境だ。まるで処女が強姦されたようなものだ」と発言した。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p141）
* 彼は色々と手を打ちました。創価学会と取引があった複数の銀行の頭取とも会い、自民党に国会喚問をやめさせることをお願いしました。公明党の竹入・矢野の首脳たちを呼び、内閣法制局長官に働きかけるようにもしました。池田みずから、時の総理大臣・佐藤栄作にも電話で泣きつきました。これは私が池田から直接聞いたことです。民社党の塚本書記長が池田の国会喚問を要求したのに対して、同党の西村委員長に「将来、公明党も民社党に合併させる。公明党は解散させ民社党に入れる」などと、できもしない約束をし、当面の池田喚問だけは回避しようと右往左往していました。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p143-4）
* 国会喚問を怖れた池田大作は、日蓮正宗の国教化を考えていないことの証明のために、「御遺命の戒壇」とは「正本堂」であると政府の照会に書面で回答していました。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p149）
* 池田から「私は誰も信じない」という言葉を何度聞いたでしょうか。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p227）

* 昭和５１年、創価大学図書館落成の折に開かれた文化祭で、池田は来賓に向かって「こんなものは昨日も埼玉で見て、見飽きました。この連中は歌を歌わせておけばいいんです」と言い、周囲の人を唖然とさせています。
* 池田の師弟不二は、あからさまに言えば、かしこまって緊張した幹部を前にして、寝そべって女子部員に胸をさすらせたり、果物をくちゃくちゃ食べながら指導するような振る舞いに端的に表れています。
* あるいは宗門の役僧の前でも同じように、一人だけ寝そべり、それが会議の席上であるにも拘わらず「あんまさん、爪を」といってアンマに爪を切らせたりもしているのです。（池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：259-60）
* 私は、何も言わなくてもみな見えているよ。とても敏感なんだ。……私は言ってあげて、罪業を切ってあげているのだ。（『前進』、1966、６月号）
* 私には全部わかっている。又、本部から、いつも会えないから、電波を発信しているのだけれども、いくら発信しても受信機が壊れていては何もならない。（『前進』、1970、１月号）———考想伝播？？
* 海外へ行くときなど、極めて厳重な警備態勢を敷いていること
* 池田大作は池田太作（タサク）が本名であったが、２７歳の時、正式に戸籍上、池田大作に名前を変更したことーーーーー戸田城聖氏や池田大作の奥さんのように勝手に名前を変えることはできる。しかし戸籍の名前を変えることは当時は家庭裁判所が認めたときのみである。戸籍の名前を変えることは当時はそれほど困難なものであった。凄まじい執念で変えたものと思われる。お金の力で買収したものとも考えられる。当時、池田大作は普通の会社員の１００倍近くの給料を貰っていた。
* 元学会幹部によるエピソードを書く。
* 「日蓮大聖人が修行したという由緒ある千葉県の清澄寺というお寺では、寺を初めて訪ねた池田氏が、境内にある杉の大木をなでながら“久しぶりだな”と呟くエピソードがあります。池田大作は七百年前の日蓮大聖人の事を知っていらっしゃる、きっと大聖人の生まれ変わりに違いない、と会員に思わせるわけです。しかし、その木は実際には樹齢四百年だったそうです」
* 本山に登山した時、池田大作は「聞こえる、俺を呼んでいる」と言って走り始めた。そして日蓮大聖人のお墓の前に行って喋り始めた。何人もの側近が見たことである。
* 池田大作は２５歳頃から「天下を取る」が口癖だった
* 昭和四十八年頃に制作・放映された映画「人間革命」の主題は『一人の偉大な人間革命は一国の宿命転換を可能にし、やがて全人類の宿命転換をも可能にする』というものであったが、この一人とは池田大作自身のことを指していることは明らかであった。
* 「未だかつて、病気の人なんかで、僕の頭の中に入った人で、祈って死んだ人は一人もいないんだ。これは秘かに自負している」
* 「これは、ここだけの話にしてほしいのだが、私のお袋は八十一歳になるが、実は一度死んだんだ。葬式まんじゅうも用意して葬儀屋も手を打った。弔辞も全部用意した。私は久しぶりだったが足を運んだ。するとみんな泣いている。そこで私は初めて数珠を持って題目を唱えながら、もう死の直前のお袋の体じゅうをさすってあげた。足も全部冷たくなっていた。———中略———すると六月末に死ぬのが、死ななくなってねー。二千個の葬式まんじゅうも腐っちゃったんだ。医者も、もう一度医学を始めから始めると言っていた」（池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p252-3）
* 池田大作の目から睨まれると誰でも怯えてしまうこと。妄想型統合失調症患者によく見られるものである。
* 結婚後、かね婦人が池田大作が勤行唱題しないことに対し質問したら「俺は特別だから」と答えた
* また、既にこの頃から池田大作には信仰心が無く、学会活動を次期会長になるためのビジネス（仕事）と考えていたと思われる。「天下を取る」を口癖に池田大作は学会活動に走り続けた。彼の学会活動は「天下を取る」ためのビジネスであり信仰心はなかったと推定される。「天下を取る」野望のために池田大作は学会活動をしていたと推定される。
* 異国の地で、他人の目も憚らず、池田はこう怒鳴りつけたのである。さすがに秋谷も屈辱で顔が青ざめていたという。
* が、最後はホテルの床に這い、創価学会第五代会長が土下座した。
* それが影響したか、秋谷はこの旅先で体調を崩し、日程半ばで帰国。腸閉塞で緊急入院した。（池田大作の素顔：藤原行正：講談社、1989、p261-2）
* 私自身、その現場に居合わせたこともあるが、子を死なせ、病気で苦しむ学会員の不幸を池田は笑いさえした。（池田大作の素顔：藤原行正：講談社、1989、p266 ）
* ゴーストライターに書かせている「人間革命」を大白蓮華で自分が書いているように見せかけたこと
* 子供の顔にマジックで悪戯書きをしたこと
* ノーベル平和賞を必死に狙っていたこと
* 海外より多くの勲章、名誉称号を創価学会員のなけなしの財務で買い漁っていたこと
* 全国各地および海外に超豪華な別荘、池田専用施設があること。末端の創価学会信者の財務への苦労を何とも思っていないこと。
* この２、３年海外旅行を行なう場合、かね子夫人同伴で出かけていくのも、池田は時々異常な発作を起こし、側近同行の者にあたりちらす。夫人の同伴は、そういう池田の発作を鎮めるためだ、と言われるーーーー妄想型統合失調症の興奮（疑い）
* 竹入義勝氏が造反した時、同時放送で４５分間も机のどんどん叩きを伴う竹入義勝氏に対する罵声の連続であったという。その４５分間はカットされ放送されなかった。そのため池田大作の講演は１０分ほどしかなかった。会合終了後、男子部で集まった時に上級幹部よりそのことを知らされたーーーー自分が貰えない勲一等を受けたことを嫉み（妄想性パーソナリティ障害）自分の自尊心が貶された（自己愛性パーソナリティ障害）。創価学会員は公明党国会議員を代表として受勲を拒むように内部指導されている。それまでも何人かの元・公明党国会議員が受勲を辞退している。これは池田大作が貰えないからである。
* 宗門乗っ取りは絶対不可能であったのに宗門乗っ取りを謀ったこと。自己愛性パーソナリティ障害の最重症であっても、そのような無謀なことをする前に現実を認識し目が覚めるものである。
* もっとも、池田大作の『若き日の日記』は、池田大作の後日における完全な創作である。
* 池田大作は、会長就任まで、大学ノートに記録を残していたが、その内容は他の幹部に対する悪口や怨念が綿々と綴られていたという。
* 北条浩ら、一部の首脳はこれを見せられて閉口し、
* 「どうかそれだけは公にしないでください」
* と言った。とりわけ、小泉隆、和泉美代、辻武寿、竜年光ら先輩幹部に対しては、凄まじい悪口が綴られていたという。
* したがって、出版された『若き日の日記』は、原本とは似ても似つかぬほど、自らを美化し、戸田城聖の後継者として正当付け、そして幹部達に、
* 「私（池田大作）が若い頃、戸田先生に献身的に仕えたように、お前達も死にもの狂いで俺に仕えよ！」と示唆することが見え見えの、綺麗事に終始している。
* （創価学会と「水滸会記録」：山崎正友：第三書館：２００４：p19）
* 「大聖人は七百年前に御出現なされた。しかし、全然広まらなかった。創価学会が正しいんです」（昭和五十二年一月二十六日、インターナショナルの日）
* 月刊ペン事件の裁判に於いて証言台に立った池田大作は、落ちつきなく水を飲み､汗を拭き､証言台の椅子をいらだたしく左右に揺すっていたこと。また、時に声を荒げたかと思うと一転して猫なで声で証言した。しかも証言台に黒革の高給財布を忘れ、その中には四十万円入っていた。
* （池田大作・創価学会の脱税を糾弾する：竜年光：日新報道：１９９４：p120-2）
* 平成十九年三月、中国の温家宝首相が来日した際、池田大作は会見の場で「庶民の王者に会って頂き有り難う」と言って握手する映像が日本全国に放映されたこと。

* **【考察】**
* 統合失調症の罹患率は１％前後と言われている。しかし、筆者はそれは明らかに統合失調症と認知された人の割合であって実際には潜在的に３％程が統合失調症と言えると考える。
* 妄想型統合失調症と鑑別するべきものとして妄想性障害を説明する。
* 妄想性障害とは、一つ以上の奇異ではない内容の妄想が、少なくとも１ヶ月間持続するのが特徴である。
* 妄想性障害における妄想は理にかない、不自然なものではない。例えば、「友人はスパイで、自分は隠しカメラで監視されている」「妻が暴力団を使って自分を殺そうとしている」という妄想に対し、統合失調症は「友人が小さくなって自分の耳の中に入っている」という明らかに不自然な妄想を抱く。
* 人格は保たれ、感情や行動の異常は見られない。妄想性障害は、しばしば統合失調症、器質性精神疾患、妄想性パーソナリティ障害およびうつ病のような他の障害と同時に起こる。多く４０歳以降（成年中期から後期にかけて）に発病する。
* 妄想型統合失調症とは異なり、妄想性障害は比較的稀である。
* 妄想性障害には抗精神病薬の投与の必要性は少なく、妄想型統合失調症へと移行することは稀とされている。
* もう一つ、自己愛性パーソナリティ障害との鑑別が必要であろう。自己愛性パーソナリティ障害の統合失調症の妄想と異なる点は、彼らはその誇大的観念がどこか作り物であることを知っていることである。すなわち自己愛性パーソナリティ障害の妄想は説得により崩れる脆いものである。自己愛性パーソナリティ障害の患者は「世界は自分を中心に回っている」という妄想を良く抱くが、患者自身、その妄想に疑いを持っている脆いものである。
* 宗門支配にしても自己愛性パーソナリティ障害では現実を見直す。自己愛性パーソナリティ障害では現実を見直す余裕がある。宗門から“狂気”と言われていた池田大作はやはり統合失調症しか考えられない。
* 池田大作は周囲から神様のように煽てられてきた。煽てられることにより彼はますます自分を神様のように思ってしまった。そして日蓮大聖人よりも偉大だ、という妄想が形成されていった。彼はただ霊的能力（直感力、金のある家を当てる能力）が優れているだけだった。
* このように新興宗教の教祖は信者より神様と讃えられるためにますます自己愛性パーソナリティ障害が重症化する。そしてまた統合失調症の誇大妄想も重症化してゆく。
* パーソナリティ障害における妄想が統合失調症の妄想と異なる点は、彼らはその誇大的観念がどこか作り物であることを知っていることである。
* 訂正可能な「限局的な軽度の妄想」に留まっているならばパーソナリティ障害となるが、「高度に体系化された訂正不能な妄想」が見られるなら妄想性障害や軽症の統合失調症（妄想型統合失調症）となる。
* 妄想性障害は４０歳以上の高齢者に見られるのが一般であるが、発症は２０代前半と考えられること、その病気の起こる頻度より軽症の妄想型統合失調症として良い。妄想性障害は頻度が低いが妄想型統合失調症は頻度が高い。その頻度の差は１０倍になる。
* 同時放送に於いてはっきりすることだが、池田大作の言動には「論理に飛躍や唐突さがある」これを精神医学では「連想弛緩」「連合弛緩」または「連合障害」と呼び、統合失調症の基本症状の一つとされる。そしてパラノイアすなわち妄想性障害には思考の障害はないとされる。精神医学に於いて、その患者が統合失調症であるか妄想性障害（パラノイア）であるか判断に迷ったときには患者に話をさせ「論理に飛躍や唐突さがある」か無いかで判断することが多い。これは録音機に録音してあとで綿密に聞かないと分からないことが多いが、診断を確定する上で重要なことである。
* 故に同時放送（本部幹部会の放送）の開始は反池田派の副会長が如くんだ罠であるとも推測される。
* そして、池田大作には「自分は日蓮大聖人以上の存在である」という訂正不能な立派な妄想体系、妄想構築がある。これも決定的な統合失調症であることの診断になる。この妄想により池田大作は日蓮正宗からの独立、離脱を図り、新興宗教の創始者となった。
* 池田大作は入信直後に自分を入信させるために会合に招いた三宅女子に「見ていて下さい、自分のこれからの姿を」と言ったように、すでに入信直後に誇大妄想を抱いていた。池田大作の統合失調症発症は１９歳と推定される。
* 昭和２７年の池田大作の結婚を報じた聖教新聞には「天下を取ろう、と語る」と書かれてある。
* 私見ではあるが、潜在的に存在している統合失調症の患者は多い。奇人変人扱いされながらも彼らは病院から抗精神病薬をもらうことなく生きている。彼らは妄想と現実の両方で生きている。結婚もし、家庭も築いていることが多い。現実社会を生きてゆく上で最も問題となるのは性格の素直さ、優しさである。
* 彼らは精神科を受診している場合、反社会性パーソナリティ障害、統合失調症型パーソナリティ障害、または統合失調症質パーソナリティ障害と誤診されていることが多い。彼らは少量の抗精神病薬すなわちハロペリドール2mg/day （またはブロムペリドール 4mg/day）を投与すると借りてきた猫のように大人しく従順になる。この現象は妄想型統合失調症の軽症または自己愛性パーソナリティ障害の極重症にもよく見られる。
* 各国より勲章などを買い漁る池田大作、文鮮明およびヒットラーたちは自己愛性パーソナリティ障害の極重症または妄想型統合失調症（軽症）と推定される。
* この妄想型統合失調症（軽症）は特に池田大作の場合には同時放送で見られる。池田大作の言動、振る舞いは精神病棟に長年入院している統合失調症の患者を彷彿とさせる。話の脱線、支離滅裂はまさしく長年、精神病棟に入院している統合失調症の患者そのものである。
* 池田大作は２４歳頃から「天下を取ろう！」と豪語していたが、その頃の発症になると思われる。しかし、その誇大妄想が、彼を第三代会長奪取へと狂気の執念で懸命に走らせた。大阪での参議院選挙、炭労問題などに自分は他の人間とは異なり偉大な存在であるという誇大妄想による狂気の執念で走った。エレベーター相乗も妄想の産物である。
* 『池田大作は「若き日の日記」の原本となる予定の会長就任までの日々を大学ノートに綿密に記録を残していたが、その内容は他の幹部に対する悪口や怨念が綿々と綴られていた。これを「大学ノート事件」という
* 北条浩ら首脳中の首脳はそれを見せられて、これは出版するべきではないことを強く諫言した。そのノートの内容が、あまりにも悪口や怨念、そして完全な狂気に満ちていたからである。それを公表することは創価学会の完全な自殺行為になるからであった。特に、小泉隆、和泉美代、辻武寿、竜年光ら先輩幹部に対する悪口や怨念が綿々と綴られていた。そのため「若き日の日記」は原本とは全く異なるものとなった』（創価学会と「水滸会記録」：山崎正友：第三書館、2004、p19）これは妄想性パーソナリティ障害も考えられるが、統合失調症者に頻繁に見られる被害妄想に満ちたノートとも思われる。
* 会長になってからは日本征服の野望（誇大妄想）をたぎらせ、折伏大行進を続けたが、昭和４５年の言論問題で挫折し、強引な折伏を中止するよう命令せざるを得なくなった。
* そして国会喚問の危機に立たされた時、子供のように恐れ戦き、軽井沢の別荘に閉じ籠もったりしたこと、このとき熱があると側近に何度も強調したこと。また、これ以外にも国会喚問の危機に立たされたが、池田大作は国会議員のみでなく創価学会の青年部を使って国会議事堂内に座り込みをさせ、国会喚問を阻止させた。これらは統合失調症の被害妄想、または妄想性パーソナリティ障害と思われる。
* 原島嵩氏は「池田大作は人を信じることができない。猜疑心のかたまりである」と書いている。これは妄想性パーソナリティ障害である。妄想性パーソナリティ障害は自己愛性パーソナリティ障害と非常に高い確率で合併する。
* 日本共産党との十年協定は池田大作の独断とされる。妄想性パーソナリティ障害の人は交渉や政治的駆け引きに長けていることが多い。
* 折伏による日本制覇が不可能と解ると、総体革命という社会の重要ポストを創価学会員で占めて日本を制覇するという妄想に変わった。数少ない創価学会員で社会の重要ポストを占めることは不可能であるし、例え社会の重要ポストの多くを占めても日本制覇は不可能であり妄想の産物に過ぎない。これは現実認識能力が欠けていることを示唆する。または武力蜂起により日本制覇するために社会を油断させるための方便であった可能性も高い。
* また、１９９０年代に自民党独裁政権が崩壊し、連立政権で大臣のポストを幾つも取った時、子供のように喜んだことは、これも現実認識能力が欠けていることを示唆する。
* 統合失調症の妄想は鉄のように固い。どのような説得も全く効かない。池田大作は自分が日蓮大聖人以上の存在であるという妄想のため、宗門支配を企んだ。しかし失敗し、破門になった。宗門支配は池田大作の野望または狂気と言われている。宗門支配は不可能であることは最初より分かりきったことであった。これも誇大妄想による現実認識能力の欠如を示す。
* 自分が大聖人よりも偉いという誇大妄想（自己愛性パーソナリティ障害）が、手当たり次第の女性信者への手つき、むやみに威張り散らすことに繋がっていたと思われる。これは新興宗教の教祖には共通のことである。
* 最近、インターネットの動画サイトyoutube に掲載される彼の支離滅裂な言動、頻繁な脱線、それらは「大聖人よりも偉い自分は何をしても良い、何を言っても良い」という誇大妄想（自己愛性パーソナリティ障害）のためと考えられる。
* 東大生を前に「お前たち、馬鹿だろう」と言って悦に入ること、秋谷会長に踊れと命じたこと、北条会長に辛子を山盛りにかけたうどんを食べさせたこと、メロンの頻繁な下げ渡し、これらは自分が大聖人より偉いという誇大妄想（自己愛性パーソナリティ障害）と猜疑心（妄想性パーソナリティ障害）から来る行為であったとも考えられる（側近は傲慢と考えていた。しかし池田大作は「自分が日蓮大聖人よりも偉い」という誇大妄想（自己愛性パーソナリティ障害）または妄想型統合失調症の妄想により、そのような行為を行ったのである）。一つの巨大な宗教団体のトップにあるため、それが傲慢と曲解され、統合失調症が見逃されていた特異な症例と思われる。
* 幸福の科学の教祖、ＧＬＡの高橋信次など、統合失調症であっても巧く世の中を渡ってゆける人間も存在する。また、それは特異な統合失調症と分類されるであろう。未だ、統合失調症など精神疾患は現代医学では全く説明不可能な疾患である。
* 統合失調症の概念は未だ不安定なものであり、その概念を統一化しようとする努力も行われているが、やがて、それは徒労となることは明らかである。緊張型分裂病は先進諸国では現在ほとんど見られなくなったが、その理由を説明できる見解は為されていない。未だに統合失調症すなわち以前、分裂病と呼ばれていた病気は謎の病気なのである。現代医学では説明できない病気が分裂病、現在の統合失調症である。いろいろな仮説が為されているが、それらの仮説は仮説に留まっている。
* 池田大作は異常に国会喚問および裁判所出廷を怖れる。これが何に由来するのか様々に思考したが、それは池田大作の被害妄想から来るものと捉えるのが最も適切と判断される。統合失調症特有の被害妄想と捉えることで全ての辻褄が合う。池田大作も他の新興宗教の創始者と同じく統合失調症と考えるのが最も適応と思われる。池田大作の鉄のように固い妄想は国会喚問および裁判所出廷を異常に怖れさせた。
* **【終わりに】**
* 現代では、誇大妄想を主とする統合失調症者が新興宗教の教祖の多くを占める。 しかし、池田大作の側近には精神科医もいる。その精神科医が抗精神病薬を服用させている可能性もある。
* 池田大作は金貸し業を始めてから金のある家を当てるのが神業のように巧かった。これは霊的能力と捉えて良いと思われる。このような人並み外れた霊的能力を持つ人は大部分が統合失調症である。
* 一般的に考えると池田大作は自己愛性パーソナリティ障害（重度）と妄想性パーソナリティ障害（中等度）の合併と診断するのが妥当であろう。しかし、この霊的能力が引っかかり、筆者は軽症の妄想型統合失調症に診断名を変えた。
* 池田大作は「パラノイア」と診断するのが最も適当と思われるが現代の精神医学では「パラノイア」は死語になりつつある。現代精神医学の教科書からは自己愛性パーソナリティ障害または妄想型統合失調症という診断名のみ当てはまる。また、１９歳発症の妄想性障害は現代精神医学の教科書からは妥当ではない。
* 池田大作はたしかに「パラノイア」の現代語訳と一般にされている妄想性障害と紛らわしいが、妄想性障害は現在の教科書では４０歳以上に起こることが一般とされている。また、池田大作には妄想性障害では説明不可能な奇異な言動も見られる。
* 池田大作の当時の給料は一般人の百倍近くであったと言われる。大蔵商事の給料は歩合制であった。いかに池田大作の金のある家を当てる能力が凄かったかを示すものと言えよう。しかし、これは取り立てが異常に酷かったためという意見もある。実際、池田大作の借金を返すことが出来ない人達への仕打ちは極めて異常であったという多数の証言がある。
* 池田大作の借金取り立ては凄まじく、情け容赦もなかったと言われる。借金を返せない人の家や土地を取り上げ、金目のものは何でも持って行ったという。大蔵商事の鬼の池田と恐れられていたと言われる。そのため大蔵商事は極めて危険な貸し金融と恐れられていた。病気で寝ている老人の布団を剥いで持って行ったという逸話も伝わる。
* しかし、取り立てが過酷であるだけで一般人の百倍近くの給料を貰えるとは考えられない。金のある家を当てることが超人的に優れていなければ不可能と考えられる。
* 破綻し懸かっていた戸田城聖氏の事業は蘇生した。戸田城聖氏はこれ以来、池田大作に頭が上がらないようになったと言われるが真偽の程は定かでない。また、これが池田大作が第３代会長になる大きな要因に成ったと言われる。また、これ故に「次の会長はみんなで話し合って決めること」と言われたものと推定される。戸田城聖氏は石田次男氏を時代の会長にする予定であったが、池田大作に事業の再建で大きな借りを作ったことにより、その予定を主張することがはばかれたものと思われる。
* 幾人もの評論家及びジャーナリストが池田大作が第三代会長に成ることができた謎を解明しようと努力しているが、全ての評論家及びジャーナリストはそれを十分に解明できないでいる。池田大作は俗物であった。学校の成績も中の上であり、全く目立たない生徒であった。後に池田大作が創価学会の会長になったことに小学校時代の同級生は皆、驚嘆している。
* 創価学会の発展は昭和の奇跡であった。また、池田大作という俗物がその創価学会の会長になったことは昭和の謎である。その謎は永遠に解き明かされることはない可能性は大きい。
* そしてその俗物の池田大作が第三代会長として権勢を振るい、日本制覇を企てていた。池田大作は布教で日本を制覇することが不可能であることを知ると総体革命という日本制覇を企てようと計画したと一般には言われているがこれは方便であったと筆者は推定する。実際は、武力による日本制覇を考えていたと推定される。これは近い将来明らかになる可能性は十分にある。原子力の技術を盗み出す作戦があったことは近いうちに明らかになると思われる。麻原彰晃と肩を並べる、いや、それ以上の存在が池田大作であったことが、近いうちに証明されるであろう。
* 日蓮大聖人の教えを利用した信仰利用の極致が池田大作であった。池田大作の日蓮正宗への信仰心は結核が治癒するとともに消えた。そうして創価学会を利用して栄華を極めることを夢見た男が池田大作であった。その創価学会利用、信仰利用の意志は戸田城聖氏にも存在したことは否定できないことであると思われる。創価学会はすでに創立時から腐敗が存在したと考えて良いと思われる。戸田城聖氏は日蓮正宗への信仰心は篤かったが、心の片隅には日蓮正宗利用、信仰利用の心が存在したと考えて良い。その狭間、その罪悪感で苦しんでいたが故のアルコール耽溺であったのかも知れない。
* 戸田城聖氏は一般の創価学会員に言われているような戦時中の牢獄生活で身体を壊したのではない。戦時中の牢獄生活はそれほど厳しいものではなかった。共産党員に非常に厳しかったのである。戦時中の牢獄生活に耐え抜いた創価学会員はあと一人、矢島周平氏が居り、矢島氏は戦後の創価学会復興に尽力されたが創価学会の歴史から池田大作の命令か抹消されている。矢島氏は創価学会から追放同様となり、日蓮正宗の僧侶に成られた（現在は、戦時中の牢獄生活に耐え抜いたのは「大百蓮華」などでは牧口会長と戸田会長のみとなっているが、実際は、あと一人、矢島周平氏が居られたのである）。また、牧口会長は牢獄生活中に首を吊って自殺したという説が強い。これは牧口会長の牢獄書簡集からも推定される。
* 戸田城聖氏はアルコール耽溺による糖尿病とそれによる続発性腎不全で亡くなられたのである。５８歳の若さであった。
* 日蓮正宗は牧口会長、戸田会長、池田大作により利用し尽くされた。そして創価学会の信者こそ、代々の会長に利用し尽くされた最大の被害者と言えよう。
* 鎌倉時代などの民衆救済・正義感・自己犠牲に燃えた新興宗教の教祖は現代では見当たらない。

* **【文献】**
* 1）岡田尊司：自尊心を求めるＨ・コフートの自己愛の発達理論とＳ・フロイトの病的なナルシシズム：医学書院、1994
* 2）岡田尊司：パーソナリティー障害、ＰＨＰ新書、東京、2001
* 3）笠原嘉：精神病、岩波書店、東京、1998
* 4）原島嵩：池田大作・創価学会の真実：日新報道、東京、2002
* 5）藤原行正：池田大作の素顔：講談社、東京、1989
* 6）松下正明：新世紀の精神科治療（５）、現代医療文化の中の人格障害：中山書店、東京、2003
* 7）山崎正友：懺悔の告発：日新報道、東京、1994
* 8）山崎正友：創価学会と「水滸会記録」：第三書館、東京、2004
* 9）ＤＳＭ−Ⅳ−ＴＲ、精神疾患の分類と診断の手引き：医学書院、東京、2007

* \*The Psychopathology of Daisaku-Ikeda
* \*\*どんぐり病院（〒０００−００００　どんぐり市どんぐり町０００−００）
* Toshiro MIFUNE：000  psychiarty, 00000, 00000, JAPAN .


* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **魔性の創価学会（一）**
* 一度、精神障害に罹った人は、ただでさえ治り難いのが精神障害である。これが創価学会に極めて多発している。これは四十年以上前から創価学会の上級幹部の間では良く知られていた。また折伏闘争華やかなりし頃には「急性精神病状態（acute psychotic state）」（以前は心因反応、急性分裂症様状態と呼ぶこともあった。現在では急性統合失調症様状態と呼ぶこともできるだろう）での精神病院入院が極めて多発しており精神科の医師の間で創価学会の「急性精神病状態」の患者の非常な多さは有名だった。
* これは昭和四十九年頃発売の精神医学専門雑誌に詳しい論文が出ている。それは私の机の上に置いてあった。おそらく先輩が私を創価学会から辞めさせようとして私の机の上に置いたのだと思う。私はその雑誌から読んだ。その精神医学専門雑誌が何という雑誌であったか、また正確な発売された年が記憶にない（昭和四十五年から五十二年にかけてのものだったと思う）。「創価学会」「精神疾患」という二つのキーワードで医学文献のデータベースを検索すると出てくる可能性がある。この二つのキーワードで検索すると私が読んだもの以外の論文も出てくると思われる。しかしデータベース化されていない可能性は高く医学部（または大学病院）の図書館で根気良く探すのが一番と思われるが、困難を極める。国会図書館ならば極めて良く整備されており、パソコンの画面ですぐに出て来ると思われる。また、今は全国的に図書館がネットワーク化されているようであり、パソコン上で探し出すことができるようでもある。
* 医学専門雑誌の会員になるとインターネットで検索可能かもしれない。「精神医学」という精神医学専門雑誌であった気がする。しかしデータベース化されていない可能性は高い。医学部（または大学病院）の図書館で根気良く探すしかない可能性が高い。昭和五十五年以降は創価学会の言論弾圧により創価学会を題材とする論文は決して掲載されなくなった。
* 「急性」（二週間から三ヶ月の入院）で治まった者は幸せで「慢性」となり（これを統合失調症と呼ぶ）精神病院に長期入院または入院と通院の繰り返しとなった創価学会員は多い。しかし大部分は一時的なエピソードで終わり極一部が慢性化したのみのようである。
* 創価学会員の「急性精神病状態」の特徴として必ず躁的であることが上げられる。しかし現在、勤行唱題が以前のように熱烈に、そして長時間は行われなくなったためと思われるが「急性精神病状態」はほとんど見掛けなくなっている。代わりに現在（少なくとも１８年程前から）は、うつ病性障害が非常に多発するようになった。しかし今でも創価学会員に統合失調症の発生は有意に多い。一般の三倍として良い。
* これらの精神障害に苦しんでいる創価学会員の数は極めて多く、それは全て池田大作が創価学会に呼び込んだ悪鬼の大集団のためである。その大集団が池田大作の死とともに創価学会から立ち去れば良い。また最高幹部たちが池田大作の死とともに団結して立ち上がり池田大作批判を充分に行わないことには、それら悪鬼の大集団は創価学会から立ち去らないと思われる。
* 我が県の県青年部長も「パニック障害（うつ病性障害も併発していたと思われる）」で倒れた。未だに（３０年）自宅療養のままである。我が県で最も熱心に真面目に活動していた青年部長であった。自らに妥協せず限界まで戦っていた青年部長であった。県展も真夏の炎天下に二人で運んだ。尊敬すべき人であった(県が現在のように幾つにも分かれてなく一つの県は一つの県の時代であった）。
* 以前「折伏教典」という本があり、草創期の会員はそれを片手に折伏して回っていた。その中に「身延派は精神異常者が多発する」という記載があった。しかし現在、創価学会にそれが起こっている。現在、「折伏教典」は手に入らない。創価学会は池田大作の時代になり見延派と同じになったのだ。
* 「パニック障害」「社会恐怖（対人恐怖）」「強迫性障害」「パーソナリティ障害」など他の精神障害は昔も現在も変わりなく創価学会に非常に多発している。「児童相談所」を訪れる半数以上は創価学会員であることは業界の通説である。そしてそれは「新入会者よりも古くからの強信な創価学会員の家に多く起こっている」のである。創価学会の幹部の家は学会活動で子供の教育に手が回らず自然と子供は非行化するという意見があるが、それは不十分な説明である。池田大作が招き込んだ無数の悪鬼が暗躍していることを忘れてはならない。
* たしかに創価学会の幹部の子供は余りにも高い確率で非行化している。同時に余りにも高い確率で「パニック障害」「社会恐怖（対人恐怖）」「強迫性障害」「境界例」などの精神障害に罹患している。池田大作が創価学会に呼び込んだ悪鬼の大集団のためである。また、それは本山（宗門）を蔑ろにした池田大作の醜い欲望にある。
* そして東京の創価学会本部には毎週数回、一日勤務で精神科医が来ている。創価学会本部職員およびその家族にうつ病性障害などの精神障害が異常多発しているからである。（池田大作の品格：小多仁伯：日新報道：２００７）に書かれてある。
* 創価学会本部の職員数は多い。おそらく周囲の聖教新聞社などからも患者が来ていると思われる。創価学会本部に精神科クリニックがあることと同じである。薬は処方せずカウンセリングだけのようである。薬を処方するならばクリニック開設の手続きをしなければならない。精神科クリニック開設の手続きは創価学会の体面上、行えない。薬を処方されるならば近くの創価学会専門の精神科クリニックに行かなければならない。
* そこで賄えないほど創価学会の精神障害多発は深刻な状況である。自分が真面目に創価学会の信仰を行っていたときは異常な多発でうつ病性障害で苦しんでいる創価学会員の半分どころか四分の一、それどころか十分の一も家庭指導に回れなかった。日蓮正宗法華講では少なくとも自分が知る範囲では精神障害が起こった例を知らない。やはり創価学会（池田大作）の謗法に由来する精神障害の多発らしい。
* 「統合失調症は入会させるな！」「精神疾患は入会させるな！」「創価学会に傷が付く！」「我々、創価学会は選ばれたエリートの団体です」と２０年以上前ある大きな会合で池田大作が偉そうに言い放っている。
* これは宮崎勤の事件で世間が騒然となっていたときのことと記憶する。宮崎勤は３人の精神鑑定医から「パーソナリティ障害」「統合失調症」「多重人格障害」と異なる結果が出ている。宮崎勤は友人から誘われ創価学会に入会しようとしていたと言われる。
* 同時放送だったか、何年前だったか、記憶が定かでない。何かの大きな会合の放送であった。会合が終わったとき創価班で「今の話、聞いたか？」とみんなで訝しがったことを覚えている。聖教新聞では、すべて削除されていた。私は創価班の仕事をしながら聞いていた。
* その言葉を聞いたとき「これが不幸な人を救う仏の団体か？　そしてそのトップが言う言葉か！」と激しく煩悶した記憶がある。池田大作もそれらが「新入会者よりも古くからの強信な創価学会員に多く起こっている」という認識が少なくとも当時は無かったと推測される。
* それ以来、統合失調症の患者は原則として入会できず会友に留まることになった。「何十回、座談会に参加しても自分から進んで会合に何十回参加しても会友止まり」ということであった。「御本尊は絶対に渡されない」ということであった。しかし、これはその担当地区の壮年部本部長の主観によるものになっているようだ。その他の精神障害の患者は入会できるようだ。しかしこれにも地域差——壮年部本部長の主観——がかなりあるようである。
* 同じ創価班の友人が統合失調症である知人を入会寸前まで世話してきていた。しかしその創価班の友人も池田大作が言い放った同じことを聞き非常に悔しがったことを昨日のことのように思い出す。その統合失調症である知人は十何回も会合に自ら進んで参加していたのである。勤行唱題も行っていた。しかし会友止まりで入会は許されなかった。御本尊授与も許されなかった。いつも御本尊のない仏壇で勤行唱題を行っていた。会友止まりであった。現在は行方不明になっている。のたれ死にしたか何処かで浮浪者になっていると思われる。
* あんな滅茶苦茶な指導がなかったらと友人は今でも非常に悔しがっている。彼の属する壮年部本部長は、御本尊を与えること、および入会させることを頑なに拒んでいた。心の狭い頑なな壮年部本部長であった。
* 昔からの会員に統合失調症およびその他の精神障害を発症した会員は非常に多い。しかし彼ら彼女らは誰よりも熱心に信仰をしていたのである。あまりにも熱心に信仰をし過ぎたから精神疾患に冒されたのである。祈祷性精神障害である。それを創価学会ではその人の信仰がなっていなかったからだと非難している。創価学会は狂っている。元凶は池田大作である。彼が狂っている。
* （今、自分は怒りに震えながら書いている！　精神疾患の苦しさ悲しさを創価学会は全く解っていない！　いや、池田大作は全く解っていない！　池田大作が元凶である！）
* 統合失調症およびその他の精神疾患の患者は創価学会に於いて邪魔でしかないのである。「創価学会に傷が付く」「我々、創価学会は選ばれたエリートの団体です」と同時放送で狂った池田大作が偉そうな調子で言い放っている。
* 私が学生部のときも学生部の拠点（古い木造の大きな家）にときどき統合失調症と思われる人が玄関を徘徊していることが多くあった。彼ら彼女ら統合失調症の患者は寂しいから来ていたのだと思う。昔ここは学生部の拠点になる前、辺りの学会の拠点であった。
* そしてこの拠点での会合に良く参加していたのであろう。健康だった頃の懐かしい場所なのだろう。また学生部の題目の声に誘われるようにして来ていたのであろう。抗精神病薬を服用したぼんやりとした意識の中、過去への郷愁に駆られて来ていたのであろう。
* 学会はこういう人々に対して一般に冷たいことが多くある。信仰がなっていないから病気になったと定義されているからである。ある年配の幹部がその人に対して言った。「００さん、あなたが来るところではない。ここは学生部の拠点だ。あなたが来るところではない。出て行け！」その年配の幹部は厳しいことで有名であった。「００さん」と言うことは知っている人であったのであろう。しかし野良犬に対するようにそのようなことを言うことには納得がいかなかった。しかし私はその頃、未だ学生部であった。文句を言うことはできなかった。
* 後で解ったが「００さん」は昔、この一帯の責任者的存在であったそうだ。しかしある時、突然、発病して、このようになったということだ。この一帯の草創の大功労者（この一帯の初代の男子部部隊長であった。発病は昭和三十七年頃であり、池田大作の時代だった）ということである。
* もう一人、良く来ていた人はこの県の初代の女子部部隊長であった。この人もある日、突然、発病して、このようになったということである（この人も昭和三十七年頃の発病であり、池田大作の時代だった）。
* また、これも後で聞いたことであるが、池田大作が「統合失調症の患者は除名にせよ。学会に傷が付く」とある会合（社長会？）で言い放ったそうである。ある優しい副会長が悲しそうに言っていた。この池田大作の放言からは信仰者としての優しさも慈悲も何も感じれない。ただ権力者の横暴と増上慢（自己愛性パーソナリティ障害（Narcissistic Personality Disorder）そして妄想性パーソナリティ障害 (Paranoid Personality Disorder)）のみが感じられる。
* 精神疾患とくに統合失調症は一般に世間から隠すことが多い。創価学会では病気になるのは信心が足りないからと言われる。これは創価学会の邪義である。邪義であることは御書を読めば解る。日蓮正宗では決してそういうことは言わない。病気という宿業が出てくるほど熱心に信仰をしたからである。
* 創価学会ではそれ故に病気を隠す傾向が強い。池田大作の次男が胃潰瘍の末、胃穿孔で亡くなったことも病気を隠すため懇意な創価学会員の産婦人科医の病院に入院させていたからである（しかも石川伸一という偽名を使っていた）。そのため大きな病院に搬送するのが遅れた。普通の内科系の病院に入院させていたら手遅れになり死ぬことは間違いなく無かった。胃穿孔で亡くなることは現在では余程、僻地でない限り、ほとんど無い。いや僻地でも救急医療が発達しており現在ではほとんど無い。

* 三十歳の女性であり会社の上司から勧められて入会した。夫の反対より御本尊を家に安置することができず上司の家に毎日通って勤行唱題を真面目に行っていたところ胸騒ぎがして落ち着かなくて困るようになる。治す方法は簡単で勤行唱題を中止したら寛解する。しかし私はその頃は熱烈な創価学会の信者であった。私は紹介者の入会させるまでの労苦を思うと勤行唱題を中止することを提言することができなかった。
* そのため抗不安薬に依る治療が開始された。始めこそ奏功したが薬の量は次第に増加し、やがて抗不安薬のみでは抑えることができなくなり、抗精神病薬を必要とするようになる。学会製の“魔”の御本尊を拝んでいた。今も抗精神病薬を服用しながら学会製の“魔”の御本尊を拝んでいる。頭部ＣＴ上、特記すべき所見は認められない。

* 御本尊を持って他患を叩くこの病院一の問題患者。この御本尊は平成五年から配られた“魔”の御本尊である。婦人部地区部長をしていたが十数年前にこういう状態になった。精神障害の家族歴がない（血縁に精神障害を患ったことのある者が居ない）。
* どのような抗精神病薬も効かず、保護室への入退出を繰り返している。精神障害の薬物療法が発達してきた現在、どのような抗精神病薬も効かないという患者は珍しい。頭部ＭＲＩ上、特記すべき所見は認められない。
* 性格は激しい。暴力行為を行っても反省することはない。表情は常に険しく精神療法の受け答えも反抗的である。

* 一族全員、熱烈な創価学会員。小学四年生の少女であるが霊の姿が見えると言う。その霊の姿は極めて恐ろしく、少女はその霊の姿が見えるたび「怖い！、怖い！」と言って激しく泣き叫ぶ。幻聴を訴える患者は多いが幻視を訴える患者は多くはないこと、まだ小学四年生であること、それも「怖い！、怖い！」と言って激しく泣き叫ぶほどであることは極めて珍しいことであるため大学病院にて入院治療を受けていた。どのような抗精神病薬も余り効果が見られない。頭部ＣＴ上、特記すべき所見は認められない。
* 小学四年生の少女である。あまりにも可哀想であった。その怒りがこのレポートを書かせていると言っても過言ではない。ここの両親は熱烈な創価学会員であり、池田大作の悪行のことは全く知らない。恐怖に泣きすがる娘を抱いて懸命に唱題するのみである。どうにかやってこの両親にも池田大作の悪行を知らしめて娘さんを救ってやりたい。ただ、この一心でこのレポートを書いている。あまりにも可哀相であった。

* 三十七歳、女性。ずっと以前、東京に池田大作に会いに行ったら「君はいいんだ、君はいいんだ」と無視されたと言っては泣き崩れる。東京で行われた女子部の幹部会だったらしい。診察のたびに「君はいいんだ、君はいいんだ」と無視されたと言っては泣き崩れる。個人的に東京に池田大作に会いに行ったのかもしれない。詳細は不明。ただ、二十歳の頃だったという。
* 病状は不安定である。抗精神病薬への反応が悪い。高校生の頃、題目を上げすぎて統合失調症になったらしい。毎日、朝夕、決まった時間に勤行唱題を行っている。頭部ＣＴ上、特記すべき所見は認められない。
* 池田大作は一人の女性を統合失調症にしたのである。

* 社会人になって職場の上司から折伏され創価学会の信仰を始める。信仰を始めてしばらく経ったとき、幻聴が聞こえるようになる。奇行、異常言動、暴力行為が出現。精神科受診。統合失調症と診断される。
* ３年間、通院治療を受ける。その間、「病気が治らないじゃないか！」と御本尊に御不敬をしたと言う。そのことに強い罪悪感を覚えている。暴力行為と仕事を続けられないため、入院となる。入院して２０年以上経過している。毎日、朝夕、決まった時間に勤行唱題を行っている。「聖教新聞は要らない、池田先生の講演集が欲しい」と言う。題目も一日何時間も上げることが多い。

* 男性。発病は漁船に乗り始めてしばらく経った頃と推測される。漁船の中で題目を上げすぎて統合失調症を発症した。精神病院入院となったが、ある日、土木作業のとき、日頃から快く思っていなかった看護師を背後から鉄の棒で頭を強打する。打たれた看護師は頭蓋骨骨折、脳内出血で半身不随となった。この患者には「００００（患者の名前）、わっしょい、わっしょい（頑張れ、という意味）」という幻聴がよく聞こえてくる。部屋に御本尊は安置しているが、勤行は同室者から「喧しいからするな！」と言われ、題目三唱しか行ってない。入院して３０年以上が経過している。頭部ＣＴ上、特記すべき所見は認められない。

* 男性。隔離室への入退出を頻繁に繰り返している。高校時代、題目を上げすぎて統合失調症になったと言う。この患者も「００００（患者の名前）、わっしょい、わっしょい」という幻聴が激しい。御本尊を所持しているが、しかし、安置はしていない。安置する能力が失われているのである。隔離室に入っていることが多いため勤行唱題はほとんどしていない。一日中、何をすることもなくボンヤリしている。入院は３５年に及ぶ。時折、暴力をふるい、隔離室へ入らせられる。暴力をふるうときは頭が真っ白になって何が何か解らなくなると言う。どのような抗精神病薬もあまり効かない。器質性精神障害を考えられるも頭部ＭＲＩ上、特記すべき所見は認められない。

* このように精神病院には御本尊を所持しているが精神状態が悪く、御寿司を安置できない患者が多く、勤行唱題は行うことができない患者が多い。現在は精神薬理学が急速に進歩してきた。以前のような鉄格子をしている精神病院は見られない。しかし、それでも創価学会の患者の場合はコントロール困難なことが多い。創価学会の統合失調症の患者は別枠で考えなければならないことが多い。

* 男性。幼い頃から統合失調症と診断されていた。幼い頃から創価学会の熱烈な信者。小学六年生の頃にはある日曜日、キリスト教会に宗教問答を挑みに行ったことがある。統合失調症のため幼い頃から一生懸命に創価学会の信仰をしてきた。高校時代は毎日三時間、題目を上げて乗り切ったと言う。題目を一日三時間上げていた高校生の頃は学級委員長にも選ばれたという。
* ケーキ屋のケーキ職人をしてきたが失敗が多く、ケーキ屋の肉体労働の方に回される。ここで腰を痛め、就労困難になる。それでも腰の痛さに耐えながら重い小麦粉の入った袋を運んでいた。信仰の熱心さは不変で宗門との第二次戦争の時は軽トラックに乗り、メガホンで「くそ坊主、死んじまえ！　くそ坊主、死んじまえ！」と叫び回っていた。入院することはほとんどなく、通院治療を行っている。幻聴の内容は不明。学会員からは「池田先生に批判的だったため、あんな病気になった」と陰口を言われている。しかし、彼は幼い頃から池田大作一筋の熱心な、そして狂信的な信者であった。

* 男性。大学卒業の２２歳時発症の統合失調症。しかし六年間、社会不安障害（対人恐怖症）として治療されてきた。その六年間、ほとんど閉じ籠もりを続けてきた。発症６年後、「向かいの家から自分の頭に電波が飛んでくる。その家に抗議に行きたい」と病院に電話が掛かる。この時点で統合失調症と診断が付く。
* 親族に精神疾患の家族歴はない。何故、彼が統合失調症に罹患したのか判断が付きかねた。
* 母親は余り熱心でない婦人部員。父親は非学会員。しかし、祖父が何十年も前（おそらく昭和三十年代であろう）から一日三時間の題目を欠かさないという非常に剛信な学会員。祖父の罪業が孫に降りかかってきたものと思われた。

* 女性。３０歳発症の統合失調症。母が幼い頃に亡くなり、父親と姉と三人で暮らしてきた。小さい頃から知恵遅れと心臓の病気があり、父親が「その病気が治るなら」と一家三人全員で創価学会に入会した。初めは父親も熱心に信仰に励んだ。折伏も行った。数年間、非常に熱心に学会活動に打ち込んだ。しかし、娘の病気は治らなかった。父親は信仰を中止する。
* 勤行唱題するのは知恵遅れと心臓の病気を持っている妹の方だけで、姉も父親も勤行唱題はしなかった。平成七年、父親は創価学会幹部と激しい諍いを起こし、創価学会を一家全員で脱会する。妹の方はそれでも勤行唱題を朝晩欠かさずに続ける。父親は信仰をする気は全くなく、法華講に入講することは行わなかった。すなわち、どの宗教団体にも属さずに、家には創価学会の仏壇と御本尊がある状況だった。それには妹が御本尊から離れたくないと主張するからであった。
* 妹だけが朝晩、大きな声で勤行唱題を続けていた。平成五年に御本尊は創価学会が勝手に造った“魔”の御本尊に替わっていた。
* 平成八年、勤行唱題を熱心に行っていた妹が統合失調症を発症する。入院後も、大きな声で朝夕、勤行唱題を行っている。大きな声で勤行唱題をすると周囲に迷惑が掛かると注意するも、知恵遅れな処があるため、なかなか小さな声で勤行唱題をするようにならなかったが、次第に小さな声で勤行唱題を行うようになった。

* これらはもちろん極く一部である。創価学会の信仰をしたために統合失調症になり一生を棒に振った人は数知れない。精神病院にはそういう人が数多く収容されている。これはもちろん創価学会では秘密にされていることである。一般の創価学会員は知らない。
* 現在、東京に在る創価学会直属の精神科クリニックで精神障害の治療が盛んに行われているが、これは極く一部の創価学会員が治療を受けているのみである。当然、患者数が余りにも多過ぎることと、患者が日本中に存在するからである。ここは入院設備はなく外来診療のみである。現在はうつ病性障害が極めて多くなったため患者の大部分はうつ病性障害である。ここは何故か通院一割負担は適用されず、すべて三割負担である。管轄の保険所から圧力が掛かっているものと思われる。
* ここでの治療の指導には特徴がある。それは「勤行唱題の禁止、学会活動の禁止」である。インターネット上でこの指導を見る精神障害の患者たちは、信仰熱心過ぎる故に精神障害になったのであるから、この指導に従わないのが普通である。しかも将来を期待されていた若い幹部が多い。「勤行唱題の禁止、学会活動の禁止」を唱えるということは、その精神科医は創価学会員に多発している精神障害は創価学会の信仰に由来することに気付いている故と思われる。うつ病性障害で苦しむ熱心なある幹部はそれ故と思われるが、その指導を激しく非難していた。激しく非難するうつ病性障害で苦しむ幹部を幾人も見てきた。無理して勤行唱題する人は何時まで経っても“寛解”しない（うつ病性障害では“治癒”という言葉は用いない。怪我などと異なり、再発するからである）。

* 昭和３０年代４０年代、Ｓ会はＮ宗に属する信徒団体ではあったが、実質上は別組織であったと言っても良い。Ｓ会は単一の宗教法人としての申請を昭和２６年に行っており、管轄する東京都はそれを受理していた。また、Ｓ会はＮ宗とは独自に宗教活動を行っており、Ｎ宗の寺院に参詣するＳ会の信徒は少なかった。また、Ｎ宗の寺院には行くな、という暗黙の了承が末端のＳ会会員にはあった。Ｓ会とＮ宗は、Ｓ会がＮ宗の信徒団体であったとは言えども、常に対立関係にあった。それは戦前からと言っても過言ではない。神札を受け取るか否かについてＳ会とＮ宗は意見を異にした。
* 戦後も二代会長のときはＳ会とＮ宗は比較的良好な関係にあったが、三代会長になってからは始めの頃から激しい対立緊張関係にあった。
* 完全に別組織となったのが平成３年のＮ宗のＳ会に対する破門宣告の時である。それ以来、Ｓ会とＮ宗の争いは戦争と言われるほど極めて激しい。
* これら創価学会員に精神障害が非常に多発している現象は創価学会には池田大作が招き入れた無数の悪鬼が暗躍しているからである。

* **魔性の創価学会（二）**
* 創価学会は統合失調症の患者を村八分のようにすることが頻繁にある。「相手にするな！創価学会に傷が付く！」と池田大作が厳命している。しかし、宗門は手厚く面倒を見てくれる。どちらが慈悲の団体で、どちらが悪魔の団体かは、すぐに解るであろう。
* 自分の知る副会長もその池田大作の厳命に戸惑っていた。
* （統合失調症の患者も普通の会員と同じように手厚くもてなす地域も経験してきた。地域差があるようである）
* ある創価学会の統合失調症の患者は創価学会が相手にしてくれないため７１歳と成ったとき夫婦共々（夫婦共に統合失調症の患者である。旦那が婦人を折伏した）不安を感じ精神病院へ入院してきた。死ぬまで精神病院にいる予定である。入院前の外来患者であったとき、会合の連絡はあったが仲間に入れてくれなかったという。会合の連絡も途切れることが多かったという。
* 病院内では聖教新聞の啓蒙を盛んにする、もちろん勤行は欠かさない。統合失調症でない創価学会員の冷たさに涙しながらも創価学会と池田大作を疑わずに信仰を貫いてきた。病院に聖教新聞を取り、それを他患にも見せる。他患からは非常に慕われている。完全に病棟一慕われている。病院一慕われていると言える。頭の下がる鉄の信仰の創価学会員である。これは近所の創価学会員が時折面倒を見てくれるなら死ぬまで精神病院に入院する必要はなかった。近所の創価学会員が仲間に入れてくれたなら死ぬまで精神病院に入院する必要はなかった。二人共に非常に軽症の統合失調症である。同時放送には同時放送の行われる正確な日時が解らず参加していなかった。もちろん入院してからは座談会や同時放送などには参加していない。聖教新聞の中からのみ創価学会を見ている。
* 一般に創価学会の統合失調症の患者さんは非常に熱心な人が極めて多い。これは非常に熱心過ぎたから統合失調症になった故と思われる。また、非常に厳しい環境が信仰熱心にさせているとも言える。
* 総本山（大石寺）は私が知っている元議員の統合失調症である娘さんを預かって働かせて（面倒を見て）くれている。この元議員はこのことで本山に恩を感じ法華講に入った。創価学会を脱会し宗門に入ったため公明党の支持を受けられず無党派のまま選挙に臨んだが敗北した。このとき創価学会のこの議員への批難は凄まじかった。女性問題、金銭問題など有りもしないことを本当のように学会員に流し、宣伝カーを使って激しく批難した。犬畜生のように批難されビラも撒かれた。そして毎日のように学会会館から幹部がこの元議員の家を訪問していた。もはや創価学会は完全なカルトである。昭和６３年頃のことである（当時は、創価学会と宗門の蜜月時代である。しかし、末端はこのように激しく争っていたことが、これから証明される）。
* この地方には悪い大幹部は居ない（居ないと思う）。それらは中央からの命令で行われたものに違いない。中央からの命令で金銭問題などを巧妙に作り上げ、人身攻撃の材料とした。以前、その元議員とともに、この地方の広宣流布に懸命に戦ってきた大幹部は辛い決断であったと思われる。しかし、中央からの絶対的な命令で仕方がなかったのであろう。
* すでにこの頃、創価学会は本山から離脱そして独立することを決めていた。早く本山が創価学会を破門するのを待っていた。学会の幹部はすでにその頃、お寺を“魔”と言ってお寺に参詣することを会員に手控えるように（または決して行かないように）言っていた。
* 統合失調症の娘を持った議員さんが登山したとき、宗門の人に娘のことを相談した。宗門の人は娘さんが創価学会員に冷たくあしらわれていることに憤慨し、「それでは大石寺で面倒を見ましょう。少し手伝いをさせたり、みんなと明るく談笑したり、みんなと一緒にいろんなことをさせていたら、娘さんの病気も軽くなってゆくでしょう」と言ってくれた。議員さんは創価学会の娘への冷たい態度に疑問を感じていたところだった。
* それまでは自分の殻に閉じこもり、家に閉じこもり、幻聴・幻覚に左右され、意思疎通も困難であり、家庭内暴力など暴力沙汰も多かった。自然と抗精神病薬も大量投与となり副作用が強く表れていた。この統合失調症は頑固であった。池田大作が招き入れた悪鬼によるものであったから、統合失調症の中でも悪性度が高かった。
* 娘さんは大石寺で暮らすようになって少しずつであるが笑顔が見られるようになっていった。勤行唱題もみんなで行うようになった。頑固な統合失調症であったが、次第に軽症化の傾向が現れてきている。

* **魔性の創価学会（三）**
* 創価学会にはガンが有意に多い。これは正確に統計を取れば解ることであるが、創価学会は決して行おうとはしない。一般会員でさえ創価学会にはガンが多過ぎることを気付いている。これも「新入会者よりも、古くからの強信な創価学会員に多く起こっている」。
* 池田大作が亡くなると、これらの現象が少なくなってゆくことを期待する。しかし、雪崩れ込んだ無数の悪鬼の浄化には時間が掛かると思われる。
* 池田大作が亡くなったら本山に全面的に詫びて本山に戻るようにしないと創価学会は富士大石寺の大御本尊様との縁が完全に切れてしまう。創価学会は完全に邪宗化してしまう（すでに完全に邪宗化している？？）。
* ガンで苦しんでいる人は早く法華講に入るべきである。創価学会では治らない。何故なら創価学会には池田大作が招き入れた無数の悪鬼が暗躍しているからである。創価学会は完全に日蓮正宗から独立してしまっているからである。法華講（とくに妙観講）にはガン完治の体験談が多数存在する。
* 私は中等部の担当をしていたことがあり、創価学会員の大学・高校受験（一般の大学・高校の受験である。創価大学や創価高校ではない）の失敗があまりにも多いことを良く知っている。間違いなく合格すると太鼓判を押されている人も、その受験者が熱心な創価学会員の場合、不合格になってしまうことが頻繁に有った。
* 以前は中学生高校生で非常に熱心に信仰する者が多かった。完全に大人顔負けなほど信仰する者が多かった。純粋だからである。疑うことを知らないからである。純粋過ぎるからである。これは現在、顕正会に同じような傾向が見られる。顕正会は高校生も激しく折伏を行っている。
* 私も中学高校時代は一日一時間四十分（五千遍）唱題していた。二～三時間唱題していた頃もあった。勤行ももちろん五座三座と行っていた。しかも気合いを入れてしていた。今はその十分の一もできない。あの頃は「広宣流布のために死ぬか？」と言われたら死んでいた。御本尊様を疑ったことは一度もなかった。御本尊様を信じて信じ抜いて厳しい少年時代を耐えて生き抜いてきた。御本尊様と一緒に厳しい少年時代を生き抜いてきた。苦しいとき、悔しいとき、御本尊様の前で心ゆくまで唱題して耐えてきた。何故、こんなに苦しいんだろう、苦しむんだろう、と思うことも良くあったが、ひたすら疑わずに信じ抜いていた。幹部は「親の信仰が足りないから子供がこんなに苦しむ」と責めていた。毎晩、声が掠れて出にくくなるまで唱題していた。毎晩、唱題が終わった十二時頃、法悦に浸っていた。
* 例えば高校浪人する人の半分は創価学会員であった（当時は高校浪人は特に地方に於いては少なかった）。“魔の働き”と私だけでなく多くの中等部担当者は推測していた。しかし“魔の働き”を言うと信仰しなくなるため中等部担当者の間では禁句になっていた。家の人が退転状態で全く勤行唱題したことがない創価学会員の場合は予想通り合格していた。————これは昭和六十年頃までのことであり、現在、創価学会員の大学・高校受験がどうであるかは知らない。現在は創価学会の中学生高校生は大幹部の子であっても信仰をほとんど行わないことが多いので、こうした現象は非常に少なくなっていると思われる。しかし信仰を真面目に行っている少年部員・中等部員・高等部員はやはり受験に失敗しているようである。
* 「行解既に勤めぬれば三障四魔紛然として競い起る」である。熱心に信仰しないと三障四魔は競い起こらないのである。しかし、創価学会員には三障四魔らしきものが余りにも競い起こり過ぎていた。本当に三障四魔に依るものか、池田大作が招き込んだ無数の悪鬼に依るものか、人生を棒に振った創価学会員は多い。これらはやはり池田大作が招き入れた悪鬼の軍団によるものと思われる。
* 極めつきの例を紹介する。この人は六浪して創価大学の一期生となった人だが、毎月三人、入信させていた。毎日三時間、題目を上げていた。毎月三人で一年間に三十六人、六年間で二百十六人になる。勉強も毎日三時間題目を上げて一生懸命に勉強していたのだが、何故か毎年、大学入試に大失敗を繰り返していた。「この信仰をすると希望する大学に絶対、合格する！」と言って毎月三人入信させ、一緒に勤行唱題に励むのだが、何故か毎年、大学入試に大失敗を繰り返していた。今、この人は、何処で、どのようにしているであろう。極めて信心強情であったから、大幹部になっているはずである。それとも池田大作の正体に気付いて退転したかもしれない。創価大学の一期生で六浪して入学してきた人は他にはいなかったと思われる。『創価大学に入るのが自分の使命だったんだ』と言って、その人は勇んで出来たばかりの創価大学に入学した。その人から折伏され入会した人から聞いた話である。その折伏され入会した人は非常に熱心な創価学会員である（しかし、若くして亡くなった）。
* 創価学会には池田大作が招き入れた無数の悪鬼が暗躍しているからである。

* **魔性の創価学会（四）**
* ００００さん、創価学会員は治りにくいし重症化することを詳しくお教えください。自分も以前から気になっていたことです。
* 創価学会員は本当に治りにくいし重症化することを自分も以前から気づいていました。しかし誰に話しても本気にしない、病気は創価学会で治ると言い張られるばかりでした。 突然失礼します。
* ベストアンサーに選ばれた回答
* 0045008さん
* はじめまして、こちらこそよろしくお願いします。 医療分野に１０年以上携わっておりましたが、確信したのは５年目くらいです。脳卒中や骨折、筋ジストロフィー、多発性の多少状など、癌や風邪であっても重症化したり、普通に症状が寛解するはずが合併症や薬物の副作用などが重なり悪性化、もしくは後遺症が残りやすい状況です。何故、気付いたかと言えば自宅に行けば、同じようなご仏壇やカレンダー、冊子があったのと、会話していると「毎日拝んでたのに・・・」など、親戚に学会の方がいるから何故か雰囲気でも「もしかしたら・・・」と思うとその通りだったりします。昔の仲間は、統合失調症（旧精神分裂病）で苦しんでいます。患者様（脳出血後遺症）では、立つ練習や起きる練習をしていたようですが一向に効果が無く、風邪や目眩でリハビリが進まないようでした。歩ける人（脳梗塞？）でも家族の助けが得られずいつも一人でした。脳の病気で話せない、動くのがやっとの方は民政員の介護者（家族）から虐めを受けていました。知人は、風邪が長引き２０ｋｇほど痩せてしまい、会ったときには驚くほどでした（入院時は一時意識レベルが危険になったようです）。また、頸椎の手術が失敗して首から下が動かなくなった方もいます。脳の後遺症がある方の多くは麻痺のレベルが大きいです（体の半身がほぼ完全麻痺など）。上記以外でも家族環境や社会的接触で気に懸かることが多くあります。
* （質問した人からのコメント）
* 自分も医療分野にいますが創価学会員の治りの悪さや重症度の高さに気付いていました。病気だから創価学会に入るのだけでなく、創価学会員だから病気になると思っています。大変なところです。活動家でしたが、そうした現象を見て、今は批判的になっています。法華講に入りたいですけど、家庭上の都合や両親への厭がらせなどを考え、脱会はしないで居ます。

* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **病気を治すためには**
* 原島嵩氏は重度の不安障害を正信会を辞め法華講に入ることで治している。法華講員に精神障害が起こったという話は未だ聞かない。
* 原島嵩氏は目眩・吐き気を伴う重度の不安障害に二年余り、非常に苦しまれた。それは地獄の苦しみであったと書かれている。これほど重度の不安障害は珍しいが、創価学会員にこのような重度の不安障害は頻繁に見られる。創価学会員以外ではこのような重度の不安障害は稀である。創価学会病（または正信会病）とも言えよう。それが法華講に移るとともに自然に治っている。（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７：p44）
* それならば創価学会に極めて多数存在するうつ病性障害などの精神障害で苦しんでいる人は日蓮正宗の寺院に行って勧誡式を受けることである。それが病気を治す一番の近道である。
* 不安障害の場合、抗不安薬は一時的には奏功するが一時的な効果しか望めない。抗うつ薬が不安障害を寛解させることがあると言われるが、寛解することは稀である。しかも創価学会の間違った信仰で不安障害になったならば抗うつ薬で寛解することはあり得ないと考えて良い。
* とくに精神障害の場合はオカルトでしか説明のできない病気が大部分を占める。病気を治すためには法華講に入ることである。
* しかし、最近、創価学会から脱会しなくとも勧誡式を受けることができることも頻繁にあると知った。それはご住職の考え次第であると書かれてある。家族に内緒に法華講に移っている創価学会員が多数存在する（とくに壮年部）。
* 勧誡式を受けて遙拝勤行、遙拝唱題をすると違う。
* 創価学会の日寛上人の“魔”の御本尊に祈っても紙に祈っているように何も感じない。それどころか悪いことが起こる。“魔”の御本尊であるからである。“魔”が入っている御本尊だからである。
* 病気を治すためには日蓮正宗の寺院に行って勧誡式を受けることである。（間違っても正信会の寺院に行ってはいけない。それが正信会の寺院か否かはインターネットで簡単に解る）
* 『私は「心療内科」ともかかわりました。しかし「心の病気」にはなんの解決にもならなかったのです。それもそのはずで、私の「心の病気」は正法に違背していたために起こっていたものだったことに、あとで気づいたのです。私が平成十一年元旦に日蓮正宗の勧誡を受けるまでの二年余りの年月、私も苦しい思いをしてきましたが、妻をはじめ、家族の苦しみもなまじっかなものではなかったでしょう。
* ところが、平成十一年元旦の勧誡を受け、大御本尊様に合唱礼拝するようになって、あれほど苦しんできた不安神経症、うつ病が、気づいたときには、いつの間にか消え去っているではありませんか。あれほど一日何回も吐いていた吐き気も、跡形もなくなりました』（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：2007：p44）
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **御書**
* **転重軽受法門**　文永八年十月　五十歳御作　　与大田左衛門・曾谷入道・金原法橋
* 涅槃経に転重軽受（てんじゅうきょうじゅ）と申す法門あり、先業の重き今世につきずして未来に地獄の苦を受くべきが今生にかかる重苦に値い候へば地獄の苦みぱつときへて死に候へば人天・三乗・一乗の益をうる事の候、不軽菩薩の悪口・罵りせられ杖木瓦礫をかほるも故なきにはあらず、過去の誹謗正法の故かと見えて其罪ひっちと説れて候は不軽菩薩の難に値う故に過去の罪の滅するかとみえはんべり「是一」、又付法蔵の二十五人は仏をのぞ（除）きたてまつりては皆仏のかねて記しをき給える権者なり、其の中に第十四の提婆菩薩は外道にころされ第二十五師子尊者は檀弥栗王に頚を刎られ其の外に仏陀密多竜樹菩薩なんども多くの難にあへり、又難なくして王法に御帰依いみじくて法をひろめたる人も候、これは世に悪国善国有り法に摂受折伏あるゆえかとみえはんべる、正像猶かくのごとし、（略）
* 文永八年辛羊（かのとひつじ）十月五日　日蓮花押　大田左衛門尉殿　蘇谷入道殿　金原法橋御房　御返事

* **佐渡御書**文永九年三月　五十一歳御作　与弟子檀那
* 般泥おん経に曰く「善男子、過去に無量の諸罪・種々の悪業を作らんに是の諸々の罪報・或いは軽易せられ或いは形状醜る衣服足らず飲食楚々財を求めて利あらず貧賤の家及び邪見の家に生れ或は王難に遇う」等云云、又曰く「及び余の種々の人間の苦報現世に軽く受くるはこれ護法の功徳力に因る故なり」等云云、此経文は日蓮が身なくば殆ど仏の妄語となりぬべし、一には或被軽易二には或形状醜る三には衣服不足四には飲食楚々五には求財不利六には生貧賤家七には及邪見家八には或遭王難等云云、此の八句は只日蓮一人が身に感ぜり、

* **兄弟抄** 文永十二年四月　五十四歳御作　与池上兄弟　於身延
* 今又日蓮が弟子檀那等は此にあたれり、法華経には「如来の現在にすら猶怨嫉多し況や滅度の後をや」又曰く「一切世間怨多くして信じ難し」涅槃経に曰わく「横（よこしま）に死横（しおう）に罹（かか）り呵責（かしゃく）・罵辱（めにく）・鞭杖（べんじょう）・閉繋（へいけい）・飢餓・困苦（こんく）・是くの如き等（とう）の現世の軽報を受けて地獄に堕ちず」等云云、般泥おん経に曰く「衣服不足にして飲食楚々なり財を求めるに利あらず貧賤の家及び邪見の家に生れ或いは王難及び余の種々の人間の苦報に遭う現世に軽く受くるはこれ護法の功徳力に由る故なり」等云云、
* 文の心は我等過去に正法を行じける者に・あだをなして・ありけるが今かえりて信受すれば過去に人を障る罪にて未来に大地獄に堕つべきが、今生に正法を行ずる功徳・強盛なれば未来の大苦を招ぎこして少苦に値うなり、この経文に過去の誹謗によりて・やうやうの果報をうくるなかに或は貧家に生れ或は邪見の家に生れ或は王難に値う等云云、
* 各各・随分に法華経を信ぜられつる・ゆへに過去の重罪をせめいだし給いて候、たとへばくろがねをよくよくきたへばきず（疵）のあらわるるがごとし、石はやけば灰となる金は・やけば真金となる、此の度こそ・まことの御信用は・あらわれて法華経の十羅刹も守護せさせ給うべきにて候らめ、雪山童子の前に現ぜし羅刹は帝釈なりしび王のはとは毘沙門天ぞかし、十羅刹・心み給わんがために父母の身に入らせ給いてせめ給うこともや・あるらん、それに・つけても、心あさからん事は後悔あるべし、
* その上摩河止観の第五の巻の一念三千は今一重立ち入たる法門ぞかし、此の法門を申すには必ず魔出来すべし魔競はずば正法と識るべからず、第五の巻に云く「行解すでに努めぬれば三障四魔奮然として競い起る乃至随う可らず之に随えば将に人をして悪道に向かわしむ之を畏れば正法を修することを妨ぐ」等云々、此の釈は日蓮が身に当るのみならず門家の明鏡なり謹んで習い伝えて未来の資糧とせよ

* **兵衛志殿御返事（三障四魔事）**建治元年十一月　　五十四歳御作　　於身延
* （略） 兄をすてられ候わば兄と一同とをぼすべしと申し切り給へ、すこしも・をそるる心なかれ・過去遠遠劫より法華経を信ぜしかども仏にならぬ事これなり、しを（潮）のひると・みつと月の出づると・いると・夏と秋と冬と秋と春とのさかひ（境）には必ず相違する事あり凡夫の仏になる又かくのごとし、必ず三障四魔と申す障（さわり）いできたれば賢者は喜び愚者は退くこれなり、此の事はわざとも申し又びんぎ（便宜）にと・をもひつるに御使ありがたし、堕ち給うならば・よもこの御使は・あらじと・をもひ候へば・もしやと申すなり。（略）

* 「すでに仏になるべしと見え候へば・天魔・外道が病を付けてをどさんと心み候か、命は限りあることなり・少しも驚く事なかれ、また鬼神奴らめこの人を悩ますは剣を逆さまに・飲むか」

* このように「病気になるのは信心がなってない。信心が足りないから病気が治らない」という創価学会の教学（教学と言うより信仰観と言うべきだろうか）は間違っている。その逆である。病気になったのは過去世の重罪を打ち出すように熱心に信仰をしたからである。また、“魔”が憤然として競い起こるように熱心に信仰をしたからである。病気にならない人は、熱心さが足りないか、宿業が無いのである。もう一度書く。病気にならない人は、熱心さが足りないか、宿業が無いのである。
* その病魔と闘う人たちを優しく助けることが大切である。「病気になるのは信心がなってない。信心が足りないから病気が治らない」と考えるのは非常に熱心な創価学会員に多く見られる。
* この信仰を一生懸命にして病気になった人を軽んずる現在の創価学会の傾向性は全く間違っており、却って、そうした人たちを大切にすべきである。
* また、このように御書には現世利益は余り説かれていない。「現世利益」を第一とすることは創価学会の誤り、創価学会の邪義である。「現世利益」を熱心に説いていたのは入信させるための方便であったとも思われるが（そのために日達上人などはこれらを黙認されていた）、全ての創価学会員は本気で「現世利益」を熱心に説いて入信を勧めていた。
* この信仰をすると三障四魔が競い起こることが御書には書かれている。しかし生命は清められる。
* 日蓮大聖人も病気に罹られ、四条金吾により薬を処方され服用されている。日蓮大聖人は病を隠されていない。このことからも創価学会の病気をする人は「信心がない」という雰囲気は間違っている。池田大作が造り出した“邪義”である。病気によって信仰に奮い立つ人は多い。
* 「生」「老」「病」「死」は世の常である。むしろ病気によって人生経験の深みを増すこともある。病気によって道心（信仰する気力）が起こるのである。
* 「この病は仏の御はからいか。————病によって道心は起こり候か」（「妙信尼御前御返事」p90）
* うつ病性障害が治らずに苦しんでいる婦人部が居た。一族全員熱烈な創価学会員。ある県（昔の一県一県のとき）の女子部のトップにまでなったほどの強信者だった。ところがすぐ近くに住む家族（両親、妹など）が全く家事などを手伝ったりしない。うつ病性障害でも中等度から重度の部類に入り、夫の夜食を作るのも大変だった（不可能に近かった）。その夜食を代わりに作ることなどを手伝おうとしない。「信心が足りない」から病気になったし「信心が足りない」から病気が治らないのであって本人の信心が試されている、家事を手伝うことはしない、と頑固だった。私が何度かその親に手紙を書いてもその家族は返事も寄越さなかった。
* 「信心が足りない」から病気が治らない、とその親は頑固に娘の面倒を見ることをしない。自殺願望も突発的に強く表れていた。中等度から重度のうつ病性障害では家事を行うことは地獄の苦しみに近い。そのことをどんなに親に手紙を書いて出しても返事も寄越さないし、病気の娘を放っていた。呆れ果てた。
* 結局、その女性は、産みたかった子供も産めず、産期を過ぎてしまった。今は、夫と二人で暮らしている。うつ病性障害は多少、軽症化したのみである。創価学会の間違った考え（邪義）の犠牲者とも言えよう。
* 私には次のような体験がある。これが自分が創価学会を強く疑う一つの要因（きっかけ）になった。五年ほど前のことになる。
* 「三時間の唱題を“魔”の御本尊の前で熱烈に行った。これほど熱烈に行うことは非常に珍しいことであった。二人のうつ病性障害で苦しんでいる創価学会員の寛解を三時間熱烈に祈った。これほど熱烈に祈ったことは十数年ぶりのことだった。しかし、歓喜が湧かないことを不思議に思った。
* 翌日、朝から非常に身体が怠かった。うつ病性障害の五度目の再燃だった。うつ病性障害の再燃は三障四魔によるものと説明ができた。しかし歓喜が湧かなかったことに信仰への疑問を感じ、今までの再燃の時とは異なり翌日より勤行唱題を全く行わなかった。そのためか三週間ほどで寛解状態に至った。これほど早く寛解状態に至ったことは今まで経験のないことだった。抗うつ薬は全く服用しなかったが、徹底して勤行唱題を行わなかったことが功を奏したと思われた。以来、現在までうつ病性障害の再燃はない」

* **洗脳されきった哀れな会員を救う**
* 「第六天の魔王　智者の身に入りて、正師を邪師となし、善師を悪師となす。経に『悪鬼其の身に入る』とは是れなり。日蓮智者に非ずと雖も、第六天の魔王　我が身に入らんとするに、兼ねての用心深ければ身によせつけず」（最蓮房御返事）———これは当てはまらないと思われる。池田大作は広宣流布を頓挫させるためにこの世に生を受けた大悪鬼と私は信じる。また、池田大作は昭和２５年の頃から既に「天下を取る」が口癖であって、異常だったのであり、正師でも善師でもない。
* 昭和三十二年の大阪事件に於いて臆病な池田大作は卑怯にも警察に全てのことを話している。つまり仲間を売っている。そのために池田は早期に釈放されたし無罪になった。大阪事件では何十人もの創価学会員が有罪になり、創価学会は有罪になった人たちを全員、除名にした。すでにこのとき池田大作は堕落していた。しかし私はそのずっと前から堕落していたと考える（異常なまでの権力欲）。
* 池田大作は戦後のどさくさの時は、川崎市から大田区を縄張りとする暴力団の手先となって貸金の取り立てなどを手伝っていた。（山崎正友：懺悔の告白：日新報道：１９９４: p105）その経験を見込まれて戸田城聖氏は池田大作を雇ったのである。
* 二十五歳（昭和三年生まれであるから昭和二十八年）までは池田大作（タサク）が本名であったが、二十五歳の時、正式に戸籍上、池田大作に名前を変更している。戸田城聖氏や池田大作の奥さんのように勝手に外見上の名前を変えることはできる。しかし戸籍の名前を変えることは家庭裁判所が認めたときのみである（少なくとも以前はそうであった。現在は在日外国人のことで簡単に変えられるようになったようである）。戸籍の名前を変えることはそれほど困難なものであった。池田大作は自己愛性パーソナリティ障害（Narcissistic Personality Disorder）であるために戸籍の名前をも変えた。この戸籍の名前を変えることができたことは一つの謎（調査中）と山崎正友氏は書かれている（懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４）。
* 何度も何度も役所へ行って執拗に頼み込んだのではないかと筆者は推測する。自己愛性パーソナリティ障害ならそういう恐るべく執念深いことを行う。賄賂を役所の担当員に渡した可能性も考えられる。この頃、池田大作は金融業で大成功し、非常に裕福であった。
* 池田大作は異常なほど国会喚問を怖れている。何故、それほど国会喚問を怖れるのか？　理解に苦しむ。
* 戸田先生は「国会喚問が来たら喜んで受ける、大聖人の仏法の素晴らしさを世に知らしめるチャンスである」と述べられていた。
* 池田大作は今まで公明党議員を使って国会喚問を避けさせてきた。公明党議員は国会議事堂の廊下に座り込むこともして池田大作国会喚問を阻止した（このとき青年部も多数、応援に呼ばれ参加した）。まるで暴力団である。
* 公明党は池田大作の私党であること、公明党の政策は池田大作の独断で決まることは常識である。公明党が在日外国人の参政権を推し進めようとするのは池田大作の独断であることは有名である。池田大作は在日韓国人の参政権のためにそれを強引に推し進めていると言われる。これは在日韓国人には創価学会員が多いため選挙を有利にするためであると言われているが本当の理由は不明であり、何か裏があると言われている。
* 何のための選挙なのか？　単に池田大作の醜い野望ではないか？　選挙が広宣流布を妨げた。政界進出を行わなかったなら、創価学会は現在の二倍以上の規模になっていたと思われる。政界進出が広宣流布を妨げた。
* 政界に進出しなかったら、政党は大票田である創価学会を味方に付けようとして創価学会に媚びていたはずである。池田大作の最大の失敗は政界に進出したことと言えよう。
* 現在、創価学会は選挙と財務しか行っていないといっても過言ではない。折伏にはほとんど力を入れていない。これは平成元年頃からである。
* 同時放送での池田大作のあの傲慢不遜な振る舞い、池田大作こそ悪鬼入其身である。同時放送でのあの言動と振る舞いは暴力団を彷彿とさせる。それを気付かない創価学会員がおかしい。あまりにもお人好し過ぎる（自分もそのお人好し過ぎる人間の一人であった）。自分の友達は一発で気付いた。
* そして池田大作が招き入れた悪鬼が純真で真面目な創価学会員の身の上に次々と不幸を起こしている。熱心な創価学会員ほど不幸が起こっている。トップが悪いとそこから悪鬼が流れ込む、という文意の御文がある。池田大作が創価学会員を不幸に陥れてきたし、今も陥れている。もし池田大作が出現しなかったら、創価学会員は不幸にならず幸せになっていたはずだ。
* 創価学会員は一般にどうしようもないほど人が良いことが多い。その人の良さが池田大作の本性を見抜けない事に繋がっていると思う。その人の良さは他に友達を作りたくないと思うほどである。貧困が存在していた昭和の時代には相互扶助および弱者への哀れみの心が人々に存在していたが、貧困が少なくなった現代では弱者への優しさを失った人々が激増し“いじめ”が社会問題化している。創価学会員の存在は現代に於いては一種の清涼剤のようである。それは元々、人が良かったから激しい折伏にも拘わらず素直に入信した故と思われる。もちろん例外もある。創価学会員にも私利私欲に凝り固まった信仰者とはとても思えない人も多数存在する。それは功徳欲しさ故に入信した欲深い人と思われる。元々、心醜い人は、どんなに勤行唱題、折伏、学会活動などを行っても、あまり変わらない。ただ、外見上、取り繕うことができるようになるだけである。
* しかし、脱会すると今まで非常に親切だった人が、掌を返したように陰湿で冷たくなることをどう説明して良いか、判断に苦しむ。
* 人の性格を変えることは極めて困難である。不可能と言っても過言ではない。いや、遺伝生物学上、不可能である。人の性格は遺伝により生まれたときから決まっていると言われる。素直な性格の父親から生まれてきた子供は父親の性格を受け継いでいるならば間違いなく素直である。同じように素直な性格の母親から生まれてきた子供は母親の性格を受け継いでいるならば間違いなく素直である。父親、母親の性格を何割かずつ受け継いでいるならばその何割かずつの性格になる。子供は親の鏡ということわざが存在するのはそれ故である。性格は遺伝する。これは一卵性双生児の研究からも明らかになっている。育った環境が全く異なる一卵性双生児も性格は酷似する、育った環境により性格が修飾されることはほとんどない、という研究がある。学会二世三世の性格が一般に素直なこともその遺伝による。
* 選挙運動に一生懸命になることも、その素直さ故と、「選挙運動に折伏と同じ功徳がある」という唆しがあるからと推測される。筆者は内向的な性格で友達が少ないこと、内向的な性格、また批判的な性格（へそ曲がりな性格と言うこともできるだろう。その頃、自分自身を「へそ曲がりな性格」と揶揄し幹部の人もそう言っていた。しかし「選挙運動に走り回る同志を批判力の無い人たちと定義することができる」とも思っていた）、それ故に選挙運動はあまり行わなかった。選挙には批判的であった。これは折伏のとき「宗教団体であるものが布教を二の次にし、選挙運動に没頭していることがおかしい。だから私は創価学会には絶対に入らない」「創価学会は政治に介入している。信仰団体とは思えない。信仰を隠れ蓑にした政治団体だろう？」「創価学会は公明党だから入らない」「創価学会は池田大作を総理大臣にする気だろう。だから創価学会には絶対に入らない」などと言われることが極めて多かったからである。公明党を造り選挙運動に没頭することがなかったら創価学会は現在の何倍かの規模になっていたかもしれない。しかし、このことを言っても幹部の人は「池田先生が、池田先生が」と言って怒り狂うだけであった。
* 政界に進出しなかったら、政党は大票田である創価学会を味方に付けようとして創価学会に媚びていたはずである。池田大作の最大の失敗は政界に進出したことと言えよう。
* 「選挙運動に折伏と同じ功徳がある」という言葉にはどうしても納得がゆかなかった。折伏を後回しにして選挙運動に没頭する同志の姿に納得がゆかなかった。宿命に苦しみ抜いている人たちを後回しにして選挙運動に走り回る同志の姿にはどうしても納得がゆかなかった。「選挙運動に折伏と同じ功徳がある」という唆しの内部通達に「功徳欲しさ」に「宿命に苦しみ抜いている人たち」を後回しにして動いているように思えてならなかった。
* その唆しは池田大作およびその取り巻きからきていることは明らかだった。自分はその取り巻きが悪いんだと主張することが良くあった。その頃の自分は取り巻きを悪く言っても池田大作を悪く言うことはできなかった。池田大作を崇拝する一般的な洗脳が自分にはやはりあった。また、幹部の前で池田大作を悪く言うことはタブーであったし、大変な反抗を受けることになっていた。
* 一人一人を根底から救うことを大聖人様は示された。政治が少し良くなっても宿業に喘ぐ一人一人は救われない。大聖人様の仏教を信仰しないことには一人一人は根本的には救われない。君主が法華経を用いると民衆にまで法華経が広まる時代であった昔ではない。池田大作が創価学会の歩みを狂わせた。「立正安国論」を池田大作は歪めて利用した。
* 創価学会員は人が良過ぎる。それは創価学会の激しい折伏に怒り心頭に達しなかった人たちが多く入会しているからであろう。円座になって取り巻いて創価学会に入ると言うまで帰さないというほどに締め上げても怒り心頭に達しなかった人たちが入会しているからであろう。そしてお人好しは遺伝する。人が良過ぎて池田大作の傲慢さ・魔性・嘘を見抜けないのだ。
* 創価学会は今まで間違っていた。あの狂気のような選挙運動、そして広宣流布が未だ成されていないのに正本堂を造ったこと。同時放送で池田大作は『広宣流布は私がした。あなたではない。私が広宣流布をやり遂げた。広宣流布は私がした』と何回も言い威張っていたが、創価学会の現在の発展は何十万もの名も無き人々の血の滲むような努力の結晶である。そして広宣流布は未だ成し遂げられていないことは明白である。
* もしも公明党を造って政治に介入しなかったら（池田大作の醜い野望）創価学会はいろんな政党から味方に付けようとされ、創価学会は守られていた。
* 「政治が少し良くなっても宿命に喘いでいる一人一人は救われない。宿命に喘いでいる一人一人を救うためには折伏して日蓮大聖人様の信仰を信じさせないことには不可能である」
* これは三十年以上前、聖教新聞か大白蓮華（おそらく聖教新聞）に書かれていたことです。誰が書かれたかは記憶にありません。しかし池田大作は選挙一辺倒で折伏を軽視し「宿命に喘ぐ人を救うこと」を三の次、四の次にしている。これがおかしいと思うのは自分だけだろうか？　選挙にこれほど力を入れるのは権力を手中にしようという（名聞名利の虜になっている）池田大作の醜い野望にしか過ぎないと思うのは自分だけだろうか？　つまり池田大作は宿命に喘ぐ可哀想な人を救うことはどうでも良いと考えているとしか考えられない。「天下を取れ」たならば「総理大臣に成れたならば」それで良いと考えている（あくなき権力欲）。不幸に喘ぐ人たちのことはどうでも良いと考えている。これは織田信長に似ている。
* 池田大作は功を焦ったのである。もっと創価学会が大きくなってから政界進出（衆議院への進出）すべきだったのである。政界進出（衆議院への進出）とともに会員増加は頭打ちとなった。政界進出（衆議院への進出）とともに創価学会への批判が高まり、選挙運動により会員が疲弊してしまい、会員増加が困難となった。池田大作は功を焦り「天下を取ろう」という野望を自ら砕いてしまった。
* 自分は選挙に批判的であった。しかし折伏は誰よりもしていた。選挙に反対の自分に対する狂信的な幹部による叱責・排撃は激しかった。
* 民衆救済という崇高な精神を踏みにじり権力へのあくなき執念を燃やすことは大きな誤りです。７５０年前、日蓮大聖人様は権力を取れと仰せになったでしょうか。国家かんぎょうはされましたが自らはあくまで正法を立て安国を実現するという権力と無縁のところに立たれていたのではないでしょうか。
* 池田大作は「自分が広宣流布をした」と同時放送ではいつも言っているが、そこが釈然と来ない。広宣流布は名も無い無数の庶民が一生懸命になって命懸けで行ったのではないか？　もう一度書く。広宣流布は名も無い無数の庶民が一生懸命になって命懸けで行ったのではないか？
* 池田大作は自分がやったと同時放送では何回も言って威張っているが、それはおかしい。池田大作は邪魔をしただけである。
* ある霊能者が語るところに依ると、池田大作には霊界から赤い木の乗り物がすでに迎えに来ているそうである（平成２２年２月１日）。それは無間地獄への迎えの乗り物であり、赤く見えるのは火が燃えているからだそうだ。その乗り物の中で池田大作は業火に焼かれながら無間地獄へと落ちてゆくと言われる。
* 正本堂を造ったのは選挙に於いて「国立戒壇」のことで日本共産党などから責められないようにするため池田大作が考えたカモフラージュであったことは周知の事実である。その頃の創価学会員は貧乏な人が非常に多かった。しかし供養金を出すと功徳があると言われ、生命保険を解約したり、家や土地を売ったりして、正本堂建設のために献金した。献金すると幸せになれる、福運を積むことができる、と貧しい末端の会員に言い、多額の献金が集められた。しかし、創価学会員は幸せにはなっていない。周囲を見渡しても全て不幸になっている。幸せになっているところは一つもない。特に熱心にしていた処は悲惨な境遇に陥っている。
* これからは『日如上人様なら、どう言われるか？』を行動の指針としてゆくべきである。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **ジョージ・ウイリアムス理事長**
* アメリカのジョージ・ウイリアムス理事長が創価学会を辞め法華講に入ったと聞きました。信じられないことですが、詳しいこと、お教え下さい。命を賭して単身アメリカに広宣流布のために渡られた人です。私はとても尊敬していました。アメリカへと向かう飛行機内で父親が死亡した知らせを聞かれたと「人間革命」には書かれてありました。（現在の「人間革命」には、そのことが省かれてある？？）
* ウイリアムス理事長は池田大作の子息をアメリカの大学へ入学させるように命令されたが、アメリカでは池田大作は良く思われてないため（ドイツ、フランス、カナダ、オーストリアなど先進諸国では池田大作は極めて危険なカルトの親分として非常に悪く思われている。ただ貧しい発展途上国がお金欲しさに池田大作に媚びを売るだけである）入学させる大学を見つけることができず（第一庶務との連絡不徹底があったとも言われる）、そのために池田大作から激しく怒られ総括され、池田大作の本性を見、法華講に入ったと聞く。その激しい総括は数年にも及んだという。その数年にも亘る狂気じみた総括のためウイリアムス理事長は心身的にも大変疲弊し尽くしたと言われる。
* アメリカではそのために法華講が大きな勢力を持っている。宗門と創価学会が同勢力を持っていると言われる。アメリカに創価学会の会館は多数あるが、使われずにいるところが多いという。たとえば池田大作はハーバード大学で二回講演した（かなり高額のお金を積んで根回しをして講演を行うことができるようにした）が博士号は貰っていない。アメリカの他の有名大学からも博士号を貰っていない。貧乏な大学からは博士号を貰っている。その講演のとき、池田大作は原稿のみを見て喋っていた。その原稿は池田大作のゴーストライター軍団が造ったものである。だから池田大作は内容も分からずに喋っていたことになる。内容も分からないから前を見る余裕も無かったのである。
* ウイリアムス理事長が日本で「暴露本」を書いたなら、日本の創価学会は大打撃を受けることは明白です。
* たしかに現在、日本の出版界に於いて創価学会の「暴露本」を出版することは非常に厳しくなっています。言論弾圧が行われています。インターネット上での暴露でも構いません。真実を日本の人々に知らせ、末端の創価学会員を不幸から救い出すのです。ウイリアムス理事長が日本で新しい創価学会を造られるなら私は喜んで馳せ参じます。たしかに生命の危険に遭うことになると思います。しかし、一度は広宣流布のために棄てた命ではないですか？　たしかに日本の親族および子供達が危険な目に遭うことになるので、私は強く言えません。一考をお願いします。
* 同じく竹入義勝氏、矢野絢也氏、「暴露本」を出版するべきです。たしかに強い言論弾圧が行われていますが、末端の創価学会員に真実を知らせることが末端の創価学会員を救うことに繋がります。一考をお願いします。山崎正友氏、原島嵩氏、もう一度、「暴露本」を出版するべきです。たしかに出版することは現在は極めて困難になっています。命賭け、また家族、親類にも迫害が起こることになりますが、一考をお願いしたい。
* 創価学会はトップが間違ったから悪鬼が雪崩れ込み会員に不幸なことが競い起こった。トップが間違っているから不幸なことが競い起こる。
* 「その宗教団体のトップが間違っていたら其処から悪鬼が雪崩れ込む」という趣旨の御書の一節（あるいは他典）があるということですが、何処かお教え下さい。私は「日如上人様ならどう言われるか？」を現在、判断の基準にしています。（創価学会内部改革派憂創同盟より）
* 時代がどちらが正しいかを証明するだろう。創価学会に悪いこと不幸なことが起こるのは創価学会のトップが間違っているからである。悪鬼が創価学会に雪崩れ込んでいるからである。創価学会の正常化（清浄化）を行うのが創価学会内部改革派憂創同盟である。広宣流布への情熱をそのままに創価学会を良くしてゆけば会員は幸せになれる。２００万人もの創価学会員のためです。
* 創価学会は実質上２００万人であるが、信仰する気を喪失し退転状態またアンチ創価学会の状態にある人たちを含めると四百万人になる。実質上２００万人のうち、批判力を持たない狂信的な創価学会員の割合は８％と推定される。
* 創価学会は８５０万所帯などとでたらめを言っているが、筆者は１９歳の頃、そのでたらめに非常に悩んだ記憶がある。他の邪宗（新興宗教）も同じように所帯数をでたらめに多く言っている。「他の邪宗と同じではないか」と１９歳の頃、激しく悩んだ。キリスト教は所帯数を水増しして言っていない。
* 池田大作は大悪鬼である。広宣流布を妨げる大悪鬼である。何故、この大悪鬼が出現したのか？　御書には書かれている。
* 「第六天の魔王　智者の身に入りて、正師を邪師となし、善師を悪師となす。経に『悪鬼其の身に入る』とは是れなり。日蓮智者に非ずと雖も、第六天の魔王　我が身に入らんとするに、兼ねての用心深ければ身によせつけず」（最蓮房御返事）———しかし、これは当てはまらないと思われる。池田大作は広宣流布を頓挫させるためにこの世に生を受けた大悪鬼と私は信じる。戸田会長は死の前に池田大作除名を言っていると私は信じる。しかし、それは池田大作そして池田大作に追従する人たちに握り潰されたのだと思う。または他に何かがあったのか？　池田大作は寝ている病人の布団を剥いでゆく手口の金融業で富を築いていた。それを大幹部に分け与え味方に付けたと言われる。
* 池田大作が石田次男氏を抜いて第三代会長に成れたことに何かの秘密があると思われる。石田次男氏が第三代会長になっていたら創価学会員は不幸になることはなく幸せになっていた。現在、熱心だった創価学会員はほとんどが不幸に喘いでいる。また創価学会はもっと発展していたであろう。池田大作が第三代会長になったことに全ての不幸は始まっている。
* そして広布の歴史の歪曲が「人間革命」など多数の出版物などで行われている。広布は名もない庶民が血みどろになって行ってきたことであって、池田大作が行ったのではない。池田大作は第一庶務の女性などを連れて研修道場の一角の超豪華な部屋（池田大作専用室）で楽しんでいただけである。このことを側近（最高幹部）は知っているはずである。また、そこを掃除していた女子部の幹部は疑いを抱き多数退転した。
* 大悪鬼である池田大作は現在、世俗の名聞名利を追い求める爬虫類（コモドドラゴン）と化している。また、選挙を至上として広宣流布をないがしろにしている。創価学会は今、宗教団体ではなく、むしろ政治結社になっている。
* また、日蓮大聖人出世の本懐である「本門戒壇の大御本尊」を蔑如している（しかし、これを知らない創価学会員は極めて多い）。
* これでは創価学会員が不幸になるのは当然である。大悪鬼を師そして生き仏として崇めると不幸になるのは当然である。
* 創価学会員はどうしようもないほど人の良いが多い。創価学会員以外とは友達で居たくないほどだ。友達はほとんどが創価学会員だった。創価学会員以外は信じることができなかった。創価学会員以外は疑ってしまっていた。その人の良さが池田大作の本性を見抜けない事に繋がっている。
* 人の心は声に現れる、顔に現れる。同時放送で見抜かなければならない。
* 戸田先生の十回忌の法要は寺院で行われた。創価学会がもはや池田教と化していたため創価学会では行わず戸田家の判断で日蓮正宗の寺院で行われた。戸田家が法華講であることはよく知られている。また、これは戸田先生が亡くなられたとき、池田大作が戸田先生の見舞金として全国より寄せられた４０００万円は渡さずに、二台のトラックで戸田先生の遺品を大量に強奪していったためとも言われる。このとき日本刀も強奪したが、これが戸田先生と池田大作の師弟の絆として記念館に展示してあるのを戸田先生の奥さんが見られて非常に驚かれたという話は有名である。これは池田大作除名の遺言状を探し出すためでもあったのではないかと私は邪推する。
* 韓国では創価学会執行部・創価学会反執行部に別れているという。創価学会反執行部とは反池田派のことである。その勢力は始めこそ小さかったものの現在は執行部に匹敵するほど大きく成りつつある。その韓国の情勢は日本の創価学会員にはほとんど知らされていない。支部長クラス以上の幹部しか知らない。そして最近は韓国のこれらの情勢の情報がシャットアウトされているのか現在、どうなっているのか分からない。
* アメリカなども「反池田」がかなり組織されている。「反池田」とは日蓮正宗のことである。アメリカでは創価学会と日蓮正宗が同程度の勢力を持っていると言われている。スペイン、ガーナではトップが日蓮正宗に寝返った。スペイン、ガーナではほとんどが日蓮正宗である。台湾、インドネシアも創価学会は壊滅状態であると言われる。
* それら海外の情勢に危機感を抱いている日本の創価学会最高幹部は多い。池田大作の死後、日本の創価学会も二分する危険性を日本の創価学会最高幹部は抱いている。この海外の情勢を知っている創価学会員は極めて少ない。聖教新聞では全くこのことは報道されていない。
* 日本人は素直過ぎる。現在は下火になったようだが韓国の文鮮明が創立した統一教会に於いて、その悪評有る合同結婚に於いて、韓国人信者の半数は拒否をするが日本人信者はまず誰一人として拒否をするものはいなかった。このように日本人とは素直なのである。経済的な交渉に於いても日本人が弱いのは、この素直さ穏健さ故と私は考える。
* 素直で穏健である日本人の心は、周りが海で囲まれ外国との接触が少ない、その保護的環境から来ていると考える。
* 創価学会は改革しなければならない。現在、創価学会員の身の上に次々と不幸な現象が起こっている。「宿業が出ている」「転重軽受している」だけでは済まされない。堕落し果てた池田大作より悪鬼が雪崩れ込んでいる故と推論される。しかし、以前も、創価学会員には次々と不幸な現象が起こっていた。それは昭和３５年頃からである。池田大作が創価学会会長に就任した頃からである。それまでは絶対に治らないと言われた病気も治ることが多かったという。

* **質問**
* 一）創価学会は「総体革命」というものを推し進めているということであるが、その「総体革命」とはどういうものか？
* 答え：それは創価学会による日本制覇、日本支配です。
* 創価学会を誹謗する団体は徹底してやっつける、創価学会を誹謗する団体を潰滅させることも含まれています。
* 二）国会議員を始め、地方議員の数も、半分に減らすと、税金の無駄遣いが少なくなりますが、このことを公明党はどう考えているでしょうか？
* 答え：そうされると公明党は壊滅状態になってしまいます。創価学会の警察権力へ及ぼす力もなくなってしまいます。
* 三）創価学会には「財務」というものがあり、毎年二千万円～三千万円ほど集まっていると言われる。これは何に使われるのか？
* 答え：池田大作先生の勲章を取るために大部分が使われています。池田大作先生の勲章の数は統一協会の文鮮明には負けていますが、日本では一番多いです。すべて金で買っていると言って過言ではありません。豊田商事事件以上の悪質詐欺事件であります。
* 四）Ｐ献金は現在も行われているのか？
* 答え：もちろん行われています。Ｐとはpresident すなわち池田大作のことです。
* 五）池田大作は何故、そんなに国会喚問を恐れるのか？
* 答え：池田大作は軽症ながら妄想型統合失調症であるため、被害妄想によりそんなに国会喚問を恐れるのです。精神が正常な宗教家なら国会喚問こそ自らの正義を訴える良い機会と捉えるはずです。戸田二代会長も国会喚問を望んでいたくらいです。
* 六）東京の創価学会本部には毎週精神科医が来ています。学会本部の職員と家族に精神疾患があまりにも多発しているからです。薬を処方するには精神科クリニック開設の手続きをしなければいけませんから（精神科クリニックを本部会館内に開設して、これが暴露されたら創価学会は大打撃を受けます。ですから精神科クリニックの開設はしないはずです）カウンセリングだけのようです。カウンセリングしてどこどこの精神科を紹介するということをしているようです。
* 答え：そのとおりです。

* **創価学会内部改革派憂創同盟**
* かつて創価学会内部改革派憂創同盟というものが存在した。それは元東京都議・藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を新しい創価学会の会長とし、創価学会を立て直すという人々の集まりであった。(ほとんどが壮年部・男子部であった。婦人部、女子部は皆無と言っても良いほどであった）しかし、創価学会中枢部が暴力団を使い、藤原親子などに圧力をかけ、活動が停止してしまったと聞く。
* 主に選挙のことで創価学会の在り方について疑問を抱いていた私は出版されていた本から創価学会内部改革派憂創同盟の電話番号を探し出し電話した。非常に熱心に活動している人は００に住んでおり地区部長をしていた。創価学会から脱会せず、創価学会を改革するとして地区部長のまま活動していた。選挙の度に『謗法選挙』と書いたビラを播いていた。自分の地区を創価学会内部改革派憂創同盟にし、創価学会から脱会せず、創価学会のまま改革をしてゆく、ということであった。そして藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）と電話で話すように熱心に勧められた。確かに藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）は非常に人格者であった。この人が創価学会の会長になったら創価学会は素晴らしく発展してゆく、そして広宣流布も成し遂げられる、と確信した。
* 創価学会から法華講に改める人たちが続出していたときであった。すなわち第二次宗門問題の時であった。私はしかし当時、創価学会に盲信的なところがあったため、創価学会内部改革派憂創同盟に連絡を取ることは途絶えた。
* 十年後、私は再び、主に選挙のことで創価学会の在り方に疑念を抱き、その００の創価学会内部改革派憂創同盟のところに電話をした（電話番号を探すのに大変苦労した）。すると奥さんらしい人が出られた。そして「主人は亡くなりました。ガンで亡くなりました」と告げられた。電話越しに幼い二人ほどの子供の元気に騒ぐ声が聞こえていた。未だ、二歳、四歳ほどの子供たちだった。きっとその００の活動家は来世、必ず創価学会の改革を行うとの決意の下、霊鷲山へ旅立たれたと思われる。そして無念であったとも思われる。
* 「隣の地区の学会員一家は借金の保証人になってこのまえ夜逃げした。同じ学会員の保証人をしたのだ。その学会員一家も夜逃げした。自分たちの地区はみんな内部改革派憂創同盟にした。すると悪いことは一切起こらなくなった。みんな幸せになった。自分の地区はみんな幸せだ」「地区部長だから十三万は財務をするべき、と昨日来て粘られて困った」「非難に負けないよう教学力をつけることだ」「学会を戸田先生の時代の学会に戻すんだ。正しかった戸田先生の時代の学会に戻すんだ。それが我々の目的だ」と言っていた。壮年部の地区部長であったはずである。この頃は以前（二十八年前以上）と異なり男子部の地区リーダーを地区部長とは呼んでいなかった。また、男子部の地区リーダーには「十三万は財務をするべき」とは来ない。
* この創価学会内部改革派憂創同盟の熱心な活動家がガンで死亡したらしいことは創価学会に充満する悪鬼を軽く見ていたためと思われる。しかし、それよりもその頃の創価学会内部改革派憂創同盟は正信会と繋がりがあったためと考えられる。自分の知っている正信会の僧侶もガンで亡くなられた。創価学会はそれを大喜びしていた。たしかにその人は余りにも厳しい人であった。自分もお寺に題目を上げに行ったら「ちゃんと挨拶をしろ。お前は何処の奴か？　創価学会か？　何処の創価学会か？」と激しく怒られた経験がある。それは自分が十六の頃のことであった。純真に信仰していたその頃の自分は大きな謗法をしてしまったように思って激しく悩んだ。自分は挨拶をしたのだが、その僧侶には気に入らなかったと思われる。
* また、自分は小学三年の頃より勤行唱題を行っていたが、家人がほとんど退転状態に近く、御授戒を受けていなかった。自分が小学六年の終わりに虫垂炎になった後、御授戒を受けてない罰と思ったのか、御授戒を受けた。父は「何故、今まで連れてこなかった」と激しく怒られた。厳しい頑なな僧侶であった。また、御授戒を受けたが全く何も変わらなかった。御授戒とは形式に過ぎないと思った。御授戒を受ける前に自分は勤行唱題をすると元気になることを経験していた。それは御授戒を受ける前後で変わらなかった。
* 創価学会に残って内部改革を行うことは甘い考えであったと今では考える。法華講に入らないことには創価学会に充満する悪鬼から逃れることは不可能なようである。今では創価学会を脱会しなくとも法華講に入れると聞く。家庭の都合上などで創価学会を脱会することができない人は隠れて法華講に入るべきである。“隠れ法華講”になることである。それとも心の中だけで法華講員になるか？？
* 現在、藤原行正親子は暴力団（あるいは青年部）の厳しい監視下に有るといわれる。また、昔の創価学会内部改革派憂創同盟は正信会と結びつきがあったそうであるが、現在の新しい創価学会内部改革派憂創同盟は血脈相状を否定する正信会とは一切、結びつきを持たない。正信会とは対決する（しかし、正信会は現在、既に潰滅しかけている）。そして法華講と強い結びつきを持つ。
* 牧口会長の時代「天皇以下、国民すべてが日蓮大聖人に祈らないから戦争に負ける。大聖人が仰せの通り他の宗教を禁じて日蓮正宗の御本尊に戦勝を祈らなければ国が滅びる」と強く主張していた。創価学会が言うように「牧口会長は反戦を唱え軍部に弾圧されて獄死した。創価学会はだから初代会長以来、反戦平和の団体である」というのは嘘である。「戦争に反対」したのではなく「戦争に勝つため自宗での祈りを国家に強く求めていた」のである。むしろ戦争を強く賛美しており、日蓮正宗での戦勝祈願を激しく説いていた。
* 創価教育学会の「実験証明座談会」はまず「宮城遙拝、戦勝祈願」から始められていたという当時の記録がある。それを「反戦平和の宗教」などという作り事ですり替えたのは池田大作がノーベル平和賞を狙っていたからである。当時の創価教育学会の「実験証明座談会」の映画がある。それは戦争賛美に満ちていた。牧口会長の長男も出征しており、結局、戦死されたが、創価教育学会の「実験証明座談会」の戦争賛美はその映画から分かるように極めて激しかった。
* 戸田会長も極めて右翼的体質が強かった。体育祭では女子部員に長刀（なぎなた）を持って舞わせたり「俺も行くから君も行け。狭い日本には住み飽きた。海の向こうにゃ支那がある。支那にゃ五億の民が待つ」と学会員に歌わせていた。「反戦平和」など一言も口にしていない。
* 戸田会長には原水爆禁止宣言なるものがある。それは「何人であれ原水爆を使う者がいたら死刑にすべきだ」（アルコール泥酔状態で言った可能性もある）というもので、まるで他愛なく幼稚なものであった。以後、昭和四十年代後半まで創価学会が原水爆禁止の運動をしたことはない。
* 新しい素晴らしい創価学会を新たに築くことだ。日蓮正宗に従順に仕え、決して過去の過ちを起こさない純粋な創価学会を築くことだ。謗法の“魔”の御本尊に祈っても不幸になるだけである。繰り返すが我々創価学会内部改革派憂創同盟は創価学会Ｘデーのときは藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を担ぎ出し宮殿革命を起こす。藤原範昭氏を次の創価学会会長にするのだ。この宮殿革命では非暴力主義を貫く。そして新たに日蓮正宗の純粋な信徒団体に戻すのである。藤原範昭氏が創価学会解散を言うならば解散して日蓮正宗に付く。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **創価学会内部改革派憂創同盟再結成宣言**（第一稿）
* 正義の書
* 既に気付いている人が多数存在することは確かなことである。同時放送に出席して、その傲慢な振舞いと言動に呆れた人は多数存在する。池田大作こそ獅子身中の虫である。批判力をあまり持たない婦人部の人たちはほとんど創価学会池田派であるが、壮年部には内部改革派憂創同盟的考えを持った人が多い。しかし、そういう人は創価学会の会合にはほとんど出席することはない。
* 池田大作の間違いを諭し、原島嵩氏、山崎正友氏などが反逆者のレッテルを貼られ創価学会から去っていった。反池田を唱えない限り、反逆者のレッテルは貼られない。反逆者のレッテルを貼られるのを恐れ、池田派の振りをしている卑怯な者は大勢居る。
* 「内部改革派憂創同盟の自覚を強く持つ」と様々な苦難から逃れることができる。「改革派の自覚を強く持つ」と悪いことはあまり起こらなくなる。今まで「宿業が出た」「魔だ！」と言っていたことは起こらなくなる。
* 今までは熱心に信仰すればするほど不幸なことが起こっていた。『創価学会に属していると不思議なほどの不幸なことが起こる』と法華講に入った人は多数存在するが、法華講に入らずとも創価学会のままで「改革派の自覚を強く持つ」ならば不幸なことは起こらなくなる。今まで多数の人が『この信仰は宿業が出る』と創価学会を辞めていったが、それは宿業と言うよりも大悪鬼・池田大作の存在があったから悪鬼が創価学会に雪崩れ込んでおり悪いことが起こっていたのである。それを「改革派の自覚を強く持つ」ことでブロックするのである。
* 『こんなに熱心に信仰しているのに何故こんなに不幸なんだろう。熱心に信仰すればするほど不幸なことが起こる』という人が多かった。それは大悪鬼・池田大作を神仏化しているからである。大悪鬼・池田大作ももう八十歳を越えている。大悪鬼は糖尿病である故、脳梗塞で死ぬ日は近い。
* 大悪鬼亡き後、池田大作の機嫌伺いをしている側近の最高幹部たちは反旗の烽火を上げる可能性も僅かだが有る。大悪鬼死すまであと数年掛かるだろう。その間は私も含め「改革派の自覚を強く持つ」しか選択の余地の無い人は多く存在すると思う。大悪鬼死すまでは強く胸に「改革派の自覚を強く持つ」っていくべきである。そうしないと悪鬼が我が身に入ってくる恐れがある。
* これからはインターネットを通じて「池田大作」の間違いを追求し、創価学会が正しい信仰団体になるように努力するのみである。
* （完）　（文責・創価学会内部改革派憂創同盟残党）
* ※注：「改革派の自覚を強く持つ」ことでブロックするのである。——これは不可能なようである。法華講に入らないことには悪鬼の攻撃をブロックすることはできないようである。甘い考えであった。前に書いた創価学会内部改革派憂創同盟の人がガンで亡くなったらしいことも創価学会に充満する悪鬼の仕業であったと思われる。それほど創価学会には悪鬼が充満しているのである。

* **創価学会内部改革派憂創同盟　怨恨の呪い**
* 池田大作が悪いのである。池田大作が創価学会を歪めてしまった。池田大作が現れなかったら、たくさんの人が塗炭の苦しみに襲われることはなかった、塗炭の苦しみに陥ることはなかった。
* 我欲に凝り固まった執念の男と言うことができるだろう。池田大作は「天下を取ろう」を口癖にしていた我執の固まりの人間であった。その我執は病的であり、しかし、それが池田大作を創価学会第三代会長にした。池田大作は「天下を取る」執念の男だったのである。
* その執念も途中で潰えた。たくさんのたくさんの人々の不幸を犠牲にして。池田大作のために不幸のどん底に落とされた人は数知れない。
* 破産して一家離散になった人、病気で苦しみ抜くことになった人、事故に遭い人生を棒に振った人、など数知れない。
* それらはすべて池田大作が宗門を支配し宗門を傘下に置こうとした醜い我欲の結果である。池田大作が創価学会に導き入れた無数の悪鬼の集団によるものである。
* 謗法の罪は少なくとも三世に渡る。祖父・祖母が熱心な創価学会員の場合、孫が異常に、または不幸になることが多い。それは悲惨な現象であるが、祖父は祖母は孫の不幸が自分のためであるということが分からない。「狂信」故に分からない。長年、信じてきた信仰に洗脳されきっている。孫が可愛いならば創価学会を辞め法華講に入るべきである。周囲が反対するであろう。長年、親しく付き合ってきた人たちから絶縁されるであろう。そのために寂しい思いをするであろう。また、迫害のようなことを受けるかもしれない。しかし、可愛い孫のことを考えるなら創価学会を脱会し法華講に入るべきである。正邪を見抜く目を持たないといけない。少なくとも池田大作の傲慢不遜には気づかなければならない。
* 墓の中で池田大作を呪っている創価学会員は多い。池田大作が連れてきた悪鬼の大集団により人生を狂わされた無数の人たちの怨恨の叫びが響き渡る。日本中にその怨恨の叫びは響き渡っている。創価学会を池田大作を呪う怨恨の叫びで夜の墓は満ちている。
* 多数の大幹部が癌で早死にした。彼らは死ぬとき何も分からなかった。何故、広布のために懸命に生きてきた私たちが早死にしなければならないのかを。それが池田大作が創価学会に呼び込んだ無数の悪鬼に寄ることを死んでから気づいた。
* 統合失調症、うつ病性障害となり自殺した創価学会員も多い。彼らも死んでから自分たちの病気が池田大作が創価学会に呼び込んだ無数の悪鬼に寄ることに気づいた。その怨恨の叫びも多い。
* 商売に失敗して一家離散した家族も多い。呪われたように商売に失敗した彼ら彼女らはその理由が死ぬまで分からなかった。そしてそれが池田大作が創価学会に雪崩れ込ませた無数の悪鬼に依ることを知って今は池田大作を呪っている。
* 夜の墓は池田大作を呪う怨恨の声に満ちている。死後、無間地獄が決定した池田大作は現世に於いて謗法の罪はほとんど現れない。だが、池田大作は死後の無間地獄が決定している。池田大作は肥った肉塊を揺らしながら死後、無間地獄の苦しみにのたうち回る。池田大作はそして永遠に無間地獄の苦しみに奇声を発し続ける。その声は永遠に日本中に響き渡るかもしれない。
* 日本中に池田大作により人生を狂わせられた人たちは余りに多い。本当なら幸せな人生を歩んでいたはずの人も池田大作が創価学会に呼び込んだ無数の悪鬼のために人生を狂わせられた。その人たちは余りにも多い。

♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦

* **原田新会長へ**
* 原田新会長、勇気と正義の人になってください。貴方まで池田大作の下部になってはいけない。末端の多数の純粋な学会員のためです。勇気と正義感で池田大作の間違いを末端の純粋な学会員に知らしめるべきです。池田大作の間違いに気付き始めた人は多くなっています。しかし学会執行部が聖教新聞を使って未だに池田大作を讃えている。
* 反逆者とされるアメリカのウイリアムス理事長・原島嵩氏・竹入義勝氏などは実は正義と勇気の人であることを貴方は知っているはずです。貴方は正義の人になるべきです。
* 元創価学会教学部長、原島嵩 著「絶望の淵より甦る」（日新報道刊）（１４１０円＋税）を読みました。原田現会長のことが幾つか言及されてあります。
* また、元公明党委員長、矢野絢也 著「黒い手帳」（講談社刊）（１７１０円＋税）も読みました。
* 二つとも非常に興味深く面白く、感動しました。何度も何度も繰り返して読みました。是非、購読して読むべきものと推薦します。
* なお、会館職員などは批判に返答できるようにするため、こういう書籍は回し読みをしている。一般会員もそうするべきと思う。
* ———しかし、原田新会長も保身を貫くらしい（と言うよりもできない？）。反旗を翻しても潰されるだけである。これでは創価学会の改善はまだ待たなければならない。原田新会長は創価学会が韓国のように分裂してはいけない、という考えの下に、そうされているのだと信じたい。韓国のようにならないために、最高幹部たちは未だ行動を起こさないでいるのだと信じたい。
* 広宣流布への情熱が法華講にはあまり感じられないというのは間違いで、法華講には広宣流布への情熱を持った人が多数、存在する。それは創価学会以上と言える（創価学会は今は選挙団体である。政治団体ではない。何故なら、創価学会員は政治のことは知らず、ただ選挙運動に走らせられているからである）。創価学会から法華講へ移った人は迫害などを堪え忍びながら信仰を貫いた勇気ある人たちである。真実を見究める目を持った人たちであり賞賛に値する。
* 獅子身中の虫、それは池田大作である。池田大作が広宣流布を頓挫させた。もし、池田大作が出なかったら広宣流布は成し遂げられた可能性は高い。今から広宣流布をやり直すしかない。池田大作により頓挫させられた広宣流布を新しい正しい創価学会で成し遂げれば良い。悪鬼が逃げ去った後の創価学会ならば弘法は容易くなる。現象として悪いことが余り起こらないようになるからである。今までは、現象として余りにも悪いことが起こり過ぎていた。そのために退転者が極めて多数生じていた。
* 私は聖教新聞の通信員をしていたことがあるが「ある人の体験談を書こうとすると、良いこと（良い偶然）も起こっているが、悪いこと（悪い偶然）が沢山起こっている」と先輩に相談すると「その良いところだけを繋ぎ合わせて創作したら良いのだ。それが広宣流布のためだ」と言われ、私はそのように行ってきた。私はかなりの数を書いた。その頃は元気一杯の私であった。怖いものは無かった。池田大作の正体に気付かなかったならば、苦しい日々ではあったが元気一杯だった。しかし、気付いてしまった。怖いもの無しの自分ではもうなくなってしまった。元気一杯のあの頃の自分にはもう戻れないのだろうか？　怖いものが確かに無かった。世のため人のためにと元気一杯だった。ただ、元気に成り過ぎて社会常識を踏み外すことが頻繁にあって苦労した。そして悪いこと（悪い偶然）が起こり過ぎていた。運命も確実に下降線を辿っていた。不幸へ不幸へと進んでいた。
* つまり、聖教新聞・大白蓮華などの体験談は半分嘘が多い。本当は少ない。悪いところは書かないである。半分嘘を読んで感動してはいけない。感動するように創作はしてある。
* 昭和四十年代の聖教新聞には驚くべき体験談が毎日のように載っていたが、年々、体験談は驚くような内容ではないようになっていった。平凡化していった。そして体験談の数も減っていった。平成二年頃、昔の聖教新聞の体験談を書籍化するべき、と自分は思っていた。
* それが本当であったのか？　以前は確かに驚異的な体験談が本当に起こっていたと聞く。それが起こらなくなったのは創価学会が謗法化した（すでに昭和四十九年には明らかに謗法化していた。すなわち池田大作本仏論が興っているのを日達上人は指摘されている）故か？
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **最高幹部の結束した造反を期待する**
* 現代の御書と言われる小説『人間革命』は池田大作を神格化させるための嘘の塊である。しかしこのことを知らない創価学会員は極めて多い。学会への批判書、批判記事を読むな、と徹底した指導が行われている。学会への批判書、批判記事は“魔”の書とされている。
* 小説『人間革命』は、若い頃、小説家志望だった篠原善太郎氏が書いていた。篠原善太郎氏は東大卒であり創価学会の外郭企業の最大手の一つ東西哲学書院社長となっていた。同社は、東京・信濃町近辺や全国の会館近くにレストラン、寿司屋、書店のチェーン店を展開している学会外郭の最大手の一つ。氏は戦前、河田清のペンネームで小説を書いたことがある。学会総務。（懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p110）
* すでに死亡している故、小説『人間革命』は現在、書かれていないはずである。教学上の難しいところは原島嵩氏が書いていたという。「大百蓮華」に乗っていた池田大作の万年筆や原稿用紙の写真は池田大作の指図で「大百蓮華」の編集者が創作しただけである。また原稿用紙数枚だけ池田大作夫人がゴーストライターの原稿をそのままに書いただけである。学会本部勤務の人で長年勤務の人はほとんど全員ゴーストライターのことを知っていた。
* 池田大作が書いたとされる書物や講演内容は全て原島嵩氏などゴーストライターが書いている。ゴーストライター専用の部屋が会長室の上に有り、常時五人ほどが執筆活動に専念していた。池田大作は勤行唱題もほとんどしていなかった。側近に「俺の代わりに勤行唱題しておけ！」と言って自分は将棋や卓球などをしていた。今は原島嵩氏が抜け、ゴーストライターの顔ぶれは変わっている。最近、新・人間革命の連載が再開したと聞くが誰が書いているのであろう。以前は、篠原善太郎氏であった。文体が篠原善太郎氏に似ていなければならないため、新・人間革命のゴーストライター選択にはかなり困難があったと思われる。
* 三十五年ほど前（昭和四十八年前後）は「池田大作は一日二、三時間しか寝ないで寸間も惜しんで広宣流布のために戦っている」と日本国中に内部通達されていた。その話を信じて自身も睡眠時間を限界まで削っていた男子部の人がいた。私も中学二年の頃、睡眠時間を一日五時間に切り詰めて一年間を過ごした。しかし、その内部通達は全くの嘘であった。池田大作は昔も今も一日十時間は寝ていると言われる。創価学会本部への出勤はいつも１２時頃ということである。
* そして最近、すでに少なくとも十年以上も前から、とくに月刊誌「大百蓮華」に於いて、あからさまに池田大作を神格化する動きがある。それらは嘘と本当を入れ混ぜた話で埋まっている。「大百蓮華」は座談会でよく使用されるものである。純真な会員はこれで教化されてゆく。
* 創価学会は広宣流布が成し遂げられていないにも拘わらず、正本堂（国立戒壇もどき）を造った。これは日蓮大聖人の御遺訓に背くものであった。選挙には「国立戒壇」は非常に邪魔であった。「国立戒壇」を日本共産党が強く突いていた。それを逃れるための苦肉の策であった。「顕正会」（元・妙信講）の主張は正しかった。宗門もその当時は創価学会の強い主張に従わざるを得ない状況であったと思われる。宗門もその当時、判断を誤ったと言えるであろう。
* 池田大作は純真な会員を懸命な選挙運動に走らせた。同時放送では「公明党が第一党に成りなさい」と狂気の言動を発していた。選挙運動に大きな功徳があると最高幹部たちに言わせていた。そして女子部・婦人部はそれを鵜呑みにしている。男子部・壮年部は批判力があるから鵜呑みにすることは少ない。
* 池田大作が亡くなった暁には「池田大作批判」で聖教新聞が埋まることは難しいが、最高幹部が結束して行動を起こすなら創価学会が正しい創価学会に生まれ変わると思う。しかし、最高幹部が結束して行動を起こす可能性は極めて低い。池田大作は子供に跡を継がせるためイエスマン以外は排除してきている。批判的な幹部は排除してきている。
* やがて、正しい創価学会となり、会員が幸せになれる創価学会ができることを願う。その日が一日も早く来ることを強く願う。
* （第１章終了）
* **♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦**



* **第２章　大魔王**
* **大魔王：池田大作**
* 池田大作が戸田城聖氏の金融事業に於いて超人的な働きをし、給料が歩合制なため当時の平均給与の百倍近くを得ており、その金で女子部員の肉体を貪り、大幹部を高級料亭でもてなし自分の味方につけたと山崎正友氏（懺悔の告発：山崎正友；日新報道：１９９４）は書かれている。
* 借金の取り立てが暴力団仕込みで非情極まりなかったとも言われているが、お金のある学会員の家を当てるのが神憑り的であったことは複数の証言がある。これは霊能力で間違いないと思われる。それにより戸田城聖氏の事業を倒産直前から奇跡的に復興させ、それが第三代会長になる大きな布石に繋がったと言われる。
* 心霊手術を行うことの出来る霊能力者は不幸な人のために自らの命を投げ打って献身的に奉仕しないといけないこと、そのため心霊手術を行うことのできる霊能力を授かった人は極めて厳しい信念を持って生きなければならないこと、霊能力を私利私欲のために使って酒池肉林の生活をすると狂い死にすること、そしてフィリピンやブラジルなどの心霊手術を行う霊能力者は最後は煩悩に負け私利私欲に走ってしまい狂い死にする人がほとんどであると言われる。
* これは心霊手術ではないが心霊治療が非常に盛んで現代医学にも組み込まれているイギリスでも同様なことが言われている。イギリスの心霊治療家は報酬を全く取らないことで有名である。
* 日本では心霊手術ではないが異言を唱えることが出来た、また多数の心霊的著書を書かれた高橋信次は非常に清廉潔白な人格者であったことで間違いないが、最後はエボラ出血熱に極めて似た現代医学的に説明不可能な病態で悲惨な最期を遂げた。非常に清廉潔白な人格者であった高橋信次でさえ悲惨な最期を遂げた。高橋信次は信仰活動に必要なお金は全て自己負担であった。信者からお布施をもらうことは決してなかった。
* 池田大作は現在（１１月６日２０１０年）５ヶ月間、同時放送に出席していなく安否が気遣われているが、重度の統合失調症様状態に陥り普通の病院では管理不可能で、精神科閉鎖病棟の保護室にいる可能性は高い。霊能力者が私利私欲に走り酒池肉林の生活を行うと、その罪で狂い死にすることは歴史的に証明されているからだ。
* 伊勢白山道の教祖は「池田大作にはすでに地獄から赤い山車が迎えに来ている」と言われている。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **魔性の本尊**
* 「ただ、大御本尊だけは、われわれは作るわけにはゆかない。日蓮大聖人様のお悟り、唯授一人、代々の法主猊下以外にはどうしようもない。だから、佛立宗や身延のヤツラが書いた本尊なんていうものはね、ぜんぜん力がない。ニセですから。力がぜんぜんない。むしろ、魔性が入っている。魔性の力が入っている」（『大白蓮華』昭和三十四年七月号九頁・戸田城聖）
* 学会が偽造本尊作成のために利用した日寛上人の御本尊は、浄圓寺十六代住職・日證師に授与された「一機一縁の御本尊」であり、真正の御本尊には「下野国小薬邑本如山浄圓寺　大行阿闍梨本證坊日證　授与之」という添え書きが入っている。創価学会は、この授与書きを勝手に抹消し、幾つかの字を変造し、破門され御本尊が手に入らなくなった平成五年より多くの会員に配布し始めた。それもカレンダーのような一枚のコピーのようなご本尊であり、制作費は一体百五十円と言われる。
* 日顕上人の御本尊と学会が造った偽御本尊とが取り替えられ、日顕上人の御本尊は焼却処分となった。その数は夥しい。阪神大震災は地震は起こらないとされていた地方に起こったが、なかでも被害が酷かった地域は創価学会の非常に盛んな地域であった。阪神大震災は日顕上人の御本尊を多数、焼却処分した大罪故とも言われる。大量に焼却処分した翌日に阪神大震災は起こっている。阪神大震災において創価学会員の功徳の体験談は存在しない。
* 学会製の御本尊には、仏法に敵対する魔の力があり、これを拝むと魔の通力によって現罰を受け、その謗法の罪によって永く地獄に堕ちる結果となる。
* 御本尊が学会製のものになってから歓喜がほとんど感じられなくなったと思うのは自分だけではないと思う。昔の御本尊には凄い力があった。ところが御本尊が学会製のものになってから力がほとんど感じられない。生きている一瞬一瞬が歓喜となるという歓喜が今はほとんど感じられなくなってしまった。現在も、学会製のものではない昔の御本尊に祈ると凄い歓喜が湧いてくる（自分は実家に行くと日達上人の御本尊がある）。創価学会は再び日蓮正宗の門下になるべきである。もはや創価学会では成仏はできない。「学会製の御本尊に祈ると地獄に堕ちる」。これは日蓮正宗が熱心に主張していることである。
* 次のような投書を読んだことがある。それを要約すると次のようになる。
* 『自分の場合は学会製の御本尊に祈り始めた平成五年の頃、金縛りに毎夜のように会っていました。ちょうど学会製の御本尊に交換した夜からです。でも、その頃、純粋だった自分は、ひたすら信じ抜いていました。金縛りは毎夜、一ヶ月ぐらいは続いたでしょう。でも、自分は、疑いませんでした。題目を唱えつつ金縛りに耐えました。金縛りが終わった頃から“うつ病”が始まり十年間苦しみました。その頃は学会のVOICE がありましたから良く投稿していました。また、その頃は、創価学会員の“うつ病”の患者さんが造ったホームページが幾つもあって、いろいろとお互いに相談していました。でも、あまりにも創価学会員の“うつ病”が多いのを知られるのを怖れ、VOICEは「やった。できました」という投稿しか載せなくなりましたし、創価学会員の“うつ病”の患者さんが造ったホームページは強制的に閉鎖されてゆきました』
* 『私の場合は学会製の御本尊に交換した深夜、ヘビが仏壇の部屋を這い回っていました。怖ろしかった』
* そして学会製の御本尊に祈って病気が治ったということは見聞きしない。学会製の御本尊には、そういう力が存在しないのである。病気が治るどころか、病気が重篤化する。
* そして御本尊が“魔”の御本尊に代わってから創価学会に入った人は「歓喜」を経験していない。それ故に勤行唱題を短くしか行わないのであろう。また、以前からの創価学会員も御本尊が“魔”の御本尊に替わってからは勤行唱題を短時間しか行わなくなっている人が大部分である。やはり歓喜がほとんど湧かないようになったことが大きく影響していると思われる。
* 創価学会に居続けると謗法の罪により地獄に堕ちる。早く宗門（法華講）に入るべきである。宗門と創価学会とどちらが正しいかは常識的に考えれば解ることである。解らないならば創価学会批判の本を幾冊も読むことである。特に原島嵩氏、山崎正友氏、矢野絢也氏の書いたものが良い。
* 学会製の御本尊に祈っても歓喜は少ししか湧かない。そして悪い現象が起こる。学会製の御本尊に祈っても病気は治らない。却って病気は重篤化する。家庭崩壊が起こらないならば早く法華講へ入るべきである。正信会は代々法主の血脈を否定しているから良くない（創価学会よりかなり良いであろうが）。大聖人以来の血脈を受け継いでいるのは法華講である。故に法華講に入るべきである。幸せになろう、病気を治そう、と思うなら法華講に入るべきである。創価学会はあまりにも汚れきってしまっている。池田大作が亡くなっても独自路線を貫くであろう。宗門との和解は行わないと思われる。完全な謗法団体そして新興宗教そして政治結社である。創価学会は金集め集団、そして選挙団体に変身してしまったのである。
* 以前は勤行唱題すると悲しみ苦しみ悔しさを忘れ、次の日には元気一杯に学校へ行っていた。しかし、平成五年、学会製の御本尊に替わってからは、勤行唱題してもそうはならなくなった。喜びが湧かない。どんなに勤行唱題しても焦燥感が消えない。それどころか焦燥感は強くなる。
* 以前は勤行唱題すると心はゆったりとなっていた。悲しみ苦しみ悔しさを忘れていた。実家に行き、日達上人の御本尊に祈ると以前のように悲しみ苦しみ悔しさを忘れ、心はゆったりとなり焦燥感は消える。
* 日達上人の御本尊に祈ると自然と短時間で「南無———は歓喜の中の大歓喜なり」の御文のようになる。しかし学会製の御本尊にどんなに祈ってもそうはならない。却って、焦燥感に包まれてしまう。
* 何故なのか？　それに気付くまで時間が掛かった。平成五年から創価学会員に配布され始めた学会製の御本尊は“魔”であったのである。インターネットをよく調べてようやく解った。「魔性が入っている。魔性の力が入っている」御本尊であったのである。
* 自分は池田大作の間違いには早く気付いていた。しかし“魔”の御本尊のことに気付くのが遅れた。自分は比較的軽症であったがうつ病性障害で合計五年程（五回再燃した。最初が三年間、五回を合計して五年であり、罹病期間は十年に亘る）苦しんだ。何故、自分がうつ病性障害に罹らなければならなかったのかと考えていた。それは“魔”の御本尊を拝んでいたからであると後になって気付いた。遅かった。
* 日達上人の御本尊であっても、拝む人が血脈付法の御法主上人を誹謗するならば、四力（仏力・法力・信力・行力）が合せず、功徳は無い。まして何よりも「ニセ本尊」を造るほどの謗法団体になった創価学会に所属していては絶対に功徳は無い。却って拝むほどに罪業を積み重ねることになる。
* 今は東天に向かって遙拝勤行をしている。“魔”の御本尊には決して祈らない。すると奇妙なほど起こっていた悪い偶然は起こらなくなっている。
* 試しに学会製の御本尊に向かって十時間唱題をしたら解る。日達上人の御本尊に向かって十時間唱題をするともの凄い歓喜が湧く。しかし学会製の御本尊に向かって十時間唱題をしても歓喜も何も湧かない。私は行き詰まったとき学会製の御本尊に向かって十四時間唱題をしたが何も湧かなかった。日達上人の御本尊に向かって十時間唱題をすると「怖いものが無くなる」「どうにでもなれという心境になる」「解決策が見つかる」「歓喜が二、三日は続く」が普通であったが、学会製の御本尊に十時間唱題をしても歓喜が湧かない。ただ、焦燥感が湧く。「魔性が入っている。魔性の力が入っている」御本尊であるからである。
* “魔”の御本尊に変わった現在、創価学会の拡大は不可能となった。創価学会は衰退の道しか残されてはいない。
* 再び、総本山の一信徒団体として総本山より御本尊を下付されなければ会員に不幸な現象が続いて起こる。再び、総本山の一信徒団体となることである。池田大作は決して再び、総本山の一信徒団体となることは許さないであろう。また、宗門も池田大作が未だ権力を握っている創価学会を一信徒団体として戻すことはしない。早く池田大作が亡くなることである。池田大作が早く亡くなり、側近が英断をふるうことである。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **創価学会の仏法違背**
* 創価学会の仏法違背は牧口会長時代から存在した。牧口会長は「私は一宗が滅ぶのを悲しむのではない。日本国が滅びるのを悲しむのだ」と言っていたが、日蓮正宗が滅んだら（日蓮大聖人の仏法が滅んだら）、人類の未来は真っ暗になる。牧口会長の頃から宗門軽視の姿勢が創価学会に有った。そして牧口会長は戦争に反対したから投獄されたのではない。牧口会長は自宗での戦勝祈願を激しく強要されていた。神札を受け取ることを拒否したために投獄されたのである。創価教育学会の戦争賛美は激しかった。
* 池田大作の時代になると宗門軽視の姿勢はあまりにも激し過ぎ、すでに昭和四十年代中頃から「宗門支配か独立か」の考えが創価学会中枢部にはあった。牧口会長、戸田会長までは創価学会の仏法違背は軽かったが池田大作に於いては余りにも激しく狂気に近い。日達上人は創価学会員の幸せのため池田大作の横暴を寛大に許し続けておられた。
* 例えば、昭和四十八年十月十四日、正本堂東側広場に於いて池田大作は時の御法主上人猊下であられる第六十六世日達上人を信徒が大勢いる中で罵声を浴びせた事件には池田大作の救いようのない慢心、増上慢が見られる。ここまで来ると池田大作は大仏敵であり堕地獄間違いなしと思われる。「堕地獄間違いない人には生前には罰の現象が現れない」という仏典の一節がある。この頃からすでに創価学会は大謗法になっていた。
* 平成二年には宗門蔑恕、宗門からの独立のスピーチを行い始めたが、これは昭和五十年頃からすでに池田大作により計画されていたことである。
* また『一人の人間に於ける偉大な人間革命は一国の人間革命を成し遂げ、やがて全世界の人間革命をも可能にする』という言葉が昭和四十九年頃に作られた映画「人間革命」の主題であった。思い上がり甚だしいが、この「一人」とは池田大作であることは明白であった。このとき池田大作の魔性にはっきりと気付くべきであったと私は反省している。私はその矛盾に気付きながらも必死で疑いを押し殺す純粋過ぎる少年であった。
* 「日蓮大聖人の仏法でないものが全世界に広がっても広宣流布ではない」と日達上人は言われた。
* 日達上人の慈悲溢れる寛大な処遇を池田大作は有り難くも思わず、宗門への攻撃を強め続け、遂には自ら破門の道を選択した。池田大作は自らの野望のために創価学会員の幸せを奪った。池田大作は自分がトップになりたかった。しかし宗門がそれを阻んでいた。破門の道は創価学会（池田大作）にとっては宗門の束縛から自由になるための解放の道であった。しかし堕地獄への道でもあった。創価学会員は真面目に信仰を続けた人ほど親族また自身が不幸になっている。創価学会員の生活保護所帯の多さからもそれは言える。もともと貧乏人が多かったから生活保護所帯が異常に多いのではない。中流階級と言えた人たちが不幸にも失墜して多く生活保護所帯になっている。「師が地獄へ堕ちるなら弟子も地獄へ付いてゆくのが師弟の道」という間違った師弟の道を池田大作は説いていた。「師が間違っていれば師を諫めるのが本当の師弟の道」である。これは日達上人が諫めたことである。
* 現在、創価学会は暴力団以上と世間から非難されている。聖教新聞の読むに耐えない造反者に対する個人攻撃はあまりにも酷く、世界最低の新聞と私は思う。これを友人たちに無理矢理、購入させていた私は今になって非常に反省している。
* 現在は創価学会で病気を治すことは不可能になっている。それはちょうど平成五年に創価学会が独自の御本尊を配布始めた頃からだ。日蓮正宗には「血脈相譲」という他宗他派には見られない理論がある。血脈が絶った御本尊には仏の力は存在せず、“魔”の力しか存在しない。“魔”の御本尊に病気治癒を祈ると却って病気が酷くなるのは当然である。また“魔”の御本尊に祈ると悪いことが起きるのは当然である。また“魔”の御本尊に祈っていれば人生が下降線に陥るのも当然である。
* 実際、“魔”の御本尊に祈っても歓喜は少ししか湧かない。あまり元気になれない。そのためか最近は勤行唱題を長時間行う学会員は非常に少なくなってきている。以前、日達上人の御本尊に勤行唱題していたときは心も体も軽くなっていた。“魔”の御本尊ではそういうことは起こらない。
* “魔”の御本尊に勤行するとリストカットをしてしまう男子部地区部長がいる。不可抗力でリストカットをしてしまうそうである。この男子部地区部長はドクター部の精神科医より勤行厳禁とされている。しかし、信仰熱心であるため、勤行をしてしまうのである。
* “魔”の御本尊の半径二メートル以内では「死ね、死ね」という幻聴が聞こえる婦人部がいる。半径二メートル以外では聞こえない。

♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦

* **『謗法を見て呵責せずんば与同罪なり』**
* 日本には病気などにより一生を台無しにした人たちが無数に居る。池田大作が悪鬼を創価学会に雪崩のように呼び入れたためだ。現在も彼らは病気で苦しんでいる。信仰熱心過ぎる程であった故に病気になってしまった人たちである。池田大作が居なければ、そういう不幸なことは起こらなかったはずだ。
* 不慮の事故で亡くなった方たちもたくさん居る。特に熱心な人ほど不慮の事故で亡くなる。これも池田大作が悪鬼を雪崩のように創価学会に呼び入れたためだ。
* 事業や商売が倒産して苦渋をなめた人たちもたくさん居る。特に熱心な人ほど事業や商売が倒産する。これも池田大作が悪鬼を雪崩のように創価学会に呼び入れたためだ。
* ガンで亡くなった人たちがあまりにも多い。特に熱心な人ほどガンで亡くなる。例えば創価学会で最も弁が立つと言われていた西口副会長は舌ガンで五十一歳にして亡くなった。原田新会長とともに将来を嘱望されていた野崎副会長も若くしてガンで亡くなった。地方の大幹部もガンで亡くなる人が多い。これも池田大作が悪鬼を雪崩のように創価学会に呼び入れたためだ。
* 何故、最高幹部たちは池田大作に追従する態度を貫くのか？　それは生活のためお金のためであるのか？　裏切り者と非難されるのを怖れるためか？
* 『謗法を見て呵責せずんば与同罪なり』の御文を考えるなら正しいことを主張するべきである。学会の最高幹部という地位にしがみつくのが「世渡り、要領」と考えているのか？　正義感は無いのか？　スターリンの恐怖政治のようなものが行われているからか？　池田大作の間違いには気付いているはずである。
* もし、池田大作亡き後、『池田大作礼賛』が行われるならば創価学会は完全な邪宗から立ち直ることはできない。創価学会員は苦しむことになる。
* しかし、『池田大作批判』が公然と聖教新聞上で激しく行われるならば創価学会は蘇生するだろう。そして創価学会員は幸せになれる。
* 現在、創価学会本部および聖教新聞社は完全に池田大作に押さえられている。しかし創価学会本部および聖教新聞社の社員が団結して立ち上がるならば『池田大作批判』は起こり得る。
* 側近は池田大作の本性を知っているはずである。それとも末端の会員が不幸になろうと、自分たちさえ安穏で良ければ良いという考えなのか？　創価学会本部および聖教新聞社および地方の本部会館職員および外郭団体の給料は良いのである。中堅企業並みと言って良い。造反者が出るたびに給料は良くなっていった。つまり造反者が出ないように給料を良くしているのである。
* 創価学会の中枢部は腐敗が甚だしい。金庫事件（ゴミ捨て場に一億七千五百万円という大金の入った金庫が捨てられていた事件。創価学会の金庫番または陰の会長と言われた中西氏が創価学会本部の地下室に保管していたもの）のように創価学会の中枢部は池田大作の姿を日常的に見ている故に、各県の中心者（各県の中心者は大概、しっかりしている。しかし、本部から派遣の大幹部はその限りではない）と異なり堕落甚だしいのである。中西氏は原島嵩氏が池田大作を諫めようとした際、「あれには何を言っても無駄だ」と言ったことで有名である。また、第一次宗門戦争（このとき数万単位の創価学会員が法華講に入った）の際、池田大作に愛想を尽かし、退職届を出したことでも有名である。以来、中西氏は毎日、読書三昧という閑職に追い遣られた。解雇すると内部事情を熟知しているため、内部告発されないように学会内部で飼い殺ししているのである。中西氏は池田大作、北条会長、秋谷会長と同じく戸田門下生である。
* 秋谷会長が同時放送で池田大作から暴言を浴びせられる光景を幾度となく見てきた。一度は踊ることを強制され、秋谷会長は踊った。すべて全国幹部会の時である。秋谷会長は池田大作より二歳年下であり、戸田門下生である。池田大作の戸田門下生を嫌うことは有名である。現在、創価学会の要職はほとんど池田門下生で占められている。戸田門下生なら池田大作に諌言することができるからである。現在の原田会長は池田門下生になる。諫言する者が居ない現在、池田大作は何を命令するか解らない。純粋で熱血的な青年部はテロも行うだろう。
* 自分の立身出世のため、あるいは生活のため、創価学会にしがみつき、池田大作に奴隷のように仕えているのが創価学会最高幹部達である。多くは信仰心を失っているのではないかと推測される。それは彼らの年数千万という高給から推測される。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **「法華経」は奇跡の教典**
* 古来より「法華経」は奇跡の教典と言われてきた。もの凄い力のある教典故に「奇跡の教典」と言われてきた。歓喜が凄い、とても元気になる、不思議な教典と言われてきた。それは最澄が日本へ中国より持ち帰って来る以前より中国などに於いて、そのように言われてきた。
* 「法華経」は釈迦が説いたものではなく、西暦五百年頃に発生したという意見が多くを占める。それは自然発生的に発生したのか、誰が説いたものか、謎という意見が多い。釈迦は原始仏教のみを説いたという説が強い。
* 故に、五時八経の説は天台がこじつけた間違った考えという意見が多い。しかし、「法華経」がもの凄い力のある「奇跡の教典」であることは変わりがない。天台がこじつけた五時八経の説が間違いであろうと、「法華経」は釈迦が説いたものではないとしても、そういうことは問題ではない。
* 「法華経」こそ万人のための教典であった。何時、誰が説いたか、誰が作ったか、解らない、教典であった。その力はもの凄い。畏れ多い最強の教典なのである。
* 宗教的エクスタシーが日蓮宗には強い。また、それは富士派に極めて強く、身延派には弱い。これは一般的に排他的な宗派に強く、排他的ではない宗派には弱い。不受不施派には極めて強かったと推測される。
* この日蓮宗には「元気になる」「怖いものがなくなる」「苦しみの中にも生命の歓喜と躍動がある」という良い点がある。イスラム原理主義にこういう歓喜があるのか？と考えると、それは否定的だ。これは法華経の専売特許である。社会の底辺に苦しむ人たちに生きる希望と勇気を与えることがこの信仰はできる。

* しかし、創価学会は間違った。池田大作が権力を握った頃、誤ってしまった。それは昭和三十五年頃になるだろう。そこから悪鬼が創価学会に雪崩れ込み、創価学会員に次々と不幸が襲うようになった。池田大作はもともと大悪鬼であって広宣流布を頓挫させるためにこの世に現れたと推測される。先に書いた「智者の身に…」ではない。第一、池田大作は元暴力団という説もある（少なくとも戦後のどさくさの時、暴力団で高利貸しの手伝いを行っていたということは事実のようである。山崎正友氏が書かれている）。同時放送ではその片鱗が見える。
* もし、池田大作が大悪鬼でなければ広宣流布は成し遂げられていた可能性もある。石田次男氏が第三代会長になっていたら良かったのであるが、権力欲の固まりの池田大作が第三代会長になってしまった。そして池田大作が悪鬼を創価学会に大量に雪崩れ込ませ、創価学会員に不幸なことがたくさん起こるようにしてしまった。そして広宣流布は頓挫した。
* 「権力欲の塊である池田大作の狂気のために創価学会員に不幸が競い起こっているし、広宣流布が頓挫している。また選挙が第一となり、献金が第二となり、折伏が第三となっている」「池田大作は権力欲の塊である。そのために選挙が第一となっている」
* 「人間革命」では池田大作が広宣流布を一人で推進させたようになっているが、現実では広宣流布は名もない一人一人の庶民の血の滲むような努力の結晶であり、「人間革命」に書かれてあることは池田大作を神格化させるよう嘘に満ちていることは良く言われていることである。
* もしも、池田大作の死後、池田大作の神格化が行われたら、池田大作が招き入れた無数の悪鬼は創価学会から去らず、創価学会員に不幸が競い起こり続ける。そして創価学会は弱体化してゆく。
* しかし、池田大作の死後、池田大作否定が行われたら、創価学会より悪鬼は逃げ去り、創価学会員は幸せになってゆくであろう。そして広宣流布は再び進展してゆく。
* 韓国の情勢を見て解るように池田大作否定が行われないならば分裂は必ず起こる。池田大作がおかしいと気付いている創価学会員は多数存在する。しかし、池田大作を神格化している創価学会員も多数存在する。分裂は避けられない、というのが現在の一般的な見解である。池田派、反池田派と分裂し骨肉の争いが起こるということが現在の一般的な見解である。
* 第一次、第二次宗門戦争のように池田派は創価学会に残り、反池田派は宗門へゆく、という見解が現在の一般的見解である。家庭崩壊を避けるために第一次、第二次宗門戦争のように創価学会に残り、白けながらも慎ましやかに信仰を続ける人たち（とくに壮年部）が多数発生するであろう。心の中に「池田大作への批判」を強く持ちながらも、家庭崩壊を避けるために創価学会に残る壮年が多数発生するであろう。
* 賢明な婦人は池田大作の欺瞞性に気付くが、その数は少ない。女性は批判精神が弱く盲信から抜け出すことが難しい。しかし宗門に移っている人は信仰強情な人ばかりと言って良く、女性の方が宗門に移るのが多い地区、支部も多い。信仰を適当に行っている人は創価学会に残っている。周囲の反対や抗議に抗してまで宗門に移る情熱が無いからだ。信仰に対する疑問を抱きながらも、そのまま創価家族の中に安穏と住していたいからだ。
* 例えば「ユダヤ教は母親がユダヤ教徒であれば子供はユダヤ教徒と見なされるが、父親のみがユダヤ教徒であれば子供はユダヤ教徒とは見なされない」。
* 「かつてキリスト教徒の女性はキリスト教の男性と結婚することは許されず、異教徒と結婚することしか許されなかった。しかし、この定めによりキリスト教は拡大してゆき全ヨーロッパに弘まった」
* しかし現在では創価学会の女性は創価学会の男性と結婚しなければ信仰を続けることが難しいと言われている。信仰熱心な家庭は子女を創価学会員以外の男性と結婚させることはなかなか許さない。もしも創価学会員以外の男性であれば、その男性を創価学会に入会させて結婚するのが常識となっている。
* 時代の変化により、人々の信仰心が薄くなった故である。昔は人々の信仰心は極めて篤かった。信仰を捨てることを昔の人々はなかなかしなかった。また、キリスト教で火焙りの刑に処されるのは「魔女狩り」で有名なように女性が大部分であった。男性は火焙りの刑を怖れ、キリストの信仰を棄てるのが普通であった。また、キリスト教では神から与えられた命を自ら奪うことは厳禁とされており、火焙りの刑の苦しみから逃れようと男性は舌を噛み切って苦しみから早く逃れようとするが女性は舌を自ら噛み切るという神の教えに叛することを行うことはなかった。
* そして不受不施派のことであるが、これは岡山県に存在する。日蓮宗富士派の一系統とされる。日蓮宗は釈迦を本仏とする身延派と日蓮を本仏とする富士派に分けられる。身延派は釈迦を本仏としている故に他教団との折り合いが良かった。しかし日蓮を本仏とする富士派はその厳格で頑なな教義故に（日蓮大聖人の御書を読むとこちらが正しいことが解る。すなわち日蓮大聖人の教えは厳格で頑なである。創価学会の現在の邪宗との馴れ合いは謗法である）余りにも厳格であり度々、迫害を受けてきた。江戸時代の金沢法難、仙台法難などがある。
* 不受不施派は富士派より遙かに大聖人の教えを頑なに守り、他宗を信ずる人からの布施は受けない、他宗に施しは決して行わない、など徹底していた。大聖人の御書を読むと確かに不受不施派の主張が正しく思われる。日蓮大聖人の手紙などを集積したものである御書を読むと、如何に日蓮大聖人の他宗排除が強かったかが理解される。不受不施派は日蓮大聖人の教えの通りに振る舞う極めて厳格な宗派であった。不受不施派に入いると必ず当時の権力者に日蓮大聖人が「立正安国論」を提出したように諫行書を提出しなければならないようになっていた。諫行書を幕府に提出したならば遠島になるのが当時の習わしであった。八丈島などに遠島になっていた。それ故に、江戸時代では「切支丹と不受不施派には絶対に入るな！」と民間の間で言われていた。しかし、切支丹は死罪の中でももっとも重い火焙りの刑であったが不受不施派は遠島のみであり幕府は不受不施派には脅威は抱いておらず比較的穏健な刑で済んでいた。不受不施派はそれ故に寺を設けることはできず、明治時代まで寺はなかった。現在、岡山県にただ一つ寺院がある。
* 不受不施派は捕らえられても仲間のことを口外しないよう修行中より身をどんなに激しく打たれても耐えられるように鍛練をしていたという。つまり、どのような拷問にも仲間のことを口にしないように耐えられるよう日頃から訓練をしていたという。この清廉潔白さ、頭が下がる。こういう講が現在も有れば、どんなに素晴らしいだろう。
* 私は隠れて法華講に入るかもしれない。今日にでもお寺に行くかもしれない。「創価学会を正式に脱会しないでも法華講に入れる」と最近、聞いた（しかし「隠れ法華講」として過ごすことになる）。創価学会には選挙のたびに嫌気がさしていた。同時放送はあまりにも馬鹿みたいだ。座談会でも池田大作の捏造された過去の作り話を「大百蓮華」を教本に本当のことのように読んでゆく。
* （補記）日蓮大聖人の御書には後世の人が造った偽書が半分近くを占めていることが最近の研究により分かってきた。狂信者が偽書を作成したと推測される。あまりにも激しすぎる他宗批難の書は偽書の可能性が高いようである。

* **池田大作の悪行**
* 私が男子部の頃、友人を同時放送に連れて行ったとき『あの傲慢な態度は何か？　宗教指導者とはとても思えない。権力欲に燃えた暴君ではないか！』と言われたとき、その頃は純真に信仰していた私は友人のその言葉を悲しく思った。
* 私も中学生・高校生の頃は池田大作の写真を机の前に置いて勉強していた。青年部の活動が終わった深夜、体を鍛えるために池田大作の名を唱えながら懸命に走っていた。何も知らなかったあの頃は辛く厳しかったけれども充実していた。宿業の嵐は吹き荒れながらも御本尊様の前に座り題目を唱えて耐えてきた。しかし、苦し過ぎた。
* 今は、あれが宿業であったのか、それとも池田大作が創価学会に招き寄せた悪鬼の仕業であったのか、判然としない。その両方であったと思われる。
* 男子部の頃、病に倒れ、信仰に疑いの心を抱き、退転し、自殺していった同志が二人いた（二人ともマンションからの飛び降り自殺であった）。あれは池田大作が創価学会に招き入れた無数の悪鬼に依るものであると思う。
* 借金で一家離散になった家族がいた。あれも池田大作が創価学会に招き入れた無数の悪鬼に依るものと思う。
* 大悪鬼のご機嫌伺いをしながら側近たちは一日一日を送っている。もはや総理大臣になれないことが解ったこの権力欲の醜い肉塊（大悪鬼）は、今でも公明党を裏から支配している。我々は五十年もの間、選挙の度に家庭や仕事を抛って選挙運動を行わされてきたのはこの権力欲の醜い肉塊（コモドドラゴン）を一国の首相にさせるためだったのだ（山崎正友氏らの内部告発）。
* 選挙運動には大きな功徳があると同時放送などで言い、功徳の欲しい苦しみ悩んでいる主に婦人部を懸命の選挙運動に走らせた。それは選挙違反を超えるまで選挙運動に駆り立てた。警察は創価学会員の選挙違反は大目に見てきた。公明党との癒着があったからである。しかし布教が進まず、もはや総理大臣になれないと解ったとき池田大作は激怒した。池田大作は自分が総理大臣になったときの閣僚の名簿を造っていたほどである。
* 池田大作は重い糖尿病を患いながらも側近のお抱えの医師に最高水準の医療を尽くさせ、現在、八十二歳まで生きてきたが、池田大作はもはや明日にも脳梗塞または心筋梗塞で倒れる状態にある。重い糖尿病ながらも一個三万円もする最高級メロンには目がなく、それにかぶり付く姿は権力欲の肉塊コモドドラゴンとも言える。
* この権力欲の肉塊、権力欲の大悪鬼、コモドドラゴンが亡くなったときが、創価学会が飛躍するか瓦解するかの岐路となる。そのとき側近たちがどう動くかが人類の幸不幸を握っているといっても過言ではない。側近たちが賢明に動くことを期待するしかない。
* それとも我々が外から動くか？　未だ、側近たちは動かないでいる（３月１０日２０１０年）。側近たちには信仰心がないのか？　ただ自分たちの今世の幸せ（安穏）のみを願っているのか？
* 公に法華講に移ることは私にとっては不可能である。古くから信仰している実家の両親への嫌がらせがある。００のあの人のように創価学会に残り続けて創価学会を内部から改革してゆくか？　しかし創価学会の中枢部は池田大作により腐敗堕落が激し過ぎ、改革不能という意見が多い。新しい創価学会を別に造ればいいんだ。
* 韓国で進んでいる創価学会反主流派に属したつもりでゆこうか？　「善の連帯」という韓国の創価学会反主流派は正しい。韓国では創価学会主流派と創価学会反主流派が同じ程度の勢力にまでなっていると言われる。このことは支部長（または本部長）以上の幹部しか知らない。しかし最近三年間ほどの情報は全く途絶えている。意図的な何かが働いているとも思える。
* 海外は創価学会は崩壊近くなっているところが多く、日蓮正宗の方が創価学会よりも信者数では多い。スペインの指導者は公然と池田大作に反旗を翻した。他の国に於いてもその国の創価学会のナンバー一が池田大作に反旗を翻し、創価学会が瓦解したところは多い。ガーナ、台湾などたくさんある。スペインＳＧＩの責任者は「スペインの大学に行って池田大作に授与する賞を貰ってこい！」と日本の創価学会本部から指令を受けたと告白している。それに反抗し反旗を翻したということである。

* 昭和四十八年、池田大作は八体の御本尊を業者に依頼して造らせた。その一体は創価学会本部にある。創価学会本部の七階に安置されている。これは「正本堂が御遺命の戒壇であることの証明の御本尊である」と池田大作は言っている。その御本尊が創価学会本部の七階に一体、安置されている。しかしこの一体は日達上人により開眼供養が為された。
* 七体は総本山に返納された。この本尊模刻事件が第一次宗門戦争の大きな要因になった。そこには池田大作の自分が御本尊を造っても良いとする自己愛性パーソナリティ障害（すなわち自分が日蓮大聖人よりも偉いという自己愛性パーソナリティ障害）が見られる。
* 御本尊は代々の猊下が丑虎勤行の後に一体一体書写するものである。現在、出回っている“魔”の御本尊のように（創価学会製の日寛上人の御本尊のように）印刷機で造るものではない。印刷機で造られた一体百五十円の御本尊には全く力が無い。それどころか“魔”の力が宿っている。その“魔”の御本尊を拝めば拝むほど不幸になってゆく。
* 「ただ、大御本尊だけは、われわれは作るわけにはゆかない。日蓮大聖人様のお悟り、唯授一人、代々の法主猊下以外にはどうしようもない。だから、佛立宗や身延のヤツラが書いた本尊なんていうものはね、ぜんぜん力がない。ニセですから。力がぜんぜんない。むしろ、魔性が入っている。魔性の力が入っている」（『大白蓮華』昭和三十四年七月号九頁・戸田城聖）
* 「魔性が入っている。魔性の力が入っている」御本尊を拝む創価学会員はどんどん不幸になってゆくであろう。知らず知らずのうちに不幸の泥沼に陥ってゆくであろう。創価学会員は教学をしなければならない。しかも本当の教学をしなければならない。現在、創価学会員は教学をしなくなっている。選挙運動と友好活動に汲々としている。
* 教学をすると「本尊模刻」がどれほどの謗法に当たるかが分かるであろう。第一次宗門戦争のとき、宗門に移った人たちは大部分が教学をよく勉強していた。教学を日頃からよく勉強している人たちが宗門に移った。原島嵩氏は「本尊模刻」すなわち本尊偽造の罪は万死に値すると書かれている。また、「本尊模刻」は狂気の沙汰で「頭破作七分」（心破作七分とも言う）の所業と書かれている。
* 池田大作の宗門支配（または宗門からの独立）の陰謀はあからさまには昭和五十二年元旦から始まった。元旦の挨拶は日蓮正宗攻撃で満ちていた。それまで池田大作の宗門への横暴を寛大に許してきた日達上人への恩を仇で返すものであった。日達上人もここに来て堪忍袋の緒を切らした。
* このときは妙信講問題（正本堂を造ったことが謗法に当たるということ）、松本勝彌氏の裁判問題（正本堂基金返還訴訟。正本堂が国立戒壇といわれて基金したが後に正本堂は国立戒壇ではないと創価学会が主張し始めたことにより、創価学会を詐欺として裁判所に基金返還訴訟を起こしていた）が片付いてはいなかった。松本勝彌氏は民音で働いていた。
* 「池田大作は自身のノーベル平和賞受賞のために会員に多大な負担をかけて平気でいる。その池田大作の欺瞞性をこの裁判を通じて明らかにしてゆきたい。池田大作から騙され続けている三百万の学会員に目覚めてもらいたい。池田大作は信仰心が全く無く、勤行をしていない。池田大作のとって宗教とはビジネスなのである。ただ、自身のノーベル平和賞受賞のために会員に多大な負担をかけている。死後の世界はおそらく信じていないであろう。何故なら仏典に照らして池田大作の無間地獄行きは決定しているからである」
* 松本勝彌氏は貧しい学会員から搾り取った正本堂建造のための募金返還運動に立ち上がること（造反）を決意した。十数名の仲間と一緒に造反した。松本勝彌氏は千葉県保田町にある大本山妙本寺の日蓮大聖人御真筆御本尊“末法万年救護の大本尊”こそ正しい本尊であり、日蓮大聖人の正流は妙本寺にある、と信じて行動していた。すなわち日蓮大聖人の出世の本懐とされる御本尊は大石寺の大御本尊ではなく“末法万年救護の大本尊”こそ出世の本懐とされる御本尊であると信じて行動していた。
* その頃は学会員は経済的に貧しく、地区や支部の民音担当者および無理に買わされた会員たちの経済的労苦は大変であることを池田大作は知らなかったはずがない。池田大作の野望の下に設立されたのが民音である。これは池田大作のノーベル平和賞獲得のためであった。そして松本勝彌氏はありもしない金銭スキャンダルなどをでっち上げられ懲戒免職された。
* 民音とは非常に奇妙な組織である。昭和四十年頃、私も民音のコンサートに行ったことがある。その頃の私の家は明日にでも夜逃げかという非常に厳しい経済状況であった。それなのに民音の券を脅迫的に買わされ、近くの公会堂に一家全員で見に行ったが、少しも面白くなく馬鹿らしく、帰り際、自分は椅子の間に足を挟まれ、片足が千切れるような苦しみを味わった。救急車は貧乏でお金がないため呼ばれなかった。
* その他、いろいろな事件が息を吹き返してくる可能性があった。山崎正友氏は宗門攻撃を中止するように進言した。そしてそれが学会首脳に受け入られ宗門攻撃は一端、中止することとなった。しかし、日達上人の反撃は昭和五十二年七月から始まった。その頃は創価学会が民社党の池田大作豪華私室を国会で取り上げると言っていたため弱り切っていたときでもあった。日達上人の弟子の一人が池田大作の講演の誤りを正面切って指摘したのを始めとして、創価学会の教義逸脱の指摘が大々的に行われ始めていた。
* そして昭和五十三年七月、教義逸脱の訂正。九月、業者に依頼して勝手に模刻した（このことからも池田大作には全く信仰心がないことが解る）七体の御本尊の返納（勝手に模刻したのは八体有った。一体は学会本部に常住御本尊として安置されている）。十月のお詫び登山。五十四年四月の池田大作の会長辞任へと進んだ。
* しかしここで“魔”の暗躍が始まった。“魔”の正体はある外典に詳しく書かれてある（十八世紀の霊能力者のスウェーデンボルク）。“魔”とは「人間の幸福を激しく憎み、人間の苦しむ様子を喜ぶ、外見は酷く醜い存在である」。
* 日達上人は昭和五十四年七月二十二日、急死された。日達上人の晩年は創価学会の横暴と戦う日々であった。

* ***個人攻撃について***
* 竹入義勝氏が高価な盆栽などを買い集めていたなどと聖教新聞などには個人攻撃として書かれていたが、竹入義勝氏は議員研修会のときは「朝から夜まで御書講義ばかり」のことはほとんど知られていないようだ。おそらくこのとき衆議院や参議院の議員も含まれていたと思われる。幾部屋にも分かれて放送を聞いていたそうである。何処で行われていたかは知らない。
* 私の知っている市会議員さんが竹入義勝氏の事件が起こったとき、学会の会合に訪れて語られた。毎回（おそらく日本全国、国会議員も含まれていたと思われる）の公明党議員研修会のとき「朝から夜まで竹入委員長の御書講義ばかり」であったため毎回、閉口していたそうである。政治のことは一切語られなかった。毎回、分厚い御書だけを持参しての公明党研修会だったそうである。「御書が全ての根本である。他（政治の勉強）は枝葉末節のことである」「政治の勉強は自分でしなさい」と徹底していた。幾部屋にも別れてスピーカーより聞いていたそうである。竹入義勝氏は大きな部屋で主に国会議員相手に講義をしていたと思われる。
* それ故、「竹入委員長がそのようなことをするとは信じられない」と語っていた。また「私が最も尊敬しているのは昔も今も竹入委員長である」とも語っていた。司会の本部長は慌てふためいていた。
* 竹入義勝氏は陸軍士官学校卒と嘘の略歴で通っていたが、その略歴は公明党の委員長たる人であるために池田大作が勝手に造った。竹入義勝氏は一族全員、長野県の古くからの日蓮正宗の熱烈な信者であった。
* 矢野絢也氏は「永田町を語る」ことで一時、テレビ番組のレギュラーになったが、創価学会の圧力（すなわち池田大作の鶴の一声）で降ろされた。
* 竹入義勝氏たちができなかった創価学会の改革を自分たちができるとは考えられない、という諦観が創価学会中枢部に浸透しているため、側近もなかなか反旗を翻すことができない。それとも池田大作の死を待っているのか？
* 「忘恩の徒は竹入義勝氏ではない。忘恩の徒は、貴方、池田大作だ。貴方は今までたくさんの創価学会員のために現在まで極めて優雅な生活を送ることができた。それは一国の王よりも優雅な生活だった。たくさんの創価学会員はあなたのために塗炭の苦しみを忍び耐えてきた。池田大作は金正日に酷似している」
* 創価学会執行部は「日顕の死」を朝晩熱心に祈るように創価学会員に強制した。これは創価学会執行部から出されたものであるが、池田大作の鶴の一声であったことは確実である。私は創価学会員の仏壇に「日顕の死」と書かれた祈念の紙が置かれていたとき驚いた。その一家はその罰か、現在、不幸に喘いでいる。現在は元々、熱心だった創価学会の家庭は多くが不幸に喘いでいる。熱心でなかった創価学会の家庭は現在、比較的、幸せである。
* また、祖父または祖母が非常に熱心であれば、孫が病気や事故などで非常に苦しむことになることを幾つも経験してきた。ある男子部員が統合失調症に罹患した。始めは罹患した理由が分からなかった。しかし、祖父が草創期からの熱心な創価学会の信者であり、今も一日三時間の唱題を欠かさないという。祖父の罰が孫に現れたのであった。孫が可愛ければ創価学会を辞め法華講に入るべきである。
* 現在、日本の創価学会員の間に池田大作の本性に気付いた人は多数存在するため、池田大作の死後、日本の創価学会の分裂は避けられない状況にあるかもしれない。ただ、池田大作の本性に気付いた人たち（ほとんどが壮年部あるいは男子部）は信仰への情熱を急速に失ってしまい、未活動家の状況に陥ってしまう傾向性がある。「スリープ」と呼ばれる人たちである。私もその一人である。婦人部は信仰熱心で池田大作の悪行に盲目であるため、自身（壮年部あるいは男子部）が創価学会を脱会し法華講に入ると家庭崩壊（子供は普通、女性に取られてしまう）が起こってしまうことを怖れるからである。
* 池田大作の本性に気付いた人たちの横の連帯は日本に於いてはインターネット上で密かに行われているに過ぎない。それは少数ずつの連帯であり、韓国のような大規模な組織化が全く成されていない。韓国人と異なり日本人の穏やかな国民性故、日本では反池田大作を公然と行うことが許されない状況下にある故、インターネットが韓国の程には国民に浸透していない故、日本人は信仰心が強くない故、などと思われる。国会乱闘も日本は穏やかであるが、韓国の国会乱闘は凄まじい。
* 日本に於いては反池田大作を宣言することは池田大作を神様と仰ぐ狂信的な創価学会員よりの激しい批判・攻撃と家庭崩壊を覚悟しなければならない。家庭崩壊は婦人部の批判力の無さ故である。
* ある老人（男性）が言っていた。「池田先生は天才だから何でも解る。池田先生は仏様である」これを聞いたとき、この老人の救いようのなさに唖然とした。この老人は壮年部の間、支部長として活躍してきた。信仰歴は五十年になる。男性でも五十年信仰してきたにも拘わらず、池田大作の間違いを気付かない人は少数ながら存在する。この老人は学会活動に五十年の年月を捧げてきた。学会活動を優先し仕事は勝手に早めに切り上げたりするため、何度も解雇になり、家族は貧乏のどん底で苦しんできた。
* 私は師弟不二が無いと激しく批判されてきたし、そのことで激しく罵倒されることは頻繁にあった。「池田大作と呼吸を一緒にせよ」と指導されてきた。私は二十年以上前より池田大作を神様と仰ぐ創価学会員の傾向性を狂気として間違っていると思ってきた。信仰の師匠であり、神格化することは誤りであると考えてきた。池田大作を神様と仰ぐ傾向性は上級の幹部クラスほど強い。また、池田大作を神様と仰いでいないと創価学会に於ける役職が上の方に行かない傾向性が強いし、池田大作を神様と仰ぐ指導が徹底している。また、池田大作を神様と仰いでいないと本部の職員に成ることは不可能である。「池田大作本仏論」が創価学会内で浸透しきっている。

* ***反乱の序曲***
* 前回の参議院統一選挙の前、三重県の学会員が連名で「次の参議院選挙のとき、学会員に選挙活動をすると大きな功徳が有ると言って、学会員を唆すことは行わないでもらいたい」という趣旨の意見書を提出した。このように数人でも良い、反池田派が結束して行動を起こすべきだ。
* 大分の乱（別称、九州の乱）は次のようなものであった。大分県に創価学会の巨大な墓園を建設するとき、九州創価学会の長が墓園を造る業者から多額の賄賂を貰っていたということで、その墓園の近くの創価学会員が数名でこのことを東京の創価学会会館に提訴に来たが、創価学会からの除名処分を受けただけで、その九州創価学会の長は何の咎めもなかった、そして大分創価学会には福岡より週末ごとに大幹部が大勢でその地方の創価学会員を説得して回ったが、結局、大分のその地方の創価学会員は多数、創価学会より離反してしまった。その九州創価学会の長を批判したのはその地方の大分創価学会の長であり、その人は非常に人望厚く、多数がその大分創価学会の長に付いて行った。詳しくはインターネットより「大分の乱」もしくは「九州の乱」で検索してみると良い。大分は以前の宗門との戦争（第一次？第二次？）のとき、多数が宗門に付き創価学会より去っていったことで有名である。


* ***「財務」は中世の免罪符***
* 財務に関する事件として「サラ金侵入放火事件」というものがある。これは財務によって生活苦に陥りサラ金に手を出した千葉県市川市の熱心な活動家・宮島嘉治は返済に窮し借金していたサラ金「ローンズ日立」に押し入りガソリンをぶちまけ放火、自殺を図った。しかし、これは氷山の一角である。
* 中等部担当となっていたとき、ある優秀な女子中等部員が高校受験に失敗した。確実と見られていた本命および万一のときのための滑り止めの高校にも落ちた。そして彼女は三流高校に進学し、受験失敗の悔しさの果て、スケバンになった。
* 何故、二つの高校とも落ちたのか全く信じられなかった。その理由は後になって判明した。
* その理由は彼女の叔父さんが遺産として手に入れた三千万円をそのまま「財務」に献上したということであった。「財務」が年末、合格確実であった二つの高校の試験が翌年の一月と三月にそれぞれ行われた。彼女が間違いなく合格確実であった二つの高校に落ちたのは、叔父さんが三千万円をそのまま「財務」に献上した呪いであったのだ。それを知ったとき私は創価学会の魔性に呆れ果てたことを憶えている。
* 創価学会員が確実視されていた学校に落ちることは第二部の終わりに書いたように非常に多くあった。しかし、現世利益を説く創価学会に於いてはそういう話をすることは禁句になっていた。功徳でもないものを功徳と言って持て囃すのがその頃の創価学会であった（特に婦人部）。現在は創価学会の信仰を熱心にすると高校や大学に合格するなどとは言わなくなっている。また創価学会の信仰を熱心にすると病気が治るとも言わなくなっている。現在は、熱心にすると不幸なことが起こるから不熱心に信仰しようと言う壮年部は多い。今までの三十年、四十年の経験から分析して壮年部はそう言うのである。婦人部はしかし、そういうことは言わない。婦人部は分析力が無い。
* 私も毎年百万円の財務を十三年間行ってきた。しかし幸せになるどころか、どんどんと行き詰まりへと追い遣られた。そして三年前に創価学会の矛盾にはっきりと気が付いた。遅かった。人生はやり直しが効かない。
* 財務の時期になると夫婦喧嘩が絶えないという創価学会の家庭は多い。すべて信仰熱心な婦人部と創価学会（池田大作）に疑いを持った壮年部、男子部との喧嘩である。離婚も創価学会員の家庭には極めて多い。それは財務の時の夫婦喧嘩によるものと考えられる。私は偽りの財務の功徳体験を代筆させられた経験がある。
* 例えば「結婚資金として貯めていた二百五十万円を財務に寄付したら、結婚資金は要らないという非常に良い結婚話が持ち上がり、現在は幸せに暮らしている」という内容を代筆したことがある。実際は結婚は悲惨であり、姑に虐げられた日々を送り、離婚（勝手に家を飛び出した）という内容が真実である。
* そして多額の財務をする人は後に生活保護になる人が極めて多い。貯金を全くしていないからである。生活保護の申請に公明党の市会議員が奔走していた。ある公明党の市会議員は「仕事は生活保護の申請がほとんど。市会議員にはなるものではない」と言っていた。
* 私は広布基金をするためサラ金から金を借り、それが返済不能となり、一家離散になった一家を知っている。それはもう二十五年も前のことになる。借りたのはその家のお母さんだが、サラ金は毎日のように家にいる義理の娘の所へ電話をしてきていた。義理の娘は「気が狂ってしまいそうです！」と言っていた。その家のお母さんとお父さんはサラ金業者から逃げてある処へ身を隠していた。そして毎日、唱題に明け暮れていると聞いた。
* 広布基金をすると功徳があるという話を信じてそこのお母さんはサラ金から多額の金を借りてまで広布基金をしたが、商売は却って傾き、利子も返せなくなった。
* あるとき、そこの息子に偶然出会った。「今、どうしている？」と聞くと「嫁さんとも別れ、子供は嫁さんが引き取り、自分は今独り身だ」と言う。「両親は？」と聞くと「何処に行ったか、自分にも解らない。音信不通になっている」と言う。
* これは二十五年前のことであるから財務は未だ始まっていなかったと思う。財務は池田大作の勲章漁りと比例して始まっている。財務が始まる前の出来事である。以前は財務はなく広布基金であった。
* 創価学会には財務の直前に行われる会館での偽りの体験発表に騙され多額の財務をし、サラ金へ借金が返せなく、一家離散になってしまった家庭が非常に多い。
* 『創価学会員です。また財務の時期がやってきました。財務とは年に一回、創価学会に寄付をすることです。この時期になると夫婦喧嘩が絶えない家庭が多くあります。私の一家もその一つです。
* 妻の一族が創価学会の狂信者で妻の一族はこの財務に全財産を投げ出すことも平気でします。それを私の家庭で行おうとしているらしいのです。
* 妻に銀行の預金通帳を預けたのがいけませんでした。妻はその預金通帳を返しません。もう離婚しようかと考えますが子供がいます。
* 財務の直前には創価学会の会館で偽りの体験談が発表され、女性はそれを信じて全財産どころかサラ金に借金してまで財務をしようとします。女性は欲深いものです。体験談通りに自分もなりたいと思うのです。そして偽りの体験談を本当のことと信じ込む欲深さがあります。
* 偽りの体験談とは「財務をたくさんしたら幸せになった、病気が治った、夫が新しい給料のとても良い会社に就職することができた、良い縁談が来て今は幸せに暮らしている」などです。すべて偽りです。でも女性は欲深くそれを信じてしまいます。女性は仏法では「女人成仏し難し」と言われているように欲が深く仏になることができないのです。
* これは一つの大きな社会問題です。どうか国会で取り上げて池田大作の悪を追求していただきたいです。サラ金に追われ一家離散になった家庭も多くあります。サラ金まで手を出さなくとも貯金を全て財務し貧乏のどん底で苦しんでいる家庭は多くあります。
* 財務を多くする家庭は子供を大学へ遣ることができません。財務を多くする家庭は子供が合格確実と言われていても中学・高校へ落ちます。財務を多くする家庭はいつも貧しい食事しかできません。財務を多くする家庭はボロで狭い家にしか住めません。財務を多くする家庭は常に喧嘩が絶えません。財務を多くする家庭は不思議にもガンになります。財務を多くする家庭は不思議にも精神的な病（うつ病や統合失調症など）になります。財務を多くする家庭は何故か生活保護になることが多いです。これは一つの大きな社会問題です。
* お願いします。匿名で失礼します。お願いします』
* 『私は創価学会員です。今年も強制的に財務（寄付）させられます。昨年も創価学会員のなかから町内で二件夜逃げしました。何とか取材して下さい。これは社会問題です。いろんな悪徳商法がありますが、それ以上です。創価学会の会館に集めて幹部が「私は三桁から四桁（百万から一千万）する。皆さんもできる限り多くして下さい。これは池田会長からの伝言です。私は家を売ってでもしたいんです」と言います。必ず福運が付くと言いきります。助けて下さい。この時期になると夫婦喧嘩が絶えません。この時期になると顔見知りの幹部が夜遅くまで強要してきます。三桁出しますと言うまで帰りません。三桁出したら子供に服を買ってやるどころか授業料も出せなくなります。私たち創価学会員を助けて下さい』
* 平成元年の財務の直前、京都の学会員から一通の手紙が当時、原島嵩氏が勤めていた継命新聞社に届いた。それをそのまま記す。
* 『助けてください。私は創価学会の会員です。今年も強制的に寄付させられるのです。今年も学会員の中から町内で二件は夜逃げして何処かへ引っ越してゆきました。何とか取材して助けてください。これは社会問題です。豊田商事とか悪徳商法がありますが、もっともっと酷いやり方です。内容は、たびたび会合に集めて催眠療法でかき立て、幹部は「私は三桁から四桁（百万から一千万）する、皆さんも出来る限り、多くしてください。私は家を売ってでもしたいんです」と言ってかき立てます。いま一銭もなくなっても必ず福運が付くと言い切ります。助けてください。この時期になると夫婦ゲンカが耐えません。寄付金を出さないと、断り切れない顔見知りの幹部が夜遅くまで強要します。「はい、出します」と言うまで帰りません。なんとか創価学会員を助けてください』
* 創価学会幼児に至まで広布部員（財務を出す人）にします。まず大口（百万円以上出す人）をどれだけ拡大するか、次に一口（一口は一万円）を二口、三口にする戦い。第三に、新規申込者を徹底して推進します。
* ……そのため一部の会員は、サラ金に手を出して金を捻出します。驚いたことに、東京・大田区の婦人部の活動ノートには、あるサラ金業者からは借りてはいけないとの注意事項まで載っています。ということは、サラ金から借りて財務に応ずることは当たり前になっていルことを示しています。兵庫県尼崎市の民主商工会に置かれた「阪神サラ金被害者の会」の相談コーナーには月に五十件から六十件ものサラ金被害の相談が持ち込まれていますが、なんと、相談者の六割を創価学会員が占めていたとのことです。
* そのため、金策をめぐる犯罪、サラ金による自殺、夜逃げが頻発しています。学会本部では「最近、新聞などで話題になっているサラ金の問題についても、借り易いので利用する人も多いが、家庭の崩壊などの悲劇を招いては、断じてならない」（昭和五十八年六月、本部幹部会、森田一哉理事長談話）などとしていますが、結局は問題が学会上層部に波及しないように、あらかじめ会員へ責任転嫁しているにすぎません。実際には池田のゴリ押しの金集めが幾多の家庭崩壊を招いているのであって、この談話もかえって、いかに多くの会員がサラ金地獄に陥っているかを証明しているようなものです。
* （懺悔の告発：山崎正友；日新報道：１９９４：p141-3）
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p168-70）
* そして有名なものとして、死期間近な病人から「今、御供養金を出せば病気が治る」と言い、貯金通帳から多額の現金を勝手に引き出した事例が複数、報告されている。
* 私が以前居た地区には一人暮らしの老人を折伏のターゲットにしている熱心な男子部員が居た。一人暮らしの老人は寂しい。親しくなり、入会、本尊流布までもってゆく。しかし、年老いているため亡くなることが多かった。そのとき遺族との間でもめ事が起こることが良くあった。その、もめ事の仔細は知らない。ただ、遺族に全く連絡が取れなかったり、連絡が取れても遺族が完全に捨ててしまって来ようとしないケースもあった。そういう場合、葬式をどうするか、献体として大学病院に納めるか、いろいろと問題があった。
* 創価学会本部では鉛筆一本でさえ池田大作のものという誓約書を創価学会本部職員全員に書かされている。これは池田大作が誰をも信じることができない病的性格のためである。「誰をも信じることができない」つまり池田大作は妄想性パーソナリティ障害なのである。
* 「財務」こそ創価学会のアキレス腱である。しかし現在、創価学会はその極めて豊富な資金源によりマスコミ界などに大きな力を持っている。国会で取り上げて「財務」を中止させることである。このままでは創価学会による日本占領が現実のものとなる。
* 「財務」による創価学会員の悲惨な現況は大きな社会問題である。上記のような「財務」の明らさまな強制は決して少ない割合ではない。「財務」直前の創価学会会館での偽りの体験談の発表は日本全国で盛んに行われている。偽りと解らずに多額の「財務」をする創価学会員は多い。そして現世利益を呼び台にする創価学会の理論、創価学会が勝手に造り上げた教義解釈が会員の心に脅迫してくる。人の良い人が多い創価学会員はそして多額の「財務」をする。貯金が無くなるまで。サラ金から金を借りてまで。東京の婦人部に出回っていた指示書には、どのサラ金業者から借りること、および借りてはいけないサラ金業者の名前が書いてある。
* それ故の創価学会員の生活保護の多さであり、日本の福祉を食い物にしていると言っても良い。「財務」により人生を棒に振ってしまった創価学会員は多い。
* これは宗教を利用した詐欺であり、詐欺罪で創価学会を訴追するべきである。「財務」は中世の免罪符である。宗教の仮面を借りた詐欺である。中世の免罪符が現在に復活したものである。現在の免罪符とでも言うべき「財務」を中止させるべきである。
* すべて池田大作の命令、池田大作の野心、池田大作の欲望である。善良な会員から金を巻き上げ、笑っている池田大作の醜い姿が見えてくるようだ。
* ここに「水滸会記録」という創価学会の秘伝書とも言うべきものがある。これは戸田城聖氏の時代に行われた上級幹部に対する特別会合、秘密会合とも言うべき会合の記録である。これは池田大作が奥に秘めていたものであるが、原島嵩氏が造反の時に秘密裏に持ち出したコピーである。
* 池田大作が誰にも見せようとしなかった秘伝書である。
* 速記の記録がないため、後に参加者が集まって、記憶を頼りながら記されたものである。それを読むと、池田大作による着色がかなりされてあるそうであるが、創価学会の今日の行動の指針が記されている。一時は出版も考えられたそうであるが（それ故に後になって参加者が集まり記憶を頼りに編纂された）池田大作が学会本部奥に隠し出版はされなかった。
* 原島嵩氏、山崎正友氏という元中枢の中枢が造反しなかったら、葬り去られていた記録である。
* それには次のような記載が見られる。「昔の武器は刀、現在の武器は財力」と。
* これ故の「財務」である。創価学会員はそれ故に池田大作からただ利用されているだけなのである。財力で日本を乗っ取る理論的根拠が「水滸会記録」に記されている。
* 創価学会員は池田大作の野望実現のために利用されているだけなのである。そのことに早く気付かなければならない。もう一度書く。創価学会員は池田大作の野望実現のために利用されているだけなのである。
* 創価学会員は池田大作の欲望のままに利用されているだけなのである。早く気付かなければならない。もう一度書く。創価学会員は池田大作の欲望のままに利用されているだけなのである。
* 創価学会員は池田大作という暴力団の親分の子分に過ぎないのである。早く気付かなければならない。もう一度書く。創価学会員は池田大作という暴力団の親分の子分に過ぎないのである。池田大作に信仰心はない。これは「月刊ペン事件」で池田大作側から裁判所に提出された池田大作の一日の行動記録を見たらはっきりとする。池田大作は仏壇の前に一日に五回座っていることになるが、勤行はしていない。唱題を数分間行っているのみである。これには唖然とする。
* 「昔の武器は刀であったが、現在の武器は金力（財力）である。昔の兵力に相当するものは金力である」
* これは戸田城聖氏が語ったこととされるが、実際は池田大作が副教学部長の某氏に命じて造らせたものである。本物の「水滸会記録」は消失しているか、何処かの金庫の中に眠っている。原島嵩元教学部長が創価学会本部より持ち出したのは本物の「水滸会記録」のコピーではない。池田大作が副教学部長の某氏に命じて造らせたもののコピーである。このことは原島嵩元教学部長自身が書いていることである。

* ***「財務」による悲劇（「広布基金」による悲劇も含む）***
* これもあまりにも知らない創価学会員が多いので敢えて書く。知っている創価学会員は皆無と言って良い。
* 母子無理心中事件————横浜市で昭和五十七年に起こった母親が娘を絞殺後、自らも首を吊って死亡した事件は、夫が「広布基金」の重要性を理解しないため「広布基金」ができないことを苦にしての悲劇だった。
* 夫放火による母子焼死事件――――――昭和六十四年、茨城県鹿嶋市で夫が自宅に放火。妻子が焼死したが事件の遠因は、有り金すべて「財務」に寄付する妻に抗しきれず、人生に絶望して放火したと供述している。
* 妻刺傷、焼身無理心中未遂事件――――学会活動にのめり込むだけでなく、貯金をすべて「財務」に差し出す妻に腹を立てた夫が、妻を刺し殺し、自らも焼身自殺を図ろうとしたが、殺しきれず、死にきれなかった。
* 平成元年五月、千葉県船橋市のの熱心な創価学会員・００綾子さんと長男の００君が同じく創価学会員である夫の０００に殺された。バラバラにされた死体が聖教新聞に包まれ、シキミとともに長野県の山中に捨てられていた。動機は生活苦であった。「財務」ゆえに貯金が全くなかったのである。
* バラバラにした死体が聖教新聞にくるまれてシキミとともに長野県の山中に捨てられていたこの事件は、社会に大きな衝撃を与えた。なぜ、いたいけな幼児が虐殺されなければならなかったのか。また、なぜ、その母親が無惨にも切り刻まれなければならなかったのか、酷い、胸の痛む事件であった。
* 夫人の綾子さんは「財務」になると貯金をすべて「財務」していた。これに夫の０００が怒ったのである。毎日、重労働で働いてきた金を「財務」し、一年中、お金が足りないと夫婦喧嘩していた。サラ金から借りることもあった。
* 恐喝未遂事件――――平成五年十二月九日、静岡県清水署は創価学会副本部長の０００００を恐喝未遂で逮捕した。同じ清水市に住む男性の“女性関係”に因縁を付け、現金数十万円を脅し取ろうとしたが００さんが警察に届けたため未遂に終わった。副本部長という役職にふさわしい額の“広布基金”を納める金が欲しかった」ということ。
* そのほかにもたくさんある。
* 「財務」による事件として以下のことも知られている。しかし、これもごく一部である。
* 昭和五十八年四月二十二日号の「週刊朝日」のグラビアには、東京都住宅局が管理する都営住宅から夜逃げした人々が置き去りにしていった仏壇七個のうち四個までが鶴丸付きの創価学会員のものであることが報じられている。同様に、同年九月二日号の「アサヒグラフ」の特集「サラ金地獄“蒸発”の現場」写真の大半にも鶴丸付きの経本や仏具が写っている。多くの創価学会員がサラ金苦に陥り「夜逃げ」や「家庭崩壊」を招いているかの証拠になろう。
* ０００二郎愛知県議・借金夜逃げ事件
* 鹿児島県・徳之島ゾーン指導長・サラ金四千万円借金夜逃げ事件
* 「旭川一の功徳をもらった」と公言していた支部指導長夫妻・経営苦心中事件
* 佐賀市西村市議妻女・借金苦飛び降り事件
* 聖教新聞販売主・経営苦自殺事件
* 婦人部地区部長・千七百三十万円詐欺・窃盗事件
* 壮年部支部長（郵便局長）郵便貯金詐欺事件
* 男子部ゾーン長・銀行強盗事件
* その他、書ききれない。これらを池田大作はどう考えているのか知りたい。自分だけ豪奢な生活ができたら良いのか？
* 山崎正友氏は更に書いている。
* ***「広布基金」も不動産漁りやノーベル賞工作にばらまかれている***
* ところで私の手元に、あるところから録音テープが届いた。元参議院議員・柏原ヤスが青森県で闘われた会合の席で会員に広布基金を呼びかけたのである。中身は「池田先生の世界広布には金が掛かる。だから金を出せ、というのです。出せ、出せ。三桁、百万円出しなさい……」と絶叫しているものである。折から、創価学会は「広布基金」と称する金集めに必死である。
* 創価学会の金集めは、宗教上の布施や供養のレベルをはるかに逸脱している。嘘だらけの功徳話やコントなどで会員を騙し、集団催眠にかけ、煽り、上げ句の果ては脅迫まがいのノルマの強要を行う。“宗教団体”という肩書きがなかったら、豊田商事などと何ら変わるところのない、あくどくあこぎなものである。そうした金集めの陰に、夜逃げや倒産、犯罪行為に走る者など悲惨な道を巡る会員も少なくない。創価学会員の事件の多さは、私共の統計上も裏付けられている。私が二年あまり暮らしたところ（刑務所）にも数人に一人の割合で創価学会員がいた。金集めの号令は、まず池田大作から発せられる。そして、巧妙争いに支配された各地域の責任者の猛烈な煽りが始まる。何しろ、めざましい集金額を達成した幹部には出世と名誉が与えられ、そうでない者には池田大作の叱責と酷い仕打ちが待っているのである。
* （懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４、p134-5）

* ***金を集めないという嘘***
* 池田大作はつねづね「口巧く、天才でなければならない。口八丁、手八丁でゆけ」と私たちに指導していました。
* この「口八丁」の天才が池田大作です。
* かつて創価学会が急成長を遂げていた頃、他宗の信者を折伏し、入信させるときのうたい文句が「金のかからない宗教」でした。
* たしかに、日蓮正宗の寺院で御授戒を受け御本尊を御下付いただく際に、応分の御供養と数百円の数珠・お経本だけで、そのほかは寺院に賽銭箱がある訳ではなく、学会に寄付や会費を取られるということもありませんでした。
* 戸田二代会長はつねづね「宗教で金儲けしようとするインチキ宗教どもを退治しようというのが私の根本精神」と語って、他教団の金権体質を攻撃することを、布教の最大の武器としてきました。
* その方式は池田にも受け継がれ、昭和三十年代はしばしば他宗を次のように批判しました。
* 「今までの宗教はぜんぶ企業であります。法盗人、法を盗んで、そして信者を奴隷の如く扱い、金儲け専門であります。だから邪宗というのです」（聖教新聞：昭和３８年８月１７日、北陸総支部幹部会）
* 「邪宗教はあくまで金儲けのための信心であります。金儲けのための企業が邪宗教であります。それに反して、日蓮正宗の信心は、私どもは誰人からも一銭も貰わず、——中略——人を救っているのが創価学会なのであります」（聖教新聞：昭和３６年４月８日）
* 「邪宗などは、みんな巧いことを言って金を巻き上げて、教祖のために、それから教団の勢力のために、それも、本当に人が救えるならば許せるけれども、ぜんぶ地獄に堕ち、民衆は教祖に騙されて、そして教祖は立派な家ばかり作り、民衆は最後には乞食みたいになってしまう。これは邪宗教の姿です。——中略——創価学会としては、永久に皆さん方から、ただの一銭も寄付を願ったり、供養願うようなことはいたしません」（聖教新聞：昭和３７年６月１６日）
* このように「他教団＝金権腐敗」、「学会＝清廉、無報酬の奉仕」というイメージを繰り返しアピールしてきたのです。そして、
* 「日蓮正宗を守っていくことは私どもの役目です。——中略——創価学会としては、永久に皆さん方から、ただの一銭も寄付を願ったり、供養を願うようなことはありません」（聖教新聞：昭和３７年６月９日、中部本部地区部長会）
* と語ってきたのです。
* ところが、いまでは毎年一千数百億円とも二千億円とも言われる財務集めが年中行事化し、自殺者まで出すような始末です。池田はこの一点だけでも、宗教者としての罪、万死に値するものがありましょう。
* 「一、地区幹部は少なくとも十万円以上すべきである。
* 一、現在もっている預貯金全部出すのは当たり前だ。それにどれほど上乗せするかが信心の戦いだ。
* 一、各支部で十万円以上出す人を三十人以上作れ。
* 一、支部内で百万円以上の大口を何人作るかが、支部長、婦人部長の戦いだ」（故福島源次郎氏『誠諫之書』）
* 「永久に会員から寄付を取らない」と言っていたことは、今日、その嘘が青天白日の元にさらされています。かつて池田が攻撃した邪宗教の姿が、現在の創価学会そのものです。
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p234-7）

* ***大きな建物を造らないという嘘***
* また、池田はかつて「学会は大きな建物は造らない」と言明していました。
* 「学会は大きな戦艦のような建物は造らないよ。全国の小さな会館が飛行機の役目をするのだ」（「前進」：昭和４０年８月）
* 「この建物は小さいけれども、我々の拠点であります。私どもは喜んで小さな拠点を造っている訳なのです。他の教団などに於いては、すぐに信者から金を搾り取って、虚栄のため、商売のため、宗教企業のために大きな殿堂を造ります。私どもの会館建設に当たっては、会員の皆さんの負担とせず、新聞や雑誌の利潤を少しづつでも蓄積して造っていることを知っていただきたいのでございます。創価学会は形式的な大きな建物を、将来も排除していきます」（聖教新聞：昭和３９年９月１５日）
* 「ほかの立正佼成会や天理教は、全部教祖が懐に入れて、さも立派そうな大聖堂だとか、やれ病院だとか、こんどは天理教あたりは七階建てとかで、地下四階の大きい本部を造って、東京進出のビルを造るとか、そんなことばかりやっている。悪い連中ですよ。
* 実際、宗教に無知な人が多いですから、みんなに騙されて、金を取られている。それで教団の勢力を張っている訳です。
* 私はこれから本部を造る。それからいろいろと東京や関西にも本部を造って、第一本部、第二本部と造ってきておりますし、これからも準備もしておりますけれども、一切、皆さん方から永久に一銭も取らない、これが私の精神です」（聖教新聞：昭和３７年４月１６日、埼玉総支部地区部長会）
* こう約束し、会館建設に当たっても永久に寄付集めをしないと繰り返し公言していました。これが大嘘であったことは記すまでもありません。池田自身『週刊朝日』のインタビューに答えて、
* 「特別財務というのはね、各地の会館や研修道場などの総合整備計画に合わせて、その趣旨を会員にもご理解いただいて拠点をお願いしたものなんです。昭和４９年から５２年までの４年でーー中略ーー合計六百数十億円になったと思います。——中略——それに特別財務の状況や会館整備の進み具合などは各県ごとにきちんと報告しています」（昭和５６年４月１０日号）
* と述べています。会計報告のくだりはともかく、会館建築を名目として、当時、秘かに六百数十億円もの金を集めていたことを認めているのです。
* 昭和５０年６月１６日、本部中央会議を開いたときにも、
* 「会館建設のため各地域で特別財務をやっているが、みんなもやった方が良い。自分の功徳になるし、仏法のためにお金を使った方が裕福になる。自分の体験からも言える。心良く御供養するよう指導したことにも功徳がある」（内部文書）などと「供養」の名のもとに金集めを煽っているのだから、あきれた話です。こうした虚言は、こればかりではありません。
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p237-9）

* ***事業に手を出さないという嘘***
* かつては、
* 「班長さん、地区部長さんの中には、ずいぶん利口な幹部もおりまして、学会もこれだけ大きくなったのだから、やれ、ああいうバス会社を造ったら良いではないか。ああいう印刷工場を造ったら良いではないかと、いろいろなことを言ってくる人がいるのです。——中略——そういうように言ってくること自身、その人に信心がないし、学会利用の根性があるのです。我々も普通の人間です。いろいろなことは良く知っております。しかし、そういうことは全部厳禁して、あくまで世界でただ一つ信心根本に純粋のなかの純粋で、一切衆生を幸福にしようというのが、代々の会長の精神ではありませんか。——中略——悪い不純なことに対しては、いっさい戦っていく決心でありますから、一緒に協力してくださいね」（聖教新聞：昭和３８年１月２７日、関西第二・三本部結成式）
* などと庶民の味方を気取り、さも金銭には無縁で、純粋な宗教運動を目指しているかのように装ってきました。
* これも今では信濃町周辺を中心に、全国に書店、レストラン、寿司屋、パーマ屋、葬儀、結婚式場、中華料理、運送、保険、金融、旅行、バス会社、墓苑、建築、電気製品販売、マスメディア等多くの事業を展開しています。そして、お雇い社長連中を集めては「ユダヤ人は金を握っている。実業家になったんだからうんと金持ちになることだ」（昭和４７年６月１５日、社長会）などと親分よろしくハッパをかけています。
* また大学の建設にも「寄付など一銭も受けませんことをご承知していて下さい」（聖教新聞：昭和４１年５月３日、本部総会）と言いながら、創価大学建設に当たっても、影の会長と言われた中西治雄などを使って学会員から約十億の寄付を集めています。
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p239-41）

* ***墓苑を経営しないという嘘***
* さらに墓苑事業についても、
* 「本当のことをいえば墓地なんか全部、日蓮正宗でやってもらいたいです。しかし日蓮正宗はご存知の通り貧乏です。創価学会を代表して、私は御法主上人猊下に全部御供養申し上げております。創価学会としては、そういう墓地の問題になんか絶対に手をつけません。全てお寺の問題であります。本山のことであり、宗門のことでありますから、その点は、はっきりしていって、全部御供養してございます」（聖教新聞：昭和３８年４月２日、高尾墓園完成式）
* と、宗門に忠実で、さも純真な信徒ぶってはみましたが、学会は現在八つの巨大墓園を経営し、売上一千数百億円を誇っています。何が「創価学会としては、そういう墓地の経営なんか絶対手をつけません」でしょうか。この事実からも、池田の言葉が虚言であったことが証明されます。
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p241-2）

* ***政界の浄化が目的という嘘***
* 池田の虚言はこうした金銭面だけでなく、政治面にも露呈しています。
* 「わが創価学会は、他宗派の如く、企業でもなく、ただ、勢力の拡大を目的とするものでもない。また、決して政権を考えているものではない」（大白蓮華：昭和３６年６月）
* かつて、このように公言した池田が、突然、前言を翻し、
* 「公明党政治連盟をば、皆さんの賛成があるならば、王仏冥合の達成のために、また時代の要求、民衆の要望に応えて、政党にするも良し、衆議院に出すも良し、このようにしたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。（大拍手）それでは全員の賛同を得ましたので、これをもって決定いたします」（昭和３９年５月３日、本部総会）
* といって、衆院進出を図ったのは有名な話です。
* 池田は公明党結成時に、
* 「政界を浄化するのが役割の公明党に、将来、もしも万一、派閥が生じたり、汚職議員がでたりすれば、直ちに党を解散させる。国民の皆様にそうお誓い申し上げます」
* 「公明党は反自民・反権力・反大資本・自民党連合はあり得ず」
* などと大見得を切り、政界浄化と革新のポーズを装いましたが、その後の公明党はどうだったでしょうか。汚職議員は続出し、右往左往の路線変更、結局、今では自民党と組み、創価学会が政権を陰で動かす現状ではないでしょうか。いまの公明党は、その結党当時の精神に照らし、もはや解党すべきであると思います。
* 今日まで取ってきた公明党の右往左往の路線変更は、ほとんど池田の党私物化に起因するのであり、とくに池田大作の国会喚問が公明党変節のキーワードです。言論問題、民社党「質問趣意書」、糾す会国会請願、大橋問題など、国会喚問が話題に上るたびに公明党は振り回され続け、なりふり構わず池田を守るため犠牲を払ってきたのです。
* 先の衆議院総選挙で、公明党は四十二議席から三十一議席に激減しました。これは自民党との選挙協力が巧く行かなかったことにも原因がありますが、何よりも創価学会＝公明党の力が弱まったことに由来しています。そうは言っても油断は禁物です。自民党も勢力を激減し、ますます公明党の助けを得なければ成らなくなっているからです。それにしても、自民党が大幅に勢力を減退させたのは、公明党と組んだからであり、公明党の助けを借りれば借りるほど、ますますその傾向は顕著になっていくでしょう。いまの公明党は、国民の大多数から信用できない政党とされているからです。
* それにしても、池田の虚言癖の症例は枚挙にいとまがありません。政教分離にしても、
* 「創価学会と公明党は同体異名の団体であります。永久に創価学会と公明党は一体不二の関係で進んでいこうではありませんか」（昭和４０年７月、青年部最高幹部会）
* 「創価学会と公明党の関係は、あくまでも、制度の上で、明確に分離していくという原則を、更に貫いていきたいのであります。——中略——学会員個人個人の政党の支持は従来通り自由であります。——中略——政党支持に就いては会員の自由意志に全く干渉するものではない」（昭和４５年５月３日、本部総会）
* 「竹入に今まで以上に王仏冥合政教一致で行け、と言おうか」（昭和４５年５月５日、「社長会記録」）
* 「政教一致——大きなお世話。不仲説——誰が言ったか。親として自分の手製の党、心配するのは当たり前」（昭和５０年７月８日、婦人部長研修会）
* 「政教一致は間違いです」（朝日新聞：昭和６０年１９月３０日夕刊）などと、時と相手によって言うことがコロコロ変わるのが分かります。いま、学会員の中で、政党支持の自由があると思っている人は一人もいないでしょう。まったく池田は、数限りない虚言を持って、学会員を騙し、世間を騙し続けてきたのです。その挙げ句「ともかく私は、会員を政争の道具にしてはならない、と思っている」（読売新聞：昭和５０年７月３日）などと述べていますが、いったい誰が公明党を作り、会員の政党支持を束縛し、組織票を状況次第で右へ左へ売りつけているのでしょうか。池田が政治的野心を捨てない限り、会員は政争の道具と成らざるを得ません。
* 池田の得意技は、煽てたり、餌をちらつかせるラブコール戦法にあります。これには、政治家、財界人、文化人、マスコミ等が、ほとんど手もなくやられてきました。宮本顕治氏もその一人です。池田は、大森実氏との対談で、
* 「十数年前から『この人（宮本氏）は屈指の指導者になるな』と思っておりました。——中略——現在の指導者で右に出るものはないでしょう」「私は一貫して共産党の言うことを理解しておりました……未来に於いて協調すべきだし、それしかないのです」（週刊現代：昭和４８年４月１２日）
* と述べて、宮本氏をおだて、これによって創共協定が結ばれたと言われています。昭和４５年、創価学会は組織ぐるみで宮本宅の電話を盗聴し、その一方で友好的に接近し一杯くわしたのです。
* また池田は、昭和４５年の言論妨害事件直後、当時の西村栄一民社党委員長に財界有力者を通じて「公明党を丸ごと受け取ってくれ」と心にもないことを働きかけました。
* 昭和５６年にも同じような手を使っています。北条前会長の通夜の晩、池田にこっそり会った民社党の佐々木良作元委員長は「『佐々木先生には今後、特別いろいろお世話にならんと思います。政権も担当して貰わなきゃ成らん筋になります』とささやかれた。『どきっ』とする話しぶりだった」（朝日新聞：昭和６３年１０月「一日生涯」）と証言しています。
* 社会党の江田三郎氏はもっと悲劇でした。池田は、矢野らによって提唱された革新再編成の旗印のもと「公明党の看板はなくなってもいい」（昭和５１年５月１７日）と、公明党を解党して社公民新党を結成すると空手形をちらつかせ、江田氏を迎える構想で乗せたのです。その上で、翌年三月、党内から批判を浴びていた江田氏に離党を迫るとともに、マスコミにリークして、離党せざるを得ない状況にしたと言われます。
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p242-7）
* [http://sky.geocities.jp/mifune008/](http://sky.geocities.jp/mifune0008/)
* [vvv23274@yahoo.co.jp](mailto:ccc998@infoseek.jp)
* ***（第２章終了）***

* **第３章「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」**
* ***犯罪集団・創価学会***
* これもあまりにも知らない創価学会員が多いので敢えて書く。知っている創価学会員は皆無と言って良い。
* （事件が起こった年月が分かっていないものもあるため、順番は正確ではない）
* 吉展ちゃん事件———昭和三十八年、東京都世田谷区で建設業を営んでいた０００さんの長男・吉展ちゃんが誘拐され、犯人は両親に身代金五十万円を要求した。
* 両親が要求通りに五十万円を支払ったにも拘わらず、吉展ちゃんは死体で発見された。犯人の小原保が逮捕され、裁判の結果死刑を宣告され、執行された。
* この小原保は熱心な創価学会員であった。その小原保は吉展ちゃんを誘拐し、殺害して金を手に入れた直後に学会活動で知り合った会員仲間の愛人宅で、奪った金を仏壇に供え、二人して“功徳により大金を手に入れることができたこと”への感謝の唱題を続けていた。
* 幼児を誘拐し殺して奪った金を「創価学会の信仰の“功徳”だ」と言っていた。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から創価学会より洗脳されてきた結果と思われる。
* サラ金侵入放火事件———————財務などの活動費によって生活苦に陥り、サラ金に手を出した千葉県市川市の熱心な活動家０００００は、返済に窮し、借金していたサラ金「ローンズ日立」に押し入りガソリンをぶちまけ放火、自殺を図った。創価学会の“魔”が暗躍したのである。
* 大石寺売店主・手形詐欺事件
* サラ金苦・友人母子殺害事件
* 座談会場殺人事件—————昭和四十二年、愛媛県新居浜市の座談会場で、座談会開催中、青年部員・００００に刺殺されたのは０００地区部長。登山していた母親の連絡先を訪ねた際、「後にしてくれ」と言われたことに腹を立て、近隣の学会員経営の食堂から包丁を持ち出し、地区部長を刺殺した。０００は十年ほど服役後出所。再び学会活動に従事したが、高知県の選挙の応援の帰途、車ごと谷に転落して死亡した。純粋な信仰をしていた男子部員であった。
* 千葉判事補・女子高生連れ込み事件—————創価大学一期生で司法試験に合格、判事補に任官して池田大作の弟子の中で“希望の星”の一人であった千葉判事補は事件関係で知り合った女子高生を自宅に連れ込んでいたことが発覚。千葉判事補は刑事事件にはならなかったものの裁判所を辞職する。創価学会の“魔”が暗躍したのである。
* ＪＲの駅で医師を刺殺した事件ーーー京浜急行青物横丁駅で、岡崎医師が元患者によって射殺されたが、その場で現行犯逮捕された犯人は熱心な学会員家族の一員であった。
* 連続ガムテープ強姦事件————昭和五十七年一月まで都内各地で三十二件もの強盗強姦を重ねていた００００は現役・大Ｂ長。日頃、会員たちに“人間革命”を説き、池田大作を礼讃する創価学会の幹部が長期にわたり凶悪事件を重ねていたという恐るべき事例である。
* 川崎・連続放火事件————昭和五十七年二月から五十八年一月にかけて三十件にもおよぶ連続放火を続けていたのは本部壮年長の息子で青年部の００００。
* 金の延べ板盗難事件————昭和五十七年三月、秋田県の同和鉱業から三千万円の金の延べ板を盗みだし古物売買ルートに乗せて売り捌いていた盗難グループは全員、創価学会員。これも「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* お寺侵入殺傷事件—————昭和五十七年、佐賀における事件である。統合失調症で通院治療を受けていた二十九歳の創価学会青年部員が、包丁を持って佐賀県武雄市の深遠寺に乱入、高木当道住職の妻子やお手伝いさんを次々に刺し、そのお寺の幼い子供（三歳と五歳の少女）を刺殺したほか、手伝いに来ていた二十一歳の女性をも刺殺した。住職は法要のため外出していた。逮捕された青年は昭和五十五年には広島市の寺院に投石を繰り返し、器物破損の容疑で逮捕された前歴を持つ。青年が日蓮正宗の寺ばかりを執拗に敵視するのはそれなりの理由があった。創価学会に入れば、金儲けを始め、病気の治癒など、利益がいっぱいあると聞かされて入信、学会活動にも励んだが逆に金を取られる始末。学会への恨みが嵩じて、授戒を受けた日蓮正宗寺院をも逆恨みするようになったのである。
* 元警官の学会員による強盗殺人事件———昭和五十八年、千葉県船橋市の創価学会前原支部総会で、元警官で熱心な創価学会活動家の沢地和夫は「入信にしたおかげで、思わぬ収入を得、借金を返すことができた。大きな功徳を頂いた」と体験発表し、満場の喝采を受けた。沢地は元警視庁警官の身でありながら二人の資産家を殺害、金品を強奪した。沢地は強盗殺人を犯して得た金を功徳と言っていたのである。沢地は活動熱心な創価学会員であった。学会活動で知り合った女性と二人で感謝の題目を上げていた。これも「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* 沢地和夫は死刑の判決を受け執行された。沢地和夫が刑務所内で書いた本が評判になっている。
* 山口母子殺人事件————六ヶ月の子供と二十二歳の主婦を殺害した余りにも有名な事件。犯人は男子部班長。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* カレー毒入り殺人事件——————犯人・林真澄は熱心な創価学会員。勤行は欠かさず行っていた。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* 不倫妻と愛人共謀殺人事件—————昭和六十三年、千葉県大原町で、不倫妻と愛人が共謀して夫を殺害。灯油をかけて焼いた事件の犯人である不倫妻は学会地区幹部の００００。愛人も学会員。殺された夫は本部長。
* 北海道原野商法——————昭和六十四年、不動産バブルの風潮を利用し、北海道の、ほとんど資産価値のない土地を、何も解らない主婦たちなどに売りつけ、いわゆる「原野商法」で詐欺罪に問われ、逮捕された沢井俊光は、熱心な学会員であり、詐欺で得た多額の金を「財務」として創価学会に貢ぎ、池田大作から、サイン入りの著書を贈られた。沢井は、この本を仲間の学会員に自慢して見せびらかしていたという。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* 別府寿福寺六億円身代金要求僧侶誘拐事件—————平成元年十一月七日、大分県別府市・寿福寺住職が創価学会壮年部ブロック長の桝永廣典らによって誘拐され、身代金六億円が創価学会に要求された。現金六億円は直ちに用意されて犯人は逮捕され事なきを得たが、反面、創価学会の金権体質を浮き彫りにした。主犯の桝永は「創価学会なら金がある。身代金を出してくれると思った」と供述した。その背景には創価学会の宗門を敵視する意識があったと思われる。
* 公明党議員の口利きで生活保護を受けていた学会員の老婆が覚醒剤の密売をしていて逮捕された事件。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* 札幌市・婦女暴行事件——————平成五年十月、創価学会男子部三人が起こした事件。三人とも創価学会の“嫌がらせ部隊”隊員。常に卑劣な犯罪行為を行ううちに、犯罪に対する罪悪感が失われたものと思われる。脱会者の家の前で糞をする、脱会者の郵便受けに糞を入れる、脱会者の庭に糞を投げ込む、このような行為を日常的に行ってきた故に人格がすさみ、犯罪に対する罪悪感が欠如してしまったものと思われる。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* 特別公務員暴行致傷事件———————創価学会の検事である００氏は平成五年十一月、ゼネコン汚職の取り調べの際に二人の参考人に対して暴行を加えた。それは書くのも憚られるほど凄まじいものだった。狂気としか言いようがない。被害者は言う。
* 「壁に向かって立たされ、後ろから思い切り蹴飛ばされたり、土下座させられ、首筋を散々踏みつけられたりした。その上、往復ビンタで口の中を切り、血が二メートルに亘って飛び散った。その血を拭き取りながら００は『お前はエイズじゃないだろうな』と聞いた」
* 同検事は以前にも暴行を繰り返していた。懲戒免職となり、公務員暴行致傷事件で逮捕される。現職検事が懲戒免職になったのは昭和二十七年以来であり、暴行事件で懲戒免職になったのは初めてのことだった。
* ００氏は熱心な創価学会員で、司法試験合格後、“池田大作に激励されて試験に合格した”と体験発表している。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* 大阪でホームレスの老人を道頓堀川に投げ込み殺害した事件ーーー平成六年、ホームレスの老人が台車の上に寝ていたところ道頓堀川に投げ込まれ水死した事件。犯人は二十四歳、東京駅で三日後に逮捕されたが熱心な創価学会の家で生まれ育っている。熱心な学会員の子は“福子”と呼ばれ仏に祝福されて生まれてきたとされる。この男の場合は名前から見て池田大作が名付け親である可能性が極めて高い。“魔”の御本尊が遠因と思われる。
* 愛媛県の最高幹部伊予分圏議長００００が松山外港埋め立て工事に伴う補償金のうち百二十万円を詐欺横領して逮捕された事件。「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。
* ピアノ教師惨殺事件———————平成九年八月一日、浜松市のピアノ講師（女性）が殺害されました。 警察の調べによると、犯人の００００は、その女性講師と以前交際していたのですが、別れ話のもつれから、彼女のマンションに忍び込み、身体を百ヶ所以上もメッタ刺しにして殺した、とのこと。 ００は創価学会の男子部で、彼の実家は、近所でも、�熱心な学会家族�として有名な家でした。
* 平成十年四月、岐阜県職員の００００が同市職員の０００さんを殺害。金銭貸し借りのもつれが原因。二人ともに学会員。学会員同士の金銭の貸し借りは厳禁されている。金銭の貸し借りが発覚すると叱責処分、また除名処分もあり得る。しかし、それは守る学会員もいれば守らない学会員もいる。
* 平成十年十一月、東京都目黒区で夫が包丁により妻を刺し（重体）また妻の母を刺し殺す事件が発生。被害者の妻と母は熱心な学会員。夫の学会への入会を巡る争いが原因。夫に入会をしつこく強要したため、夫が逆上したのであった。
* 覚醒剤男・四人刺殺事件———————創価学会の信仰は気宇壮大となり抑制心を失わせる傾向がある。そのため覚醒剤に走ったものと思われた。
* 覚醒剤男・ガソリンスタンド立てこもり事件———————これも創価学会の信仰は気宇壮大となり抑制心を失わせる傾向がある。そのため覚醒剤に走ったものと思われた。

* レッサーパンダ男殺人事件——————平成十三年、東京都浅草の路上で、短大生、Ｏさん（十九歳）が何者かに刺殺されるという事件が発生した。犯行時にレッサーパンダのぬいぐるみ帽子を被っていたことから「レッサーパンダ男」などとマスコミに騒がれた。犯人はホームレスのテントに二ヶ月ばかり同宿していたが、その間、テントで父親と毎日二時間“魔”の御本尊に向かって唱題していた。犯人の父親は一年前に創価学会に入会し、聖教新聞も購読し、真面目に勤行に励んでいた。模範的な創価学会員である。息子も入会手続きは定かでないが、欠かさず勤行唱題に励んでいたという。
* 拝んでいた“魔”の御本尊が元凶で、発作的に、レッサーパンダのぬいぐるみ帽子を被って女子短大生を刺殺する行為に走らせたと思われる。
* （創価学会・公明党の犯罪白書：山崎正友：日新報道：２００１：p38-45 参照）
* （懺悔の告発：山崎正友；日新報道：１９９４：p164-72 参照）
* 他にもたくさんたくさんあるが書ききれない。
* これら犯罪を犯した学会員の多くは熱心な会員や幹部達である。
* これらの会員に対し、池田大作は「会合にも出ない。教学も勉強していない」と弁明しているが、その逆である。熱心な会員ほど「気宇壮大となり」「そこに池田大作が創価学会に招き入れた無数の“魔”の一つまたは幾つかがつけ込み」犯罪に走るのである。このことを池田大作は認識しているのか疑わしい。“魔”は熱心な信者につけ込むのである。
* もう一度書く。熱心な会員ほど「気宇壮大となり」「そこに池田大作が創価学会に招き入れた無数の“魔”の一つまたは幾つかがつけ込み」犯罪に走るのである。
* 創価学会では「学会イクオール善・正、社会イクオール悪・邪」との考えを会員に植え付ける。その結果、学会員以外を敵対視するようになり、排他的な選民意識に支えられた学会員が様々な暴力事件や謀略活動を行っている。入信強要殺人事件までも起こしている。創価学会は日本のユダヤ人と言われる。
* 上記は池田大作が招き入れた無数の悪鬼が犯罪を唆したためである。
* 「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」という論理が現在の創価学会に厳然として存在する故、創価学会は数々の反社会的行為を平然と行っている。藤原行正氏暗殺計画があったことを矢野絢也氏は暴露している。
* また、「反対者を徹底して攻めろ」と暴力脅迫行為を会員に奨励する池田大作の指導がある。
* 池田大作の通訳として有名であった某女史がある有名な芸能人と結婚し、麻薬密輸に走ったことは有名であるが、これも「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」と日頃から洗脳されてきた故と思われる。すなわち平常の社会通念が欠如してしまっていた故と思われる。
* 創価学会は日蓮正宗関係者や批判者に対し、尾行・見張り・嫌がらせ・怪文書など、あらゆる卑劣な手段を用いて攻撃している。こういうことを行う特殊部隊が青年部に編成されている。そして卑劣な犯罪行為を繰り返すうちに犯罪行為に対する罪悪感が欠落し、平気で犯罪を起こすようになるのである。

* そして創価学会員に起こった有名な悲惨な事件として次のようなものがある。
* 沼川代議士・家族焼死事件—————公明党の国会議員であるため東京に単身赴任していた沼川代議士の一家四人が焼死した事件。池田大作が「沼川はもう十五、六年も俺のところに来ないからな。だからそんな目に遭うんだよ」と言ったことは有名。
* 娘四人焼死事件。
* 中国青年部長・交通事故死—————昭和五十九年三月二十二日深夜、鳥取県内で０００中国青年部長が運転していた転輪会の学生部員とともに交通事故死した。広島市から鳥取県倉吉市までの往復六百キロ余りの道のりを日帰りで、しかも一人の運転で賄おうとする、無理な強行日程の結果生じた事故だった。この事故は上級の幹部にしか伝達されなかった。末端の会員は全くこのことを知らされなかった。末端の会員が信仰に疑問を抱くからであった。
* 文化祭に関連するものとして次のことがある。何故か、最近は文化祭が行われなくなった。
* 文化祭六段円塔転落死亡事件———————六段円塔を行うと文化祭の責任者は池田大作より誉められ、そして創価学会における地位も向上する。自身の立身出世のために六段円塔を行わせている。犠牲者およびその家族の悲しみはどれほどであったろう。文化祭は文化祭の責任者の創価学会における立身出世に大きく影響する。六段円塔を行うことが責任者の創価学会における立身出世に繋がる。しかし文化祭の責任者は全くお咎めなしである。
* 世界平和文化祭練習死亡事故———————激しい炎天下の中で練習を強行した故である。熱射病で死亡した。その他に三百人ほどの参加者が同じく熱射病で病院に運ばれた。

* 最後に「創価学会・公明党の犯罪白書：山崎正友：日新報道：p46-7」より抜粋しておく。
* 『ジャーナリスト内藤国夫氏が、雑誌『諸君』昭和五十七年六月号で指摘しているところによると、次のように記載されている。
* 「例えば、重刑罪対象の千葉刑務所に収容されている、殺人や強盗殺人事件、強姦などの凶悪犯だけでも創価学会員が十人にも上り、それ以下の犯罪者まで含めると、全部で三十五、六人に達する。さながら、創価学会収容所といっていいほど、という情報が寄せられた。具体的な個人名まで記されているが、省略して紹介しよう。
* ★ ★★殺人・死体遺棄（多摩川バラバラ殺人事件）　Ｓ（４２）大阪出身、元大Ｂ長＝無期
* ★ ★★強盗殺人　Ｎ（５１）福島出身＝無期
* ★ ★★殺人・強盗　Ｈ（５６）＝無期
* ★ ★★殺人　Ｎ（５１）新潟出身の元十両＝懲役十五年
* ★ ★★殺人・横領　Ｉ（３０）銚子出身、漁師＝懲役十八年
* ★ ★★強盗殺人　Ｈ（２９）栃木県出身＝無期
* ★ ★★強盗殺人　Ｙ（３８）江戸川区出身＝無期
* ★ ★★横領・殺人・窃盗　Ｇ（２１）札幌出身＝懲役十二年
* ★ ★★殺人　Ｍ（５４）静岡出身＝無期」
* 中国地方のさる刑務所の教誨師を務めたＭ氏の話によると、強盗、強姦罪などを犯した重大犯の三十名は学会員であった、という。
* 私が創価学会の仕掛けた“恐喝罪”のかどで服役した、初犯者を収容する黒羽刑務所でも、数人に一人の割合で学会員がいた』
* 善良な学会員が多いから信じられないと思われる方が多いと思う。しかし、私は刑務所への面会は頻繁に行ってきた。学会活動の一環として行ってきた。創価学会員にはたしかに犯罪が多い。これは池田大作が招き入れた“魔”の軍団が唆すからであろうと思う。
* あの人がどうして犯罪を、と信じられないことが多かった。現在は“魔”の御本尊に変わっているから生命力はあまり湧かないから当てはまらないと思われるが、以前は日達上人の御本尊であったから生命力が猛然と湧いてきていた。そしてそこに“魔”が付け入り犯罪に突っ走るのである。現在は分からないが以前は「創価学会のためなら広宣流布のためなら犯罪を行っても良い、世法より仏法が上、世法なんて仏法の遙か下、我々には仏法のみあり世法は無い」とする考えが創価学会中に蔓延していた。創価学会員は「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」のである。
* 選挙における甚だしい選挙違反も婦人部には「創価学会と池田大作のためなら何をしても良い」のである。
* たしかに社会的にどうしようもない人が創価学会に入ったから創価学会には犯罪者それも重大犯が多いと考えることもできる。しかし私が刑務所に見舞ってきた人は部長を嘱望されていた国立大学出身の男子部地区リーダーだった。非常に熱心であるから題目を猛然と唱え、生命力が猛然と湧き、そこに“魔”が付け込み、突発的に犯罪を起こしてしまったと考えられた。
* 池田大作が創価学会に招き入れた“魔”の軍団の所為である。創価学会は、激しい折伏に怒り出さなかった人々の集まりであるから、善良な人がとても多い。
* 同じ創価学会員の借金の保証人になって夜逃げした人も多い。子供も巻き添えの夜逃げであるから、それは非常に悲しい。創価学会は金銭の貸し借りだけでなく「借金の保証人」になることも厳禁するべきなのである。なぜ、「借金の保証人」も厳禁しないのか、どうしても理解できなかった。
* そして男子部は婦人部とは異なり金銭の貸し借りを平然と行っていた。それも幹部が行っていた。しかも、他の幹部が知るまでなかなか返さない。やはり男性は信仰心が薄いのである。
* 創価学会は婦人部で持ってきたし、今も婦人部で持っている。座談会の参加者の八十～百％が婦人部ということからも分かる。座談会には男性は地区部長など幹部しか出席しないのが普通である。地区部長が仕事で参加できないときは参加者全てが婦人部であることは良くある。信仰始めたばかりの男子部員を連れて座談会に参加したとき参加者全て婦人部であり、その男子部員が厭がったことが数回ある。

* ***選挙運動の悲劇***
* これもあまりに知らない人が多いので敢えて書いておく。知っている創価学会員は極僅かである。
* 新宿集団替え玉不在者投票事件———昭和四十三年七月七日に行われた第八回参議院通常選挙の投票日に「集団替え玉不在者投票事件」という前代未聞の選挙違反事件が創価学会により行われた。その手口は学会幹部の実行部隊が他人の住所に郵送された投票所入場券を郵便受けから盗み出し公明党区会議員が選挙人名簿を閲覧して生年月日を調べ年齢、性別の似通った学会員を替え玉に仕立てて投票させるという組織的な犯行であった。
* しかも当日、本人と鉢合わせすることを避けるため替え玉には不在者投票を行わせた。これは新宿区を中心に数区にまたがり、その数は五千票を超えた。この事件は被害にあった人たちが訴え実行犯が数人逮捕されたことにより明るみに出た。不在者投票申請書の筆跡、指紋という動かぬ証拠があったから逃れられない。
* 創価学会は北條浩氏、公明党委員長・竹入義勝氏を中心に操作の拡大と組織上層部への波及を防ぐために都議会議員や首都圏の県会議員、区会議員や市議会議員、学会の弁護師団を総動員し証拠隠滅工作を行った。
* 「替え玉投票は組織的な行為ではなく末端の暴走による個々の偶発的な犯罪である」として皆が手分けして犯人たちや所属支部の幹部に対し口止めと言い逃れのために造られたストーリーを教え込む作業を行った。しかし作られたストーリーがお粗末であったことと動かぬ証拠が多数あったためすぐにボロが出た。
* そこで竹入義勝氏が警視庁に赴き「親友」と言われた当時の００総監にすべてを打ち明けた上で「二度とこのようなことは起こさないから助けてくれ」と泣きつき、逮捕された数名とその周辺の事件のみが送検された。
* しかし、検察庁に送られた後、担当した検事はすぐに、これが組織的な犯行であることを見抜き、新宿区の全不在者投票の関連資料を取り寄せ、一枚ずつ調べる方針を打ち出した。竹入義勝氏は再び警視総監に泣きつき、お目こぼしを乞うた。警視庁は一度ふたをした事件を蒸し返されると自分たちのメンツに拘わり責任を問われることになるから検察庁の要求を「選挙違反取締本部の解散」を理由に拒否した。
* 一方、竹入義勝氏は次席検事に面談し手加減を頼み込んだ。次席検事は警察が動かぬと言う以上、捜査は事実上できないので結局、送検された事案のみを起訴した。裁判に於いても組織的犯行であることを隠し、被告人への情状酌量を得るため巧妙なストーリーを作り弁護し全員に執行猶予判決を得た。
* これは特別に大規模な替え玉投票であり、通常の替え玉投票は全国各地でその後も盛んに行われ続けた。
* しかも、公明党が東京都議会に於いて大きな勢力を握って以来、警察予算と公安委員会人事を握ることになって警察は創価学会・公明党に頭が上がらなくなっていた。
* 一方に於いて創価学会は常習的な選挙違反とスキャンダルや不祥事をもみ消さねばならないという事情があり、両者の癒着によって警察予算の充実と公安員会人事が円滑に行われるために、創価学会がらみの事件がもみ消されたり隠蔽されるという癒着関係が成り立ち、公明党が政権与党になった現在は創価学会・公明党の警察に対する支配力は更に強まった。
* （懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p28-31参照）
* ***練馬事件***——昭和四十四年七月十三日、東京都都議会選挙投票日の当日、練馬第四投票所に当てられた豊玉第二小学校で事件は発生した。
* 午後六時の投票締め切り時刻数分過ぎに男女の二人連れが投票所に来て投票させるよう求めた。選挙管理委員会の立会人は「投票時間を過ぎ投票所は閉鎖され投票箱にはすでに鍵が掛かっているから」と法律を盾にこれを拒否した。二人は一度は立ち去ったがすぐに十数名の仲間とともに押しかけ選管の職員たちと口論になった。公明党代議士伊藤宗佑丸の秘書だと名乗る男らを含む群衆は数十名の規模に増え投票所内に乱入して選管の委員を押し倒し殴る蹴るの暴行を加え全員を土下座させ謝罪を要求した。群衆は言うまでもなく全員が創価学会員であった。主犯は市川雄一であった。
* こうした騒乱状態は午後十時まで続き、この間、群衆は指揮者を中心に気勢を上げたり「お前らはもういいかげん長生きしたのだから、ここらで死んでもいいだろう……」などと脅迫を続けた。警察官も五十人以上現場に駆けつけはしたが（それも署長が現場にいたという）どういうわけか何もせず選管職員の救出すらしなかった。
* 警視庁は端緒となった二人（投票要求をした関係上、身元が割れている）だけを調べ、後は捜査を放棄して故意に迷宮入りとした。明らかに事件をもみ消したのである。主犯である市川雄一は数年間、地下に潜ったのち。公明党国会議員として復活した。
* この事件も竹入義勝氏が警視庁首脳に会い頭を下げて頼み込んでもみ消された。
* （懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p32-9参照）
* （Ｆ活動ノイローゼ自殺事件）愛知県豊田市の支部長は、昭和五十八年二月、Ｆ取りのノルマ達成と、地域外からの応援部隊の受入れ体制の準備に疲れ切り、灯油を頭からかぶり焼身自殺した。
* 選挙のたびに毎回複数の人が交通事故で亡くなったり、身体障害になったり、交通事故で相手を殺したりしていることは聖教新聞および公明新聞では決して報じられない。一般に学会員の運転は荒い。精神疾患を疑わせるほど荒い運転をする創価学会員がよく見られる。最近は大型バスでの移動が勧められるようになってきた。創価学会がバスを借り切って東京まで行ったりしている。
* 衆議院選挙、参議院選挙、東京都都議選、この三つは以前より交通事故多発するものとして注意されてきた。最近は大型バスでの移動が勧められるようになってきたとは言え、自家用車で行く学会員は多い。交通事故で相手を殺し裁判沙汰になると相手の創価学会への憎悪の念は凄まじい。これは創価学会専門の弁護士事務所に勤めている弁護士から聞いた話である。
* 池田大作は選挙運動が広宣流布を大きく阻害していることを知らないのだろうか？　学会員は選挙運動で疲れ果て、折伏を行う余力が無いようになっている。また、選挙運動さえしていたら折伏はしないでも良いと思ってしまっている学会員が非常に多い。選挙運動は創価学会の活動の一部に過ぎないという認識が一般の会員には欠けている。何故なら、懸命に力果てるまで選挙運動を行わさせられるために会員はそう思ってしまわざるを得ない。また、幹部もそういう指導を行っている。第一、池田大作が同時放送などで選挙至上の考えを会員に徹底させている。
* 創価学会は公明党を丸抱えにし、支配していながら“政教分離している”と嘘を平然とつき、そして会員を組織を上げての“戸別訪問”などの“集団選挙違反行為”に駆り立てている。
* わけの分からぬおばさんたちや青年を「広宣流布のためだ！」「一票取るのも一人折伏するのも同じで、功徳がある」と言ってしゃにむにハッパを掛けるから見境のない戸別訪問の“人海戦術”が繰り広げられる。
* 選挙になると会員たちは毎朝、早くから会館や拠点に集まり、“お題目”をあげ、歌や勝ち鬨で気勢を上げて戸別訪問に繰り出す。当然、選挙違反として摘発されることになり、選挙のたびに大量の検挙者を出す。
* これら選挙違反で捕まった会員には、以前は「功労賞」が贈られた。もちろん、裁判費用、弁護士費用は一切、創価学会が負担した。
* 一般家庭のおばさん達や訳の分からない青年達が大っぴらに戸別訪問をやるものだから、捕まることも多く、そして捕まると“誰から指示された”と簡単に喋るから班とか支部が丸ごと芋づる式に摘発されることも少なくなかった。
* （創価学会・公明党の犯罪白書：山崎正友：日新報道：２００１：p15-6 参照）
* 昭和四十年の三重県での選挙違反事件では、多数の逮捕者から“芋づる式”に候補者・小平芳平氏（元参議院議員）まで逮捕されかねない状況だった。
* この時は、竹入義勝氏（当時、公明党都議団長）、和泉覚氏（当時、参議院議員、参議院法務委員長）らが、検察や警察に圧力を掛けまくり、何とか候補者への波及は食い止めた。
* その後、公明党が衆議院に進出し、また、東京都議会でキャスティングボードを握ってからは、警察は創価学会の戸別訪問に対する摘発を手控えるようになった。
* よほど目に余るものは摘発するが、それも、組織の上層へ追及の手が伸びると言うことは全くなくなった。
* （創価学会・公明党の犯罪白書：山崎正友：日新報道：２００１：p16-7 参照）
* 東京都議会選挙だと、東京都内に家や部屋を確保して、そこに拠点を造り、“土産物”を大量に送りつける。各県から組織的に送り込まれた会員は、その拠点に立ち寄り、“土産物”を受け取ってから戸別訪問に歩き、手土産の品を置いてくるのである。
* 戸別訪問の罪だけでなく、立派な買収事件であるが、それが県単位に組織的に行われる。創価学会はまさに“選挙違反組織”であり、公明党は、創価学会あげての選挙違反で維持されている、といっても過言ではない。
* （創価学会・公明党の犯罪白書：山崎正友：日新報道：２００１：p21 参照）

* ***池田大作に信仰心は無い***
* 池田大作に信仰心は無いことは本山での勤行のとき池田大作が足を痺れさせ苦しんだ事件から推測されてはいたが、原島嵩氏の造反、および池田大作邸の元家政婦の証言で明らかになったことである。
* 池田大作邸の元家政婦は池田邸の仏壇が余りにも汚れているため不思議に思っていたが、結局、家政婦として働いている間、一度も、池田邸で勤行する声を聞いたことがなかったという。この家政婦はこのことにより創価学会に疑問を抱き脱会し法華講に入っている。
* 原島嵩氏も池田大作と一緒に勤行をしたことは大きな会合以外では無かったと証言している。そして「俺の代わりに勤行しておけ！」と何回も言われたそうである。
* 新婚当初、かね夫人が池田大作に何故、勤行をしないのかと聞いたら「俺は特別だから」と答えたことは有名である。
* 一度、池田大作が夫人とともに勤行している写真が大白蓮華に大きく載っていた（八年ほど前？）が、その写真をよく見てみよう。池田大作のズボンが限界近く張り切っており完全に正座ができていない。すなわち座りきれてない。勤行を習慣的に行っているとズボンは延びて完全に正座できるようになる（座れるようになる）。
* 例え、急に勤行している場面を写真で撮ることになったとしても、ここは池田大作の自宅である。自宅ならば、皺ができないように、いつも勤行のとき履いているズボンに履き替えるものである。それでないと一度で純毛の高級なズボンは外出用には履けなくなってしまう。池田大作のズボンは全てオーダーメイドの最高級品で一本四十万円もすると言われる。
* つまり、池田大作には信仰心はない。池田大作にとって創価学会の名誉会長という職は金儲けと自己満足のための仕事である。それは本山より特別に頂いた御本尊を大きな会合のとき、汚れた手のまま無造作に箱より取り出し、折り曲げたりしながら、そして唾を御本尊に飛ばしながら聴衆に見せびらかしたことでも解る。普通ならおしきみを口にくわえるか、口を固く閉ざして行うものである。あの場面ではおしきみは無かったから、口を固く閉ざして行うべきであった。しかし、御本尊を見せびらかすという行為がおかしい。御本尊は見せびらかすものではない。

* ***政教一致***
* 戸田先生の時代、地方議会と参議院に限定し、政党も造らなかった。当時、創価学会の候補は「無所属」で出馬していた。それは「政党を作り、衆議院に進出することは権力を目指すと言うことだ。創価学会が政治の場に進出したのは、権力を目指すのではなく、あくまで仏法によって政治を浄化することが目的なのだ」という戸田先生の方針だったからであるが、戸田先生の死後、第三代会長に池田が就任した１９６０年以降は、戸田路線を放棄し、「天下を取る」の野望の下、「王仏冥合」を政教一致による「権力奪取」という意味に拡大解釈し、１９６４年には公明党を結成し、１９６８年には衆議院進出と突き進んでいった。
* 創価学会の会館が選挙の時、選挙運動に利用されていることは良く知られている。選挙のときは創価学会会館での会合時、公明党で出馬している人が来る。また、選挙期間中は創価学会の会合は実質上、選挙運動一色になる。私はそれが厭で、選挙の時の会合には仕事を理由に参加しないことが多かったほどである。選挙の時の創価学会の会合では宗教の話はほとんど無く、選挙活動の様子を一人一人に語らせる。
* 選挙活動をしていない人は選挙直前の創価学会の特に小さな会合にはとても出られたものではない。
* 選挙が何故、大事なんだ。公明党は何をしている。ほとんど何もしていないではないか。政治が少し良くなっても宿命で苦しんでいる一人一人は救われない。 宿命で苦しんでいる一人一人を救うためには日蓮大聖人さまの信仰をさせるしかない。折伏しかない。それは御書を読めば解ることではないか。
* 立候補している議員の人も投票日は創価学会会館の一部屋に集められ朝から夕方の投票締め切りまで唱題を強制的に熱烈に行わさせられる。熱烈に行わないと激しい叱咤が飛ぶ。ある議員はこのことに納得がいかず、創価学会を去り法華講へ家族ごと入った。
* 公明党が池田大作の私党、すなわち池田党であることは常識化している。公明党の政策は池田大作の思いつきで左右されている。池田大作が死んだとき、公明党は自由になる。しかし池田大作はなかなか死なない。池田大作が死ぬと学会員の選挙への士気は大きく低下し、得票数が大きく減少することは「池田大作のために選挙をしている創価学会員」が非常に多いことから容易に想像できる。同時放送で池田大作は「公明党が第一党になりなさい」などと狂気の言を吐いている。
* 前回の（第二十一回参議院選挙）のとき公明党は大敗北したが、そのときの聖教新聞では第四代北条会長、第五代秋谷会長を悪し様に批判するとともに、新任の第六代原田会長が「もう一歩深く師匠をお守りする責務を果たす戦いをすべきだった！　本当に申し訳ない」と自己批判していた。最近、第四代北条会長、第五代秋谷会長が裏切り者と同じように創価学会員に批判されていたのはこのことだったことを後で気付いた。何故、最近、第四代北条会長、第五代秋谷会長が裏切り者と創価学会員に批判されているのか、このことを知るまで解らなかった。
* 創価学会の人、選挙運動していて「虚しさ」や「こんなことして何になるんだろう」という焦燥感に駆られたりしませんか？　宗教が政治権力を握ると必ず悪行、腐敗は生じることは欧米の歴史を見ると解ることである。魔女裁判が盛んに行われた。残虐の極致とも言える魔女裁判である。世界史を勉強したことのある人なら解ることである。自分も以前は創価学会だったですけど、選挙になると腹立たしさや虚しさに襲れてたまりませんでした。男子部には選挙ごとに胃潰瘍になって入院する地区リーダーもいた。

* ***池田大作の虚構***
* 池田大作の女性関係は凄まじい。このことは悪いデマであると最初は思っていた。しかし、それは真実であることが次第に解ってきた。
* 例えば、ブラジル創価学会ではシルビア斉藤が責任者であったが、シルビア斉藤の夫人は池田大作との関係を隠すどころか、それを誇らしげに見せたことで有名である。そのためにブラジルでは創価学会から法華講への転向が非常に多く現れた。聖教新聞などではもちろん、１９９０年頃にシルビア斉藤の夫人が死亡したことを報道しなかった。また、シルビア斉藤の夫人が死亡して数年後、シルビア斉藤はブラジル創価学会の責任者の地位を追放された。これはブラジル創価学会が追放したのか、池田大作が追放したのか、真実は解らない。
* 全国各地にある学会施設には池田専用の極めて豪華な部屋（その学会施設の半分以上の費用を掛けている。その施設の掃除は信仰堅い女子部幹部に任せられていたが、あまりの豪華さに疑問を抱き、創価学会より離反していった女子部幹部は多い）が造られており、そこに泊まるときには必ず学会幹部の夫人、または第一庶務の女性を伴い奉仕させていた。学会幹部の夫人ということが納得がいかなかったが、それら夫人は池田大作のお下がりであり、お下がりと結婚すると学会内での昇進は約束されるそうである。二十九歳で亡くなった池田大作の次男も池田大作のお下がりとの結婚を強制され結婚したが、その煩悶の末に胃潰瘍となり「胃穿孔」を起こし死亡したと言われる。
* 「池田大作の女性関係は凄まじい」のがこれほどであることは信じ難いが、真実であるようだ。宗教者としては完全に失格である。これではノーベル平和賞は絶対に貰えない。
* 昭和四十九年から翌年にかけて「月刊ペン」誌上で編集長である渡部大蔵氏が創価学会批判を行ったが、それは池田大作の女性関係にまで及んでいた。この池田大作の女性関係は真実であり、創価学会側は笹川陽平氏（笹川良一氏の三男、船舶振興会理事長）に相談し、三千万円を渡部大蔵氏の弁護士に渡し買収に成功した。しかし渡部大蔵氏はどのように金額を積んでも頑なに拒否した。そして裁判は弁護士から裏切られた渡部大蔵氏の執行猶予付きの懲役刑となった。
* 渡部大蔵氏はこの裁判を不服として上訴中、病に倒れ死亡した。しかし渡部大蔵氏の死後、藤原行正氏などの造反が起こり、彼らが証言台に立ち、池田大作の女性関係が真実であることが裁判に於いて立証された。
* （「月刊ペン」事件　埋もれていた真実：山崎正友：第三書館：２００１）
* （法廷に立った池田大作——続「月刊ペン事件」：山崎正友：第三書館：２００１）
* この女性関係は凄まじく、日本全国だけで二十名を軽く超えていたという。一部を書くと、公明党の参議院議員となった二人の女性は池田大作の愛人であった。渡部一郎は自分の女房を愛人にされ、腑の煮えくりかえる思いであったと思われるが、耐えて公明党の参議院議員となることができた。もちろん、夫婦仲は冷え切っていた。
* 全国各地にある学会施設には池田専用の極めて豪華な部屋へついて昭和五十二年、民社党の春日一幸氏から竹入義勝氏宛に一通の手紙が届いた。このことを国会に於いて追求するという内容であった。九州の霧島では国立公園の真ん中に法律を無視して施設を造っていた。これは愛知県渥美半島、北海道、広島でも同じようであった。広島では税務署が池田大作の豪華設備について「宗教と関係ないから課税する」と言ってきていた。急遽、これら池田専用の極めて豪華な設備を解体する作業が行われた（この解体作業に費やした費用も莫大であった）。結局、創価学会が「選挙で票をよこす（公民選挙協力）」と約束し、民社党は追及を行わなかった。
* 昭和四十五年の言論出版妨害事件で池田大作は周囲が驚くほど国会喚問に怯えていた。何故それほど怯えるのか周囲も納得がいかなかった。
* 池田大作は国連から多額の寄付の見返りに「平和賞」を手に入れた。金に目のくらんだ学者や文化人と聖教新聞や「潮」誌上で対談し（新聞などに発表される内容はゴーストライターが作る。池田大作は会って下らぬ雑談をするだけである。これは youtube を見ると解る）あげくの果ては小国の元首や実情を知らない外国の皇室や外務省を引っ張り回して自己宣伝に利用する。
* フランスでは政府首脳の家族が関係する財団への寄付などの工作がマスコミに騒がれ、ドイツでは大統領が池田大作と会ったことに対する世論の反発が表面化した。
* 南米ブラジルでは長い間、池田大作は入国を拒まれていたが、麻薬王であったノリエガ将軍の斡旋などで入国できるようになった。しかし、マスコミ始め各方面に大金を配ったことが、ある邦字紙にすっぱ抜かれた。
* 池田大作は何としてもアメリカ大統領との会談を実現しノーベル賞へのステップにしたいとの考えを持っていたがレーガン、ブッシュ、クリントン各大統領とも池田大作との会談を拒んだ。公明党の黒柳氏がアメリカへ渡り池田大作とレーガン大統領の会談実現の努力をしたが無駄に終わったことは有名である。
* 他にもある。
* フランスでは東京ドームの五倍の広さを持つアルニー城という古城を八十億円で買収した。イギリスではロンドン郊外の古城を十八億円で買収し、実質的な池田家の海外別荘とした。これらのことは「宗教団体が何故、そんなことをする？　難民キャンプに寄付するべきではないか！」として欧米で激しく非難されてある。
* こうした池田大作の悪名は「ニューズウィ−ク」「インターナシショナル・ヘラルド・トリビューン」紙などで報じられ、その公私両面に渡る非行は海外にも広く知られている。
* 池田大作がピアノの名手と思っている人は婦人部、女子部には少なくない。これはその頃、出来たばかりの自動演奏を使い、池田大作は指を適当に這わせていただけなのである。
* また、池田大作がカメラを目で見ないでプロ並みに撮る、おなかで撮る、ことは有名で池田大作の写真展も開かれていた。これは後で聖教新聞社のプロのカメラマンが池田大作の後ろから撮っていることで判明したことであるが、これもやはり代作であった。
* 池田大作の名誉教授などの買い漁りは学歴コンプレックスから来ている。学会員から巻き上げた財務を自身のコンプレックスのために惜しげもなく使う。池田大作はコンプレックスの固まりのような人間である。家系も武士由来と嘘を語る。実際は少なくとも五代は続く東京の海苔職人である（懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p100-1 参照）。
* インターネットでは、小学生の頃、父親から韓国語を教えられており、在日朝鮮人と言われている。
* 正本堂落成のとき、ローマからカトリックの司祭が来ていたが、ノーベル平和賞を取るためにはローマ法王と友好関係になければいけないということからの演出であった。日蓮正宗は謗法厳戒の宗教である。正本堂落成といえどカトリックの司祭を呼ぶことは許されない。これが後の正本堂解体の一つの要因になったと思われる。
* 池田大作は海外から名誉学術称号を二十個以上貰っているが、講演したものの称号が与えられなかった大学は、ハーバード大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、コロンビア大学、フランス学士院などがある。ハーバード大学では二回も講演を行っているが称号は貰えてない。お金に困っていない大学からは貰えない。
* ハーバード大学での講演のビデオがあった。聴取者は居眠りをするものが多く、席もまばらであった。講演の間中、池田大作は原稿とにらめっこし、顔を上げない。自分が書いた原稿でないから読むことさえ困難であったのであろう。内容は理解できないで口を動かしていたはずである。池田大作はずっと原稿とにらめっこをしながら口を動かすが、欠伸をする者、居眠りをする者が多くビデオに映っていた。講演の途中で退場する者も多かった。講演が終わるとほとんど拍手はなく、ほとんどの人は時間を損したという表情で帰って行っていた。
* 池田大作はタゴール平和賞やアインシュタイン平和賞を受賞しているが、このどちらの賞も池田大作以外に受賞した人はいない。つまり、この二つの賞は池田大作だけのために造られた賞である。どのくらいの金額が掛かったのかは不明である。
* スペインＳＧＩの責任者は「スペインの大学に行って池田大作に授与する賞を貰ってこい！」と日本の創価学会本部から指令を受けたと告白している。つまり各国のＳＧＩは池田大作顕彰のための斡旋機関でもある（スペインは国ごと宗門に寝返った。国ごと寝返ったのは他にガーナがある）。
* 池田大作は嘘の名人である。これは戦後のどたばたの中で暴力団で借金取り立てを手伝っていたときに身についたものと思われる。戸田先生からの「エレベーター相譲」などその嘘は上げれば限りない。

* ***宮本邸電話盗聴事件***
* 宮本邸電話盗聴は創価学会攻撃の急先鋒である日本共産党対策の一環として行われた。始めは日本共産党本部を盗聴する予定であったが日本共産党の本部は警戒が強く盗聴不可能と判断し、急遽、宮本邸へ変更された。宮本宅は信じられないほど警備が手薄であった。
* 池田大作の承認のもと、当時ナンバー２であった北條浩副会長の決済で、公明党の陣中見舞金（政治献金である）をごまかして造った裏資金（一千万円余り）の提供を受け、山崎正友が学生部幹部数名ほど（中心者は広野照夫と竹岡誠治だった。二人とも現在は創価学会大幹部である。竹岡誠治はＮＴＴドコモ事件をも起こしたことで有名である。竹岡誠治が宮本邸の前の電柱に上り、盗聴器を仕掛け、また新しい盗聴器に交換することも彼が行い、盗聴器を取り外すことも彼が行った。彼はそのため創価学会に於いては非常に重用された）を動員して行った。昭和四十五年五月から約三ヶ月間にわたって行われたこの作戦では二、三の重要な会話の盗聴に成功したものの第二の盗聴器の不調によって発覚し、共産党は東京地検に告訴した。共産党は公安の仕業と考えていた。山崎正友の内部告発がなかったら事件は迷宮入りしていた。
* 盗聴のアジトは学生アパートであった。新しい盗聴器に交換することを行わなかったなら、この電話盗聴は相手に気付かれることなく完全犯罪となっていた。新しい盗聴器の動作不良で相手に気付かれたのである。盗聴器を作成したのは学生部班長で松本篤であった。始めの盗聴器が良好に作動していたにも拘わらず雑音を異常に気にし、盗聴器を交換しないと雑音で気づかれてしまうと考え、新しい盗聴器に交換するというミスを犯す素人の盗聴軍団であった。山崎正友が雑音を異常に気にし、それを広野照夫も異常に気にし始め、盗聴器作りができる松本篤に盗聴器をもうひとつ造らせ、竹岡誠治を再び電柱に上らせて取り替え作業を行うという誤った判断をしてしまった。
* この刑事告訴は犯人不明のまま（おそらく公安の仕業と言うことで）迷宮入りとなったが五十五年八月、山崎正友氏の内部告発手記を契機に日本共産党は北條浩氏らを相手取り損害賠償請求を起こし事件は最高裁まで持ち込まれた。結果は、日本共産党側の完全勝利に終わり昭和六十年四月、東京地検裁判所は北條浩の遺族へ百万円の損害賠償、山崎正友、広野照夫、竹岡誠治には各百万円の支払いを命じた。創価学会側の被告は最高裁判所に上告したが途中で上告を取り下げ損害賠償を一方的に支払った。内部告発手記を発表した山崎正友は宮本氏側から損害金の支払いを免除された。
* （再び、盗聴教団の解明：山崎正友：日新報道：２００５：p80-95 参照）
* 以後、創価学会（池田大作）はこの盗聴事件に味を占め、盗聴・電話盗聴・監視・尾行を頻用するようになる。また、スパイの送り込みなどあらゆることを行うようになった。こうした活動は次第にエスカレートし、創価学会に批判的なジャーナリストや文化人、政治家などの身辺調査（スキャンダルや人間関係）を行い、いざというときに備えるようになった。

* ***熱心に信仰すると不幸になる***
* 一家の中でただ一人、信仰を貫いてきた夫人が大型トラックに轢かれて死亡した。非常に熱心であり、折伏弘教もしてきた人である。大型トラックからの轢かれ方は残忍であり、一度轢いた上にもう一度轢いている。内臓や眼球が飛び出し無惨な姿であった。一生懸命、商売（お菓子などの小売業）にも励んできた人であったが、商売も人手に渡し、パートの仕事を見つけて働いていた。しかし、以前の商売での借金がたくさんあり、一家離散寸前であった。御本尊は創価学会の“魔”の御本尊に取り替えていた。池田大作を神様のように慕っていた。選挙運動は選挙違反を遙かに通り過ぎるほど行っていた。学会活動にのめり込み、信仰に反対の夫、子供を顧みないでいた。そのため家庭内喧嘩が絶えなかった。私はそこの息子と友人であった。
* ある地方の草創期からの中心的存在者である家庭の子供三人（娘二人、息子一人）が非行化した。家は草創期から座談会の拠点になっていた。娘二人は子供を妊み産む。息子は暴走族として暴れている。
* 創価学会の家庭は創価学会の活動が忙しく家庭のことに構う時間が無く子供が非行化することが多いと言われるが、両親は決して子供の教育に怠慢していたわけではなく、学会活動で忙しい中、時間を見つけては子供と接してきた。しかし、非行化してしまった。
* これは池田大作が呼び込んだ悪鬼の大集団のためと思われる。
* 創価学会の家庭は創価学会の活動が忙しく家庭のことに構う時間が無く子供が非行化することが多いということは、理由の何割かに相当するのみのことと思われる。創価学会の子供は余りにも高い確率で非行化している。それは悪鬼の唆しに依る。
* 【第１章】で示した「霊の姿が見える小学四年生の少女」症例も一族が熱心な創価学会員である。

* ***偽りだらけの体験談集***
* これは女子部・婦人部の体験談集に多い。女子部の体験談集には、生まれたときから目が一つだった女性が創価学会の信仰をするようになって目が二つになったという驚異的な体験談があったが、そういうことは起こりえない。
* 事故で切断した足が創価学会の信仰を始めて切断した足が生えてきたという体験談もあったが、そういうことは起こりえない。
* 生まれたときから両手が無かった女性が、創価学会の信仰を始めると両手が生えてきたという体験談もあったが、そういうことは起こりえない。
* 生まれたときから両手足が無かった女性が、創価学会の信仰を始めると両手足が生えてきたという体験談もあったが、そういうことは起こりえない。
* 生まれたときから両手の指が無かった女性が、創価学会の信仰を始めると両手の指が生えてきたという体験談もあったが、そういうことは起こりえない。
* 私はこれらの体験談を中学一年のとき読んで大変感動し友人にも読ませ友人も大変感動していたが、大人になって読み返すと、それが嘘であることを見抜いた。

* ***うつ病性障害、パニック障害異常多発の現在の創価学会***
* 第二部で書いたことの補足になるが現在は創価学会にうつ病性障害が異常多発している。創価学会に異常多発しているから社会的にもうつ病性障害が多発していると思われていると言っても過言ではない。ある大学病院の医師は「“うつ病外来”の半分は創価学会で半分はキリスト教」と言う。筆者の友人の精神科医も「パニック障害とともにうつ病性障害があまりにも創価学会員に多過ぎる」と言う。
* これは池田大作が創価学会に招き込んだ無数の悪鬼に依るものと思われる。池田大作が亡くなるとともに池田大作批判が十分に行われると、その悪鬼の集団は去ってゆく可能性は高い。しかし、批判が十分に行われないと悪鬼は留まり続けるであろう。このうつ病性障害、パニック障害は熱心な池田教信者に多く、熱心でない池田教信者には少ない。それも日寛上人の“魔”の御本尊に祈っている池田教信者に極めて多く、日達上人の御本尊に祈っている人には少ない。
* そして 日寛上人の“魔”の御本尊に祈っている池田教信者は寛解し難く、十年、二十年と長引くことが多い。私も日寛上人の“魔”の御本尊に熱心に祈っていたが故にうつ病性障害に罹患し、寛解と再燃（再発）を繰り返しながら十年続いたが、“魔”の御本尊ということに気付き、その“魔”の御本尊に向かい題目三唱も勤行唱題も全く行わなくなってから再燃（再発）はない（これは、改革派の自覚を持ったのと時を同じくしている）。日蓮正宗法華講にうつ病性障害など精神障害が発生したことは知らない。
* 少なくとも創価学会はうつ病性障害など精神障害の発生が異常に多い。誤った宗教団体に属し、誤った信仰をすると精神障害が発生するのであろう。

* ***創価学会は池田大作のために破滅への道を歩んでいる***
* 池田大作が「南無妙法蓮華経」を商標登録出願し特許庁から失笑を買ったことを知る人は少ない。池田大作の信仰心とはその程度なのである。信仰を利用し金儲けをしようという考えで一杯なのである。また、この商標登録出願は宗門を創価学会の支配下の置くための策略でもあった。最近、情報を得たが創価学会（池田大作）は三度目の「南無妙法蓮華経」の商標登録出願をするということである。金の力で動かそうという考えと推測される。
* 「五十二年路線」では池田大作は日蓮正宗から分離・独立するぞ！という脅しをかけ、池田大作が宗門の頂点に立つという魂胆があった。そのために独自の御本尊、教本までも製造し、全国の学会会館を寺院とし僧侶も任命する体制がほぼ出来上がっていた。日蓮正宗を無視し創価学会の信仰にこそ大功徳があるという増上慢ぶりであった。
* 池田大作は自分を生き仏とし、創価学会を日蓮正宗の上に置く。池田大作は本気で「現代の生き仏」になれると信じていたのである。これは池田大作の自己愛性パーソナリティ障害（Narcissistic Personality Disorder）と妄想型統合失調症であった。
* ここで日達上人は遂に堪忍袋の緒を切らし池田大作（創価学会）を日蓮正宗から破門すると決断された。ここに来て池田大作は始めて目が覚め、狼狽し、お詫び登山となった。破門になるのは少し時期が早過ぎた。
* かつて、創価学会が日蓮正宗の信徒団体として東京都から宗教法人の認証を受けるために提出した規則の第３条を見ると、
* 「この法人は、日蓮大聖人御建立の本門戒壇の大御本尊を本尊とし、日蓮正宗の教義に基づき、弘教及び儀式行事を行い、会員の信心の深化、確立を図り……」
* と書いていた。日蓮正宗の一信徒団体に過ぎなかったその創価学会が、結局は池田氏の事実上の個人教と化したのだから、その変転に驚くのは筆者ばかりではあるまい。(山田直樹：創価学会とは何か：新潮社、２００４，p176)
* すなわち創価学会は宗教法人の認証を取り消されるべきではないでしょうか？？　宗教法人の認証は東京都の管轄だから創価学会はこのためにも都議選に非常に力を入れるのでしょうか？？
* しかし、池田大作の宗門からの独立路線は進み、平成三年の破門へと進む。このとき大量の脱会者（日蓮正宗法華講への移転者。約三万人と言われる）が出た。このときより創価学会は一つの新興宗教としての道を歩み始める。この破門は創価学会がわざと仕掛けたものであった。自分が頂点に立ちたいという池田大作の野望（自己愛性パーソナリティ障害または妄想型統合失調症）故であった。
* この後、池田大作は創価学会より宗門に移った会員を引き戻す強引で激しい運動を展開した。それは会員の家庭破壊は構わないという非情さであった。筆者もその脱講運動（日蓮正宗法華講より創価学会に引き戻す運動）で離婚に至った例を幾例も経験した。
* 独立路線として全国の墓園造りは有名である。これは創価学会の信者として繋ぎ止めておくための策略でもあった。墓園を造った後、宗門に贈呈するということは始めより欺瞞に過ぎなかった（墓園を作ることを決定した頃、すでに創価学会は宗門から独立することを決定していた）。この墓園造りで創価学会は多額の収入を得た。土地代も含めて十五万円掛からない墓を百万円近くで販売した。福岡の国会議員（大橋氏）が何の縁故もない北海道の墓を買わされたことを暴露した話は有名である。多くの場合に於いて墓は墓の購入者の住むところより非常に離れており、そんな遠くまで墓参りには行かないと思われる。
* 高速道路で十時間は普通。筆者の家も妻が強引に高速道路で八時間の処の墓を九十五万円で買った。誰も入らないと思われる。これは詐欺罪になると思われる。
* この墓園は財務で集めたお金で造った。つまり、創価学会は二重に儲けたことになる。純粋な創価学会員は二重に搾り取られたことになる。池田大作はお墓は多数持っていた方が良いと同時放送で言い放っている！　お墓は多数持っていたらお墓参りが大変になることを池田大作は考えないのだろうか？　池田大作の父親の墓は謗法の他宗の墓であることは有名である。
* 創価学会の墓を買おうとする婦人部と、創価学会の墓は必要ないという壮年部の喧嘩は非常に多く、その仲裁には非常に苦労した。百万円近くの墓を購入することは普通のサラリーマンの家庭では非常に困難である。それを婦人部は夫に無断で購入している家庭が多い。勝手に生命保険を解約したりして購入している。しかし、サラ金まで至った例は知らない。
* このことによる離婚騒動は数多くあった。創価学会より法華講に最近移った人は皆、百万近く出して購入した墓を転売できないかと考えている。大謗法の墓には絶対に入らない。その墓は地獄の墓である。それより先祖代々の墓に入った方がずっと良い。
* 筆者の家も現在このことで非常にもめている。妻の実家は別に遠方の墓を購入している。高速道路でもとても行けない遠いところである。飛行機でなければ行けない遠いところである。
* 会館まで電話して問い合わせたところ、購入したものは払い戻しできないと断られた。しかし、多数の人達が立ち上がれば、購入した墓の払い戻しも可能になると思われる。
* 親兄妹、先祖代々の墓に入りたいのが普通の信条である。縁もゆかりもない墓へ入ることは通常、考えられないことです。
* —————————————————————————
* ００県００市
* 創価学会文化会館殿
* 私の家は００県に創価学会の墓を購入しましたが、それは妻が勝手に購入したものであり、その墓に入ることは決してありませんので、早急に払い戻すことをお願いします。
* 騙して取った金を返せ！
* 返さなかったら自分と同じ考えの人が数人います。
* また、インターネットで募集するとたくさんの人が集まると思われます。訴訟を起こします。
* これは必ず週刊誌が飛びついてきます。訴訟が起こる前に払い戻すことが賢明と思われます。
* 返事は必ずしろ。複数の週刊誌および国会議員にメールを出す準備は既に整っています。数人の同士で結束しています。
* 電話では喧嘩になるのでメールを希望する。

* ００県００市００町　　三船敏郎
* tel ００００−０００−９９９９
* メール：[vvv23274@yahoo.co.jp](mailto:mmm23246@yahoo.co.jp)

* ————————————————————————————

* ***池田大作と文鮮明***
* ここで池田大作と統一協会の文鮮明との類似点をあげる。
* 二人とも諸外国より名誉博士号、名誉市民賞などの勲部漁りが激しい。現在は、文鮮明の方が数が多い。その権勢欲・名誉欲の凄まじさは酷似している。
* しかし、仏法では「名聞名利」を強く戒められている。第九世日有上人の「化儀抄」には、
* 「一、名聞名利は世事なり。仏法は自他の執情の尽きたる所なり。出家して此の心有る時は、清浄の仏法を盗んで名聞名利のあきないになす処は仏法を盗むなり。厳に然るべからず心中なり。尤も嗜むべし云々」
* とある。「法盗人」とまでも厳しく言われている。池田大作の場合も勲部の数を誇り世界各国から名誉称号を数多くもらっていることを自慢の種にしていることは「名聞名利」そのものであり、それは「世事」であって、しかも世間的には卑しいことであり、仏法とは全く無関係である。しかも、そうした称号を得るために会員から収奪した金を利用していることは「法盗人」であり、世間的にも醜い根性の見本みたいなものである。
* 池田大作の支配欲の凄まじさも上げなければならない。池田大作は学会員を奴隷のように扱っている。池田大作は「私のために死ねる人間」「私のために死ねない人間」と幹部を色分けし、池田大作のために死ねるという人間だけを重んじてきた。
* 創価学会のみに留まらなかった。日蓮正宗までも支配下に収めようとした。それは正本堂以後顕わになり、日達上人を悩ませることとなった。
* さらに日本国家支配を長年目指していた。若い頃からの「天下を取ろう」が口癖であり、創価学会の「総体革命」もその路線そのものである。
* さらに、池田大作は慢心の固まりである。「私には日本の中に語り合える人はいない。世界的に著名な人のみを相手にする」「私の記憶力は抜群だ。そうでなければ三十年前の「人間革命」など書けるわけがない（「人間革命」は故・篠原善太郎氏の代作。創価学会本部会館に勤めている人たちの大半はそのことを知っていることを池田大作は知らないで居た。もう一度書く。創価学会本部会館に勤めている人たちの大半はそのことを知っていることを池田大作は知らないで居た）」「中曽根康弘はこちら（創価学会）の小僧だ。ケネヂィ気取りで、よしよしと言っておいた」「トインビーは過去の人で、また机上の空論の人だ。私は実践の人だ。そう、トインビーにも言っておいた」このような池田大作の発言を受けて「聖教新聞」では「世界の偉人」といったマハトマ・ガンジー、キング博士、アインシュタインなどの人類の「偉人」を数多く並べ、それらの人々の偉大さを全て備えた「偉人」として奉っている。
* 池田大作も文鮮明も人を信じることができない性格である。誰をも信じることができない故に 池田大作も文鮮明も「自分のために死ねる人間」を周囲に集める。
* ともに成り上がりの独裁者である。ともに諸外国からカルト指定されている。ともに自己愛性パーソナリティ障害（Narcissistic Personality Disorder）と妄想性パーソナリティ障害 (Paranoid Personality Disorder)に罹患している。どちらも妄想性パーソナリティ障害を超え妄想性障害、妄想型統合失調症（軽症）の可能性も高い。
* （相違点）
* 文鮮明は二十代に統一協会の思想的礎と成った極めて独創的な著作を書いている。しかし池田大作は何も書いていない。ゴーストライター軍団に多量の書物を書かせてきたのみである。
* 文鮮明は傑物であったが、池田大作は俗物であった。池田大作はどうしようもないお人好しの集まった創価学会のなかで一つの狐であった。肥った狐であった。
* 文鮮明はその超能力による合同結婚で有名である。若い男女を並べ、あなたはこの人と、あなたはこの人と結婚せよ、と告げてゆく。これが本当に霊的能力によるものか、単に霊的能力の真似をしているのかは解らないが、おそらく後者であろう。何故ならば日本人はその指名に全員が従うが、韓国人は半分が拒否をする。拒否をするということは運命的なカップルではないということであろう。
* 池田大作にはこのような能力はない。
* 文鮮明は現在の北朝鮮に当たるところから普通の人ならば死んでしまう拷問を受け、凍り付く戸外に放り出された。しかし、極めて頑丈な文鮮明は死なずに生き延びた。そして共産主義に対する激しい憎悪が文鮮明の心に根付いた。これが後に勝共連合を造ってゆく。
* 池田大作は昭和三十二年、選挙違反で警察に捕まったが全てを白状し釈放された。拷問は受けなかった。
* 【余記】
* 人間革命は東大卒の小説家志望だった篠原善太郎氏が書いたものである。池田大作はゴーストライター軍団を持っており、池田大作が書いたものは一冊もない（詩集が一冊あるという意見もある）。聖教新聞の寸鉄を書いていただけである。講演原稿も全てゴーストライター軍団によるもので、池田大作は内容も解っていなかったと思われる。池田大作は文学を嗜んでいたとなっているが（当時は文学が青年の数少ない娯楽であった）、実際は暴力団の貸金取り立てを手伝っていたチンピラ（ヤクザまでは行かないがヤクザの子分のような存在）であった（懺悔の告発：山崎正友；日新報道：１９９４：p105）。
* 同時放送に元チンピラということが見て取れる。キルケゴールと言っても何のことか解らないと思われる。
* 貸金取り立ての前歴を認められて小口の金融業（サラ金）を行っていた戸田城聖氏から雇われたのである。
* 池田大作（コモドドラゴン）はそのどうしようもないお人好しの集まった創価学会のなかで周囲を騙し、会長になることができた。その会長職を利用してこの世の栄華を極めた。それは一国の王以上と言っても過言ではなかった。日本全国に二十人以上の愛人を囲っていた。海外にもブラジルに公認の愛人がいた。
* 日本各地の研修道場に池田大作個人の部屋をその研修道場の半分の金額に近い金額をかけさせて超豪華な池田大作個人の部屋を造らせた。これはラブホテル以上のものであった。昭和五十二年、民社党がこのことを国会で追及すると公明党に手紙を出し、これらの施設は急遽、取り壊された。しかし、民社党の追求を選挙協力などで頓挫させると、再び、超豪華なラブホテルが造られ始めた。創価学会員のなけなしの広布基金などはこのことに使われていたのだ。
* 破門された池田大作は日顕上人に激しい憎しみを持っている。学会員はこの日顕上人のお顔を階段に貼って、その顔を踏みながら会場に入るという「踏み絵」を実行されている。このように学会員を狂気に駆り立てるのが池田大作だ。これが「世界の平和の先駆者」といわれる人物の正体です。
* 法の華三法行の教祖、ＧＬＡの高橋信二、オウム真理教の麻原彰晃、統一協会の文鮮明などは妄想型統合失調症と思われる。このように新興宗教の教祖には妄想型統合失調症が非常に多い。新興宗教の教祖で妄想型統合失調症でない例は少ない。

* ***創価学会の未来***
* 創価学会は二代会長・戸田会長の時代に戻すならば謗法も許容範囲内となり創価学会員も幸せになれる。
* ただし、戸田先生の時代も宗門への謗法が多かったことが最近、解ってきたーーしかし、これは学会青年部（フェイク）の作り事である可能性は高いーー。更に戸田先生は完全なアルコール中毒であり少なくとも地方で講演をするときはアルコールを飲んで講演をしていた。アルコール酩酊状態で講演をしていたこともある。そのために糖尿病性腎症により五十八歳という若さで亡くなった（当時は腎透析がなかった）。そして戸田先生は戦後、公の愛人を二人は持っていた。
* この公の愛人を二人持っていたことを池田大作は最近、首脳クラスの集まりで実名を出して非難している。池田大作も遂に老人ぼけが始まったかと思った最高幹部は多かったという。しかし、池田大作は未だに老人ぼけはしていなく、ある策略のためにそう言っている。戸田先生を低く思わせるためである。そして相対的に自分が高く評価されることを望んでのことである。
* また、宗門へ破門を解くことを願い出なければならない。池田大作の死後、藤原範昭氏が会長になり願い出たら、宗門も破門を解くことを許すのではないかと思われる。
* 二代会長・戸田城聖氏の最大の失敗は後継者を石田次男氏に指名せずに「みんなで話し合って決めること」と遺言したことにある。アルコール中毒の果てで亡くなったのだから判断力が低下していた可能性が高い。脳の萎縮は高度に起こっていたであろう。石田次男氏なら清浄な創価学会を保ち続けたと思われる。そして創価学会員は幸せになっていたと思われる。戸田会長が造った広宣流布への道をそのままに追従してゆけば簡単であった。戸田会長の死のとき創価学会は八十五万所帯にまで増加していた。なお、戸田先生は自分の息子を次の創価学会の会長に指名するということは行わなかった。池田大作のような世襲は考えてはいなかった。
* 創価学会員に不幸が次々に襲い起こるということがなかったならば広宣流布は成し遂げられていた可能性は高い。池田大作が衆議院への進出、公明党の結成などを行わなかったならば、広宣流布は成し遂げられていた可能性は高い。何故、池田大作は衆議院への進出、公明党の結成を行ったのか？　それは池田大作の「天下を取ろう」という醜い野心（自己愛性パーソナリティ障害）のためであった。衆議院への進出、公明党の結成をあと二十年待っていれば良かったのである。しかし池田大作は功名を焦った。また、池田大作が醜い野心の固まり、第六天の魔王であったために創価学会に悪鬼が雪崩のように入り込み創価学会員に次々と不幸なことが起こり、そして退転者が続出して広宣流布は頓挫した。
* 藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）は現在（平成二十二年）、四十九歳前後である。藤原範昭氏は学会本部に突然訪問して池田大作と直接談判したことがあることで有名である。池田大作は驚き怖れ逃げ出した。このときは大事な客賓とともに豪華な車に乗って学会本部に来たときであった。
* 大事な客賓を置いて池田大作は太った体を揺らしながら逃げ出した（池田大作の品格：小多仁伯：日新報道：２００７）。藤原範昭氏こそ創価学会を甦らせることのできる（宗門からの破門を解くことのできる）唯一の人材と思われる。他にそのような人材は見当たらない。現在、藤原行正氏および藤原範昭氏は暴力団（おそらく創価学会青年部であろう）に監視されて身動きのとれない状態にある。
* しかし、池田大作が亡くなったとき（創価学会Ｘデー）、我々、創価学会内部改革派憂創同盟は藤原範昭氏を担ぎ出し宮殿革命を起こす計画である（我々は非暴力主義を貫く）。その他に創価学会員を救う道は無い。藤原範昭氏が会長になると、創価学会に雪崩れ込んでいた無数の悪鬼は去ってゆき、創価学会員が幸せになれる日が来る。また、創価学会の犯してきた様々な謗法を正すときが来る。そして再び広宣流布への道が開始される。そのときは創価学会員に不幸なことが起こらないため広宣流布は容易いであろう。以前は創価学会員にあまりにも不幸なことが競い起こっていた故に退転者が続出し、また創価学会の信仰に疑いを持つ人が非常に多く、広宣流布は非常に難事であった。
* 宮殿革命（我々は非暴力主義を貫く）が不完全となり創価学会の分裂になる可能性は高い。創価学会の分裂になると家庭崩壊が至る所で起こる可能性がある。批判力、判断力のない婦人部は古い創価学会に付こうとするであろう。壮年部、男子部は新しい創価学会に付きたいが家庭崩壊を怖れ古い創価学会に白けながら残る可能性が高い。“魔”の御本尊しか持たない古い創価学会の方は不幸が続き、弱体化してゆく。宗門から正式な御本尊を受ける新しい創価学会の方は幸せになってゆき、会員は増加してゆく。

* ***“魔”池田大作の出現***
* “魔”池田大作はどのようにして現れたのか？　その謎を考えてゆく。
* “魔”の正体はある外典に詳しく書かれてある（十八世紀の霊能力者のスウェーデンボルク）。“魔”とは「人間の幸福を激しく憎み、人間の苦しむ様子を喜ぶ、外見は酷く醜い存在である」。
* 広宣流布の気配を感じ取った“魔”は「広宣流布を為させるまい」とその頃、創価学会に入会した池田大作の身に入り込んだ。そして戸田城聖氏の会社で働くように仕向けた。
* もしくは入会以前に池田大作の身に入り込み、創価学会に入会するよう誘導したのかもしれない。
* “魔”は池田大作に「この家には金がある」「この家には金がない」と感じ取る能力を与えた。および池田大作に借金を容赦なく取り立てる傾向性すなわち病気で寝ている老人の布団を匍いで持ってゆくことを何の容赦なく行わせる傾向性を植え付けた。そして金融業（現代のサラ金業である大蔵商事）に於いて池田大作を大成功させた。
* 池田大作は信じ難いことだが当時の平均の百倍近くの給料を得ていたと言われる。大蔵商事は歩合制であった。小説「人間革命」の「この冬もオーバー無しで過ごさなければならない」は虚構である。また、その金で、多くの創価学会大幹部を自分の味方につけ、第三代会長の座を石田次男氏より奪うことができたと言われる。
* また、極めて激しい燃えたぎる権力欲を池田大作に植え付けた。すなわち「天下を取ろう」が口癖の池田大作を造り上げた。その極めて激しい燃えたぎる権力欲は池田大作を成功へ導いた。その極めて激しい権力欲は他のどの青年部大幹部（藤原行正氏、竜年光氏など）よりも断然に勝っていた。惜しいことに次期創価学会会長の最有力候補だった石田次男氏は学究肌で権力欲が無かった。それ故に請われた創価学会会長の座を辞退したほどだった。
* その極めて激しい燃えたぎる名誉欲、権力欲は韓国の文鮮明に酷似している。文鮮明の場合は共産主義国家である北朝鮮から普通なら拷問死する激しい拷問を受け、凍り付く戸外に放り出されたが、極めて頑健な文鮮明は死なずに生き延びた。文鮮明には極めて激しい共産主義への憎しみが残った。その極めて激しい憎しみが統一協会（勝共連合）を造り上げ成功する原動力になった。文鮮明は名誉博士号や名誉市民賞などの勲章の数では池田大作に勝っている。
* “魔”は戸田城聖氏の身にも入り込み、酒癖耽溺（アルコール中毒）にした。戸田城聖氏が長生きしたら戸田城聖氏によって広宣流布が為されてしまうためだ。その為、戸田城聖氏を早死にさせようと“魔”は必死だった。アルコール中毒を克服させる気を起こさせないよう“魔”は懸命に暗躍した。
* 戸田城聖氏は昭和三十三年、五十八歳で亡くなったが、亡くなった時、創価学会は八十五万所帯に達していた。戸田城聖氏によって万全とレールは敷かれ広宣流布は軌道に乗っていた。後は惰性で走っていっても広宣流布は成し遂げられていた。もし戸田城聖氏が七十五歳ぐらいまで長生きしていたら戸田城聖氏によって広宣流布が成し遂げられていた。また、石田次男氏が跡を継いでいたなら広宣流布は成し遂げられていたことは間違いない。しかし、戸田城聖氏は昭和三十三年、五十八歳で亡くなる。“魔”は原島嵩氏の父親の身にも入り込み池田大作を強く次期創価学会会長に推させた。
* 引き継いだ池田大作は、そして出来上がっていた万全なレールを途中で破壊してしまった。
* 池田大作が会長となり創価学会に無数の“魔”を雪崩れ込ませ創価学会員の身に不幸を次々と引き起こした。創価学会員は病気、経済苦、様々な苦しみを味わうことになった。そして広宣流布は頓挫することになった。トップが悪いと、そこから“魔”が雪崩れ込むという御文がある。創価学会に勧誘され入会寸前にまでなった人たちの多くが創価学会員が却って不幸になる現象を見て、創価学会に入ることを止めた。また、入会した人たちも「病気が治る、金持ちになれる、幸せになれる」という勧誘の言葉と異なり、却って不幸になる厳しい現象に信仰を止める人が続出した。池田大作が会長に就任した昭和三十五年頃から却って不幸になる人が続出するようになった。現世利益の勧誘が段々と効かなくなってきた。聖教新聞などに載っている功徳の体験談に疑いを持つ人たちが続出してきた（戸田城聖氏時代、すなわち清浄な時代、体験談は偽りではなく本当だった。現世利益は本当であった）。
* しかし昭和四十五年頃までは「病気が治る、金持ちになれる、幸せになれる」という現世利益の甘い言葉は強い魅力を持っていた。その言葉に乗せられて入会する人たちが後を絶たなかった。戸田城聖氏時代の体験談が生きていた。高度経済成長の貧しい時代に於いて「病気が治る、金持ちになれる、幸せになれる」という現世利益の甘い勧誘の言葉は大きな魅力を持っていた。しかし、高度経済成長の貧しい時代が終わり、人々が冷静に創価学会員が幸せになっているか否かを判断するようになって広宣流布は頓挫せざるを得なかった。
* 権力欲の極めて強い池田大作は衆議院へ進出し、それが言論問題を誘発し、これも広宣流布を頓挫させる一つの原因となったが、これは一つの小さな原因に過ぎない。
* しかし、こういうことを今更考えても何の役にも立たない。池田大作によって頓挫させられた広宣流布の道を新たに切り開いてゆくのは極めて困難である。池田大作により破壊されたレールを修復すること、および新たに造築することは極めて困難である。池田大作によって邪宗化された創価学会を立て直すことも極めて困難である。

* ***創価学会の宗門支配計画***
* 池田大作は宗門を傘下に入れようといろいろと画策してきた。しかし、それが不可能と知ると、平成二年末、日蓮正宗と絶縁、独立の道へとひた走った。
* 形の上では日蓮正宗から破門されるということであったが、これは、「その方が世間の同情を買うことができて組織保持に有利」という判断からであった。日蓮正宗に対して破門せざるを得ない状況に持って行ったのである。
* 昭和四十九年の山崎・八尋報告書には次のような下りがある。八尋とは弁護士であり池田大作の秘書である。山崎とはもちろん山崎正友氏である。
* 以下、（創価学会と「水滸会記録」：山崎正友：第三書館：２００４：p135）
* 「本山の問題についてはほぼ全容をつかみましたが、今後どのように処理して行くかについて二通りの選択肢があります。
* 一つは、本山とはいずれ関係を清算せざるを得ないから学会に火の粉が降りかからない範囲で、向こう三年間の安全確保を図り、その間、学会との関係ではいつでも精算をつけることができるようにしておくことであります。
* 一つは、長期にわたる本山管理の仕掛けを今やっておいて背後を固めるという方法です。
* 本山管理に介入することは火中の栗を拾う結果になりかねない危険が多分にあります。しかし私の考えでは本山、日蓮正宗は、党や大学、あるいは民音以上に学会にとっては存在価値のある外郭団体と思われ、これを安定的に引きつけておくことは広布戦略の上で欠かせない要素であると思われます。
* こうした観点から後者の路線で進むしかないように思われます」
* そしてその後に「火中の栗を拾う覚悟」で大石寺を安定的に引きつけておく方法として、
* １）本山事務機構（法人事務、経理事務）の実質的支配
* ２）財政面の支配（学会依存度を高める）
* ３）渉外面の支配
* ４）信者に対する統率権の支配（宗制・宗規における法華講総講頭の権限の確立、海外布教権の確立など）
* ５）墓地、典礼の執行権の委譲
* ６）総代による末寺支配
* 以上の六項目を上げた。
* 池田大作は、この内容通り、日蓮正宗から信者に対する教化と“布教”の権限を取り上げ、儀式と典礼のみを行わせる“創価学会典礼院”にしようとした。
* 日蓮正宗と大石寺の外部や地元に対する“渉外、外交権”も取り上げた。教義解釈権についても池田大作が勝手に進め、日蓮正宗はあとからやむなく追認するという形にした。
* これに異議を唱える僧侶には“吊し上げ”を行ったり“兵糧攻め”にした。宗務院を通じて圧力をかけ弾圧した。
* 反創価学会的な寺院に対しては「本山が彼らを切らないなら、学会は宗門と手を切る」と二者択一を迫って恫喝し、宗門から追放させた。
* さらに“本山参り”である「登山会」を一切取り仕切って、大石寺を財政的に支配しようとした。
* 池田大作のさじ加減一つで大石寺登山者が増減し、収入が増減するのであるから、どうしようもない。
* 正本堂ができて、寺域が拡大された昭和四十七年以降は、とりわけ大石寺の維持コストが増大したから創価学会の“経済支配”の効果はますます有効になった。
* 末寺への参拝も創価学会でコントロールした。創価学会に冷淡と思われる僧侶、おべっかを使わぬ僧侶の寺院には学会員の参拝を差し止める。それも幹部が毎日寺院を見張りに行って、下足の数を数えて学会員の参拝の有無を確認するという徹底した方法をとった。
* こうした段階から、さらに、「本山と学会の会計の突き合わせ」を口実に、創価学会の会計法律団を送り込んで、大石寺や日蓮正宗の財政運営を丸裸にしてしまった。

* ***あまりに知らない人が多過ぎるので書く***
* 創価学会は宗門から破門された、創価学会は被害者だ、横暴な宗門から情け容赦なく破門された、創価学会はかわいそうな団体だ、ということを信じている創価学会員があまりにも多い（「聖教新聞」や「創価新報」しか読まないからだ）。実際は創価学会はかなり前から、「宗門を支配下に置く」または「宗門が言いなりにならないようだったら宗門と手を切る」ということが創価学会中枢部（とくに池田大作の心の中）では決まっていた。これは山崎正友氏らが暴露したことであるが、それほど池田大作は信仰心そして教学がなかったのである。そして野心と権力欲に狂気ともいえるほど燃えていたのである。それは織田信長と言えよう。その野心と権力欲に狂気ともいえるほど燃えていたことが池田大作を第三代会長奪取へと導いた。
* 池田大作の目標は二十代の頃からの池田大作の口癖であった「天下を取る」ことである。しかし、御書の何処にも権力への執着は書かれていない。広宣流布のとき自然と「天下を取る」ことが成就されるのであるが、日蓮大聖人は一切衆生の救済を心掛けていたのであり、権力奪取のことは一つも考えてはおられなかった。御書を読めば分かることである。
* とくに日達上人猊下は悪質な創価学会の横暴も大目に見ておられた。しかし、それがもはや大目に見ることができなくなったのが正本堂建設の頃からである。正本堂落成記念会において池田大作は自らの椅子の位置が日達上人猊下と同じであることに腹を立て、随行していた最高幹部とともに座を立ち帰り、流会させた。そしてその会の最高責任者になっていた柿沼総監は格下げとなった。池田大作は、自分が日達上人より偉い、日蓮大聖人よりも偉い、と本気で考えていたのである。
* 池田大作は日蓮大聖人さえ建てることができなかった本門の戒壇を自分が建てたので自分は日蓮大聖人以上だと威張っていた。完全な自己愛性パーソナリティ障害と妄想性パーソナリティ障害（妄想性パーソナリティ障害は独裁者の病）または妄想型統合失調症である（パーソナリティ障害は単独つまり一つの疾患で罹患することは少なく、複数で罹患する。すなわち自己愛性パーソナリティ障害のみということはほとんどあり得ない。ほかに妄想性パーソナリティ障害などが併存することが普通である）。
* 池田大作は川崎市から大田区を縄張りとする暴力団の手先となって、貸し金の取り立てなどを手伝っていたらしい。
* （懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p105 参照）
* インターネットが日本でももっともっと普及することです。すると池田大作の悪行を創価学会員が知ることになる。インターネットは年配の人はあまり使わない。もっともっとインターネット料金を下げることです。電話のように各家庭に普及させることです。すると創価学会は崩壊してゆく。

* ***“魔”の党、公明党によって骨抜きにされた自民党***
* 自民党大敗北の原因はここにある。自民党の支持者には強い創価学会アレルギーが多く存在した。自民党が公明党と連立を組むことによって自民党の支持団体および支持者が多数、自民党から離れていった。自民党は近くだけを見て遠くを見ることを怠ったのである。自民党の支持者に強い創価学会アレルギーが多く存在することを自民党は計算に入れるべきだった。選挙事務所もそれまでの地方の実力者に代わって創価学会員が占めるようになった。これでは自民党離れが起こることは当然である。
* それまで強い反創価学会を表明していた自民党議員も創価学会の票がないことには選挙に勝てないと思い、それまでの創価学会批判を中止した。そして創価学会に媚びるようになった。それが破滅への道であることに気付かずに。自民党は「近くのみを見、遠くを見ていなかった」のである。自民党再生のためには公明党ときっぱりと縁を切ることである。
* 一時的には公明党の票が自民党に入って自民党は助かるが、自民党の支持者離れにより自民党は自然に弱体化していった。これからの自民党の再生は容易ではない。自民党から離れ民主党に移った支持者を取り戻すことは非常に難しい。しかし「公明党と今後、決して結びつかない」と約束するならば民主党に流れていった多くの離れていった支持団体および支持者を取り戻すことができるであろう。
* 自民党が公明党と連立をすることにより、立正佼成会、仏所護念会が自民党から離れ、民主党に乗り換えた。他にも新日本宗教団体連合会など民主党に乗り換えた所は多い。しかし、これは一部に過ぎない。自民党の支持団体および支持者はもっと広く巨大に存在していた。
* 自民党と同じ過ちを民主党が起こす可能性は高い。「近くのみを見、遠くを見ない」と同じ過ちを犯すであろう。公明党は味方を骨抜きにする“魔”の党なのである。日本国中から嫌われている団体である。
* 池田大作の死後、創価学会員の選挙意欲が薄れ、公明党は全国で三百万票しか獲得できなくなると言われている。現在の半分以下もしかすると三分の一の票しか獲得できなくなる。そうなると国会での公明党の議席は無くなるに等しい。また、同盟を組む価値が無くなる。
* 自民党が再生するには今のうちに公明党ときっぱりと縁を切ることである。他に自民党の再生の道は無い。

* ***脱会***
* これには多大なエネルギーがいる。一部の狂信的な学会員は脱会者に対して嫌がらせや虐めを行う。例えば脱会した学会員が激しい学会からの攻撃を受け、市の法律相談所に人権相談に行く。すると人権相談に行ったことが創価学会に流れて狂信的な創価学会員から更に虐められるようになる。
* 脱会者の声を聞いてみよう。
* 『車を壊されたり、ポストに犬の糞を入れられたり、「今日も、おまえの子供は、ドラエモンの絵の書いた服で学校行ってるみたいだけど、いつ死ぬか解らないぞ」などと脅迫もされました』『家の前で大便をされた（人糞に違いなく非常に臭かった）』『夜間、自宅の雨戸に生卵をぶつけられました。 また、何度か、ゴミを放り込まれたりした』
* 「裏切り者は自殺するまで追い込め！」と第六天の魔王である狂気の池田大作が言い放っている。一般的に人が良い学会員も池田大作の狂信者ならばこの前まで友であった者を自殺するまで追い込む。宗教は狂気に通じる。池田大作のためなら何をしても良いという考えが熱心な創価学会員には支配的である。
* 日蓮宗の論理として「国の法律より、仏法律が上」というものがある。これは創価学会に於いては更に激しくなり、「国法を犯しても、それが仏法、即ち創価学会と池田大作のためなら何でも許される」という考えになる。これが宮本邸盗聴事件、ＮＴＴドコモ事件などを生んできた。
* 同じことが脱会者に向けても行われる。殺人事件こそ未だ浮かび上がってこないが、すでに殺人事件は数件、起こっているはずである。ただ、公明党が都議会で大きな力（警視長官の任命権、警察への予算）を持っているため、警察は動かないでいるだけである。
* 矢野絢也氏もずっと後を付けてきたトラックに幅寄せされたり、地下鉄を待っているとき真後ろに誰かに立たれ突き落とされそうになったことを公表している。
* 池田大作は「脱会者は自殺まで追い込め！」と言い放っているが（これが宗教者の言う言葉であろうか？　池田大作は精神的病気に冒されている。それは、自己愛性パーソナリティ障害と妄想性パーソナリティ障害、その両者または妄想型統合失調症と思われる）、自殺まで追い込まれた脱会者は十名を下らないと推定される。脱会者に対する厭がらせは池田大作の命令であり、完全に厭がらせの範囲を超えており、完全な犯罪行為、または殺人行為である。これは宗門に移る学会員を少なくするするための処置である。宗門に移るのは命懸けである。公明党が与党であるため、また、東京都議会に於いて公明党が警察人事、警察予算の主導権を握っているため、警察は動かないし、動けないのである。
* 「国法を犯しても、それが仏法、即ち創価学会と池田大作のためなら何でも許される」という論理が現在の創価学会に厳然として存在する故、創価学会は数々の反社会的行為を平然と行っている。この論理は犯罪に対する自制心を取り除く効果を生む。こうした論理が極端な「倫理喪失人間」を大量生産する原因となっている。それに加え、創価学会には池田大作が呼び込んだ無数の悪鬼が暗躍し、犯罪を唆している。山崎正友氏は「刑務所の二十五～三十％は創価学会員、極悪犯罪になるとこの割合は更に多くなる」と書かれていた。
* 藤原行正氏暗殺計画があったことを矢野絢也氏は暴露している。しかし押し留める声があり、実行には移されなかった。だが今は池田大作の横暴を押し留める者はいない。イエスマン以外は排除されている。
* 宗門との余りにも激しい争いはこの論理から起こされている。

* 私は思うのです。創価学会の名簿（統監）は信仰を真面目に行っている人は少なく、幽霊会員の方が圧倒的に多い。創価学会の名簿（統監）から抜けることは意味がないのではないのかと。
* たとえば、自分の地区は名簿（統監）上、五十世帯ですが、会合に来るところは五所帯ほどであとの四十四所帯は聖教新聞も取ってない。四十四所帯は幽霊です。
* 学生部の頃、「辞める」と言って仏壇ごと（その頃は小さな仏壇はなかった。赤帽で運んできた）学生部の拠点に運んできた者も退会届を出していないため名簿（統監）には未だ残っています。彼は創価学会を辞めたあと日本共産党に入り幹部になっています。彼は名簿上、日本共産党員でもあり創価学会員でもあります。
* また、仕事場の上司の勧めに義理立てて入信し御本尊様を受けたが、全くする気がなく、御本尊様を紛失してしまった人も退会届を出していないので名簿（統監）に残っています。その人は“うつ病”と診断され、遠くの県の精神科の病院にずっと（すでに二十年以上）入院しています。
* つまり、法華講に入るために、退会届を出す必要性はないのではないかと思うのです。

* 創価学会からの脱会故に家庭が破壊された例は非常に多い。これは社会問題となるべきものである。しかし創価学会はマスコミを押さえている。真実は報道されない。
* 主に、創価学会（池田大作）の矛盾に気づいた壮年部・男子部が創価学会を脱会し法華講に入ろうとするが、池田大作教信者が多い婦人部は創価学会（池田大作）の矛盾に気づかず、創価学会からの脱会に猛反対する。そして離婚となる。この数は日本全国で莫大な数に上る。
* これを宗門と創価学会の戦争と見ている識者は多い。これは深刻な問題である。夫婦間だけでなく、親子間も断絶されているところは多い。

* ***青年部による日本武力制圧の危険性***
* 「国法を犯しても、それが仏法、即ち創価学会と池田大作のためなら何でも許される」という論理が特に青年部幹部には厳然として存在する。
* 青年部幹部は池田大作の言うことなら何でも聞く。池田大作が果たせなかった目標である「天下を取る！」を青年部幹部に命令する可能性がある。「日本を制圧せよ！」と命令したら、そのように動くであろう。
* 御書を読めば分かるが、日蓮大聖人様の教えは極めて排他的、独善的なものである。極めて排他的、独善的である故にフランスなど各国でカルト指定されている。日蓮大聖人様の教えが極めて排他的、独善的なものであるということが私の読み違い、解釈違いなのならば良いのであるが。
* 日蓮大聖人様の御書は日蓮大聖人様が書かれたものと後世に創作された偽物が混同していると良く言われる。後世に創作された偽物とは狂信的な信者が創作したものと思われる。
* 御書を読んでいて「本当にこれは日蓮大聖人さまが書かれたものなのだろうか？」と疑った抄は多い。筆跡鑑定をコンピューターで精密に行うことができるようになった現在、筆跡鑑定を行うべきと思う。
* 主要幹線にトラックを横倒しして国会議事堂周辺を封鎖し、クーデターを起こす可能性がある。創価学会青年部の一割がこれに参加すると四万人が参加することになる。相手は命を賭けた洗脳された四万人の青年である。（しかし四万人も要らない。精鋭五百人で充分過ぎるほどである。精鋭百人で充分かもしれない）。青年部の一割は池田大作のためなら命も投げ出す。自衛隊、機動隊も押さえられ、日本制圧は成功する。
* 大型トラックは何十台も用いられ首都中央部の道を塞ぐ。創価学会員に大型トラックの運転手は極めて多い。何十台でなく何百台集まる可能性がある。
* 自衛隊、機動隊に隠れていた創価学会員も一斉蜂起する可能性もある。国会議事堂に於いて全国会議員を人質にし、クーデターが成功する可能性は高い。
* 池田大作なら考えるであろう。死を目前にして最後の賭を打つ可能性は高い。現在は池田大作を諫めることのできる人物は存在しない。
* 反乱は国会議事堂から始まる。直後、国会議事堂への主要幹線が横倒しされた大型トラックにより封鎖される。自衛隊、機動隊の青年部も一斉蜂起する。武器の盗難は決起の数週間前より自衛隊、機動隊に隠れていた創価学会員の援助の下、自衛隊、機動隊に於いて密かに行われる。また、武器の使用方法も自衛隊、機動隊に隠れている創価学会員により、教えられる。また、拳銃の練習は学会会館などに於いて秘密裏に行われる可能性も高い。
* これは思慮分別がついている壮年部には極秘裏に行われる。そして軍事政権が樹立される。
* 軍事政権が樹立して諸外国から批難が集中するであろうが外務省には多数の創価学会員が潜入している（大鵬会）。外国との交渉も大鵬会がやってのける。
* これらの実行される可能性は決して低くはない。日本の公安は創価学会をオウム教と同じく充分監視する必要性がある。公安は創価学会を甘く見てはいけない。創価学会の青年部なら（若気の至りと言って良いであろう）クーデターを起こす危険性は充分にある。クーデターが成功すると創価学会より仇敵と見なされている創価学会内部改革派憂創同盟は壊滅させられる（創価学会内部改革派憂創同盟は現在、自分一人です。募っても誰も来ません）。

* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* 布教による広宣流布が不可能と解った現在、狂信的な創価学会員の頭には武力による広宣流布が描かれている。キリスト教の流布もイスラム教の流布も武力に依るものが大きな割合を占めている。特に異教徒撲滅は武力に依った。
* 自分は創価学会員のとき、このことをある幹部に話した。その幹部もそれが正しいと言った。布教による単純な広宣流布は不可能であると。
* しかし、現在、武力による異教徒鎮圧は人類破滅に繋がる危険性が大きい。核戦争が起こる可能性が極めて大きい。第三次世界大戦になると人類は死滅する可能性が極めて高い。
* 平和主義的な方法での広宣流布を諦めた緩やかな布教拡大しか取る方法はない。もはや広宣流布は世界ではなく日本および中国などアジアを目標としたものとしなければならない。現実には日本のみに限定しても極めて難しい。
* 日蓮大聖人の御遺言は広宣流布である。日蓮大聖人の時代は日本国に限定しても良かったであろう。しかし現代は世界中に広宣流布することが正しいはずである。
* しかし現実を見ると日本に限定しないことには不可能である。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* 日本共産党さん、こんにちは。日蓮正宗法華講のものです。これは私が全く一人で行っているものです。
* 「水滸会記録」という創価学会の秘伝書とも言うべきものがあります（創価学会と「水滸会記録」：山崎正友：第三書館：２００４）。これは戸田城聖氏の時代に行われた上級幹部に対する特別会合、秘密会合とも言うべき会合の記録とされます。これは池田大作が奥に秘めていたものですが、原島嵩元教学部長が造反の時に秘密裏に持ち出したコピーです。池田大作が誰にも見せようとしなかった秘書です。速記の記録がないため、後に参加者が集まって、記憶を頼りながら記されたものとされる。それを読むと、池田大作による着色がかなりされてあるが、創価学会の今日の行動の指針が記されている。一時は出版も考えられたそうであるが（それ故に後になって参加者が集まり記憶を頼りに編纂された）池田大作が学会本部奥に隠し出版はされませんでした。原島嵩元教学部長、山崎正友弁護士という元中枢の中枢が造反しなかったら、葬り去られていた記録です。
* しかし実際は、池田大作自身の構想を戸田二代会長の言行録として昭和五十三年頃、密かに副教学部長の佐久間陽に命じて造らせたものであり、すべて池田の隠された野心を示したものと原島嵩氏は書かれている。
* （池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２、p172）
* それには次のような記載が見られる。「昔の武器は刀、現在の武器は財力」と。
* これ故の「財務」である。創価学会員はそれ故に池田大作から貯金を搾り取られている。財力で日本を乗っ取る理論的根拠が「水滸会記録」に記されている。
* 「昔の武器は刀であったが、現在の武器は金力（財力）である。昔の兵力に相当するものは金力である」

* 創価学会の秘伝書とされる「水滸会記録」には水滸伝の中の人物の行動を論評する形で
* 「クーデターで皆殺しにする方に賛成する」（※これは池田大作の意見である）
* 「学会が私にやらせれば（クーデターを）やりますよ」（※この私とは池田大作のことである）
* という発言が繰り返されている（創価学会と「水滸会記録」：山崎正友：第三書館：２００４：p90）。
* 口を開けば“平和”だの“人権”だのという創価学会の本音にはオウム真理教と同じく、ことと次第によっては“暴力”や“殺人”を行っても権力を奪おうという思想が根強く存在していることを証明する記録である。現在も、創価学会からの脱会者に対し、暴力的な迫害を加えている。それ故に退会できない人が日本中に溢れている。
* ここには信仰の自由がない。憲法違反である。しかし、昔、平成三、四年頃の迫害は現在と比べものに成らないほど激しかった。その頃の迫害は完全な犯罪に相当した。何故、迫害が弱くなったのか？　それは創価学会の活力の低下である。創価学会は勤行を簡略化したことと独自の力のない“魔”の御本尊を広く流布させたために組織の活力が低下したことを自覚しなければならない。
* 国会で池田大作の証人喚問が実現しようとした際、創価学会男子部や当時の新進党議員が、暴力で議場や委員会場を閉鎖した出来事を忘れてはならない。目的のためには手段を選ばぬマキャベリズム的反社会的行為を平気で行うのが創価学会である。
* 「諸君も、財務・外務・文部の実権を握ったときに、堂々と広宣流布をやり遂げたまえ」———池田大作の言葉である
* 創価学会には極めて潤沢な資金がある。原爆を三個ほど北朝鮮またはイランより購入しても何でもないほどの潤沢な資金がある。原爆クーデターが最も行い易いものかもしれない。フランスでは創価学会により核の技術が奪われた懸念が指摘されている。創価学会員の経営する工場で原爆を造ることも可能かもしれない。創価学会は極めて危険なカルトと欧米ではされている。
* 原爆の場合は全く流血なしでクーデターは成功するであろう。放送局を一つ占拠し、そこからニュースを流せば良いのだ。原爆は南海の孤島で一つ爆発させると良い。また原爆を何処其処に仕掛けていると発表するだけで良い。電波通信でその仕掛けられている原爆が爆発すると警告するだけで良い。そして創価学会の軍事政権が樹立される。
* これらの実行される可能性は決して低くはない。日本の公安は創価学会をオウム教と同じく充分監視する必要性がある。公安は創価学会を甘く見てはいけない。創価学会の熱血な男子部なら（若気の至りと言って良いであろう）池田大作の鶴の一声でクーデターを起こす危険性は充分にある。創価学会の男子部には暴走族上がり、ヤクザ上がりが非常に多い。未だに暴走族、ヤクザも非常に多い。
* また、池田大作が命令せずとも、男子部の狂信的な一部（過激派）が自発的に結束してクーデターを起こす可能性は十分にある。それは池田大作の死の時（創価学会Ｘデー）に起こす可能性が高い。池田大作は「天下を取ろう」が口癖だった。天下を取れなかった師匠の無念さを仇として男子部の狂信的な一部（過激派）がクーデターを起こす可能性は高い。天下を取ることは「広宣流布」に等しい。国家戒壇の建立が彼らの究極の目的なのです。日本を創価学会が支配することが彼らの目的なのです。彼らなら宗教的信条の元、行う可能性は高い。クーデターは彼らが行う激しい過酷な選挙運動に比べたら何でもない。
* 大聖人の御書は本当に日蓮大聖人が書いたものと後世に狂信者が書いたものの混交であると言われる。私も御書を読んでいて「これが本当に日蓮大聖人が書かれたものか？」と疑う抄が余りにも多い。大聖人の御書の内容は激しく厳しいものが多い。三分の一は後世に作られた偽書、三分の一は後世に作られた偽書の疑いあり、であると言われる。立正大学でその真偽鑑定が行われていた。
* 国会に乱入し、国会議員を人質にすれば良いのである。それでクーデターは成功する。創価学会には何故か武闘家が極めて多い。信仰の陶酔感とともに彼らは国会に乱入する可能性がある。東京の一部の創価学会男子部だけでクーデターが行われ成功する可能性は高い。
* 極一部の狂信者が指導してクーデターが行われる。折伏布教での日本乗っ取りが不可能と悟った男子部の極一部（危険分子）がクーデターを起こす。
* こういう危険な創価学会を解体するべきである。

* ————「水滸会記録」を国会で追及し、創価学会会長または池田大作の国会喚問を行うのです。創価学会男子部は池田大作の命令があれば平気でクーデターを起こします。池田大作を止めること（諫めること）のできる人物は現在の創価学会には存在しません。完全に池田大作の言いなりが公明党と創価学会です。創価学会男子部は池田大作の狂信者が多い。男性および青年は純情で熱情家である。本気でクーデターの危険性を考慮するべきと思われます。
* 日本共産党さん、国会で「水滸会記録」を追求してみてください。クーデターの危険性は高いのです。狂信的な信者である危険因子は一般的な布教では広宣流布が不可能なことを悟り武力により広宣流布を行うことを考えています。彼ら一部の狂信者（青年部および壮年部）はインターネットで連絡を取り合っている可能性が考えられます。
* 東京の創価学会本部には毎週精神科医が来ています。学会本部の職員と家族に“うつ病”など精神疾患があまりにも異常多発しているからです。薬を処方するには精神科クリニック開設の手続きをしなければいけません。
* 精神科クリニックを本部会館内に開設して、これが暴露されたら創価学会は大打撃を受けます。ですから精神科クリニックの開設はしないはずです。カウンセリングだけのようです。カウンセリングしてどこどこの精神科を紹介するということをしているようです。
* どこにこういう本部があるでしょうか？
* 近くに創価学会専用の精神科クリニックがあり、そこには数人、精神科医が常勤していますが、そこで診ることができないほど創価学会には“うつ病”が多いのです。ある大学病院の“うつ”外来では「半分が創価学会員、半分がクリスチャン」と言われています。

* また、こういう案もあります。
* 「財務」は詐欺罪で告訴できる可能性があります（民事になるか？）。昭和五十年頃から、創価学会は「財務」で力を付けており、「財務」を中止させると創価学会の力は急激に落ちるはずです。マスコミにばらまく多額の金が無くなります。「財務」で創価学会が得る金額は莫大ですから池田大作および学会中枢幹部を詐欺罪で国会喚問出来ると思います。「財務」で苦しむ創価学会員は非常に多い。
* ————頼るのは日本共産党さんしかいないのです。民主党はやる気がないようです。日本共産党さん、宜しくお願いします。国会での追求が無理でも、赤旗で創価学会攻撃をお願いします。
* 宜しくお願いします。
* P.S. 創価学会からの脱会者に対する虐め、嫌がらせは、国会（少なくとも赤旗）で取り上げてください。警察に言っても、警察の上層部は公明党と癒着していますから相手にしてくれません。末端の警察官は本気で取り締まろうとしますが、上から圧力が掛かって取り締まりを中止させられてしまいます。
* 家に糞を投げ込んだり、郵便受けに糞を入れたり、大量のゴミを庭に投げ込んだり、生卵をドアや壁に投げつけます。また、クルマで走行中、大型トラックで幅寄せをしてきたり煽り（あおり）行為をします。これは完全に犯罪です（殺人未遂罪？？）。
* 創価学会から日蓮正宗への脱会者を増やさないようにしようと池田大作が命令しているようです。創価学会員は善良な人（朴訥すぎる人、すなわち朴訥すぎて池田大作の欺瞞に気づかない人）が多く、そのようなことをするとは信じがたいことです。
* しかし、池田大作からの命令で、創価学会には広宣部(いわゆる創価学会の暴力団)という脱会者を付け狙い、クルマのタイヤに穴を開けたり、クルマのボヂィに傷を付けたり、家のポストに糞を入れたりなどする組織が出来ています。彼らは実行部隊で命令は上層部から来ます。池田大作は「脱会者は自殺まで追い込め！」と同時放送で公然と発言しています（これが宗教者の言う言葉か！）。
* 脱会者をこれ以上、造らないためです。もし、広宣部がないと創価学会の三分の一は宗門（大石寺）に戻るでしょう。脱会して日蓮正宗に戻りたいと思っている創価学会員（とくに壮年部と男子部）は多数居ますが、その暴力行為および家庭崩壊を恐れ、脱会届を出せないで居るのです。
* 公明党が警察の最上層部と癒着しているから、どうにもしようがないのです。泣き寝入りしか方法がないのです。脱会者を増やさない手段はあまりにも酷すぎます。人権侵害だけでなく人権蹂躙を超えたものです。
* また、（創価学会・公明党「カネと品位」：福本潤一：講談社：２００８：p106）には耐震構造の姉歯秀次氏が創価学会の副本部長であったことが書かれてあります。あの若さで壮年部の副本部長とは非常に熱心に創価学会の信仰をしないと成れないものです。
* その姉歯秀次氏は事件が表沙汰になった途端、創価学会を除名されました。これからどうしてゆくのでしょう。精神を病んでいた（おそらく統合失調症）奥さんはビルから飛び降り自殺をしました。
* そして池田大作個人の豪華な施設が全国各地にあります。以前、昭和五十二年頃、民主党が「それを国会で追及する」と竹入委員長の処へ手紙が届きました。それで池田大作個人の豪華な別荘などは急遽、解体処分にされました。同時に民主党と選挙協力をすると約束しました。でも、それが過ぎると再び池田大作のための豪華設備の建設ラッシュです。会員から搾り取った「財務」「広布基金」などがこういうところに使われているのです。
* また、池田大作がパナマの麻薬王であったノリエガ将軍と非常に親しかったことを暴露してください。ノリエガは池田大作を「人生の師」ともちあげ、池田大作はノリエガを「偉大な指導者」と誉めあげている。両者の友好を記念して、ノリエガはパナマに「池田展望台」をつくり、池田大作は富士山麓に「ノリエガ公園」を造りましたが、ノリエガ将軍が失脚するとそれを破壊しました。パナマには今でも池田大作を讃えるノリエガ将軍が造った「池田展望台」があります。
* 創価学会と民主党の小沢幹事長との間には太いパイプがあること、ご存じでしょうか？　インターネットで見れます。
* 欧米で金力に任せて城などを買いあさり欧米からは顰蹙（ひんしゅく）を買っているいること、ご存じでしょうか？
* 公明党の選挙違反（戸別訪問など）を警察が故意に見逃していることご存じでしょうか？　戸別訪問は公明党の常套手段です。今度の参議院選挙でも戸別訪問は無数にあるでしょう。戸別訪問が選挙法違反ということを創価学会員も候補者も知らないようです。————ここを突いたら良いと思います。創価学会も公明党も選挙のことをあまり知らないようです。
* 創価学会の会館が選挙に公然と使用されていることご存じでしょうか？　選挙前になると歩けない老人を歩けるように訓練します。また。知恵遅れで何も解らない障害者を無理矢理連れて行って、公明党と書いた紙を握らせておいて公明党の名を書かせていることもご存じでしょうか？　警察のトップの人事権、予算権（これは東京都議会で決めるそうです）が公明党にあるため警察も知らないふりをしなくてはいけません。何故、その人事権、予算権が東京都議会にあるのか納得がゆきません。
* 公明党の国会議員はすべて池田大作が決めていること、公明党の国会議員は池田大作の言いなりに動かなければならないこと、つまり操り人形であること、言いなりに動かなければ（操り人形として動かなければ）次回の選挙で公認を得られないこと、ご存じでしょうか？　以前、盗聴法に大反対だった弁護士出身の女性議員が一日で盗聴法賛成に変わったのは池田大作の鶴の一声だったのです。国会議員は池田大作の奴隷のように動かないといけないようになっているのです。
* 池田大作の月刊ペン事件は本当のことです。池田大作は日本中に二十名あまりの愛人を持っていました（オットセイ池田またはトド池田とも言われていました）。そのため各研修道場などに池田大作の超豪華な私室を造らせていたのです。その二十人あまりは正式な愛人ではなく、副会長の嫁さんだったりしています。結婚したあとも、池田大作とその愛人の関係は続くのです。夫は黙認を強いられます。池田大作のお気に入りの女性と無理矢理に結婚させられた気の毒な夫はトントン拍子で副会長まで出世してゆきます。例えば渡部道子は月刊ペン事件で有名な人物ですが、渡部道子と無理矢理に結婚させられた渡部一郎は国会議員になりました。おまけに渡部道子も国会議員になりました。この夫婦関係は池田大作のため完全に冷え切っていました。例えば、子供が生まれたとき、渡部一郎は子供が生まれた病院へ行きませんでした。子供が池田大作の子供と思っていたからでした。
* もう一人、池田大作の愛人が国会議員になりました。つまり池田大作は二人の愛人を国会議員にしたのです。これは国民を愚弄していることであり、許されることではありません。————これらは国会で取り上げるべきことと思います。
* 超豪華な池田大作の私室は課税するべきです。あそこは池田大作専用の超豪華なラブホテルです。超豪華なラブホテルに何故、課税しない？？
* ドコモ事件は日蓮正宗が行っている反創価学会活動を抑えようと反創価学会活動家を押さえるために仕掛けられたものです。ここでも警察との癒着が見られます。創価大学の職員をしていた警察から引き抜かれた剣道の達人が「自分の愛人が浮気をしているらしい」と思い、その愛人の通話記録をも盗み、それをその剣道の達人に教えたために発覚したのです。このような通話記録の盗み出しは日常茶飯事に行われていると思われます。ドコモ事件は剣道の達人が馬鹿で発覚してしまっただけのことです。ドコモ事件の真相解明を国会でおこなったら良いと思われます。警察は動きません。
* 公明党と警察の癒着を国会で暴くのも一つの手段と思います。
* ルノワール絵画事件は池田大作がノーベル平和賞を取るための資金集めのために行われたものと言われています（十五億円が消えました）。警察との癒着のため、うやむやになっていますが国会で取り上げたら良いと思われます。
* いろいろ言われている創価学会員の住民票移動のことですが、それは主に女子部が行っています。女子部なら子供も夫もおらず身軽だからです（結婚すると婦人部となります）。しかし、それを突き止めるのは非常に難しいと思われます。昭和四十年代、五十年代には盛んに行われていました。私の姉や従姉妹が行っていました。
* 男子部はそういうことはしようとしない。そんなことして何になる、と思うものが圧倒的に多い。男子部はクーデターのような激しいことを考える。女子部はクーデターのようなことは考えず、住民票移動などを考える。
* 「※※青年部とは男子部と女子部を併せたもの。男子部は未婚・既婚を問わず、年齢が四十歳程まで（以前は三十七、八歳で壮年部移行であったが最近は四十歳頃までに伸びてきている。これは男子部の活動家が非常に減少してきているからである。昔は会館の警備をする牙城会、会館で会合が行われるときに車の誘導をする創価班は厳しい面接試験に通ったものが成っていた。しかし現在は牙城会、創価班になるものが居なく、希望者は誰でも成れる。牙城会、創価班になるように男子部では勧誘が行われている。昔は成りたくても牙城会、創価班には成れなかった。そして現在は牙城会は午後九時までの勤務になっている。以前は翌朝までであったが、現在は午後九時から警備会社が行う。徹夜して会館の警備を行う熱心な男子部が居なくなったのである）。女子部は年齢にあまり関係なく未婚者を言う。女子部は結婚すると婦人部と成る。未婚者で婦人部も存在する（これは年齢的なことからである）」
* 創価学会は総体革命（言うなれば日本の革命のことです）の一環として弁護士、検察官などを多数輩出させています。弁護士の数は日本に三百名を超えています。池田大作が狙う総体革命のためです。池田大作にハイルヒットラーの弁護士が全国に三百名居るとは困ります。日蓮正宗が訴訟を起こそうとも反対的に三百名が全国規模で訴訟を起こされたら参ってしまうため、日蓮正宗は訴訟を起こすことのできない状況にあります。また、訴訟を起こす経済的余裕が日蓮正宗にはありません。創価学会の日本占領計画は進んでいるのです。一人の独裁者に日本は占領されてしまう可能性があるのです。その独裁者は八十二歳を迎えても未だ死にません。
* 創価学会青年部は「日顕の死」の十時間唱題会（一日に十時間です）を開いていました。そのなかで“うつ病”を発症するのは多かったです。
* 宜しくお願いします。
* 自分はホームページを造っています。
* [http://sky.geocities.jp/mifune008/](http://sky.geocities.jp/mifune0008/)
* 「創価学会内部改革派憂創同盟」で検索した方が無難かも知れません。
* 日本共産党さんしか頼りにできるのは居ないのです。民主党はやる気がないようです。

* 【余記】
* 池田大作は、金集めのため、連日、松島家に出入りした。家族同然の付き合いだった。
* この間に、松島道子（渡部道子）との関係ができたようである。池田大作が松島家の三畳間で裸身を道子氏にタオルでふかせていたのを会員の小沢よねさんに目撃されたのも、こうした付き合いの最中の出来事であった。文字どおり、色と金の二筋道である。
* 池田大作の資金集めに協力した縁で本人や家族が後に創価学会幹部に取り立てられた一家は、他にもたくさんある。中には、その事業に失敗して資産を失い、池田大作の口ききで私が負債処理に当たる、といった気の毒な人もいたが……。
* 金集めもさることながら、取り立てもなかなかのものだったらしい。それこそ、“寝ているフトンをはぐ”ということもあったといわれている。
* 彼が金貸業でどれほど才覚を発揮したかということは、二十代の若さで通常の給与の百倍近い所得を得て、札ビラを切っていたことからもわかる。
* 彼は、その金で、女子部員をモノにし、そして、幹部達を従えて秘かに次期会長の座を狙うようになった。
* しかしながら、池田大作は後になって、自分にバラ色の人生を与えてくれた金貸業の仕事を人に知られるのを極端に嫌い、隠そうとした。彼は、自分の金貸業手代の頃の話を一度だけ、私にしてくれたことがある。
* 昭和四十九年十月頃、大石寺対山荘で「今日は飲もう」と珍しく酒を何杯か飲んだ後、水割りを半分ほど飲んだ。池田大作が杯に口をつけたのを、私は三回くらいしか見ていない。（注：これは池田大作が酒を飲めば統合失調症であることが露見するから、人前で酒は飲まないようにしていたのではないかと筆者は邪推する）
* その後の雑談の中で「戸田先生の唯一の失敗は、私に、金貸しのような、汚い仕事をやらせたことだ。俺なら、後継者の人生経歴を、そんなことで傷つけたりしない」と言った。
* ちなみに、戸田は、石田次男氏（石田幸四郎公明党委員長実兄。戸田の後継者と目されていたが、池田大作に冷遇され、死去）には一切そうしたことにタッチさせなかった。戸田は、失敗を犯したのではなくて、池田大作を創価学会の後継者と考えていなかったから金貸業に突っ込んだと見るべきであろう。
* （懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p107-8 参照）
* 事業が破綻していたとき、池田大作は朝、戸田先生より様々な学問の講義を受けていたことになっているが、これは極めて疑わしいことである。これは後に創作された「若き日の日記」および「人間革命」に載っているが、池田大作が戸田先生より様々な学問の講義を受けていたと言っているだけであって、戸田先生も誰も証人はいない。「若き日の日記」および「人間革命」は戸田先生の死後、十年ほどして書かれたものであり、創作の可能性は極めて高い。事業に失敗し再建へのどさくさの最中、そういう時間を取ることは不可能であろう。

* ***無数の悪鬼の集団***
* 創価学会員は人が良い。これは普通の人なら頭に来るような折伏を受けて「素直に入信した人の集まり」であるからと推測する。また、非常に人が良くないと創価学会の信仰を続けることはとても不可能である。すなわち、人が良くない人はふるいに掛けられるように創価学会から去っていったと推測される。
* また、心理学的にも人の良さは遺伝するとされる。親が人が良ければ子供も人が良いのが一般である。「勤行唱題をすると心がスッキリする」とは法華講の人も創価学会の人も以前は共通して言っていた。しかし現在、創価学会はそうは言わない。創価学会のかなりの家庭で御本尊が創価学会製の“魔”の御本尊に換えられたからであろう。
* 創価学会員も法華講員も顕正会員も元気である。日蓮宗一般に元気になるようである。見延派も日蓮正宗ほどではないが元気になると言うことである。ところが同じ南無妙法蓮華経と唱える新興仏教（立正校正会や０００）は元気にならないらしい。日蓮宗でないと元気になれないようである。
* 特に臨床心理学において創価学会員の精神疾患の難治性は知れ渡っている。普通なら軽くなるはず、良くなるはずの病態がなかなか良くならない。これは池田大作が招き入れた無数の悪鬼の集団によるものと思われる。他に説明の方法がない。
* 創価学会員は難治性である故にある臨床心理療法所では患者の７５％が創価学会員である。創価学会員でない人は治ってゆくが創価学会員はなかなか治らない。それ故に患者に占める創価学会員の割合が７５％という高い数字になっている。こういう臨床心理療法所が日本中に多数存在する。「精神疾患は一度罹患すると一生」とも言われるように難治である。精神薬理学の進歩は遅々としたものである。第一、精神疾患が何なのか解らないのが精神医学の現状である。創価学会に入っているときに精神疾患に罹患し、途中で創価学会を辞めた人も治らずに苦しみ続けている。
* 池田大作の死とともに激しい池田大作批判が起こらないことには、それら無数の悪鬼は現また元創価学会員から去ってゆかないであろう。創価学会員は苦しみ続けることになる。それともそれら精神疾患に苦しんでいる人が「池田大作を強く激しく否定すること」なのか？　法華講に移ることか？　しかし狂信的な創価学会員は法華講には移らない。何か画期的な方法が発見されない限り救われない。
* 「池田大作を強く激しく否定すること」ではなかろうか？

* ***論文集***
* **戸田先生の遺言**
* 創価学会内部改革派憂創同盟残党
* 【はじめに】
* 戸田先生は偉大な指導者であったことに異論を言う者は少ない。創価学会の人でなくても、二代目の戸田会長は素晴らしい人物であった、と言う人は極めて多い。では何故、戸田先生は池田大作を除名にせず、重用していたのか？　これが謎である。
* 戸田先生は池田大作の魔性を見抜いており、戸田先生は、遺言状に池田大作除名を書いた。しかし戸田先生の家に御遺品を取りにトラック二台で行ったとき遺言状も奪ってきた、と推論することもできる。戸田先生が池田大作の魔性を見抜けなかったはずがない。
* 【考察】
* 戸田先生は突然死されたのではない。アルコール中毒による糖尿病性腎症で亡くなられたのである。遺言状を書く時間は十分にあった。しかし、アルコール中毒のために判断能力が低下していた可能性も考えられる。
* また、戸田先生は神様ではない。池田大作の魔性を見抜けなかったとしても不思議はない。
* 戸田先生は性格が非常に豪放磊落であった。見抜いていたとしてもそれを寛大に許していたという可能性も高い。
* また、事業が倒産の危機の時、池田大作が暴力団で身につけた動物的なカンでお金を集め、高利貸し業で戸田先生の事業の危機を救ったということがなければ、戸田先生は早く池田大作を放出していただろう。池田大作を重用するということはなかったであろう。
* 戸田先生が亡くなられる前、「次の会長は誰にするんですか？」との問いに「それは、お前たちが決めるんだ」と言われた（池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道、２００２）が、戸田先生は池田大作が選ばれることは想定外だったのではないのか？　戸田先生はみんなが石田次男氏を次期会長にすると甘く考えていたのではないのか？　戸田先生は神様ではない。性格が非常に豪放磊落であった。そのように甘く考えていた可能性は高い。
* 戸田先生が亡くなって直ぐに池田大作がこういう行動に出たのは、池田大作は妄想性パーソナリティ障害 (Paranoid Personality Disorder)であったため、戸田先生を疑ったためと考えられる。池田大作は若い頃から非常に疑い深い性格だったことは藤原行正氏の本（池田大作の素顔：講談社）などにも書かれてある。
* その疑い深い性格が彼を成功へと導いたのである。戸田先生の遺書が有ったのか無かったのかは今になっては解らない。遺言が有って、それを池田大作が捻り潰した可能性は充分に高い。
* 池田大作は戸田先生の家に着くと、玄関の鍵を開けに来た家人に挨拶をすることもなく誰よりも早く戸田先生の家に入った。目ざとく戸田先生の遺書を仏壇の前に発見すると、それを内ポケットに入れた。誰も見ていなかった。
* やがてトラックで来た仲間が入ってきた。戸田先生の遺品を学会本部へ持ってゆくことに参加したのは未だ若い男子部の四人だった。池田大作は「これを持ってゆけ。これは要らない。これを持ってゆけ」と指示をすることが主だった。
* その日、家に帰り、戸田先生の遺書を開いた。やはり池田大作除名が書かれてあった。遺書の内容は池田大作除名が全てと言っても良かった。
* 池田大作には危険を感じ取る動物的なカンがあり、そのカンで今まで何度となく危険を救われてきた。
* 「これで第三代会長は俺のものだ、これで第三代会長は俺のものだ」と池田大作は微笑んだ。
* （未完）
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* **池田大作の生涯**
* 創価学会内部改革派憂創同盟残党
* 【はじめに】
* 私は以前、池田大作は広宣流布を頓挫させるためにこの世に生を受けた、と書いた。
* 「第六天の魔王　智者の身に入りて、正師を邪師となし、善師を悪師となす。経に『悪鬼其の身に入る』とは是れなり。日蓮智者に非ずと雖も、第六天の魔王　我が身に入らんとするに、兼ねての用心深ければ身によせつけず」（最蓮房御返事）———これが該当する可能性は無い。
* 池田大作は単なる俗物であり、創価学会に入り戸田城聖氏のもとへ就職したことが偶然の幸いとなり、劣等感に根ざした極めて強い権力志向が、お人好しの極めて多かった創価学会に於いてライバルを蹴落とし、創価学会の会長となり、栄華を極めた、と考えるのが適切な説と思う。
* 池田大作の人生を幼少時より書いてゆく。
* 【幼少時代】
* 池田大作は零細な海苔製造業者のである池田子之吉（ねのきち）、妻一（イチ）の五男として昭和三年一月二日、東京都荏原（えばら）郡入新井町大字不入斗（いりやまず、現・品川区）に生まれた。男女併せて十人の兄弟がいた。
* 昭和六十年前後の状況を山崎正友氏が（懺悔の告発：日新報道：１９９４）に書かれている。
* 長男　喜一　　　ビルマにて戦死
* 長女　とよ子　　国立第一病院看護婦
* 次男　増雄　　　大衆食堂経営、家を継ぐ
* 三男　小宮開造　阿部商会（外車ディ−ラー）役員、死亡
* 四男　清信　　　三洋工業、学会幹部
* 五男　太作　　　本人
* 六男　栄一　　　トビ職
* 七男　隆一　　　東和工業
* 八男　正利
* 次女　いね子　　東芝社員の妻
* これを見ると、明らかに学会員であるのは一つ上の兄のみである。
* 山崎正友氏が池田大作の家系を調べたところに依ると、数代先まで東京湾でノリ採集や漁師をしていた、という。
* インターネットでは池田大作が在日朝鮮人という論が強い。しかし、山崎正友氏は在日朝鮮人ということは全く言及されていない。
* しかし、小学生時代に病床の父から韓国語を教わっており韓国語が堪能であるとインターネットでは言われている。
* 池田大作の少年時代は、同級生や教師などの証言に依れば、貧しい、女好きの、子だくさんの海苔屋の五男で、特徴もなく、一生懸命勉強しても中位の成績の、目立たない少年だった。
* 後年、創価学会の会長になったと聞いて、誰もが驚いたという。
* 二十五歳（昭和三年生まれであるから昭和二十八年）までは池田太作（タサク）が本名であったが、二十五歳の時、正式に戸籍上、池田大作に名前を変更している。戸田城聖氏や池田大作の奥さんのように勝手に名前を変えることはできる。しかし戸籍の名前を変えることは家庭裁判所が認めたときのみである（少なくとも以前はそうであった。現在は在日外国人のことで簡単に変えられるようになったようである）。戸籍の名前を変えることはそれほど困難なものであった。池田大作は妄想型統合失調症（軽症）であるため、その誇大妄想と被害妄想により凄まじい執念で戸籍の名前をも変えた。池田大作の当時の給料は一般人の百倍近くであったと言われる故、その有り余るお金で買収したとも考えられる。この戸籍の名前を変えることができたことは一つの謎（調査中）と山崎正友氏は書かれている。
* 【青年期】
* 池田大作は戦後の混乱期、定職にも就かずブラブラしていたが川崎市から大田区を縄張りとする暴力団の手先となって貸し金の取り立てなどを手伝っていたらしい（懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p105 ）。
* この頃、学校時代の友人であるＭという女性に誘われて座談会に参加し、御本尊を渡される。このとき「人間革命」に書いてある戸田城聖氏との劇的な出会いはない。戸田城聖氏との劇的な出会いに詩を詠んだということはない。それは「人間革命」の本当の作者である篠原善太郎氏（東大卒。戦前、河田清のペンネームで小説を書いたことがある。小説家志望だった。学会総務。外郭会社・東西哲学書院社長。同社は信濃町近辺や全国の学会会館近くにレストラン、寿司屋、書店のチェーン店を展開している学会外郭の最大手の一つだった。既に亡くなっている。竹入義勝氏とともに長野県の日蓮正宗法華講の古くからの剛信な一族出身）が池田大作より命令され創作したものである。
* 次のように書かれている。
* 「学校時代の友人に誘われて創価学会本部へ行きました。その友達は哲学のいい話があるから来ないか、と誘ったのです。その友達は哲学のいい話があるから来ないか、と誘ったのです。私は友人と二人で行ったのですが三、四十人もいたでしょうか。五時間ぐらいそこで締め上げられたのです。
* 南無妙法蓮華経は嫌いだったので、ずいぶん反対したのですが、理論で敗れて信仰しなければならないということになってしまったのです。負けたのでシャクにさわってしかたがない」（池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２：p71-2）
* 「それから御本尊をお下げするという話で、私は三十分ほどいりませんとがんばったんです。すると幹部の人がなだめて、むりやりに私に押しつけました。
* 家に持ち帰っても三日間おがまずにほっておきました。三日目にものすごい雷が鳴り、私の上でゴロゴロ鳴って、私ばかり狙っているように思ったので、そのとき思わず南無妙法蓮華経と口をついて出ました」（小口偉一編『新心理学講座』第四巻）
* 「それでおがむとこうなんだから信仰は大事だなあと思ったのです。それから一年は普通にやっていました。そのころはバチがこわかったのです。前の信者さんたちが牢獄へいったということが気になりました。全部の宗教に反対するから必然的に弾圧される、その時はどうしようか、寝ても覚めても考え、やめるなら今のうちがよいと考えました」（小口偉一編『新心理学講座』第四巻）
* 「私が信仰したのは、丁度今から十年前の八月二十四日です。……折伏されたのは前の本部です。前の本部は会長先生が事業をなさっていらっしゃった二解の八畳と六畳の二間でした。……そこで多くの広宣流布の人材が毎日会長先生の御講義をきいたんです。私はそこで教学部長（小平芳平のこと）から折伏されたんですよ」（Ｓ32・10・18付聖教）
* 以来、肺病を患っていた池田大作は肺病を治すためもあり、熱心に信仰を始めた。勤行唱題の声が喧しいと大家さんから注意されるほどであった。
* 池田大作はそして幾つかの事業を行っていた戸田城聖氏の処へ就職の面接に行く。戸田城聖氏は金を貯めている学会員から借り入れて手形割引などで他の学会員に高利で貸す金融業「大蔵商事」も営んでいた。戸田城聖氏は池田大作の借金取り立ての経験に目を付け採用する。
* この金融業で池田大作は経験と才能を発揮する。金を貯め込んでいる学会員の家を当てるのが極めて巧かった。戸田城聖氏の傾きかけていた事業を再起させたのは池田大作の金融業での経験と才能だった。取り立ても厳しく、病気で寝ている老人の布団を剥いで持って帰ることもあったという逸話もある。
* 大蔵商事で池田大作は営業部長として辣腕を振るい、池田大作の給料はそのため当時の平均給料の百倍近くであった（ここの給料は歩合制であった）。この金で池田大作は女子部員をものにし、また、幹部達に金を振る舞い、次期会長を狙うべく人脈作りを行ったらしい。（懺悔の告発：山崎正友；日新報道：１９９４）
* 「人間革命」の「この冬もオーバーコートなしで過ごさねばならない」ということは虚構である。
* この金融業の時代に池田大作は毎日のように金集めのため松島勇氏の家に出入りする。松島勇氏は埼玉県大宮市の国鉄機関車区に勤めており池田大作の依頼に基づいて仲間の国鉄職員から貸し金を集め、池田大作のドル箱であった。そのため池田大作は毎日のように松島家に出入りした。家族同然の付き合いだったと言われる。「月刊ペン事件」で有名な、松島家の三畳間で裸身を松島道子にタオルで拭かせていたのを学会員の小沢よねさんに目撃されたのはこの頃のことである。
* 松島道子は後に参議院議員になった。夫となった松島一郎は衆議院議員になった。松島道子と池田大作との関係は二人（松島一郎と松島道子）の結婚後も続き、そのためその夫婦の間は冷え切っていた。松島一郎は妻の不倫に気付いていながらも黙認を仕方なくされ、その黙認したことにより衆議院議員に池田大作より推薦されることができた。
* 松島道子の姉が池田大作批判の急先鋒である藤原行成氏の妻である。池田大作は松島道子の姉にも手を出そうとした。しかし手を出すことができず、池田大作は松島道子の姉（藤原行成氏の妻）を虐め続けることになる。松島道子の姉（藤原行成氏の妻）を虐めることに実の妹である松島道子が手助けをしていた。
* 松島家以外にも戸田城聖氏の金融業の資金集めに協力した故に後に創価学会幹部に取り立てられた一家は他にもたくさんあり、そのなかには、その事業に失敗して資産を失い、池田大作の口ききで山崎正友氏が負債処理に当たった処もあったという。
* 池田大作がこの戸田城聖氏の元で行っていた金融業は現代のサラ金と同じものであった。「人間革命」にはそのことが解らないように脚色されてある。
* 池田大作は昭和四十九年、大石寺大山荘に於いて山崎正友氏と酒を飲んでの雑談の時、「戸田先生の唯一の失敗は私に金貸しのような汚い仕事をやらせたことだ。俺なら後継者の人生経歴をそんなことで傷つけたりしない」と言った。戸田城聖氏は池田大作を創価学会の後継者とは考えていなかったから金貸し業に突っ込んだと山崎正友氏は書かれている。（懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p107-8）
* また、池田大作は「資金繰りが苦しく、金策にも四苦八苦している時、戸田先生と二人で皇居前広場を通りかかった。私がヤケクソ気味に『こんな男にだあれがしたあ』（当時流行していた歌謡曲“星の流れに”の替え歌）と歌ったら、横から戸田先生が『俺だよ』とニコリともせず言った」と思い出話を語ったと山崎正友氏は書かれている。（懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４：p108）
* この大蔵商事は学会首脳が働いていたが、昭和三十五年の池田大作の会長就任とともに学会首脳は退き、以降は戸田城聖氏の妾であった森重紀美子とその甥らが経営したが、脱税摘発や貸金こげつきで事実上、倒産する。その後、大同商事と社名を変え、昭和四十七年頃から中西治雄氏が関わり、創価学会の建物の火災保険、学会員や学会本部関係の物品販売、大石寺土産物取扱い、学会員相手の高利貸し、などを行う。
* 昭和三十二年の大阪事件に於いて臆病な池田大作は卑怯にも警察に全てのことを話している（すでにこのとき池田大作は堕落していた）。つまり仲間を売っている。そのために池田は早期に釈放されたし無罪になった。大阪事件では何十人もの創価学会員が有罪になり、創価学会は有罪になった人たちを全員、除名にした。この大阪事件の判決は昭和三十七年であった。
* 【会長就任後】
* 池田大作は特別書籍と呼ばれるゴーストライター軍団を会長室の上の階に設置し、自らの著作および講演原稿を作らせるようになった。責任者は原島嵩氏で、その下に、上田雅一（慶大卒、副会長）、桐村泰次（東大卒、副会長）、野崎勲（京大卒、副会長）、石黒東洋（東工大卒）、細谷昭（一橋大卒、副会長）らで編成されていた。このゴーストライター軍団は原島嵩氏が抜けたりメンバーこそ多少替わったものの現在（平成二十二年）も健在である。
* “潮”や“第三文明”などに掲載する文化人、学者との対談も、すべてゴーストライター軍団に依るものである。トインビー博士との対談も、同様にして作られた。池田大作は相手と会って食事したり雑談し、写真を撮るだけである。
* 昭和四十九年から翌年にかけて「月刊ペン」誌上で編集長である渡部大蔵氏が創価学会批判を行ったが、それは池田大作の女性関係にまで及んでいた。この池田大作の女性関係は真実であり、創価学会側は笹川陽平氏（笹川良一氏の三男、船舶振興会理事長）に相談し、二千万円を渡部大蔵氏の弁護士に渡し買収に成功した。しかし渡部大蔵氏はどのように金額を積んでも頑なに拒否した。そして裁判は弁護士から裏切られた渡部大蔵氏の執行猶予付きの懲役刑となった。
* 渡部大蔵氏はこの裁判を不服として上訴中、病に倒れ死亡した。しかし渡部大蔵氏の死後、藤原行正氏などの造反が起こり、彼らが証言台に立ち、池田大作の女性関係が真実であることが裁判に於いて立証された。
* この女性関係は凄まじく、日本全国だけで二十名を超えていたという。一部を書くと、公明党の衆議院議員となった二人の女性は池田大作の愛人であった。
* 全国各地にある学会施設には池田専用の極めて豪華な部屋へついて昭和五十二年、民社党の春日一幸氏から竹入委員長宛に一通の手紙が届いた。このことを国会に於いて追求するという内容であった。九州の霧島では国立公園の真ん中に法律を無視して施設を造っていた。これは愛知県渥美半島、北海道、広島でも同じようであった。広島では税務署が池田大作の豪華設備について「宗教と関係ないから課税する」と言ってきていた。急遽、これら池田専用の極めて豪華な設備を解体する作業が行われた（この解体作業に費やした費用も莫大であった）。結局、創価学会が「選挙で票をよこす（公民選挙協力）」と約束し、民社党は追及を行わなかった。
* （未完）

* （第３章終了）
* **第４章　隠れ法華講への道**
* ***隠れ法華講への道***
* お寺には週一回行くのみである。家には創価学会の“魔”の御本尊のため家では遙拝勤行しかできない。勤行唱題も家人に隠れてであるから時間が限られている。
* その代わり、創価学会内部改革派憂創同盟の活動を盛んに行おうと思っている。創価学会内部改革派憂創同盟の活動が成功すると大部分の創価学会員を宗門に帰すことができる。そして大部分の創価学会員を幸せにすることができる。
* 生命力がない。元気がない。しかし“魔”の御本尊に祈っても生命力や元気は暗示的にしか強くはならないで居た。実家の日達上人の御本尊に祈りたい。実家の日達上人の御本尊に勤行唱題すると目は輝き、元気一杯になる。
* この前、実家の仏間に飾っていた池田大作の写真入り額縁を取り払った。この前、悪いことは起こらなかった。額縁を取り払ったのが奏功したのだろう。それまでは実家で日達上人の御本尊に勤行唱題すると何故か不思議と悪いことが続けて起こった。
* 近年、創価学会員が勤行唱題をあまり行わなくなったのは御本尊が“魔”の御本尊に変わったため、勤行唱題しても生命の歓喜を覚えなくなったためと思われる。そのために勤行は朝夕一座ずつと創価学会は変わった。以前は朝五座、夕三座だった。しかも二座の長行はそれだけでも１０分は掛かり大変だった。“魔”の御本尊でなかったから勤行唱題中の生命の歓喜は強く、自然と勤行唱題を長くしていた。今は勤行唱題しても余り生命の歓喜を覚えなくなったため、みんな勤行唱題を長時間は行わなくなったのだ。
* 「直結信仰」が悪いことを原島嵩氏は（絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７、p170）にて書かれている。
* 『第二祖日興上人は「佐渡国法華講衆」へのお手紙のなかで「誰々が日蓮聖人の直の弟子であるという輩がいるが、これは無間地獄におちる大謗法です」（趣旨）とご教示されており。「直結信仰」を厳しく否定されておられるのです』
* 『さらに創価学会は日蓮正宗の血脈を否定している、これも大謗法です』
* 現在の創価学会は日蓮大聖人直結信仰である。そして日蓮正宗の代々の血脈を否定している。代々の血脈否定とは御法主上人否定のことである。これは御本尊否定にも繋がる。
* そして原島嵩氏は法華講員となっている現在、毎日が楽しく法悦に包まれていることを著書「絶望の淵から蘇る」に書かれている。現在、創価学会には法悦（生きている一瞬一瞬が歓喜となる）が無くなりかけている。日達上人様の御本尊に勤行唱題すると法悦に包まれるが、平成五年から配布された創価学会製造の“魔”の御本尊に祈っても法悦は感じられない。創価学会員が勤行唱題を長時間は行おうとはしなくなった一つの大きな原因がこれであると確信する。そして創価学会製造の“魔”の御本尊に祈ると驚くような悪い偶然が起こる。その悪い偶然の起こる確率は非常に低いが起こってしまう。それが立て続けに起こってしまう。これではとても創価学会の信仰を続けることはできない。筆者は職場を解雇になる寸前に気付いた。
* 今、自分は落ち着いている。創価学会員である間は（今も正式には脱会していなく、隠れ法華講員である。妻の一族が狂信的な創価学会のため退会届は出すことができない）常にソワソワしていた。落ち着くように言われても落ち着けない。そのため精神科の薬（抗不安薬）を常用していたほどだ。今は全く服用なしで落ち着くことができている。創価学会病であったわけである。
* 創価学会病は多い。精神科外来に来る患者さんの多くが創価学会員である。隠していても自分のように慣れたら分かるものである。自分は幼い頃から創価学会の信仰をしてきた。たくさんの創価学会員と接してきた。そのため患者さんの言動、表情、そして雰囲気とカンなどから解るのである。
* また、反創価学会になるまでは気合いを入れるため三色旗のボールペンを常に胸のポケットに刺していた。患者さんから「先生は創価学会ですか？」と言われることが多かった。
* 創価学会は中枢部があまりに穢れすぎていた。末端は純粋だった。一部だけが穢れていた。中枢部は思い上がり甚だしい（増上慢）池田大作によって穢れ果てされていた。創価学会の穢れは、池田大作一人によってもたらされた。池田大作が創価学会の全てを支配し破壊した。純粋な信徒団体だった創価学会を穢れきった信徒団体にした。そして創価学会自ら独立の道を選択し、宗門より独立していった。それは全てを支配するという池田大作の野望だった。
* 戸田会長は「創価学会が御宗門にたてつくようになれば、すぐに解散させてください」と時の御法主上人に常々申されていた。
* また「広宣流布の暁には創価学会を解散させて、ぜんぶ法華講につける」と遺言されていた。
* 一般の創価学会員は池田大作の悪行をほとんど知らない。全く知らないと言っても過言ではない。聖教新聞は池田大作を神のように誉め称える記事で満ちている。それは月刊誌「大百蓮華」も同じである。週刊誌「創価新報」は宗門を中傷する汚い偽りの記事で溢れている。そういうもののみ創価学会員は読んでいるのである。
* 池田大作は自分を神のように讃える幹部のみを優遇してきたし、批判的な幹部は遠去けられてきた。創価学会は池田王国なのである。創価学会本部は池田大作を神様のように崇めていないと居着かれない魔窟なのである。
* 池田大作（創価学会）を信じるものは低脳か余程のお人好しとしか思われない。同時放送での態度、言動を見れば池田大作のあまりもの傲慢さに呆れ返るのが普通である。それに気付かないのは低脳か余程のお人好しになる。
* 池田大作の目が成り上がりの独裁者の目をしていることを気付かなければならない。独裁者は常に反逆に怯えている。竹入義勝氏への狂気の机でんでん叩きを繰り返した４５分間のスピーチもそれに由来している。
* 創価学会員は一般に非常に人が良い。創価学会員以外は（日蓮正宗信徒以外は）信じることができないほどである。友達になりたいと思わないほどである。付き合いたいと思わないからである。それほど人が良いから激しい折伏にも怒らずに素直に入信したのであろうし（その人でなくその人の親のことが多い。今は二世三世が多い。人の良さは遺伝する）信仰を続けているのである。一部の創価学会員が欲深くて良くない。その人たちが創価学会の評判を下げていると言っても過言でないかもしれない。そして池田大作が一番、創価学会の評判を下げている。
* 池田大作が亡くなると創価学会の評判は良くなってゆくであろう。しかし自分は創価学会が大きく方向転換をしない限り（信徒団体として宗門に戻らない限り）創価学会を辞め、法華講に入る予定である。（注：書いている時期が様々であるため、こうなってしまうことをお詫びしたい）

* **日如上人様**
* 辛いとき、「日如上人様」と心の中で唱えます。電話の受話器を取るときも「日如上人様」と心の中で唱えてから受話器を取ります。自分には生きてゆくことは、そんなに易しいことではありません。
* しかし、世の中にはもっと苦しんでいる人たちが居る。甘えてはならない。広宣流布のため身命を捨てて戦うべきです。でも、今の自分には若かった頃のような覇気があまりありません。全く落ち着いた自分になっています。創価学会の頃が余りにも落ち着かない自分であったと思います。
* 今週の仕事の帰りにも寺院へ寄ろうとも思いますが、またいつものように寄らずにそのまま家へ帰るような気がします。インターネットで活動すべきだという考えがあります。広宣流布への活動をインターネットで活発に行うべきだという考えがあります。
* 創価学会員は余りにも病気が多いです。熱心に信仰を行っていた故に罹った病気だと思われるものばかりです。適当に信仰している人は病気になって苦しむことは少ないように思います。
* 女房が創価学会員で女房の一族が熱烈な創価学会員です。正式に創価学会を脱会することはできません。脱会イクオール離婚です。可愛い幼い子供がいます。その孫を自分の親がものすごく可愛いがっています。隠れ法華講の道を獲るしかありません。
* 池田創価学会は池田大作の死とともに大きく変動すると期待しています。しかし、現在の執行部の体制のままでは創価学会が本山に詫びを入れて本山に戻る可能性は極めて低いと思います。
* 大きな世論を興さなければいけないと思います。そのためには国会議員に働きかけて国会で創価学会追求をしてもらうしかないと思います。創価学会はマスコミをその豊富な金力でかなり牛耳っています。創価学会を批判できるマスコミはごく僅かです。
* 創価学会の宮殿革命は不可能な気がします。現在の平和な日本では宮殿革命を行おうという覇気を持った人間は少ないです。藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を担いで宮殿革命を考えていましたし、今もその考えは捨ててはいません。しかし、かなり難しいです。玉砕覚悟で臨まなければなりません。幼い子供がいます。年老いた両親がいます。自分は死ねません。
* しかし、その宮殿革命こそが創価学会を改革できる、創価学会を正常化できる、唯一の道と思います。苦しんでいる多数の創価学会員を救うことのできる唯一の道と信じます。ほとんどの創価学会員は余りにも人が良く、池田大作の悪さを知りません。聖教新聞に書かれてあることを鵜呑みにしています。これら朴訥な創価学会員を救うには大きな改革が必要です。しかし現在の執行部のままでは大きな改革を行うことはしないと思われます。
* 国会議員はなかなか動きません。創価学会を攻撃する覇気のある国会議員は現在は少なくなっています。保身に汲々とした国会議員ばかりです。
* しかし、現実に目を向けると、そこには暗い絶望の道が見えているだけです。“魔”の力は余りに強く、どうすることもできないようです。
* 創価学会員は池田大作の悪行をほとんど知りません。理解のある創価学会員は一部です。

* ***藤原範昭氏へ「戸田時代に帰れ！」***
* 自分は二十年ほど前、００の活動家に勧められて藤原範昭氏と電話で話をしたことがあります。しかし、優柔不断な自分は創価学会内部改革派憂創同盟に入ることはなく創価学会に大人しく留まっていました。しかし、００歳となった今、創価学会を改革しなければならないという決意が強くなっています。今では家の日寛上人の御本尊は“魔”の御本尊として全く祈っていません。自分は藤原範昭氏より０年年下になります。
* 現在はヤフーの知恵袋で創価学会内部改革派憂創同盟として戦っています。「創価学会内部改革派憂創同盟」のホームページも造ってあります。 池田大作によって滅茶苦茶にされた創価学会を戸田先生の時代の創価学会に戻すのです。素晴らしかった創価学会に戻すのです。「戸田時代に帰れ！」です。
* 池田大作は近いうちに死ぬことは確実ですが、創価学会の内部改革は非常に困難と思えます。宮殿革命を起こさないことには創価学会の内部改革は不可能と思います。しかし宮殿革命は難しすぎます。成功する可能性はありません。
* 秋谷元会長たちが反乱を起こす可能性は低いと思います。このまま濁りきった創価学会のままで推移する可能性が非常に高いと思います。
* 創価学会には純朴な人があまりにも多く、真実を知らないまま（池田大作の真実を知らないまま）、創価学会について行っている人たちが非常に多過ぎます。自分の両親もそうです。法華講に入りたくても周囲の創価学会員への義理人情で法華講に入れない人が非常に多いです。
* 自分も法華講に入りたいですが００の一族が狂信的な池田教信者であるため入れません。離婚となり、子供を持って行かれます。結婚が失敗でした。
* 今の腐りきった創価学会ではたくさんの人が不幸になります。創価学会を改革しようとの決意は強くなっています。しかし、現在の生活を捨ててまで創価学会の改革に走る決意はありません。また、その確信もありません。この手紙は出せません。池田大作はイエスマン以外は排除してきたため改革は奇跡が起こらない限り不可能です。どうすることもできません。——―――しかし、次第に、やる気が湧いてきました。革命です。無血革命です。宮殿革命です。
* 【宮殿革命、成功への知恵と人員を募集する。メールでお願いします。（多くの創価学会員を救うための革命です。非暴力主義でいきます）】
* １）宮殿革命への仲間を募る、集める。
* ２）法華講の力を借りる（屈強な男性を３０名ほど借りる）。
* ３）本部職員も聖教新聞社職員も藤原範昭氏が会長ということになると大人しく従うと思われる。池田近衛隊も大人しく従う可能性は高い。原田会長の部屋の椅子に藤原範昭氏を代わりに座らせる。そして日常業務はそのまま続けさせる。会長室にあがってくる書類への処理はそのまま続けさせる。
* ４）宮殿革命を起こす時期は創価学会が弱体化したとき、すなわち池田大作の死後になる。また、公明党が完全に野党に落ちたときである。――――しかし、池田大作の死を待つ必要はない。池田大作はすでに死んだも同然である。

* ***紳士革命***
* 藤原範昭氏と原田会長が面会する。
* 平和理に会長交代が話し合われる。そして原田会長は会長を退く。
* 宗門の一信徒団体に復帰する。もしくは創価学会を解散する。
* 一信徒団体への復帰か法華講に属するかは猊下上人の判断に委ねる。
* ——原田会長も池田大作についての反感が強いことを数日前、知った（２０１０年１月２日）。それならば、これがもっとも現実的な方法と思われる。しかし、池田大作の死後でないと実行不可能であろう。池田大作の死は近い。
* 紳士革命こそ現実的である。紳士革命の成功を祈る。——

* ***次期会長について***
* 戸田先生が残した最大の汚点と言える「みんなで話し合って決めること」は正しい選出方法ではなかった。その方法は会長への野心・野望を持つ“魔王”を選ぶことに繋がった。戸田先生がそういうことを仰らなかったならば創価学会員はこんなに苦しむことはなかった。戸田先生は池田大作の魔性を見抜いていなかったのか？　それとも戸田先生には遺言状があり、しかしそれを池田大作が誰にも解らないように奪ったのか？（それには池田大作を創価学会より除名することが書かれていた？）　池田大作が“魔”の軍団を創価学会に大量に招き呼んでたくさんの（何十万何百万人の）創価学会員が塗炭の苦しみに喘いだ。また、そうでなかったら、既に広宣流布は達成されていたであろう。
* 私たち創価学会内部改革派憂創同盟は藤原範昭氏を会長に推薦する。藤原範昭氏は本山に詫びを入れ、創価学会は本山と和解し、創価学会は再び日蓮正宗の信徒団体となる。正しい御本尊を持ち、創価学会員は幸せになれる。
* 財務も一人五万円までとする。会館および関連企業（聖教新聞、日本図書など）の職員は募集を中止し、 会館および関連企業の職員を減らすように努める。希望退職を募る。池田大作の道楽（ノーベル平和賞を狙ったもの）で造られた民音など即時中止すべきものは即時中止する。儀典部は即時解散とする。職を失った者で希望者は他の外郭団体に転職させる。
* 全国各地に建てた墓地は宗門に全て寄贈する。
* 海外での余計な購入物（城など。これらは池田大作の海外別荘として購入された）は売りに出す。池田大作の別荘である霧島研修道場なども全て売りに出す。
* 池田大作の専用施設と別荘は数えるのが困難なほどあり、都心の一等地に建築費約五億円をかけて造られた和風総ヒノキ造り、庭園付きの邸宅である学会本部横の白雲寮などがある。池田大作が東京にいるときは大抵、この白雲寮にいる。自宅へは年に数回しか帰らないと言われる。なお、専用施設とは別荘と言い換えても良い。創価大学近くの加住研修所は三十四億円をかけてある専用施設である。熱海研修所に至っては数万坪もある別荘である。創価大学、創価学園にも豪華過ぎる専用施設が多数ある。１９８９年には伊豆の温泉地にも約一万坪の池田専用別荘が建てられた。池田大作の別荘および専用施設だけでも何百億、多く見積もると一千億円になるであろう。例えば、フランスでは東京ドームの五倍の広さを誇るアルニー城という古城を八十億円で買収している。これがフランスでの創価学会カルト批判に大きな影響を及ぼした。また、イギリス・ロンドン郊外の古城を約十八億円で買収し、実質的な池田家の海外別荘とした。これらは全て不要のものであるため売却する。
* 政治からは一切撤退する。（政治に進出するとそこから腐敗が起こる。これはどうしようもないことだ）
* 池田大作批判は徹底的に行い、戸田城聖全集の再版を行う。池田大作が書いたとされる書籍は全てがゴーストライターに依るものであるため実際に書いた著者の名で出版する。
* 会員が幸せになれる創価学会が出来上がる。ほとんど中止していた折伏弘教を再開する。

* ***法華講***
* 法華講で幸せになれるでしょうか？ 創価学会のとき、とんでもない目を受けたので、...
* 7777777さん
* 法華講で幸せになれるでしょうか？ 創価学会のとき、とんでもない目を受けたので、心配です。
* 法華講で幸せになれるか、お尋ねしたい。

<http://sky.geocities.jp/mifune008/>

 創価学会内部改革派憂創同盟

* （補足）
* これは切実な問題なんです。休みの日はこのことを考えて夕方まで布団の中で煩悶しています。法華講で幸せになれるか？ 今の自分には極めて切実な問題です。

* 888888888さん
* あなたの求めている幸せとはなんでしょうかね？ 幸せになるかならないかはあなたが求める幸せが正しい幸せであるかないかによるでしょう。 あなたが正しい御本尊様を求めて、御指南の通りの信心をするならば、幸せになれると断言致します。 しかしあなたが違う目先の利益や現象のうわべの幸せを求めているならば、法華講に入講してもなかなか幸せにはならないとも言えます。脱会しても現実にいるのですが、こんなはずではなかった、あげくは学会も法華講も両方ダメでしたと言う人がね。こういう人達は日蓮正宗の正しい信心を我見で捉え、相変わらず学会の間違った考えのまま信心をやっています。 信じる心が間違っているのですから、一向に良くなって行きません。ですからあなたが求めている幸せが間違っていれば良くはなりません。要は真の幸せは大御本尊様と唯授一人血脈相承を離れて有り得ないのですから、どこまでも正しい御本尊を求め、御指南の通りの信心を求める姿勢が無いと、何時まで経っても迷い続けるでしょう。 あなたは学会の間違いを十分に理解されているのですから、布団にくるまって考えても解るものでもありません。次は行動です。まずは脱会をしてお寺で勧誡式を受けてから、御住職様の御指導のもと真の幸せとは何なのか考えることが大切です。勇気を持って日蓮正宗寺院を尋ねられることを願います。
* fs2784さん
* 少なくとも「とんでもない目を受ける」ことはありません。切実であればあるほど、説明は短くて良さそうです。「絶対に幸せになります」
* rtf3070さん
* 私の祖父母はもともと日蓮正宗の檀徒（法華講）であり、父母は創価学会員でした。私も生まれてまもなく創価学会に入信させられましたが、毎月の御講にはずっと日蓮正宗のお寺に参詣していましたので、創価学会が宗門批判を聖教新聞で始めるようになった時、聖教新聞の記事がすぐに嘘や捏造であることが分かっていました。日蓮正宗の僧侶は聖教新聞に載っているような方ではありませんし、私の知っている御住職は本当に少慾知足の方たちばかりでしたし、六壺で修行しているお書家さん方も中学に通いながら、寒さ厳しい冬でも足袋も履かずに一生懸命修行されておられます。私はその中の一人に寒いのに足袋は無いのですかと聞きました、その方はご供養で頂いたので本当に寒い時以外は履きませんと言っておられました。当然本山大石寺内の塔中内外も本当に綺麗で心が洗われ清浄になります。ただ、創価学会がいまだ所有権を持つ売店は放置され荒れていますが、これは創価学会の嫌がらせであります。折伏も創価学会のように口巧く誘って、大人数で取り囲み喚き散らしながら無理やり入信させるようなことは一切しません。入信するしないは、その方の心が一番大切であり、その信無くしてはありえませんので無理やり勧誘することは一切ありません。逆に入信すると言っても誰でも入信できるものでもありません。本当のことをそのまま説くことが、他宗を批判していて、自分の宗だけ正しいというのはおかしいという方がおられますが、宗教で「私の宗教も良いけど、あなたの宗教も最高だね」などと言うのははたして宗教と呼べるのでしょうか。日蓮正宗の信仰は三世に渡る価値観を持っているので、現世御利益や賽銭神社的な棚ボタ宗教ではありません。信仰をしていくと自然に自分自身の心が磨かれていく様子が、自分から見ても、他人から見ても共に分かっていきます。幸せになるということについては人それぞれの価値観がありますが、心がやすまる、安穏な人生になる、この信仰をやっていて良かったと思えることに出会える、のは確かです。一度お近くの日蓮正宗寺院に足を運び、納得できる様に御住職から話を聞いてみてから、ご自分で納得出来るようでしたら法華講に入講されるようにお勧め致します。
* ００００００さん
* 貴方が幸せを感じる定義で違うと思います。 学会では幹部が我見で指導をし、人の良い人は言いなりになって行動し利用されます。法華講は各末寺ごとに御住職が御法主上人猊下の御指南を仰いて御指導しますので幹部が我見で指導をする事はありません。ですから講中の在り様は末寺ごとに違います、ただ正しい法を実践するのですから それなりの魔も出ますし宿業転換も結果としておのずと出てきます。学会と違い行体行儀を重んじますから学会からの癖(振る舞い)を注意される事は多いかも知れません。六根清浄を目指して一日も早く日蓮正宗に帰依なさる事を心からお祈り致します。
* (補足）を読まさせていただきました。法華講に入講し御法主上人猊下の御指南のまま実践すれば少なくとも物事に悩む事は無くなります!!!


* 耐震偽装の姉歯秀次氏は壮年部副本部長だったそうです？　皆さん、知ってましたか？　驚きました。
* １）家の前に『どうぞご自由に』と書いて『聖教新聞』を置いていたこと（『聖教新聞』を自宅前で無料配布していた）。
* ２）選挙になれば公明党のポスターが張り出され近所では「創価学会一家」と認知されていたこと。
* ３）奥さんはひどい奇行癖があり統合失調症が疑われる疾患にかかっていたこと。
* ４）奥さんは事件ののち飛び降り自殺で命を絶ったこと。
* ５）相互扶助組織である創価学会も奥さんを助けることはできなかったこと。
* ６）ヒューザーの小嶋社長は公明党とパイプを造っておくため信仰心は全くなかったが創価学会に入会していたこと。
* ７）小嶋社長の知己の公明党区議はヒューザーから政治献金を受けていたこと。
* ８）この事件が発覚する直前に小嶋社長は知己の公明党区議を介して国交省の担当者を紹介してくれるように頼んだこと。
* ９）この事件が起こったときの国交省の大臣は公明党である創価大学一期生の北側一雄氏であったこと。
* １０）姉歯秀次氏は母親が病弱で早くに離婚していて女手一つで二人の子供を育てたこと。
* １１）姉歯秀次氏は大学卒ではなく工業高校卒で実務経験を積みながら一級建築士の資格を取ったこと。
* １２）創価大学のホームページ上の「主な就職先」に上場企業でもないヒューザーの名前が入っていたこと、
* １３）事件が起こってから創価大学のホームページ上の「主な就職先」のヒューザーの名前が削られたこと。
* などは知っていました。
* しかし姉歯秀次氏が壮年部副本部長とは知らなかった。福本潤一氏（池田大作に東京大学の名誉教授に池田大作を就任させるように命じられた東大出身の参議院議員）の書かれた本（創価学会・公明党「カネと品位」：福本潤一：講談社：２００７：p106）に書いてあります。国会議員に回った情報ですから真実と思われる。
* 池田大作が創価学会に招き入れた“魔”が犯罪（耐震偽装）を唆したと思われる。
* （※上記はインターネット上に自分が書き込んだものである）
* 『この六月に、公明党参議院議員（当時）の福本潤一氏が週刊現代で「東京大学の名誉教授に池田大作を就任させるように命じられた」との告発を行いました。
* 電車の中吊り広告を見た人は「エッまさか、本当なの」「池田ってバッカじゃない！」等々の侮辱的な感想が聞こえてきます。
* 大体、最高位の東京大学の名誉教授取得に異常な執念を抱く池田大作という人物は、常識では考えられない大欲望の愚か人間なのです。何故、世間も学会員も疑問に思う性癖を発揮するのでしょうか』と（池田大作の品格：小多仁伯：日新報道：２００７：p139）書かれています。

* いよいよ、「財務」の時期がやってきました。振り込み用紙が入った封筒が配られてきました。１２月２５日までに振り込むこと、月末は込むから早い時期に振り込むこと、と書いてありました。これは完全な詐欺です。集団詐欺です。「財務」によって家庭を破壊された人、夜逃げになった人は多い。国会で取り上げるべきです。
* 男性は思慮分別があるから多額の「財務」をすることは稀です。しかし女性は気違いのように多額の「財務」をするのが多い。サラ金から借りてまで「財務」をするのが多い。直前の会館での「財務」の功徳話を本当のことと思うからである。女性には内向して考える能力がない。その功徳話は男子部や壮年部が代筆して創作したものであることを知らない。
* 婦人部は多額の財務をすると不幸が舞い込むことを理解できないのである。多額の財務をすると不幸が舞い込む体験談を知らない。
* 私が中等部担当の時、叔父の遺産として入った３０００万円を丸ごと創価学会に寄付した中等部員は絶対合格するはずの二つの高校に二つとも落ち、結局、三流高校に行きスケバンになった。今も不幸に喘いでいる。
* （※上記もインターネット上に自分が書き込んだものである）

* 創価学会で一番、弁が立つと言われていた広報室長の西口浩副会長は五十三歳で舌癌で亡くなった。自分はここにも創価学会の魔性を見るような気がしてならない。創価学会は早く辞め法華講に入るべきである。
* 宗門攻撃の総指揮者だった野崎勲氏は六十一歳で胃癌でなくなった。この野崎勲氏は「五十二年路線」では池田大作から直々に指示を受け、青年部の先頭に立って創価学会に批判的な僧侶を学会本部などに呼び出して、大声で罵詈讒謗を加えて恫喝し創価学会への「詫び状」を書かせていた。
* （※上記もインターネット上に自分が書き込んだものである）

* “魔”の御本尊に祈って、あなたは本当に以前、感じていた歓喜・生命の躍動、南無＿＿は歓喜の中の大歓喜なり、となりますか？
* 自分は以前の日達上人の御本尊に祈ったときと、平成五年から配布始めた日寛上人の“魔”の御本尊に祈ったときとでは全然違います。
* “魔”の御本尊に祈っているときは勤行唱題をしたという自己満足感しか得られません。
* 日達上人の御本尊に祈ったときは大歓喜が湧きます。
* 自分の実家は日達上人の御本尊なのです。
* “魔”の御本尊に祈るより、大石寺の方角へ向かって勤行唱題した方がずっと歓喜が湧きます。
* “魔”の御本尊に祈っても紙に祈っているようで歓喜は湧きません。そして運命は下降線を辿ることにも気がつきました。
* これが自分が創価学会を疑い始めた一つの大きな理由です。
* これは自分だけでしょうか？？

* 池田大作が同時中継の時、秋谷会長に「踊れ！」と命じ、踊らせたのは平成三年のことであるらしい。あれを見て約五万人ほどが疑いの心を起こし退転した。五万人でなく三十万人が退転したかもしれない。筆者の弟もそれを見て退転した。しかし、名簿は未だ創価学会員として残っている。
* その数年後から、創価班、牙城会は希望者はほとんど全員成ることが出来るようになった（それまでは面接が非常に厳しかった）。また、その数年後から男子部の班長も勤行唱題さえ行っていれば、ほとんど全員成ることが出来るようになった。学会離れがその「踊れ！」に連動しているように思えてならない。今では勤行唱題を行ってなくても男子部の班長になれる。
* その「踊れ！」を見て疑いの心を起こさなかった人は何かが抜けているか狂信的な池田大作教信者であることになる。自分は仕事で出られず、見ることができなかったし、このことを自分に言う人はいなかった。自分がこれを知ったのは十七年後のことであった。
* 同時放送は雲の上の人とされていた池田大作を引き下ろし、その実在を一般の創価学会員に見せつけた。良識のある創価学会員はそのあまりもの傲慢な姿を見て宗門に寝返ったりなど退転していった。誰が同時放送を始めることを命じたのかは不明であるが、同時放送は狂信的または無感覚な創価学会員を創価学会に残す結果と成った。大きな画面に映し出されたあまりにも傲慢な姿は良識のあるものならば疑いを起こさずには居られなかったであろう。
* 同時放送はこのように創価学会潰滅への一つの試金石となった。池田大作に反感を持っていた副会長の一部が動いて全国への同時放送を推し進めたのかもしれない。

♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦

* ***手紙１***
* はじめまして、
* 久方ぶりにＷｅｂＳｉｔｅで創価学会の事を読ませていただきました。
* 私は六十代後半、かつての創価学会の支部幹部です。
* 久方ぶりと申しますのは、実は私はインターネットに関しては、マイクロソフト社がウインドウズ-９８を世に出して、インターネットエクスプローラーが使えるようになった頃、親しんで来たのに、創価学会問題については、殆どアクセスしてきませんでした。幾ら論じても仏法は現象である事は厳しい事実です。
* 人の智慧で測り知る事不可能な自然界・森羅万象・宇宙法界、全体の時間と空間、空仮中、の存在です。人の智慧には必ず限り（限度、リミット）があるのです。「人間こそ最極」なぞと思われたら創価学会と同じになります。
* 勿論人間の智慧から見たデモクラシーなるものもきちんと離れて見なければなりません。
* 本日パソコンで、ちょっと見てみるか？と言う感じでヤフー検索から、アクセスしましたところ貴文書を拝見いたしましたのでつい通信をしたく思いこのように書いてます。ちなみに私は現在七十歳近い者ですが、コンピュータハード会社の社員として三十二歳からコンピュータには関わってます。Nec-Pc600と言うPcマニアなら懐かしい故郷へ帰ってきたような感慨を受けるだろう機種からです。そんな私も不思議にネットで創価学会の事をアクセスはしませんでした。
* と言うのも私も昭和二十九年に創価学会に入り、平成二年の大晦日に池田大作が明白な三宝破壊＝本尊破壊をしたのを確認し、平成三年二月に早々と脱会しまして、本山に帰りました。
* 職業は東京都の公務員として十年ほど前、管理職を経て退職しまし、学会では昭和四十年代から青年部部隊長、以後支部長等を歴任してきまして、信心の重要性を気付いてきましたが、大作は全く御本仏日蓮大聖人様を足蹴にした者で極めて大きな仏法上の大罪者＝末法下種三宝・本門の上にまします末法の実相、下種円融三諦を敵に回した、愚鈍の典型者であることに違いありません。
* そんな事で貴文書を、懐かしくもまた懸命に正義を貫かれる御姿勢も感じられ嬉しく思ってます。真面目に大聖人様の仏法を実践しようとされるなら当然なことかもしれません。
* ただ、私もそうでしたが、知りえる創価学会に矛盾性か大作の魔性、創価学会の組織上の悪弊、創価学会本部、大幹部の悪弊。私も昭和五十二年路線も含め、いや戸田城聖以来の会長絶対性（僧の宝を会長に擦り返る）を含め大分私も知りまして、貴文書も懐かしく読ませて頂きました。
* こう書きますと、何か傍観的に思われるかもしれません。確かに私は思いました。全ての創価学会の行為は間違いだった。三宝の中に入っている場合＝正しい信心、では良かったが、それ以外はすべて間違いでした。
* 未だその事に気付かず、またそれが原因で大聖人様のお示しの題目を唱えられない方々、＝創価学会員には、確かに創価学会の内部不祥事は有効に働く（効果的）とも思います。
* しかし、三宝に帰順できないのであれば、やはり日蓮正宗ではありませんし、日蓮大聖人様の仏法を奉じるとは申せません。ちなみに仏教は釈尊以来、三宝こそが本尊です。仏教の常なのです。
* したがって、大作を改め会長を別の者がなったとしてもその者が純粋に三宝に帰順しなければなりません。結論を具体的に書きますと、
* 「日蓮正宗末寺の御住職様に着き切ることです」
* これは時の法主に従う事であり、僧宝に従う事で自ずと法の宝と仏の宝、すなわち末法の下種三宝に従う事であり、ただ一つの方途だからです。
* これ以外には大聖人様の仏法を奉ずる途は存在しないからです。宇宙法界何処を探しても存在しません。
* はたして、その新たに成った新会長は其れができるでしょうか？
* もしできなければ創価学会の非を何百、何千、何万と論じても大聖人の仏法に帰ったことにはなりません。
* また具体的方途の一つを書きますと、その新会長が創価学会そのものを解体し自分は勿論、全ての会員を日蓮正宗末寺の信徒として頂くことです。
* 確かにそれができれば素晴らしいことで、もし正しい仏法に逢い、金剛不壊の成仏を願うのであれば道はその一つしかありません。繰り返しますが、その新会長自身も一信徒になることです。
* ちなみに福島さん、原島さん、竜さんもそうだったのはご存知でしょうか？　他に如何なる理屈も効をなさないのです。天台・伝教・妙楽・大聖人の教学を幾千万、研鑽した所で僧の宝を見失ったら血脈を失ったこと＝法と仏を失ったこととなるからです。＝三宝破壊＝創価学会と同じ、幾ら正論であっても、行き着く果ては所謂、浄土宗、真言宗等々、その他の「学派外道」でしかないのです。
* 如何でしょう？　いわば全てを投げ打って自らが純粋無垢となり末寺の御住職を僧の宝と仰ぎ拝して信順する事は可能でしょうか？
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* ***【返事】***
* 返事がかなり遅れました。すみませんでした。
* ＞末寺の御住職を僧の宝と仰ぎ拝して信順する事は可能でしょうか？
* 可能と思います。
* しかし、厳しいです。こんなに厳しいとは知りませんでした。
* 法華講に入ろうと思っている人でこのことを知っている人は少ないと思います。
* 創価学会はあまりにも滅茶苦茶です。法華講はかなり良いと思っています。
* 衝撃の手紙でした。
* この手紙は自分のホームページに載せて良いでしょうか？勝手に載せます。
* 読者も衝撃を受けると思います。
* ＞「日蓮正宗末寺の御住職様に着き切ることです」
* 出来るとは思います。
* 「末代の衆生は法門を少分こころえ、僧をあなづり、法をいるがせにして悪道におつべきと説き給えり。法をこころえたりしるしには、僧を敬い、法をあがめ、仏を供養すべし。（中略）如何に賤しきなりとも法華経を説かん僧を生身の如来の如くに敬うべし」（新編p1461）
* 妻の一家が極めて剛信な（狂信的です）創価学会のため隠れてインターネット（０００００）で活動しているだけです。
* 隠れ法華講になるしかありません。創価学会を退会することは不可能です。
* 退会せずに隠れ法華講になるしかありません。退会イクオール離婚と思われます。まだ幼い子供が二人います。その子供を自分の親がとても可愛がっています。
* 隠れ法華講になるつもりでありましたし、今もなるつもりでいます。
* 隠れを貫き通すしかないようです。
* 民主党のある代議士（石井一氏）や日本共産党などにメールを送っていましたが、彼らはやる気（創価学会への攻撃）がないようです。
* しかし、自分の理想は、やはり宮殿革命（無血革命）です。たくさんの苦しんでいる創価学会員が居ます。自分も苦しんでいますが、自分以上に苦しんでいるたくさんの創価学会員が居ます。創価学会員全員を連れて本山の元へ還ることです。池田大作によって滅茶苦茶にされた創価学会を正常化することです。それには藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を担ぎ出し、創価学会の会長に据えることです。そうして創価学会全員で本山に還ることです。創価学会員全員が幸せになることです。
* [vvv23274@yahoo.co.jp](mailto:ccc998@infoseek.jp)
* （返信が何故かならないので、ここに載せました。勝手にすみません）
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* ***手紙２***
* はじめまして、都内在住の壮年部員です。地区幹部をやっていましたが、活動に疑問を感じ自然に未活となりました。私の支部内では、学会批判サイトを見ていた活動家が、やはり学会は変だと思い未活に至った者もおりますし、会合等で公明批判をする地区幹部も、この二年くらいの間で出てきております。
* 私は学会をいろいろ調べているうちに、これは完全におかしいと確信するにいたりましたが、他の学会に疑問を持つ活動家はその認識に様々な違いがあり、活動を続けている者もおり、反執行部の狼煙を上げるようなグループにはなりません。しかし、ネットを見ていると、現役の活動家であっても、反執行部を公然と唱える組織もあり、個人的に学会を批判する活動家も少なくないことを知ることができました。多分、都内では組織的な動きはなく、盛んに行われているのは地方なのだと思います。ですから、私のような想いをしている会員が結構いるはずなのに、水面下に隠れ、声が挙がらず、せいぜい点の動きしかできていない状況なのだと思います。そこで、そちらのグループについて何点か、知りたいことがありますので宜しければ、お答えください。
* １.貴グループは二十年前に告発本を出版されましたが、正信会がバックについているようなのですけども、何か関係があるのでしょうか？
* ２.現在、何人ほどの人数で構成されているのでしょうか？
* ３.具体的な動きとしては何をされているのでしょうか？
* ４.宗門は正しいと感じているのかどうか？
* 以上の点について、同じような認識を持っているのであれば、今後、連携をさせていただくことを考えております。
* では、宜しくお願いいたします。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* ***【返事】***
* 返事かなり遅れました。すみませんでした。
* １，その告発本は手に入れていません（まだ読んでいません）。正信会には反対です（原島嵩・絶望の淵より蘇る、より）。
* ２，自分一人です。
* ３，インターネットでの０００００を中心とした活動だけです。
* ４，正しいと思います。
* ＞ネットを見ていると、現役の活動家であっても、反執行部を公然と唱える組織もあり、個人的に学会を批判する活動家も少なくないことを知ることができました
* どこにそれがあるのですか？　お教えください。是非、知りたいです。
* 自分は００ですが、００は田舎です。００の人間はおとなしく、公明批判をする地区幹部など聞いたことがありません。
* ００に住んでいたときは、そういう幹部が何人も居ました（都会ではそういう幹部が出るようです。田舎では出ません）。
* 韓国と異なり、日本では、反執行部を掲げることは至難の業のようです。
* メールアドレスは消してこの手紙、ホームページに掲載して宜しいでしょうか？勝手に載せます。
* 家族などに隠れてインターネット上（０００００）のみで活動している状態です。
* 妻の一家が極めて剛信な創価学会の信者です。
* お寺にもまだ行けていません。
* しかし、自分の理想は、やはり宮殿革命（無血革命）です。たくさんの苦しんでいる創価学会員が居ます。自分も苦しんでいますが、自分以上に苦しんでいるたくさんの創価学会員が居ます。創価学会員全員を連れて本山の元へ還ることです。池田大作によって滅茶苦茶にされた創価学会を正常化することです。それには藤原行正氏の次男（藤原範昭氏）を担ぎ出し、創価学会の会長に据えることです。そうして創価学会全員で本山に還ることです。創価学会員全員が幸せになることです。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* お返事いただき有難うございます。
* ＜改革活動について＞
* 私もあなたと同じように学会内に留まり草の根の改革を行い昔の学会に戻そうとネットや対話で活動してきました。私がそう思って行動に移し始めたのは一年半くらい前から、つまり矢野事件を知ってからのことです。身近な同僚活動家、支部幹部から区幹部へも疑問をぶつけ絶対におかしいと激しく言い放ちました。ですが何も彼等は満足な言葉を返すことができなかったのです。それどころか、その幹部の異様な態度、目つきに豹変したことに害毒だと察し恐ろしくなりました。彼等と対話すればするほど意味不明、支離滅裂な言葉を返すばかりだったのです。
* そうした疑問が募り拍車となって学会員としては教義解釈から学会の闇の部分まで誰よりも調べ抜く結果となりました。
* 学会員が信徒資格を失ったのは平成三年です。末端会員の信心の狂いも本格化したのはこの年からと言っていいかもしれません。ですから、その遥か前に破門となった顕正会がカルト化していったように学会内の大半の良識人は脱会して行き学会はその道を追うことになることも否めません。
* ただ世間的良識を持っている学会員でも、こと教義を正しく理解しているかと言えば別問題です。現在の学会は難信難解の仏法を逆手にとられ洗脳されているように私は思います。実際、学会の教義解釈は御書の一部を引用して宗門否定、自己正当化をしていることがようやく分かりました。それは学会の新解釈について徹底的に御書や過去の指導を読めば明白です。間違った解釈というより完全なウソをついていることがお分かりになるはずです。
* ですが、学会内に残っている会員は、そこまで調べることもしませんし、それが分かるのは正宗へ戻ってから気づく人がほとんどです。学会の歴史の中で一応は正宗の教義に則った形で文面上ほとんど書籍化されてきましたが宗門の指導を読むと学会の解釈の浅さに気づかされます。
* 戸田会長の指導が学会の教義解釈の頂点でありましたが、それよりも深く教えているのが宗門だったのです。池田氏は都合の良い部分を引用するだけで決して講義をすることはありません。要は何も覚知していないからできないのでしょう。
* 話は戻りますが、私のこの活動によって数人の学会員が未活あるいは脱会に至ったと思われますが、このペースでどれほど時間がかかるか途方にくれます。現役の活動家からは『今年の衆院選は公明に入れない、でも他の活動家も実際は入れていない』と連絡をくれた人もいますし熱狂的な活動家でさえ幹部を無能呼ばわりし始めたことが確認できました。
* そこで自分なりにやり切ったとして一ヶ月前に学会本部に脱会届けを郵送し新たな活動に向かうことにしたのです。次の統監の時には処理されるのではないかと思います。私は周囲に学会批判を公言していましたので厄介者と思われ対話の時には必ず脱会を勧められていました。留まるよう説得されたことはありません。ですから未だ組織からは何の接触もない状態です。私のような者にはあっけない脱会となりました。
* ＜宗門信徒として＞
* 家族、周囲の学会員とのトラブルを避けたいが正しい信心をしていきたいと思って脱会できない方が全国に大変多くおります。また自発的に宗門側へ内部情報を届けている方がいて元の学会に戻って欲しいと思っているようです。その中に以前は複数の副会長が存在していました。
* また、あなたのような立場(学会員)の方で法華講として活動している方は少なからずおります。事情を僧侶に話し、そこで納得が得られれば、暫定的に学会員には口外せずに正宗で信仰することは可能です。あくまでも、ご住職のはからいですので、どのお寺でも可能というわけではありませんし、お寺に張り込む学会員がいるようですので、安直に相談に行くのも危険です。この点はナーバスな問題なので、おいおい慎重にご相談いたしましょう。
* 私がびっくりしたのは宗門の信徒として勤行・唱題をして一週間ほどで学会の信心とはまるで違う感覚を体験できたことです。本当にダイレクトに功徳を感じられます。私の学会での信心は御本尊を信じているが功徳が現れないと言うような想いだったのですから本当に驚きでした。できうるなら、あなたが本当の功徳を感じつつ内部で改革を行えるよう願います。
* Ｘデーが来た時、学会は大変大きく割れ動くように感じます。現役の執行部役員たちや脱会した幹部の証言を見るとそれぞれ池田氏に去って貰いたいと思っているようです。その理由は日常的に池田氏から理不尽な行動を強いられているからです。これによって生理的拒絶反応として蓄積されているのが実状です。秋谷氏、原田会長、長谷川氏などは明らかに感じています。９０％くらいの幹部はそう思っているといっても過言ではないでしょう。彼らが改革を起こさないのは口々に組織・会員を守るためと言いながら実は自身の生計の為であることが最大理由なのでしょう。ですから大幹部といえども本当の信心ではなく食べるために信心を利用しているに過ぎません。
* その時、活動家の何割かは押し寄せて宗門へ行くことになると思います。ですから内部で改革を進めることは意味はあるのですが数の上からいえば自然に任せることが一番大きい動きとなることになるのかもしれません。付け加えると宗門は顕正会、正信会、学会の例によって、どれほど素晴らしい指導者が学会に就いたとしても昔のように信徒団体として認めることはないでしょう。
* 何より大事なのはご自身の幸福です。そのスタートをどうやって行っていくかをまず共に考えてみたいと思います。それから内部に於いて反旗を掲げる方は数名おりました。疑問を感じている会員はネット上に多数存在します。二人は名前、住所、連絡先を明記しておりましたが数年前のものでしたので、今、連絡が取れるかは分かりません。その内の一人は学会員・ＯＯＯＯ氏主宰の「００００００００００００」<http://wt000.o00/>　があります。結果的に私の立場は変わりましたが、今もって周りの学会員をはじめとした全ての会員が大御本尊にお目通りが叶うことを願っています。できましたら今後ともさまざまな情報交換を行えればと思います。
* 前回並びに今回のメールをＨＰに掲載しても構いませんが、学会には不正アクセスで身元を調べる輩が存在していますので貴方自身のためにも私が書いた内容の彼等を刺激する部分は削除した方が良いと思います。お気に入りから消えてしまったため返信の際あなたののＨＰアドレスをお知らせください。では宜しくお願いいたします。
* [zzz0000@mail.nifty.ne.jp](mailto:zzz0000@mail.nifty.ne.jp)
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* ***【返事】***
* 自分が創価学会の謗法を知り、家の“魔”の御本尊に祈らなくなって変わったことは「今まで起こっていた余りにも悪過ぎる偶然が起こらなくなったこと」です。
* 一回、気が変わって“魔”の御本尊に祈ったときがありました。するとその夜、ムカデが腕を這っていたのです。びっくりして窓を開け、外に捨てて刺されませんでしたが、こんな経験はもちろん初めてでした。“魔”の御本尊に祈った罰と思い、それ以来、怖ろしくて“魔”の御本尊には祈っていません。
* 実家のことですけど、実家は日達上人の御本尊様ですけど、何故か実家で勤行唱題すると歓喜は大いに湧くのですが悪いことが同時に起こっていました。しかし、ある日、仏壇の部屋に飾っていた「池田大作の額縁」を取り除いてからは悪いことが起こらなくなりました。「池田大作の額縁」が元凶だったのです。
* 創価学会の矛盾、池田大作の悪行には早くから気付いていましたが、“魔”の御本尊のことにはインターネットを詳しく読むまで気付いていませんでした。
* 実家の日達上人の御本尊様に勤行唱題するともの凄く歓喜が湧くのに家の新しい日寛上人の御本尊に祈っても歓喜が湧かないことを不思議に思っていた頃でした。そしてこのことを幹部に相談していました。幹部の答えは適当でした。狂信者の答えに過ぎませんでした。
* 池田大作の悪行を知らない創価学会員は非常に多い。インターネットをしている創価学会員にも池田大作の悪行を認識している人はごく僅かです。洗脳の強さ、理解力の無さなどが原因していると思います。
* どうしようもないお人好しが創価学会を支えているのだと思います。普通では創価学会の矛盾に気付くはずです。選挙、選挙ばかりです。そして池田大作を神様にしています。おかしいと思わないのがおかしい。
* 自分は家庭上、隠れ法華講員とやっていくしかありません。妻の洗脳を解くよう努力しては居ますが、四人兄弟の後三人も狂信的な創価学会員です。その三人から激しく非難されることは目に見えています。両親は完全に狂信的です。
* 創価学会員には精神障害が極めて多いです。とくに現在はうつ病性障害が問題になっています。しかし、その他に、パニック障害、社会恐怖（対人恐怖）、強迫性障害なども創価学会員に極めて多く、そして創価学会員のは非常に治り難いのです。治らないため公明党の市会議員が生活保護に奔走していました。
* これは医学的には説明困難であり、オカルトでしか説明できません。
* とくに熱心な人がうつ病性障害になります。東京の創価学会本部には毎週、精神科医が来ています。本部職員およびその家族にうつ病性障害など精神障害が多発しているからです。
* 自分も以前、うつ病性障害に五年ほど苦しみました。自分のは比較的軽症でした。何故、自分が罹らなければならないのかと不思議でした。でも自分の周囲にも創価学会員のうつ病性障害はたくさんいました。二人自殺しました。自分は「０００００」で何とか乗り切ってゆきました。五年余りの戦いでした。「０００００」で自分のホームページがまだ残っているはずです。「０００００」を教えたいのですけど、自分の身元が分かってしまいます。それに余程巧くしないとほとんど効かないようです。
* うつ病性障害が創価学会員に非常に多発していることは二十五年前、ある副会長から聞いていました。その副会長は途方に暮れていました。
* 昭和三十年代四十年代の折伏闘争華やかなりし頃は“急性精神病状態”（昔で言う“心因反応”です）が多発し精神病院はたくさんの創価学会員で賑わっていました（すべて躁的でした）。五十年代にもまだまだ発生していました。今はほとんど発生していません。熱烈に長時間、勤行唱題しなくなったからです。代わりにうつ病性障害が多くなりました。
* これらは池田大作が招き込んだ悪鬼の集団によるものと解釈しています。でも「トップが悪いと、そこから悪鬼が雪崩れ込んでくる」という御文は日蓮大聖人御書全集には無いようです。創価学会内部改革派憂創同盟の本には載っているかもしれませんが未だ手に入れていません。おそらく外典に依るものでしょう。
* 壮年部は池田大作の悪行、創価学会の矛盾、に気付いていますが、婦人部が駄目です。女性は盲信から抜け出すことが困難なのです。
* 自分は脱会したいけど脱会できないのです。
* 「財務」は詐欺罪で告訴できる可能性があります（民事になるか？）。昭和五十年頃から、創価学会は「財務」で力を付けており、「財務」を中止させると創価学会の力は急激に落ちるはずです。マスコミにばらまく多額の金が無くなります。「財務」で創価学会が得る金額は莫大ですから池田大作および学会中枢幹部を詐欺罪で国会喚問出来ると思います。
* [vvv23274@yahoo.co.jp](mailto:ccc998@infoseek.jp)
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* こんにちは
* <精神疾患＞
* 我が区の男子部主任部長は２５年程前にうつ病を患い突然自殺を遂げ当時、内部に動揺を走らせました。あなたがおっしゃる通り学会は大昔から様々な面でおかしかったが故の一例であろうと思います。
* また、ある支部の副支部長はドクター部に籍を置く精神科の医師であり、学会本部の近くの医院に勤務しています。そこには、各地から精神疾患を患った学会活動家が通院しています。その中の一人の男子部地区リーダーは勤行をする度に自らの手首を切っています。本人はその行為が安堵感を味わえるのだと感じているとのことです。まったく恐ろしい現象です。その副支部長も学会内の精神疾患に陥る数の多さをラインの会員、幹部たちにも話しています。おそらくその副支部長は薄々学会の信心に原因があるのではと感じているように思います。
* ＜御本尊＞
* 御本尊を学会版のものに代えていない幹部は多いです。内心怖がり罰を気にしている人もいるでしょう。池田氏も住居としている学会第二別館の御本尊はあの賞与御本尊であり、彼が拝んでいる学会本部の御本尊のほとんどは宗門の御本尊だろうと思います。自分は正宗の本尊を拝み「御本尊はただの物」と指導しながら会員には偽造本尊を売る精神状態は常人ではありません。
* ただ絶対に誤ってはいけないのは、正しい御本尊を拝んでいてもその人が宗門から離れてしまえば、知らず知らずのうちに破仏法の輩と同じ境涯に至るということです。じわじわと悪くなっていくことが本人には自覚できない「冥罰」が必ず現れます。罰も功徳と思い込む頭破七分の状態に至ります。
* 日興上人が大聖人ご入滅後、佐渡の法華講衆に「自分たちは大聖人の直弟子である」といって自分勝手な信心をするのは堕地獄と破折されています。現在で言えば大聖人直結という我見を否定されています。
* 代々の御法主猊下の血脈から離れたところで行う信心は、たとえ大聖人の御本尊を拝み一時的に功徳を感じていても五老僧や現在の破門された人たちの例の通りとなってしまいます。
* ＜脱会＞
* 私の所属する講では、あなたのように奥さん家族とのトラブルを避けるため内緒で自分ひとりで正宗に戻っている方や、奥さんに告げて主人だけが法華講として活動している例は少なからずいます。それで何かトラブルが起きたとか離婚へ繋がったなどは今のところ聞いたことはありません。起こってしまった現実は仕方ないと学会員の家族も諦めているようです。
* その方たちの一例として、最初は決意半ばで隠れて信仰していても、同志、ご住職の適切なアドバイスにより本人の決意も変わり、それによって周囲も変わり晴れ晴れとした信心をできる状況へと改善されていっております。
* その他の周りの例を聞いても、宗門に戻って本当に早い時期に信心を清々しくできる状況に好転しています。私の隣の住民２人にいたっては、我が家に対し日常的に嫌がらせ行為、騒動を起こしておりましたが、パタッと止み、その人間が平穏な性格と落着いてしまいました。法華経に書いてあることは嘘ではありません。信心が不安なくできるよう、周囲も変わっていきます。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* ***【返事】***
* どうも。
* ＞我が区の男子部主任部長は２５年程前にうつ病を患い突然自殺を遂げ当時、内部に動揺を走らせました。
* 中国青年部長・交通事故死———昭和五十九年三月二十二日深夜、鳥取県内で０００中国青年部長が運転していた転輪会の学生部員とともに交通事故死した。広島市から鳥取県倉吉市までの往復六百キロ余りの道のりを日帰りで、しかも一人の運転でまかなおうとする、無理な強行日程の結果生じた事故だった。―――――――これと同じ頃ですね。
* 我が県の初代女子部長は統合失調症に倒れました（昭和三十八年頃のことです）。数年前まで自分がメール交換していた婦人部の人は女子部時代は女子部で県のトップにいた人です。“うつ病性障害”に苦しんでいましたし今も苦しんでいるでしょう。結婚した相手（男子部）の母親が統合失調症（“うつ病性障害”と医者からは言われていました。“うつ病性障害”という診断なら家族も受け入れるからです。統合失調症という診断名は家族はなかなか受け入れません）で嫁姑問題により“うつ病性障害”を発症したのでした。自分が反学会に流れたのでメールは無くなりました。“うつ病性障害”のまま産期は過ぎました。
* 男子部時代、一人の男子部が自殺しました。「社会恐怖（対人恐怖）」に苦しんでいたのでした。“うつ病性障害”でまた一人の男子部が自殺しました。二人とも自分は非常に懇意にしていました。
* 近くの女子部が「社会恐怖（対人恐怖）」で苦しんでいますが、どうにもしようがありません。閉じ籠もったままです。もう三十を超えています。それほど精神障害は創価学会に多すぎるのです。
* 自分が反学会に流れるまでは多くの創価学会の精神障害の人との付き合いがありました。
* 精神障害以外の病気でも創価学会員は治りが悪いし、重症化しやすいです。
* これらの現象は池田大作が招き入れた悪鬼の大集団による、と創価学会内部改革派憂創同盟では考えていました（電話で創価学会内部改革派憂創同盟の人がそう話していました。もう二十年前のことです）。自分もそう考えています。
* 原田会長が池田大作が亡くなった後、創価学会を立て直すならば良いですが、可能性は低いでしょう。
* 何も知らず、創価学会の中に蠢いている人が余りにも多すぎます。自分の親はともに００歳ですが、父は０００など、母は００などに苦しんでいます。日蓮正宗法華講には入りません。何故なら、自分の子供（つまり孫）をとても可愛がっており、女房の両親が創価学会の狂信者であるからです。日蓮正宗法華講に入ると離婚となると考えるからです。離婚となると孫を遠い００に持ってゆかれます。
* 創価学会を戸田会長のときのような創価学会（信徒団体）に立て直さなければいけません。難しいです。
* 今、久しぶりに遙拝勤行をしました。当直室でしました（週末は当直です）。勤行唱題を怠けていました。今、四十分ほど勤行唱題しました。大石寺の大御本尊様に向かっての遙拝勤行です。明日から毎日行うようにしようと思います。不安で一杯だった心はゆったりとなり、体までゆったりとなりました。今まで勤行唱題を軽んじていたことを反省しました。こんなに心も体もゆったりとなったことは初めてのようです。日達上人の御本尊様に向かって勤行唱題すると心がゆったりと歓喜に包まれることは良く経験していましたが、体までゆったりとなったことは久しぶりです。たしか過去にもありました。
* 法華講員の決意で大石寺の大御本尊様に向かって祈ったからだろうか？　心も体ももの凄くゆったりとなっている。驚いている。
* では。

* ***手紙３***
* どうしても言い出すことができないので手紙で書きます。少なくとも自分の精神病院に於いては創価学会であることが知れると首になります。これは創価学会に精神疾患が余りにも多いからです。
* そのことを知らずに、「００先生を創価学会の会館で見ました」と言った入ってきたばかりの馬鹿な看護婦が居ました。その看護婦は直ぐに首になりました。自分は院長に「創価学会はもう辞めた。今は反創価学会である」といって逃れました。
* 自分が創価学会の会合に出席すると非常に危険なのです。口が軽いのは創価学会員の特徴です。また、創価学会員は精神疾患が創価学会員にどんなに多発しているかを知りません。鉗口令のようなものが敷かれているからです。聖教新聞はそのことを載せません。
* 精神病院には外来にあまりにも創価学会の患者が多いのです（入院患者にも多いです）。東京の創価学会本部には毎週精神科医が来ています。創価学会本部職員および、その家族に“うつ病”などの精神障害が余りにも多いからです。
* 経験上、祖父祖母が熱心な創価学会員の場合、それが孫に来ることを幾つも経験しました。（これは００００にも見せてください）孫に来る、すなわち孫が精神障害に罹ることです。そしてそれは統合失調症の場合が多いです。
* ００さんや００さん、そして塾のおっちゃんが統合失調症になってしまい塾は潰れたことなどを考えてください。

* ***手紙４***
* ００００さんが００宮（ここは病院でメールがない）に変えられたことは非常に賢明なことであると思います。創価学会にはとにかく“うつ病”などの精神疾患が余りにも多いです。東京の創価学会本部には毎週精神科医が来ています。学会本部の職員と家族に精神疾患があまりにも多発しているからです。薬を処方するには精神科クリニック開設の手続きをしなければいけませんから（精神科クリニックを本部会館内に開設して、これが暴露されたら創価学会は大打撃を受けます。ですから精神科クリニックの開設はしないはずです）カウンセリングだけのようです。カウンセリングしてどこどこの精神科を紹介するということをしているようです。
* ０子ちゃんの精神疾患も祖母が熱心な創価学会員であった害毒だと思います。両親が不熱心でも祖父・祖母が非常に熱心なら孫がとんでもない病気になるという例をいくつも経験してきました。お爺ちゃんはもう反創価学会になったのですから関係有りません。以前、母が実家で題目の上げ方を孫に教えていましたが「病気になる」といって辞めさせました。
* 自分は今、創価学会の信仰はしていません。精神科医が創価学会の信仰をするはずがないからです。外来は創価学会が半分を占めています（このように創価学会は崩壊しつつあるのです）。
* そして創価学会員の精神疾患の特徴として非常に難治で重症であることが上げられます。創価学会員以外の患者さんは難治でなく、簡単に治ることが多いですが、創価学会員のは頑固でどのようにしても治りません。これは池田大作が創価学会に雪崩れ込ませた悪鬼の大集団によるものと考えています。
* 精神科外来だけでなく、都会の精神科カウンセリング、などは創価学会員が７５％以上を占めています。創価学会員以外の人は治ってゆくが、創価学会員のは治らないから自然と７５％を超える占有率になるのです。（精神科カウンセリングで治るのは軽い症例だけです。０子ちゃんには向きません）
* 自分は法華講に入ろうと思っています。法華講と思っての勤行唱題と創価学会と思っての勤行唱題は明らかに全然違います。自分は当直の時、布団の上で、大石寺の方に向かって勤行唱題をします。体も心も軽くなります。自分の家のは創価学会が造った平成五年以降の“魔”のご本尊ですから決して祈らないようにしています。実家のは日達上人のご本尊ですから法華講との強い決意を持ってなら祈って良いようです。
* これらはヤフーの知恵袋に詳しく載っています。
* ００子さん一家が狂信的な創価学会ですから隠れ法華講で貫くしか有りません。００子さんは親と兄弟が熱心にしているため自分も仕方なくしているという非常に弱い信仰です。勤行もあまりしてません。（自分の前に付き合っていた内科の医者とは結婚したら創価学会は辞めると決めていたぐらいです）でも、００子さんから親兄妹に漏れるのを恐れ、００子さんにも内緒にしています。
* ０子ちゃんは精神科（心療内科）クリニックに通わせて薬を飲ませるとかなり楽になるはずです。本人も家族もとても辛いはずです。０子ちゃんのは簡単な病気ではありません。かなり面倒な病気です。単なる強迫性障害ではないと思います。
* 自分の“うつ病”は創価学会の“魔”の御本尊（創価学会が平成五年から配布したプリント印刷の日寛上人の御本尊）に祈ることを辞め法華講のつもりになり東天に向かって勤行唱題するようになると、直ぐに治りました。
* p.s.矢野元公明党委員長、原島嵩元教学部長、山崎正友弁護士、藤原行正元都議会議員、そして副会長が三人ほどで告発した「池田王国の崩壊：永島雪夫：リム出版」などの本は読みましたか？　自分はアマゾンから買ってたくさん読みました。ヤフーのオークションからもたくさん買って読みました。原島嵩元教学部長の「絶望の淵から蘇る」が一番好きです。親にも未だ読ませていません。自分は隠れを貫いています。本は病院着にして病院でのみ読んでいます。隠れは多いのです。
* 池田大作が信仰心が無く、もの凄い悪党であることは、原島嵩元教学部長、山崎正友弁護士、矢野元公明党委員長、藤原行正元都議会議員などの本を読むと解ると思います。精神科は創価学会の患者で溢れています。何故なら、創価学会員の精神疾患は治らないからです。創価学会員以外の精神疾患は簡単に治ってゆくことが多いです。
* 創価学会を辞め日蓮正宗法華講に入ったら自然と治ったという人が多いです。創価学会を辞めるだけではなかなか治りません。日蓮正宗法華講に入って信仰をやり直すことです。創価学会は戸田先生の最晩年期からおかしくなっています。池田大作が大悪鬼そして自己愛性パーソナリティ障害と妄想性パーソナリティ障害であったから、悪鬼の大群が創価学会に押し寄せ、創価学会員の身に不幸が起こるようになったのです。
* 現在、池田大作はパーソナリティ障害を超え、妄想型統合失調症になっています。同時放送を見たら、直ぐ解ります。人格破綻のようなものが起こっています。これは「傲慢」として片付けられてきたようですが、精神医学見地からは「妄想」であり妄想型統合失調症となります。
* これは昭和四十年、池田大作が会長に就任してより五年目、三十七歳の時、高瀬広居のインタビューに答えた言葉である。
* 「私は、日本の国主であり、大統領であり、精神界の王者であり、思想文化いっさいの指導者・最高権力者である」「私は現代の救世主である」「釈迦以上であり、日蓮大聖人を超える存在である」「世界の盟主である」。
* 完全に病気です。そして池田大作の肖像画を飾っているならば必ず外して捨てることです。実家に飾ってあった池田大作の肖像画を取り除いたら悪いことが起こらなくなりました。それまで実家のは日達上人の御本尊だから祈って良いと考え実家に行くたびに仏壇の前で勤行唱題をしていましたが、不思議なくらい悪い偶然が起こっていました。池田大作の肖像画が元凶だったのです。
* 平成五年から配布された日寛上人の“魔”の御本尊には決して祈ってはいけません。必ず悪いことが起こります。不幸になります。
* では。
* （完）

* ***その他***
* ００さん。自分は隠れ法華講員になることにしました。自分は創価学会批判の本を読み過ぎました。何回も何回もたくさんの創価学会批判の本を読み過ぎました。そして自分の心は創価学会や池田大作から大きく大きく離れました。創価学会を立て直す、しかし、それは不可能に近いです。法華講に隠れとして入ることです。
* 創価学会とはさよならします。自分は日蓮正宗法華講員として今後は生きてゆこうと思っています。時間が無くてお寺に行けないで居ますが、隠れ法華講員として今後は生きてゆきます。今まで有り難うございました。
* 創価学会は楽しかった辛かった、どちらだったか分かりません。しかし、吹き荒れる障魔の嵐は耐え難かったです。宿業……自分の宿業は厳しかったです。堪え忍んで堪え忍んで生きてきました。しかし辛すぎた。御本尊様に祈りに祈って耐えてきました。
* 自分はこれからは日蓮正宗法華講員として安穏な生活を送りたいのです。今までの人生が余りにも厳しかったです。

* この信仰は不幸な人を幸福に出来る……そう信じて懸命に仏法対話していた頃、自分の心はとても清らかだった。
* しかし次第にこの信仰は不幸な人を救うどころか、もっと不幸にする、と思い至ったとき、落胆は大きかった。
* 自分の心は乱れた。
* 人を幸せにするどころか人を不幸にする信仰を人に勧めていた自分に気づいたとき、落胆は大きかった。
* 人を幸せにすることが出来る宗教とは……自分は苦しんだ。
* 人を幸せにするどころか、自分の幸せの方が先であることに気づいたとき、落胆は大きかった。
* 広布に生きる…そう信じて生きてきた自分は苦しんだ。

* ***御書の一節：英語版***
* 御書の一説として有名な箇所を英語版の御書より引用する（古い英語版の御書からである）。まず、開目抄の有名な一節から。「我並びに我が弟子…」である。
* **THE OPENING OF THE EYES(\_)**
* Although I and my disciples may encounter various difficulties, if we do not harbor doubts in our hearts, we will as a matter of course attain Buddhahood.
* Do not have doubts simply because Heaven does not lend you protection.
* Do not be discouraged because you do not enjoy an easy and secure existence in this life.
* This is what I have taught my disciples morning and evening, and yet they begin to harvor doubts and abandon their faith.
* Foolish men are likely to forget the promises they have made when the crucial moment comes.[In the face of persecutions,]
* **Two Kinds of Faith**
* I have duly received your offerings of taro, skewer-duried permissions, backed rice, chestnuts, bamboo shoots and bamboo containers of vinegar.
* There was once a king named ashoka the Great in India. He reiged over a quarter of the world and, attended by the dragon kings, controlled the rain at his will. He even used demons to do his bidding. At first he was a merciless ruler, but later he was converted to Buddhism.  He made offerings to sixty thousand priests each day and erected eighty-four thousand stone stupas.  In inquiring into the previous lifetime of this great sovereign, we find that in the days of Shakyamuni Buddha there were two little boys called Tokusho Doji and Musho Doji, who once offered the Buddha a mudpie.  Because of this act of sincerity, the elder boy Tokusho was reborn as king Ashoka within one hundred years.
* The Buddha is of course respectworthy, but when compared with the Lotus Sutra is as superior to Shakyamuni Buddha as heaven is higher than the earth.  To present offerings to the Buddha produces such great benefits as to be born a king, yet even greater benefit is obtained by making offerings to the Lotus Sutra.  If such a marvelous reward was brought about by the mere offering of a mudpie, how much more will come about as a result of all your various gifts!  The Buddha was far from being short of food, but now we are in a land where hunger prevails.  Therefore I am certain that the Buddhas Shakyamuni and Taho and the Ten Goddesses will never fail to protect you.
* Today there are people who have faith in the Lotus Sutra.  The brief of some is like a fire while that of others is like water.
* When the former listen to the teachings,  thier passion flares up like fire, but when by themselves, they are inclined to discard their faith.  To have faith like water means to believe continuously without ever regressing.  Since you pay frequent visits to me regardless of the difficulties, your belief is comparable to flowing water.  It is worthy of great respect !
* Is it true that there is illness in your family?  If so, it cannot be the work of demons.  The Ten Goddesses must be testing the strength of  your faith.  Non of the demons who appeared in the Lotus Sutra would ever dare trouble a votary of the sutra and have their heads broken as punishment.  Persist in your faith with the conviction that both Shakyamuni Buddha and the Lotus Sutra are free from any falsehood.
* With my deep respect,
* Nichiren
* The twenty-fifth day of the second month


* **Winter allways turn to spring**
* 冬は必ず春となる———自分の最も好きだった御文です。厳しい時代、これを書いた紙を仏壇に置いて祈っていました。しかし、冬は何時まで経っても冬でした。“魔”の御本尊を祈っていたからです。

* ***日記***
* jan 22,2010
* 本日、勧誡式を受けた。昼の１時４５分頃に受けた。病院へ仕事に行く途中であった。すると身体がとても軽くなった。一ヶ月ほど前、法華講員の自覚を持って勤行唱題したときのようになった。
* 法華講員として命を賭ける。少なくとも、そういう自覚で行かなければならない。００寺である。

* 石井一先生、自分は反創価学会のものです。是非、頼みたいことがあります。
* 公明党が警察の人事権や予算を牛耳っていることは危険と思います。
* 創価学会は池田大作の指示があればテロをも起こします。
* 国会議員を半分にすると公明党は潰滅すると言われます。また、池田大作の死後は、創価学会員の選挙への士気が大きく低下し、公明党は潰滅するとも言われます。
* 公明党から警察の予算や人事権を剥奪するべきと思います。
* 国会議員や東京都議員の数を半分にすると公明党は自然に警察の予算や人事権を剥奪されます。
* どちらにしても早く国会議員や東京都議員の数を半分にすべきと思います。
* 戸別訪問という選挙違反を繰り返す公明党（創価学会）をこのままにするべきではありません。
* どちらにしても早く国会議員や東京都議員の数を半分にすべきと思います。比例区は廃止することになります。

* ムカデが真夜中、寝ていたとき、手を這っていたのは去年の八月頃になると思う。あの日、自分は気が変わって、仏壇に飾ってある“魔”の御本尊に向かって勤行唱題をした。
* 先祖様が警告してくれたのであろうか？　“魔”の御本尊に向かっては決して祈ってはいけないと。“魔”の御本尊は悪魔であり極めて危険なものであることを。
* その頃は創価学会を脱会しないと日蓮正宗法華講には入れないと思っていた。今は脱会しなくとも日蓮正宗法華講に入れることを知らなかった。自分の家では脱会イクオール離婚である。それで諦めの気持ちで“魔”の御本尊に向かって方便品自我解と五分間の唱題だけだったが勤行唱題をしたのだと思う。
* 寝ていて腕を何かが這っていると思い、電気を付けたらムカデが手を這っていた。急いで窓を開け、ムカデを外に落とした。昨日、蝉の抜け殻が罹っていたコンクリートのブロックの穴から、再び家の下に入って来ないかと心配した。ここは以前は森であり、地中には未だ蝉の幼虫も蟻もたくさん居るところだった。築十年の家を買って住み始めて五年が経つが、未だ地中は以前、森であった名残が激しい。ムカデのような怖ろしいものが腕を這うことは生まれて今まで経験したことのないことだった。
* 今は日蓮正宗法華講に入講し毎週通っている。
* ***大同団結***
* 法華講も顕正会も創価学会も団結して広宣流布目指して邁進することが、日蓮大聖人の御心に叶うものと信じる。以前は大石寺で席を隣にして御書の研鑽や勤行唱題に励んでいた仲ではないか。内輪もめは止めて、みんなで広宣流布を目指さないことには広宣流布を成し遂げることは不可能と思う。何故、内輪もめするのか、悲しい現実である。“魔”に翻弄されている姿としか思えない。
* 内輪もめに費やすエネルギーを外へのエネルギーにもってゆけば良いが“魔”に翻弄されているのだろう。
* 内輪もめは止めて、法華講も顕正会も創価学会も大同団結して広宣流布目指して邁進することが、日蓮大聖人の御心に叶うものと信じる。しかし“魔”の跳躍のため、それは不可能に近い。
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* 退会届
* （内容証明郵便または配達証明郵便で送る）——この郵便で送らないと『知らない！受け取ってない！』ととぼけられる可能性が大きい。
* 〒１６０−８５８３
* 東京都新宿区信濃町３２番地
* 宗教法人・創価学会
* 会長・原田稔　宛
* ★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
* 退会届
* 宗教法人・創価学会
* 原田稔
* ３月６日２０１０年
* 私こと００００は宗教法人・創価学会を退会します。
* 今後は機関誌の勧誘、支援政党の投票依頼等を目的とした、創価学会・会員の自宅訪問・電話などを、お断りします。
* 地区幹部の方々にも、その旨のご指導をお願い致します。
* また速やかに、名簿からの削除等の処理をお願い致します。
* 所属組織名（壮年部・男子部・婦人部・女子部、等）
* 〒000-0000  ００県００市００町０−０
* ００００　　印
* （無くしたり、破られたりもありますので、念のためにコピーを数枚は取っておきましょう。
* 巻き本尊もあれば一緒に送りましょう）
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* （第４章　終了）
* **【参考文献】**
* **真実の証明：阿部日顕：日新報道：２００１**
* **絶望の淵より甦る：原島嵩：日新報道：２００７**
* **池田大作・創価学会の真実：原島嵩：日新報道：２００２**
* **再び、盗聴教団の解明：山崎正友：日新報道：２００５**
* **創価学会と「水滸会記録」：山崎正友：第三書館：２００４**
* **創価学会・公明党の犯罪白書：山崎正友：日新報道：２００１**
* **信平裁判の攻防———続々「月刊ペン」事件：山崎正友：第三書館：２００２**
* **法廷に立った池田大作——続「月刊ペン事件」：山崎正友：第三書館：２００１**
* **「月刊ペン」事件　埋もれていた真実：山崎正友：第三書館：２００１**
* **懺悔の告発：山崎正友：日新報道：１９９４**
* **懺悔滅罪のために！：原島嵩、山崎正友：慧妙編集室：２００７**
* **池田大作の素顔：藤原行正：講談社：１９８９**
* **私が愛した池田大作　「虚飾の王」との五十年：矢野絢也：講談社：２００９**
* **黒い手帳　創価学会「日本占領計画」の全記録：矢野絢也：講談社：２００９**
* **闇の流れ　矢野絢也メモ：矢野絢也：講談社：２００９**
* **創価学会　もうひとつのニッポン：島田裕己、矢野絢也：講談社：２０１０**
* **池田大作の品格 part２：小多仁伯、小川頼宣：日新報道：２００９**
* **池田大作の品格：小多仁伯：日新報道：２００７**
* **カルト創価の終焉：福本潤一、小多仁伯：日新報道：２０１０**
* **創価学会・公明党「カネと品位」：福本潤一：講談社：２００８**
* **池田大作・創価学会の脱税を糾弾する：竜年光：日新報道：１９９４**
* **創価学会からの脱出：羽柴増穂：三一書房：１９８０**
* **邪教集団・創価学会：室生忠、隈部大蔵：月刊ペン社：１９７６**
* **変質した創価学会：蓮悟空：六芸書房：１９７２**
* **反人間革命：段勲：リム出版：２００５**
* **誰も知らない創価学会の選挙：北川紘洋と五月会：はまの出版：１９９５**
* **池田大作・幻想の野望———小説「人間革命」批判：七里和乗：新日本出版社：１９９４**
* **池田創価学会の真実：戸口浩：日新報道：１９９２**
* **実録　創価学会＝七つの大罪：吉良陽一：新日本出版社：１９８６**
* **小説　聖教新聞：グループＳ：サンケイ出版：１９８４**
* **これが創価学会だーーー元学会幹部たちの告白：植村左内：あゆみ出版：１９７０**
* **司法に断罪された創価学会：乙骨正生：かもがわ出版：２００９**
* **公明党＝創価学会の真実：乙骨正生：かもがわ出版：２００３**
* **公明党＝創価学会の野望：乙骨正生：かもがわ出版：１９９９**
* **蒼碧集（１～１１）法華講員の体験談集：理境坊所属妙観講　広報部：暁鐘編集室**
* **創価学会のいうことはこんなに間違っている：日蓮正宗法義研鑽委員会：大日連出版：２００８**
* **創価学会は「破仏法」の新興宗教：島田正人：第三書館：２０１０**
* **破折：島田正人：日新報道：２００６**
* **民族化する創価学会　ユダヤ人の来た道を辿る人々：講談社：２００８**
* **公明党・創価学会の真実：平野貞夫：講談社：２００５**
* **公明党・創価学会と日本：平野貞夫：講談社：２００５**
* **池田大作「権力者」の構造：溝口敦：講談社：２００５**
* **池田王国の崩壊：永島雪夫：リム出版：１９９２**
* **人間革命をめざす池田大作　その思想と生き方：高瀬広居：有紀書房刊：１９６５**
* **創価学会とは何か：山田直樹：新潮社：２００４**
* **創価学会：島田裕己：新潮社：２００４**
* **池田大作「権力者」の構造： 溝口敦：講談社：２００５**
* **イケダ先生の世界：ベンジャミン・フルフォード：宝島社：２００６**
* **創価学会Ｘデー：島田裕己、山村明義、山田直樹、溝口敦　他：宝島社：２００８**
* **となりの創価学会：別冊宝島編集部：宝島社：２００８**
* **池田大作なき後の創価学会：島田裕己、山村明義、山田直樹、溝口敦　他：宝島社：２００７**
* **お笑い創価学会　信じる者は救われない：佐高信、テリー伊藤：光文社：２００２**
* **創価学会解剖：朝日新聞アエラ編集部：朝日新聞社：２０００**
* **カルトとしての創価学会＝池田大作：古川利明：第三書館：２０００**
* **シンジケートとしての創価学会＝公明党：古川利明：第三書館：１９９９**
* **システムとしての創価学会＝公明党：古川利明：第三書館：１９９９**
* **アメリカの創価学会　適応と転換をめぐる社会学的考察：栗原淑江：紀伊國屋書店：２０００**
* **タイム　トｳ　チャント　イギリス創価学会の社会学的考察：中野毅：紀伊國屋書店：１９９７**
* **家庭内宗教戦争：美濃周人：山手書房新社：１９９２**
* **日蓮入門　現世を撃つ思想：末木文美士：筑摩書房：２０１０**
* **完全教祖マニュアル：架神恭介、辰巳一世：筑摩書房：２００９**
* **法華経入門：菅野博史（かんのひろし）：岩波新書：２００１**
* **日蓮の本　末法の世を撃つ法華経の予言：学習研究社：１９９３**
* **忘れられた殉教者　——日蓮宗不受不施派の挑戦——：奈良本辰也、高野澄：小学館：１９９３**
* **「法華経」を読む：紀野一義：講談社：１９８２**
* **法華経の奇跡：謝世輝：KKベストセラーズ：１９８４**
* **信じない人のための「法華経」講座：文藝春秋：２００８**
* **日本「霊能者」列伝：蓮見清一：宝島社：２００８**
* **「救い」の正体：別冊宝島編集部：宝島社：２００８**
* **心に狂いが生じるとき　——精神科医の症例報告——：岩波明：新潮社：２０１１**
* **精神障害者をどう裁くか：岩波明：光文社：２００９**
* **狂気という隣人　――精神科医の現場報告――：新潮社：２００７**
* **悪魔が殺せとささやいた　――渦巻く憎悪、非業の１４事件――：「新潮４５」編集部：新潮社：２００９**
* **精神鑑定　脳から心を読む：福島章：講談社：２００６**
* **犯罪精神医学入門：福島章：中央公論新社：２００５**
* **人格障害の時代：岡田尊司：平凡社：２００４**
* **人格障害かも知れない：磯部潮：光文社：２００３**
* **パーソナリティー障害：岡田尊司：ＰＨＰ新書：１９９８**
* **精神病：笠原嘉：岩波書店：１９９８**
* **精神鑑定の事件史：中谷陽二：中公新書：１９９７**
* **憑依の精神病理：大宮司信：星和書店：１９９３**
* **天才の心理学：Ｅ.クレッチュマー：内村祐之訳：岩波書店：１９８２**
* **病跡学とオカルト：伊東高麗夫：勁草書房：１９８０**
* **天才の秘密：伊東高麗夫：勁草書房：１９７９**
* **初期分裂病／補稿：中安信夫：星和書店：１９９６**
* **初期分裂病：中安信夫：星和書店：１９９４**
* **分裂病症候学——記述現象学的記載から神経心理学的理解へ：中安信夫：星和書店：１９９１**
* **対談　初期分裂病を語る：中安信夫：星和書店：１９９１**
* **ＤＳＭ−Ⅳ−ＴＲ：精神疾患の分類と診断の手引き：医学書院：２００７**
* **統合失調症の診療学：岡崎裕士：中山書店：２００２**
* **気分障害の診療学：神庭重信：中山書店：２００２**
* **老年期の幻覚・妄想：松下正明：中山書店：２００２**
* **リエゾン精神医学とその治療学：山脇成人：中山書店：２００２**
* **精神疾患における認知のメカニズムとその対策：武田雅俊：中山書店：２００２**
* **精神科治療の語りと聴取：加藤敏：中山書店：２００２**
* **病の自然経過と精神療法：新宮一成：中山書店：２００２**
* **etc.**
* 【最後に、一番大事なこと】
* 創価学会の改革は不可能に近い。現実問題として不可能である。日蓮正宗法華講に入ることです。
* 創価学会の改革は夢物語に近い。現実問題として不可能である。日蓮正宗法華講に入ることです。
* 以前、選挙の度に「謗法選挙」と言うビラを配っていた創価学会内部改革派憂創同盟の人が癌で亡くなられたことは、創価学会の謗法の垢が強く染み込こんだ御本尊に祈っていたからであろう。どんなに創価学会内部改革派憂創同盟という気概を強く持っていても、謗法の垢が強く染み込こんだ御本尊に祈ると悪いことが起こる。これは筆者も経験している。
* 日達上人の御本尊であっても謗法の垢が強く染み込こんだ御本尊は日蓮正宗の住職から“お清め”を受けないと悪鬼が去らない。悪鬼の住む御本尊にどんなに創価学会内部改革派憂創同盟という強い気概で祈っても悪いことが起こる。“魔”の御本尊と異なり、日達上人の御本尊に祈ると強い歓喜が湧くが、“お清め”を受けない限り、悪鬼が住んでいる。このことは十分注意しなければならない。もちろん、平成五年から配られた日寛上人の御本尊は“魔”の御本尊であり論外である。
* また、本人も勧誡式という御授戒のようなものを受けないといけない。強く謗法化してしまった創価学会の垢を払うためである。
* 創価学会に残っていては不幸になります。日蓮正宗法華講に入ることです。
* 重ねて書く。創価学会に残っていては不幸になります。日蓮正宗法華講に入ることです。

* 【あとがき】
* これは出版することにする。広宣流布のためだ。何処かの出版社の方、宜しくお願いします。適当に編集・推敲してください。もう一度書きます。適当に編集・推敲してください。
* 書いた時期が様々であるため重複しているところが多いことお許しください。３年ほど前に書いたものも多く混じっております。２００９年頃に書かれたものが多い。
* なお、これはあくまで匿名で出版することにします。自分が書いたものとは分からないようにするようにします。その点、宜しくお願いします。匿名出版です。印税などは要りません。勝手に推敲、訂正などお願いします。
* 匿名は創価学会内部改革派憂創同盟残党とします。
* なお、自分にはお金がありません（熱心な創価学会員である女房にお金を握られています）。自費出版も無料でないと無理です。
* 正義感のある出版社の方、無料で出版を宜しくお願いします。たくさんの苦しむ無知な創価学会員を救うためです。
* この本は出版されなければならない。何故なら、池田大作の悪を知らしめるためだ。池田大作の悪を知らない素朴な創価学会員が余りにも多過ぎる。そのためだ。池田大作の悪を知らしめさないとあまりにも素朴過ぎる無数の創価学会員が可哀相である。純朴過ぎる創価学会員を幸せの道へと導くためだ。
* （３月６日２０１０年記す）
* **（目次）**
* **創価学会内部改革派憂創同盟　最後の警告**
* **はじめに　愛するたくさんの創価学会の同志のために（創価学会内部改革派憂創同盟再結成宣言）**
* **（第１章　魔性の創価学会）**
* **日如上人様**
* **池田大作の精神病理（第２稿）**
* **魔性の創価学会（一）**
* **魔性の創価学会（二）**
* **魔性の創価学会（三）**
* **魔性の創価学会（四）**
* **病気を治すためには**
* **御書**
* **洗脳されきった哀れな会員を救う**
* **ジョージ・ウイリアムス理事長**
* **質問**
* **創価学会内部改革派憂創同盟**
* **創価学会内部改革派憂創同盟再結成宣言（第一稿）**
* **創価学会内部改革派憂創同盟　怨恨の呪い**
* **原田新会長へ**
* **最高幹部の結束した造反を期待する**
* **（第２章　大魔王）**
* **大魔王：池田大作**
* **魔性の本尊**
* **創価学会の仏法違背**
* **『謗法を見て呵責せずんば与同罪なり』**
* **法華経は奇跡の教典**
* **池田大作の悪行**
* **個人攻撃について**
* **反乱の序曲**
* **「財務」は中世の免罪符**
* **「財務」による悲劇（「広布基金」による悲劇も含む）**
* **金を集めないという嘘**
* **墓苑を経営しないという嘘**
* **政界の浄化が目的という嘘**
* **（第３章　創価学会と池田大作のためなら何をしても良い）**
* **犯罪集団・創価学会**
* **選挙運動の悲劇**
* **池田大作に信仰心はない**
* **政教一致**
* **池田大作の虚構**
* **宮本邸電話盗聴事件**
* **熱心に信仰すると不幸になる**
* **偽りだらけの体験談集**
* **うつ病性障害、パニック障害多発の現在の創価学会**
* **創価学会は池田大作のために破滅への道を歩んでいる**
* **池田大作と文鮮明**
* **創価学会の未来**
* **“魔”池田大作の出現**
* **創価学会の宗門支配計画**
* **あまりに知らない人が多すぎるので書く**
* **“魔”の党、公明党によって骨抜きにされた自民党**
* **脱会**
* **青年部による日本武力制圧の危険性**
* **無数の悪鬼の集団**
* **論文集**
* **（第４章　隠れ法華講への道）**
* **隠れ法華講への道**
* **日如上人様**
* **藤原範昭氏へ「戸田時代に帰れ！」**
* **紳士革命**
* **次期会長について**
* **法華講**
* **手紙１**
* **手紙２**
* **手紙３**
* **手紙４**
* **その他**
* **御書の一節：英語版**
* **日記**
* **大同団結**
* **退会届**
* **終わりに**
* **【参考文献】**
* **【最後に、一番大事なこと】**
* **【あとがき】**
* ♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦—————♦♥♦
* これは幻の書である。
* ここに書かれていることは夢幻である。
* これは一つの文学作品である。宮殿革命は不可能である。
* 重ねて書く。これは一つの文学作品である。宮殿革命など考えては居ない。
* もう一度、重ねて書く。これは一つの文学作品である。
* この本は夢幻のように消えてゆく。
* ただ、インターネット上に夢幻のように置いておく。
* 人生とは仏法上の厳しい因果律に則ったものなのでしょうか。それとも夢幻なのでしょうか。私には分かりません。
* 私は隠れ法華講として大人しく生きてゆこうと思います。安穏とした生活を私は望んでいるのです。卑怯かもしれません。しかし私は安穏とした生活を望んでいるのです。
* 作者：夢幻（ゆめまぼろし）



* 隠れ法華講員として生きていると元気になる。生きている一瞬一瞬が歓喜となる。しかし、自分は安穏な生活をも望んでいるのです。迷い煩悶しているのです。
* 日如上人様、自分は法華講に入りたいですが家庭的に入ることが出来ません。妻の一族が狂信的な創価学会員です。妻の両親は昭和３０年からの創価学会員で支部長を長年やってました（早く死ね！）。妻を改心させるために全力を注がねばなりません。でも容易いことではないと思います。
* 可愛い幼い子供とこのまま暮らしたい。その一心です。また、その子供を自分の親が溺愛しています。親孝行をしなければなりません。
* そこに立ちはだかっているのが家庭内宗教問題です。これはあまりにも大きな大きな問題として立ちはだかっています。どうしたら良いか、全く苦しんでいます。
* 妻はあまり熱心ではありません。しかし創価高校卒です。友達は創価学会員しかいません。周囲の創価学会員の刷り込みが最近は激しいです。妻も他の３人の兄弟のように狂信的な創価学会員になる可能性は大きいです。
* 隠れるんだ。隠れるんだ。隠れ法華講員として過ごすんだ。隠れ法華講員として過ごすんだ。

* 完

* 煩悶しています。
* このホームページはあなたが造ったことにしてくれないでしょうか？　パスワードも教えます。というよりコピーして新しいところに造ってください。
* 自分の極めて危険な状態を案じてください。
* そして僕は隠れ法華講員として慎ましやかに生きてゆく…しかし、法華講員として戦うべきだ。
* 創価学会にも情があることを期待しています。
* 自分がこのホームページの作者であることが知れると拙いのです。家庭が崩壊します。（これは大袈裟でした）
* その心配で一度はこのホームページを削除しました。
* このホームページの作者が自分であることが知れると自分は破滅です。（破滅は大袈裟でした）
* しかし今までこのホームページが問題にならなかったのは不思議だ。ヤフーの知恵袋で盛んに宣伝しているのですけど。
* 自分は幻のように消えます。
* 自分は幻となります。
* それともこのホームページを幻のようにインターネット上に残しておくか？
* これからは手を付けずに。
* 自分は煩悶しています。
* 信仰弱い自分なのです。
* 何も手に着きません。心配ばかりで。
* 再び、このホームページは消そうかと考えています。
* このホームページが価値があるか？という考えがあるのです。広宣流布のために。
* しかし正義感がそうはさせないのです。
* まだ幼い可愛い二人の子供がいます。その子供を自分の親が溺愛しています。離婚することが許されないのです。
* [vvv23274@yahoo.co.jp](mailto:mmm23246@yahoo.co.jp)
* 完
* [http://sky.geocities.jp/mifune008/](http://sky.geocities.jp/mifune0008/)